

平成30年度第4回
袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議次第

日時 平成31年3月7日（木）
午前10時から
場所 市役所旧館3階大会議室

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 題

(1) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査の結果について

(2) その他

4 閉 会

袖ヶ浦市
子ども・子育て支援に関するアンケート調査
調査結果報告書

平成31年3月

袖ヶ浦市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果のまとめ	3
1	調査結果のポイント	3
2	地区別の回答の特徴	6
3	調査結果からみた課題	12
III	調査結果	13
1	就学前児童保護者	13
(1)	お子さんとご家族の状況について	13
(2)	育ちをめぐる環境について	17
(3)	保護者の就労状況について	20
(4)	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	29
(5)	地域の子育て支援事業の利用状況について	47
(6)	土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望	54
(7)	病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）	65
(8)	不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	75
(9)	宛名のお子さんが5歳以上の方に、放課後の過ごし希望	84
(10)	育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	99
(11)	子育て家庭の暮らし向きについて	107
(12)	市の子育て施策について	111

2	小学生保護者	113
(1)	お子さんご家族の状況について	113
(2)	お子さんの育ちをめぐる環境について	117
(3)	お子さんの保護者の就労状況について	121
(4)	お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について	125
(5)	お子さんの病気の際の対応について	128
(6)	お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	135
(7)	お子さんの放課後の過ごし方の希望について	142
(8)	育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	163
(9)	子育て家庭の暮らし向きについて	169
(10)	市の子育て施策について	173

IV 自由意見..... 175

1	就学前児童保護者	175
2	小学生保護者	176

I 調査の概要

1 調査の目的

「袖ヶ浦市子ども・子育て支援事業計画」の期間が終了するため、次期計画策定にあたり、子どもの保護者を対象として、調査を実施するものです。

2 調査対象

袖ヶ浦市在住の就学前児童・小学生の保護者を対象として無作為抽出

3 調査期間

平成 30 年 10 月 31 日から平成 30 年 11 月 31 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況


	配 布 数	有効回答数	有効回答率
就学前児童保護者	1,000 通	610 通	61.0%
小学生保護者	1,000 通	531 通	53.1%

6 年齢の定義

就学前児童の年齢定義は、ニーズ調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

年齢	該当する生年月
0 歳児	平成 29 年 4 月以降
1 歳児	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
2 歳児	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
3 歳児	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月
4 歳児	平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
5 歳児	平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

7 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果のまとめ

1 調査結果のポイント

(1) 子どもと家族の状況

子育てを主に行っているものについて、就学前児童保護者では「主に母親」「父母ともに」が共に約5割とほぼ同数となっていますが、小学生保護者では「父母ともに」が55%と「主に母親」を上回っています。

(2) 子どもの育ちをめぐる環境

子どもをみてもらえる親族・知人の有無について、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が3割強、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が6割となっています。その一方で、「いずれもない」保護者が1割ほど見られます。

中川・富岡地区では「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が他の地区に比べ高くなっています。

(3) 保護者の就労状況

就学前児童保護者では、就労している母親の割合が65%となっており、平成25年度調査と比較して「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が減少し、就労している母親が増加しています。また、就労していない母親も7割が今後の就労を希望しており、平成25年度調査と比較すると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が増加しています。

小学生保護者では、就労している母親の割合が8割と就学前児童より高くなっており、子どもの進学に伴い就労する母親が増加することがうかがえます。

(4) 平日の定期的な教育・保育事業の利用

「定期的な教育・保育事業」を利用している割合が5割となっています。利用している事業は、「認可保育所（園）」の割合が6割、次いで「幼稚園」の割合が3割と、平成25年度調査と比較すると、「認可保育所（園）」「認定こども園」の割合が増加し、一方で「幼稚園」の割合が減少しています。

また、今後利用したい事業は、「認可保育所（園）」「幼稚園」の割合がともに5割となっていますが、平成25年度調査と比較すると、「認可保育所（園）」の割合が増加している一方、「幼稚園」の割合が減少しています。特に、0歳児の保護者で「認可保育所（園）」の利用希望が高くなっています。

(5) 地域子ども・子育て支援事業の利用

地域子育て支援拠点事業を利用している割合は約2割となっています。また、「利用していないが利用したい」割合は約25%となっています。

市が行っている各種子育て支援事業の認知度は、『母親（父親）学級、両親学級、育児学級』、『保育所や幼稚園の園庭等の開放』で知っている割合が高くなっています。一方、『家庭教育に関する学級・講座』で知らない割合が高くなっています。

(6) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望

土曜日の教育・保育事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」の割合が7.4%、「月に1～2回は利用したい」の割合が20.5%となっています。日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」の割合が2.1%、「月に1～2回は利用したい」の割合が14.9%となっています。

(7) 病気の際の対応

子どもが、病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった就学前児童保護者が約7割、学校を休んだことがある小学生保護者が6割となっています。その際に、病児・病後児の保育を利用した人が就学前児童保護者で1割となっています。また、他の地区に比べ、長浦地区で「就労していない保護者がみた」の割合が高く、また、平岡地区で「母親が仕事を休んでみた」の割合が高くなっています。

(8) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

不定期の教育・保育事業を利用している人は、就学前児童保護者、小学生保護者ともに1割未満となっています。他の地区に比べ、根形地区では就学前児童保護者の一時預かりの利用がやや高くなっています。

泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあった保護者は、就学前児童、小学生ともに1割ほどとなっています。

(9) 子どもの放課後の過ごし方の希望

就学前児童保護者の子どもの放課後の過ごし方の希望について、低学年のうちの「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は4割。高学年の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は2割ほどとなっています。平成25年度調査と比較すると、低学年のうちの「放課後児童クラブ（学童保育）」を希望する割合が増加しています。

小学生保護者における「放課後児童クラブ（学童保育）」を利用している割合は3割、「放課後子ども教室」に登録している割合は6%となっています。

放課後に必要と思うものは就学前児童保護者、小学生保護者ともに「大人の見守りによる安全・安心な居場所」の割合が6割と最も高くなっています。

(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

育児休業を取得していない割合は父親が86%、母親が10%となっています。平成25年度調査と比較すると、母親の育児休業の取得状況は、就労している母親の増加に伴い「取得した（取得中である）」の割合が増加し、「働いていなかった」の割合が減少しています。

(11) 子育て家庭の暮らし向き

暮らしの状況を苦しいと感じている保護者は、就学前児童保護者、小学生保護者ともに約3割となっています。興味がある支援制度については、就学前児童保護者では「子どもの学習支援」の割合が約4割、小学生保護者では「学校が実施する学習支援」の割合が約45%と最も高くなっています。世帯の収入からみる貧困想定世帯においては、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「子どもの学習支援」の割合が高くなっています。

(12) 市の子育て施策について

子育ての環境や支援について、就学前児童保護者、小学生保護者ともに普通が最も多く、満足している人が約2割、満足していない人が約2割となっています。

市に期待することとしては、就学前児童保護者では「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援の充実」「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」「小児救急医療体制の充実」の割合が高くなっています。小学生保護者では「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が最も高く、就学前児童に比べて高くなっています。

2 地区別の回答の特徴

(1) 昭和地区

【子育て家庭環境】

- 子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 50.8%で市平均より 2.6 ポイント高く、他地区に比べて比較的高い地域となっています。〈就学前児童保護者〉
- 主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 50.0%と市平均より低く、みてもらえる親族や知人が「いずれもない」が 17.2%と市平均より高くなっています。〈就学前児童保護者〉

【母親の就労状況】

- 母親はフルタイムが 32.8%で、パート・アルバイト等の 31.3%をあわせると 64.1%が就労しており、市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉

【定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等】

- 定期的な教育・保育事業の利用割合は 49.2%で市平均より低くなっています。〈就学前児童保護者〉○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 49.2%「認可保育所」が 44.5%でいずれも市平均を下回っています。〈就学前児童保護者〉
- 「認定こども園」は、38.3%で市平均より 12.1 ポイント高く、他地区に比べて最も多くなっています。〈就学前児童保護者〉

【地域子育て支援事業の利用率とニーズ等】

- 子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 76.2%で、その対処方法は 79.2%が「母親が仕事を休んでみた」となっています。〈就学前児童保護者〉
- 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 29.7%で市平均より高くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 不定期な一時保育の利用状況は、「幼稚園の預かり保育」が 3.9%、「一時預かり」が 7.0%と 1 割未満となっていますが、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり事業を利用したいと考えている保護者は 40.6%と多くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が 31.6%と市平均より高くなっています。平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）の希望は、「自宅」が 58.7%となっています。また、「放課後児童クラブ」は 31.6%で市平均より高くなっています。〈小学生保護者〉

【暮らし向きに対する支援制度への意向】

- 興味がある支援制度については、「子ども食堂」28.9%、「子どもの学習支援」43.0%と市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉

【居住地域における子育て環境や支援への満足度】

- 「満足度が高い」3.9%と「満足度がやや高い」22.7%をあわせると 26.6%となり、市平均より高くなっています。〈就学前児童保護者〉

(2) 蔵波地区

【子育て家庭環境】

- 子育てを主に行っている方は「父母ともに」が54.4%で他地区に比べ最も多くなっています。<就学前児童保護者>
- 主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が68.1%で、他地区に比べ最も多くなっています。みてもらえる親族や知人が「いずれもない」は12.5%で市の平均程度となっています。<就学前児童保護者>

【母親の就労状況】

- 母親はフルタイムが39.4%、パート・アルバイト等が23.8%をあわせると63.2%が就労しています。就労している母親の割合はおおむね市の平均程度となっています。<就学前児童保護者>

【定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等】

- 定期的な教育・保育事業の利用割合は56.9%でおおむね市の平均程度となっています。<就学前児童保護者>
- 定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が51.3%、「認可保育所」は53.1%でおおむね市の平均程度となっています。<就学前児童保護者>
- 「認定こども園」は、20.6%で市平均より5.6ポイント低くなっています。<就学前児童保護者>

【地域子育て支援事業の利用率とニーズ等】

- 子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは74.7%で、その対処方法は76.5%が「母親が仕事を休んでみた」となっており、おおむね市の平均程度となっています。<就学前児童保護者>
- 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が29.4%で昭和地区に次いで高くなっています。<就学前児童保護者>
- 不定期な一時保育の利用状況は、「幼稚園の預かり保育」が8.1%、「一時預かり」が5.0%と1割未満となっていますが、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり事業を利用したいと考えている保護者は35.0%となっています。<就学前児童保護者>
- 放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が21.5%と地区に比べ最も低くなっています。平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）の希望は、「自宅」が62.2%に対し、「放課後児童クラブ」は25.9%と市の平均程度となっています。<小学生保護者>

【暮らし向きに対する支援制度への意向】

- 興味がある支援制度については、「子ども食堂」28.1%、「子どもの学習支援」45.6%と市の平均を上回っています。<就学前児童保護者>

【居住地における子育て環境や支援への満足度】

- 「満足度が高い」5.0%と「やや満足度が高い」16.3%をあわせると21.3%となり、市の平均程度となっています。<就学前児童保護者>

(3) 長浦地区

【子育て家庭環境】

- 子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 52.7%で最も多く、市平均より 4.5 ポイント高くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 主な親族等協力者として「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 31.9%で市平均より低くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもない」は 14.3%で市平均より 2.0 ポイント高くなっています。〈就学前児童保護者〉

【母親の就労状況】

- 母親はフルタイムが 30.8%で市平均より 5.2 ポイント低く、パート・アルバイト等が 27.5%をあわせると 57.5%が就労しています。〈就学前児童保護者〉

【定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等】

- 定期的な教育・保育事業の利用割合は 46.2%で、他地区に比べて最も低くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 65.9%で他地区に比べて最も高く、「認可保育所」は 45.1%で他地区に比べて最も低くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 「認定こども園」は、16.5%で、他地区に比べて最も低くなっています。〈就学前児童保護者〉

【地域子育て支援事業の利用率とニーズ等】

- 子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 69.0%で、その対処方法は 72.4%が「母親が仕事を休んでみた」となっています。また、「父親が仕事を休んでみた」が 41.4%と他地区に比べて最も高くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 27.5%で市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉
- 不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」が 8.8%「幼稚園の預かり保育」が 5.5%と 1 割未満となっていますが、私用、親の通院、不規則の就労等の目的で一時預かり事業を利用したいと考えている保護者は 38.5%となっています。〈就学前児童保護者〉
- 放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が 28.9%と市の平均程度となっています。平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）の希望は、「自宅」が 69.7%と他地区に比べて最も高く、「放課後児童クラブ」は 25.0%で市の平均程度となっています。〈小学生保護者〉

【暮らし向きに対する支援制度への意向】

- 興味がある支援制度については、「子ども食堂」16.5%、「子どもの学習支援」34.1%と市の平均を下回っています。〈就学前児童保護者〉

【居住地域における子育て環境や支援への満足度】

- 「満足」5.5%と「満足度がやや高い」18.7%をあわせると 24.2%となり、市平均より 2.0 ポイント高くなっています。〈就学前児童保護者〉

(4) 根形地区

【子育て家庭環境】

- 子育てを主に行っている方は「主に母親」が 54.3%と最も高く、「父母ともに」は 44.3%と市の平均を下回っています。〈就学前児童保護者〉
- 主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 54.3%と市の平均を下回っていますが、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」は 20.0%で市平均より 10.4 ポイント高く、他地区に比べて最も高くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもない」は 7.1%で市平均より低くなっています。〈就学前児童保護者〉

【母親の就労状況】

- 母親はフルタイムが 26.0%と、他地区と比べて最も低くなっています。一方、パート・アルバイト等は 39.1%で他地区に比べて最も高くなっており、あわせると 65.1%の就労割合は市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉

【定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等】

- 定期的な教育・保育事業の利用割合は 68.6%で、他地区に比べ最も高くなっています。
- 定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 52.9%で市の平均程度となっています。「認可保育所」も 55.7%と同様に市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉
- 「認定こども園」は、21.4%で市平均より 4.8 ポイント低くなっています。〈就学前児童保護者〉

【地域子育て支援事業の利用率とニーズ等】

- 子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 68.8%で、その対処方法は「母親が仕事を休んでみた」が 75.8%となっています。〈就学前児童保護者〉
- 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが利用したい」が 14.3%と他地区に比べ最も低い一方、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 75.7%で他地区に比べ最も高くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」が 14.3%と他地区に比べて最も高くなっています。私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり事業を利用したいと考えている保護者は 32.9%で他地区に比べ最も低くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が 23.1%と蔵波地区に次いで低くなっています。平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）の希望は、「自宅」が 69.2%と市平均より高くなっています。「放課後児童クラブ」は 24.6%となっています。〈小学生保護者〉

【暮らし向きに対する支援制度への意向】

- 興味がある支援制度については、「子ども食堂」17.1%と市平均より低くなっています。「子どもの学習支援」は 42.9%と市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉

【居住地域における子育て環境や支援への満足度】

- 「満足」1.4%と「満足度がやや高い」24.3%をあわせると 25.7%となり、市の平均を上回っています。〈就学前児童保護者〉

(5) 平岡地区

【子育て家庭環境】

○子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 41.9%となっている一方、「主に母親」が 53.2%と市の平均を上回っています。＜就学前児童保護者＞

○主な親族等協力者として「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 61.3%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 43.5%といずれも市平均より高くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもない」は 3.2%で市平均より 9.1 ポイント低く、他地区に比べ最も低くなっています。＜就学前児童保護者＞

【母親の就労状況】

○母親はフルタイムが 41.0%で市平均より高く、パート・アルバイト等は 29.5%で市の平均程度となっています。あわせると就労割合は 70.5%と、中川・富岡地区に次いで高くなっています。＜就学前児童保護者＞

【定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等】

○定期的な教育・保育事業の利用割合は 50.0%でおおむね市の平均程度となっています。＜就学前児童保護者＞

○定期的に利用したい平日の教育・保育は「幼稚園」が 43.5%で市平均より 8.8 ポイント低くなっています。「認可保育所」は 74.2%で市平均を大きく上回り、他地区に比べ最も高くなっています。＜就学前児童保護者＞

○「認定こども園」は、29.0%で市の平均程度となっています。＜就学前児童保護者＞

【地域子育て支援事業の利用率とニーズ等】

○子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 71.0%でおおむね市の平均程度となっており、その対処方法は「母親が仕事を休んでみた」が 95.5%と市平均を大きく上回り、他地区に比べ最も高くなっています。＜就学前児童保護者＞

○地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 14.5%で根形地区に次いで低く、一方で「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が 72.6%と市の平均を上回っています。＜就学前児童保護者＞

○不定期な一時保育の利用状況は、「利用していない」が 93.5%と、他地区に比べ特に高くなっています。私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり事業を利用したいと考えている保護者は 37.1%で市の平均程度となっています。＜就学前児童保護者＞

○放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が 35.8%と市平均を大きく上回り、他地区に比べ最も高くなっています。平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）の希望は、「自宅」が 56.6%と他地区に比べ最も低く、「放課後児童クラブ」は 32.1%で他地区に比べ最も高くなっています。＜小学生保護者＞

【暮らし向きに対する支援制度への意向】

○興味がある支援制度については、「子ども食堂」30.6%、「子どもの学習支援」45.2%と市の平均を上回っています。＜就学前児童保護者＞

【居住地域における子育て環境や支援への満足度】

○「満足」1.6%と「満足度がやや高い」6.5%をあわせると 8.1%となり、他地区に比べ最も低くなっています。＜就学前児童保護者＞

(6) 中川・富岡地区

【子育て家庭環境】

- 子育てを主に行っている方は「父母ともに」が 36.5%で他地区に比べ最も低く、「主に母親」は 59.6%で他地区に比べ最も低くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 主な親族等協力者として「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 53.8%と市平均より 18.6 ポイント高く、他地区に比べ最も高くなっています。また、みてもらえる親族や知人が「いずれもない」は 3.8%で、平岡地区に次いで低くなっています。〈就学前児童保護者〉

【母親の就労状況】

- 母親はフルタイムが 44.2%で他地区に比べ最も高く、パート・アルバイト等は 30.8%で、あわせると 75.0%の就労割合は他地区に比べ最も高くなっています。〈就学前児童保護者〉

【定期的な教育・保育事業の利用率とニーズ等】

- 定期的な教育・保育事業の利用割合は 61.5%で市平均より高くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 定期的に利用したい平日の教育・保育は「認可保育所」が 69.2%で平岡地区に次いで高く、市平均より 8.6 ポイント高くなっています。「幼稚園」は 48.1%で市平均より 4.2 ポイント低くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 「認定こども園」は、19.2%で市平均より低くなっています。〈就学前児童保護者〉

【地域子育て支援事業の利用率とニーズ等】

- 子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験があったのは 71.9%で市の平均程度となっています。その対処方法は「母親が仕事を休んでみた」が 73.9%で他地区に比べ低く、一方で「親族・知人に子どもをみてもらった」では 56.5%で他地区に比べ最も高くなっています。〈就学前児童保護者〉
- 地域子育て支援拠点事業の今後の利用希望をみると「利用していないが、利用したい」が 23.1%で市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉
- 不定期な一時保育の利用状況は、「一時預かり」が 7.7%、「幼稚園の預かり保育」が 1.9%と 1 割未満となっています。私用、親の通院、不規則の就労等の目的で一時預かり事業を利用したいと考えている保護者は 38.5%で市の平均程度となっています。〈就学前児童保護者〉
- 放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が 24.4%と市平均より低くなっています。平日の放課後の過ごし方（小学校低学年）の希望は、「自宅」が 61.0%に対し、「放課後児童クラブ」は 17.1%と市平均を大きく下回り他地区に比べ最も低くなっています。〈小学生保護者〉

【暮らし向きに対する支援制度への意向】

- 興味がある支援制度については、「子ども食堂」34.6%、「子どもの学習支援」48.1%と市の平均を上回っています。〈就学前児童保護者〉

【居住地域における子育て環境や支援への満足度】

- 「満足」1.9%と「満足度がやや高い」25.0%をあわせると 26.9%となり、市平均より 4.7 ポイント高くなっています。〈就学前児童保護者〉

3 調査結果からみた課題

(1) 子育ての孤立感や負担感解消のための支援体制の充実

子どもをみてもらえる親族・知人について、多くの保護者は、日常的に、あるいは緊急時・用事の際に親族にみてもらえる状況にありますが、子どもをみてもらえる親族・知人がいない保護者も1割ほど見られます。こうした家庭が、子育てに対して孤立感や負担感が深まらないよう、相談体制や一時的な預かりなどの支援体制を整備していくことが求められます。また、転入者に向けた相談窓口の周知方法を検討するなど、相談窓口を知ってもらうような取組みも必要です。

(2) 母親の就労状況の変化をとらえた保育・教育ニーズへの対応

就労している母親が増加しており、また、就労していない母親においても今後の就労を希望する人が多くなっているなど、母親の就労意向は高まっています。それに伴い、保育ニーズが高まっており、特に低年齢児における保育で顕著に表れています。

待機児童を解消する取り組みを継続するとともに、地域ごとの子どもの数の動向も見据えて、保育・教育ニーズの変化に対応していくことが必要です。

また、放課後児童クラブの利用を希望する割合も増加しており、子どもの放課後等の居場所において、放課後児童クラブや放課後子ども教室などの運営の在り方の検討も含め、子どもの安全かつ安心な居場所を確保していくことが必要です。

(3) 様々な子育て支援策の充実

市に期待する取り組みとしては、子育てのための経済的支援の充実や小児救急医療体制の充実の他、子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進も高くなっており、小学生保護者ではより顕著になっています。経済的負担軽減のための取り組みを引き続き進めるとともに、子どもにとって安心・安全なまちづくりを進めていくことが求められます。

また、子どもの貧困が今日的な課題となるなか、世帯の収入からみる貧困想定世帯においては、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「子どもの学習支援」などに対するニーズが高く、子どもの成長を支えるために様々な支援策を検討していくことが求められます。こうした、多様化・複雑化する子育て・子育てを取り巻く問題に対して、妊娠期から子育て期間まで切れ目のない支援を行い、各地域においてきめ細かい対応ができるよう、体制の充実を図っていくことが必要です。

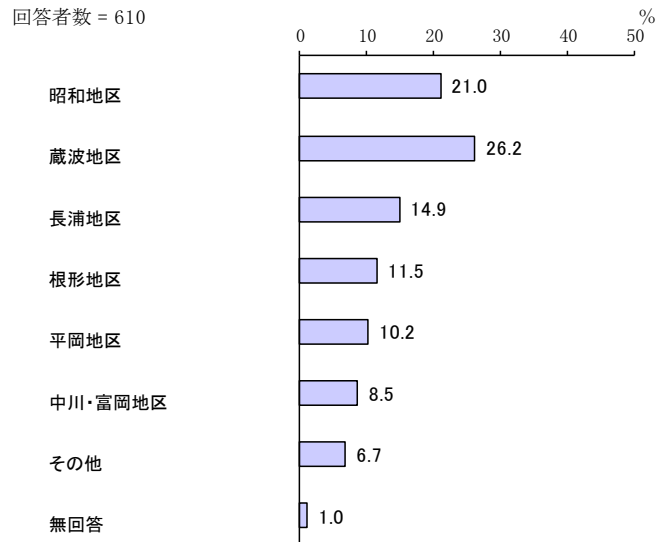
Ⅲ 調査結果

1 就学前児童保護者

(1) お子さんご家族の状況について

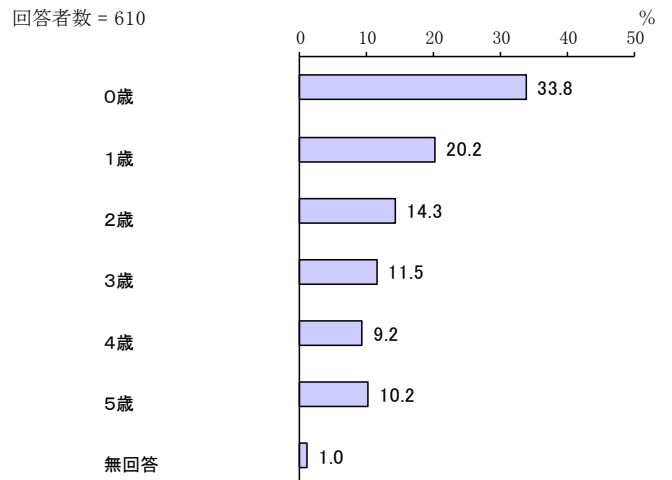
問1 お住まいの地区はどれになりますか。(あてはまる番号1つに○)

「蔵波地区」の割合が26.2%と最も高く、次いで「昭和地区」の割合が21.0%、「長浦地区」の割合が14.9%となっています。



問2 宛名のお子さんの生年月月をご記入ください。※(□内に数字でご記入ください)

「0歳」の割合が33.8%と最も高く、次いで「1歳」の割合が20.2%、「2歳」の割合が14.3%となっています。

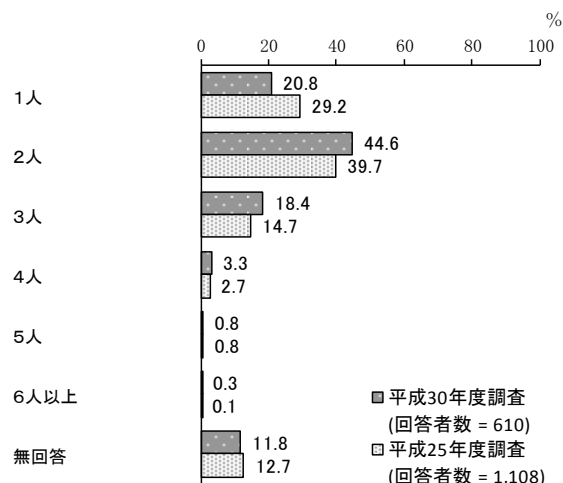


問3 宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。

【兄弟数】

「2人」の割合が44.6%と最も高く、次いで「1人」の割合が20.8%、「3人」の割合が18.4%となっています。

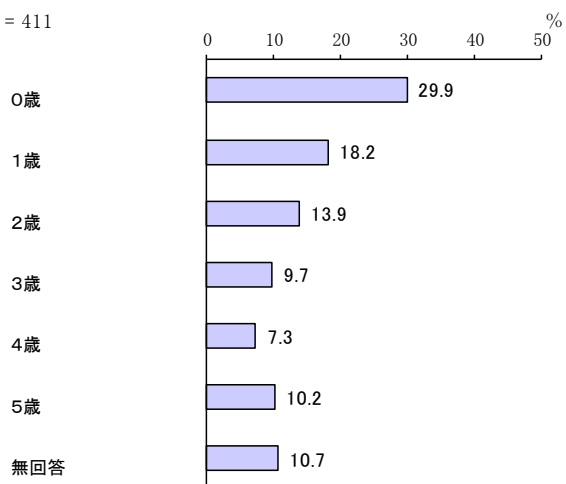
平成25年度調査と比較すると、「1人」の割合が減少しています。



【末子の年齢】

「0歳」の割合が29.9%と最も高く、次いで「1歳」の割合が18.2%、「2歳」の割合が13.9%となっています。

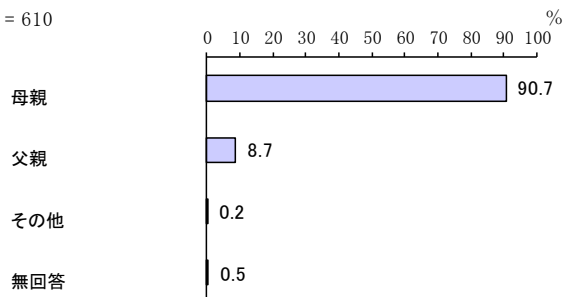
回答者数 = 411



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

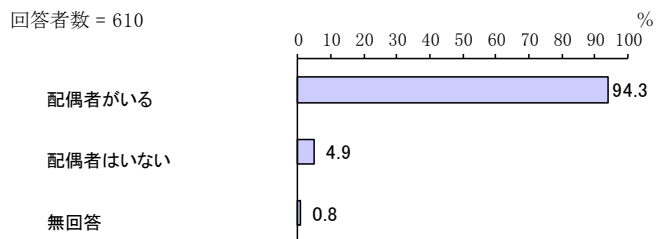
「母親」の割合が90.7%、「父親」の割合が8.7%となっています。

回答者数 = 610



問5 この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。（あてはまる番号1つに○）

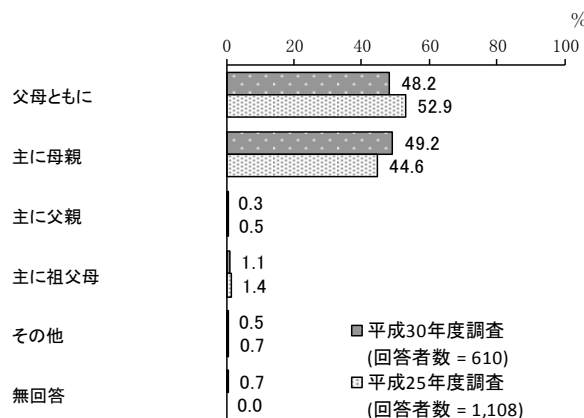
「配偶者がいる」の割合が94.3%、「配偶者がいない」の割合が4.9%となっています。



問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。

「主に母親」の割合が49.2%と最も高く、次いで「父母ともに」の割合が48.2%、「主に祖父母」の割合が1.1%となっています。

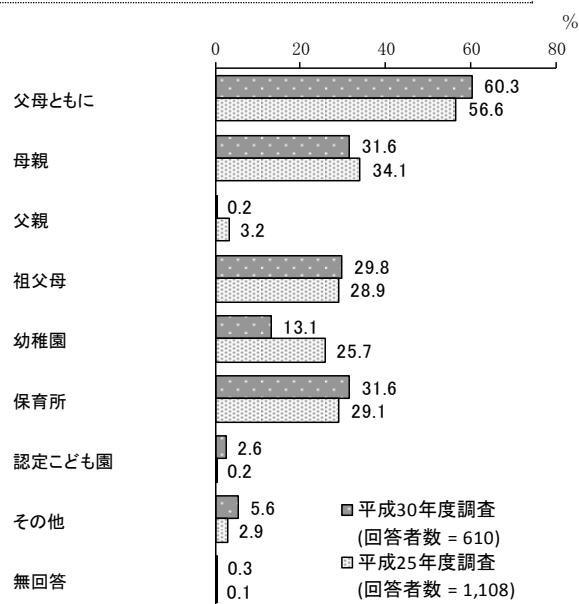
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問7 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。

「父母ともに」の割合が60.3%と最も高く、次いで「母親」、「保育所」の割合が31.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「幼稚園」の割合が減少しています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区、根形地区で「幼稚園」の割合が、中川・富岡地区で「祖父母」の割合が高くなっています。

単位：％

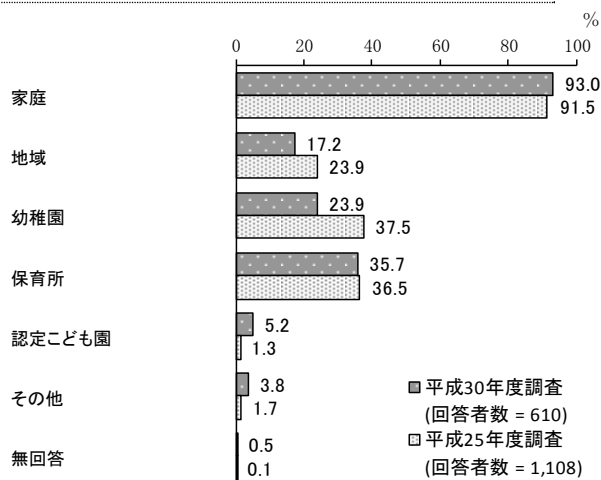
区分	有効回答数 (件)	父母ともに	母親	父親	祖父母	幼稚園	保育所	認定こども園	その他	無回答
昭和地区	128	59.4	32.8	—	28.9	9.4	29.7	5.5	6.3	0.8
葦波地区	160	61.9	33.1	—	26.9	13.1	31.9	2.5	4.4	—
長浦地区	91	63.7	29.7	—	25.3	20.9	19.8	2.2	4.4	—
根形地区	70	65.7	27.1	—	27.1	22.9	40.0	—	5.7	—
平岡地区	62	53.2	35.5	1.6	38.7	4.8	43.5	—	8.1	—
中川・富岡地区	52	63.5	23.1	—	53.8	11.5	48.1	—	7.7	—
その他	41	53.7	34.1	—	17.1	2.4	14.6	7.3	4.9	—

(2) 育ちをめぐる環境について

問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）にもっとも影響を与えると思う環境は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「家庭」の割合が93.0%と最も高く、次いで「保育所」の割合が35.7%、「幼稚園」の割合が23.9%となっています。

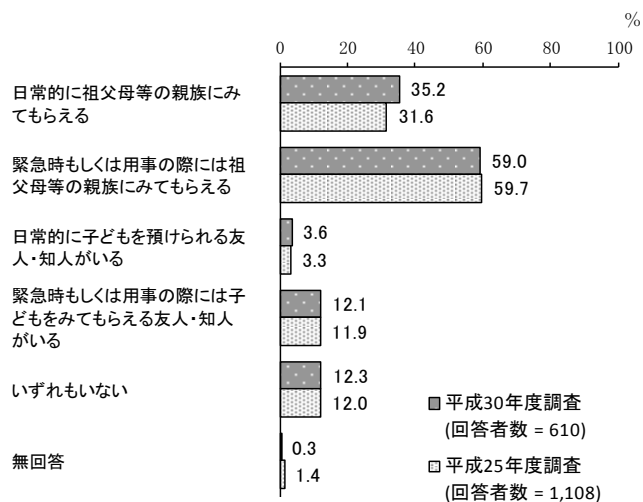
平成25年度調査と比較すると、「地域」「幼稚園」の割合が減少しています。



問9 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（あてはまる番号すべてに○）

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が59.0%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が35.2%、「いずれもない」の割合が12.3%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、蔵波地区で「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が、根形地区で「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」の割合が、中川・富岡地区で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が高くなっています。

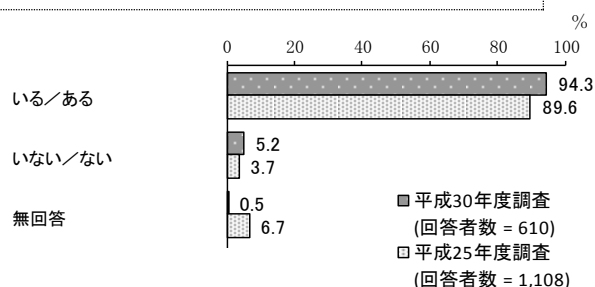
単位：％

区分	有効回答数 (件)	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
昭和地区	128	33.6	50.0	0.8	14.8	17.2	0.8
蔵波地区	160	31.3	68.1	3.8	12.5	12.5	—
長浦地区	91	31.9	59.3	3.3	13.2	14.3	—
根形地区	70	37.1	54.3	7.1	20.0	7.1	—
平岡地区	62	43.5	61.3	3.2	3.2	3.2	—
中川・富岡地区	52	53.8	57.7	1.9	9.6	3.8	—
その他	41	26.8	61.0	9.8	4.9	22.0	—

問 10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（あてはまる番号1つに○）

「いる／ある」の割合が94.3%、「いない／ない」の割合が5.2%となっています。

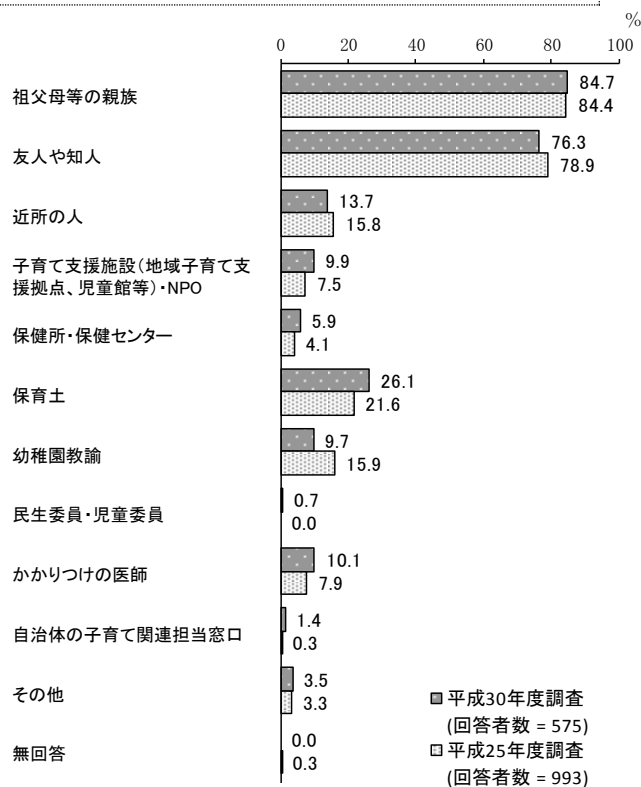
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 10-1 問 10 で「1. いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「祖父母等の親族」の割合が84.7%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が76.3%、「保育士」の割合が26.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「幼稚園教諭」の割合が減少しています。



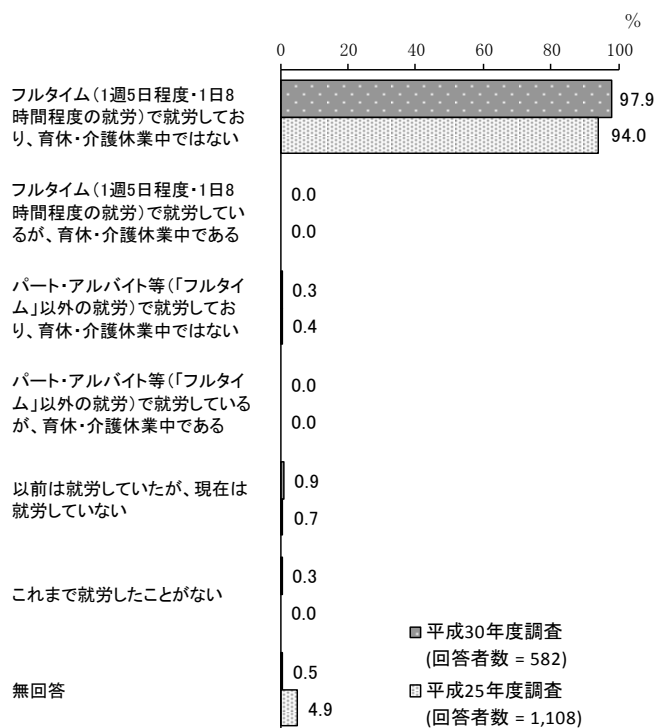
(3) 保護者の就労状況について

問 11 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

【父親】（当てはまる番号1つに○）

「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が97.9%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が0.9%、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」、「これまで就労したことがない」の割合が0.3%となっています。

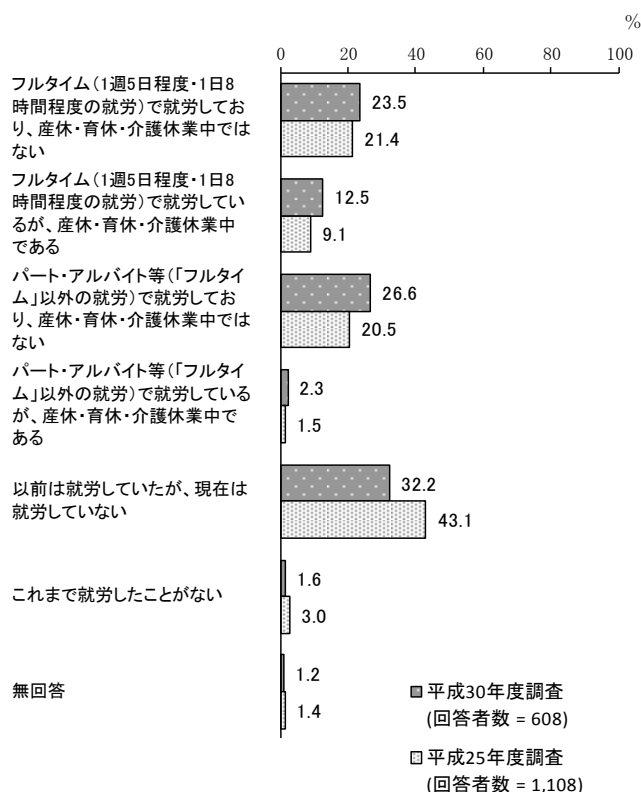
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【母親】（当てはまる番号1つに○）

「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が32.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が26.6%、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が23.5%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が増加しています。一方、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が減少しています。

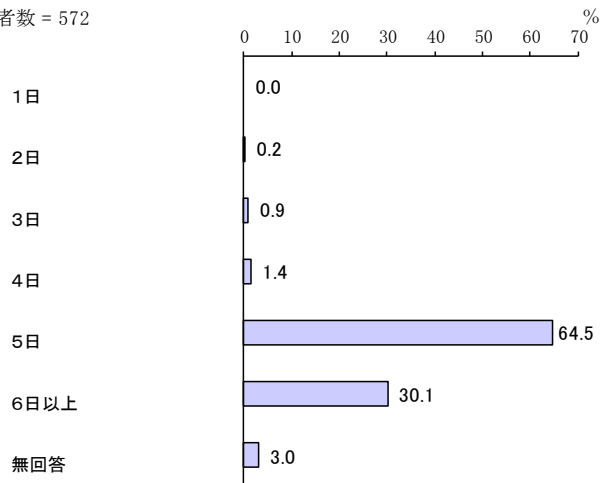


問 11-1 問 11 で「1. ～ 4.」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。
1 週当たりの「就労日数」、1 日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」を、□
内に数字でご記入ください。

【父親】 1 週当たりの「就労日数」

「5 日」の割合が 64.5% と最も高く、次いで
「6 日以上」の割合が 30.1%、「4 日」の割合が
1.4% となっています。

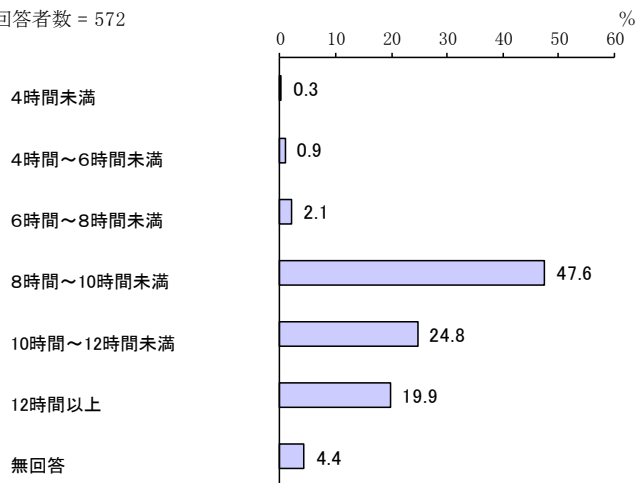
回答者数 = 572



【父親】 1 日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」

「8 時間～10 時間未満」の割合が 47.6% と最
も高く、次いで「10 時間～12 時間未満」の割合
が 24.8%、「12 時間以上」の割合が 19.9% とな
っています。

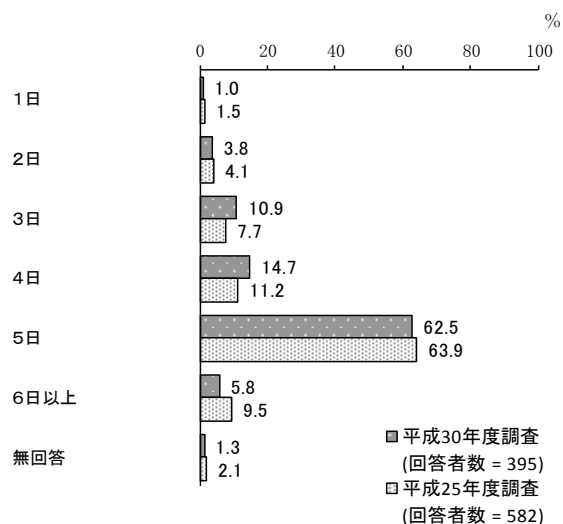
回答者数 = 572



【母親】 1週当たりの「就労日数」

「5日」の割合が62.5%と最も高く、次いで「4日」の割合が14.7%、「3日」の割合が10.9%となっています。

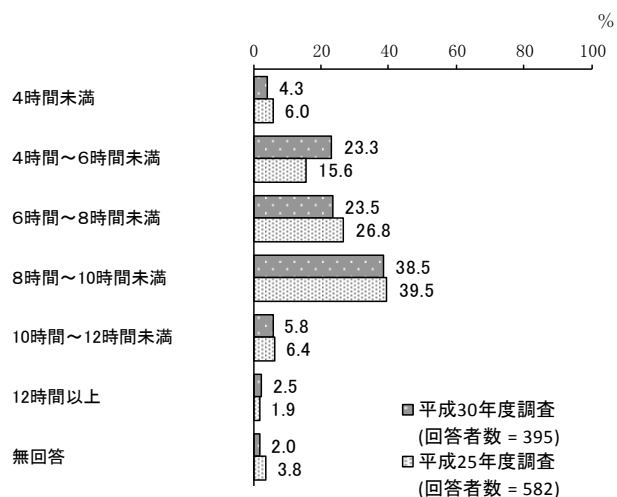
平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【母親】 1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」

「8時間～10時間未満」の割合が38.5%と最も高く、次いで「6時間～8時間未満」の割合が23.5%、「4時間～6時間未満」の割合が23.3%となっています。

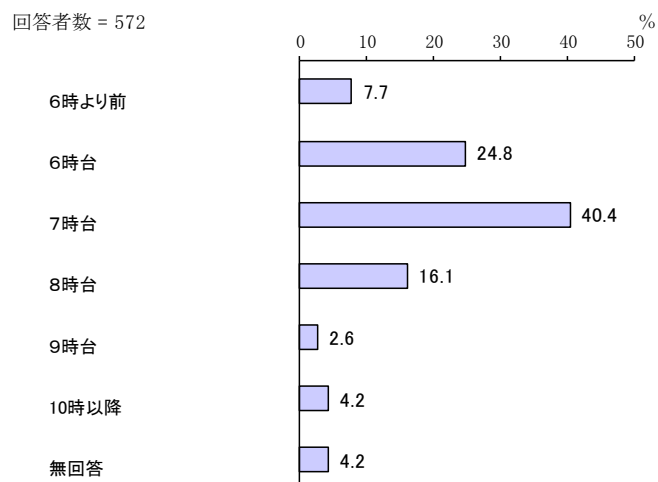
平成25年度調査と比較すると、「4時間～6時間未満」の割合が増加しています。



問 11-2 問 11 で「1. ～ 4.」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。
 家を出る時刻と帰宅時刻を、□内に数字でご記入ください。
 ※就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
 ※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
 ※時間は、必ず（例）08 時～18 時のように、24 時間制でお答えください。

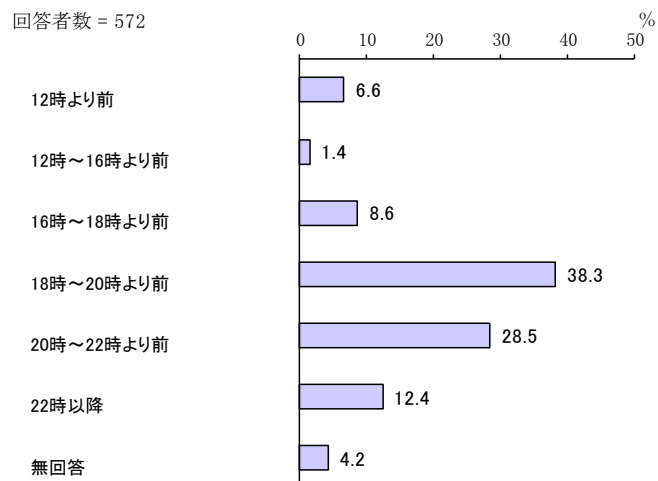
【父親】家を出る時刻

「7 時台」の割合が 40.4%と最も高く、次いで「6 時台」の割合が 24.8%、「8 時台」の割合が 16.1%となっています。



【父親】帰宅する時刻

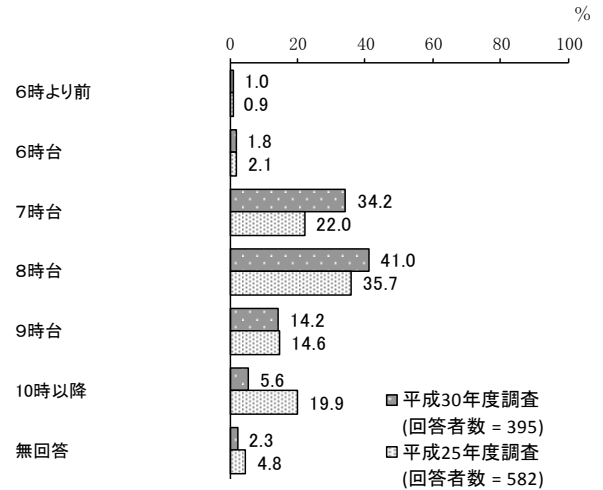
「18 時～20 時より前」の割合が 38.3%と最も高く、次いで「20 時～22 時より前」の割合が 28.5%、「22 時以降」の割合が 12.4%となっています。



【母親】家を出る時刻

「8時台」の割合が41.0%と最も高く、次いで「7時台」の割合が34.2%、「9時台」の割合が14.2%となっています。

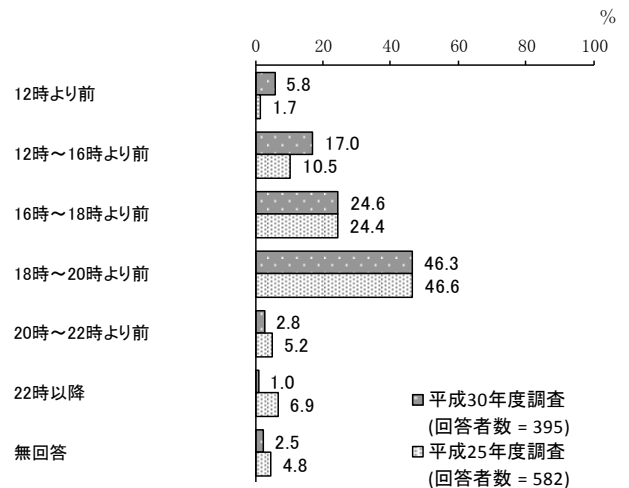
平成25年度調査と比較すると、「7時台」「8時台」の割合が増加しています。一方、「10時以降」の割合が減少しています。



【母親】帰宅する時刻

「18時～20時より前」の割合が46.3%と最も高く、次いで「16時～18時より前」の割合が24.6%、「12時～16時より前」の割合が17.0%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「12時～16時より前」の割合が増加しています。一方、「22時以降」の割合が減少しています。

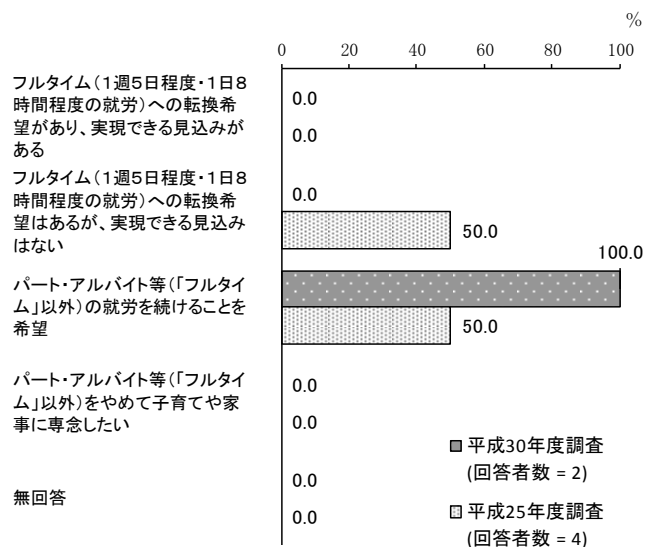


問12 問11で「3. 4.」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方にうかがいます。
フルタイムへの転換希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）

【父親】

「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」が2件となっています。

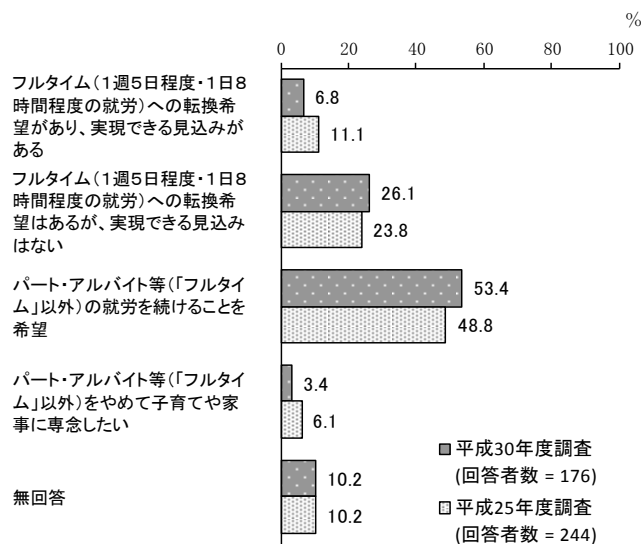
平成25年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」の割合が増加しています。一方、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が減少しています。



【母親】

「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」の割合が53.4%と最も高く、次いで「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が26.1%、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある」の割合が6.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

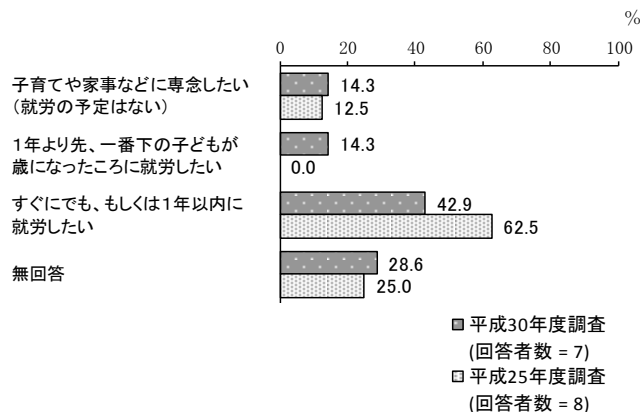


問13 問11で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。
 就労したいという希望はありますか。(あてはまる番号・丸数字それぞれ1つに○)
 ※該当する口内には数字をご記入ください。

【父親】

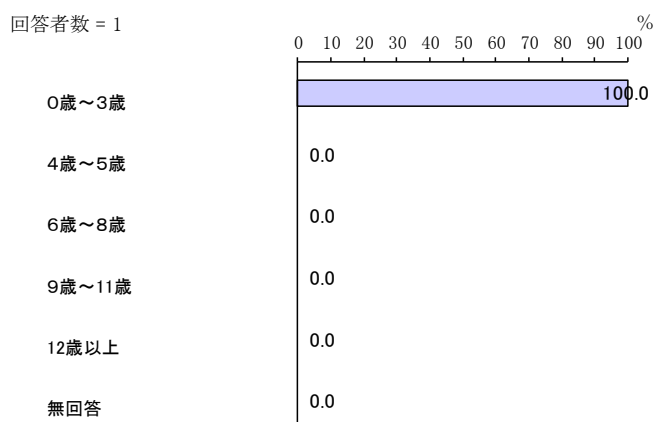
「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3件、次いで「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」、「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」が1件となっています。

平成25年度調査と比較すると、「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」の割合が増加しています。一方、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が減少しています。



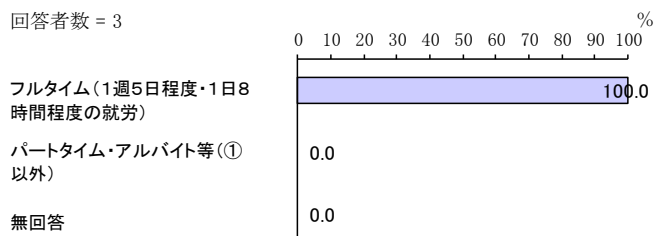
就労希望時の末子の年齢

「0歳～3歳」が1件となっています。



希望する就労形態

「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)」が3件となっています。



希望就労日数（1週あたり）

有効回答がありませんでした。

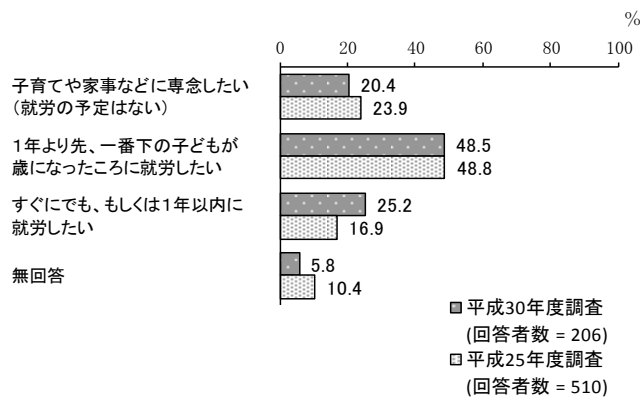
希望就労時間（1日あたり）

有効回答がありませんでした。

【母親】

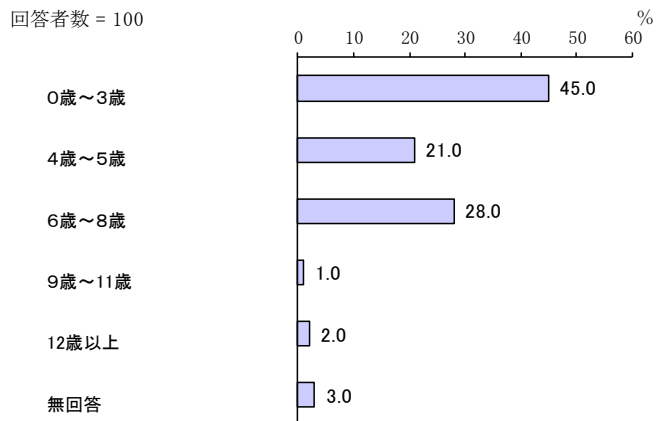
「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」の割合が48.5%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が25.2%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が20.4%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が増加しています。



就労希望時の末子の年齢

「0歳～3歳」の割合が45.0%と最も高く、次いで「6歳～8歳」の割合が28.0%、「4歳～5歳」の割合が21.0%となっています。



希望する就労形態

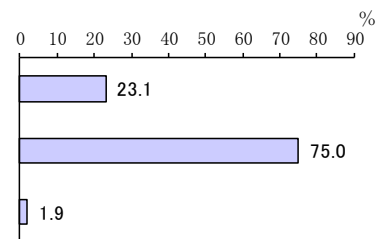
「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」の割合が23.1%、「パートタイム・アルバイト等（①以外）」の割合が75.0%となっています。

回答者数 = 52

フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)

パートタイム・アルバイト等(①以外)

無回答



希望就労日数（1週あたり）

「3日」の割合が56.4%と最も高く、次いで「4日」の割合が25.6%、「5日」の割合が12.8%となっています。

回答者数 = 39

1日

2日

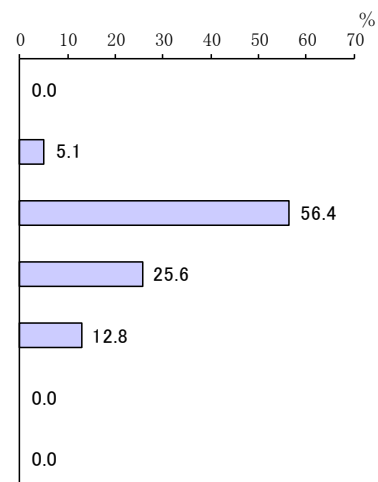
3日

4日

5日

6日以上

無回答



希望就労時間（1日あたり）

「4時間～6時間未満」の割合が74.4%と最も高く、次いで「4時間未満」の割合が10.3%、「6時間～8時間未満」、「8時間～10時間未満」の割合が7.7%となっています。

回答者数 = 39

4時間未満

4時間～6時間未満

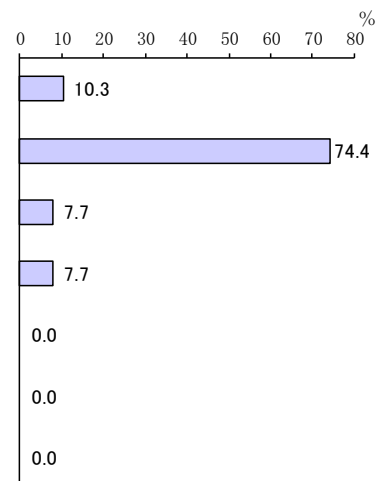
6時間～8時間未満

8時間～10時間未満

10時間～12時間未満

12時間以上

無回答

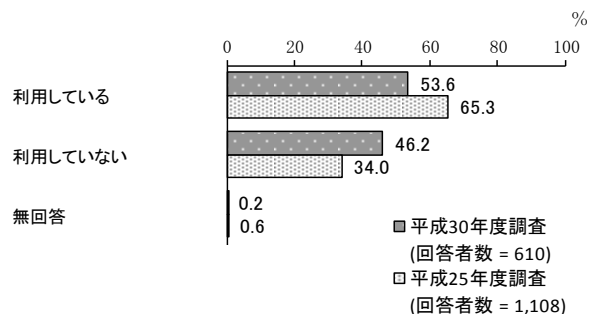


(4) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問 14 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用されていますか。(あてはまる番号1つに○)

「利用している」の割合が53.6%、「利用していない」の割合が46.2%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「利用していない」の割合が増加しています。一方、「利用している」の割合が減少しています。

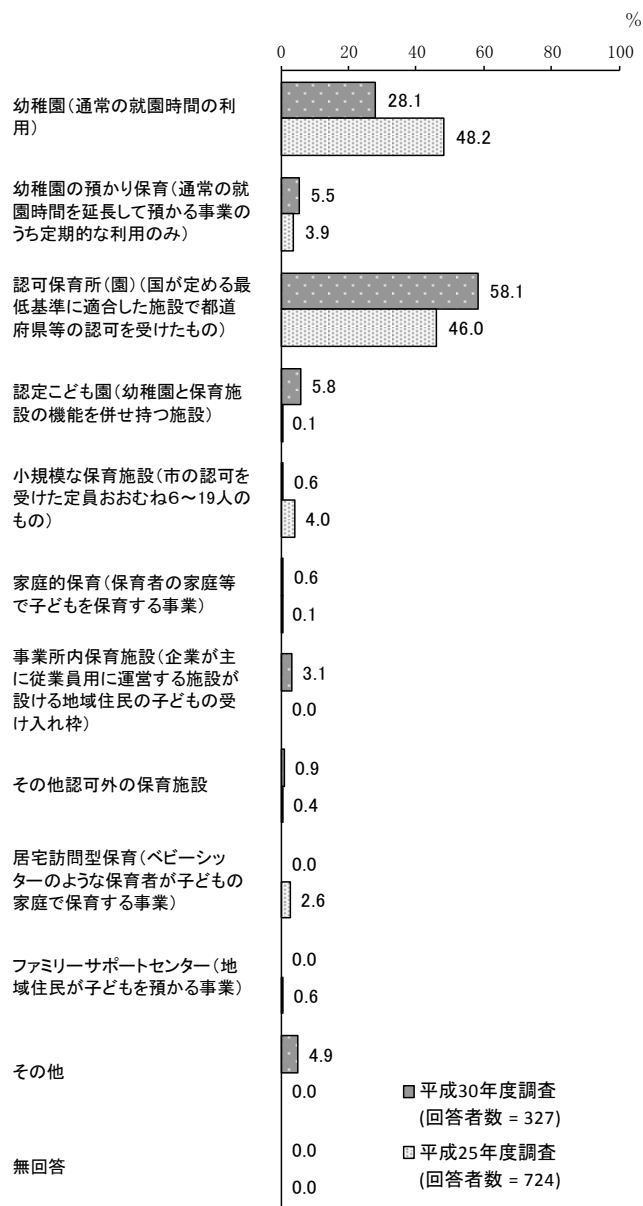


問 14-1 問 14-1～問 14-4 は、問 14 で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。
 ※年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。
 (あてはまる番号すべてに○)

「認可保育所(園)(国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの)」の割合が58.1%と最も高く、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」の割合が28.1%、「認定こども園(幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設)」の割合が5.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「認可保育所(園)(国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの)」「認定こども園(幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設)」の割合が増加しています。一方、「幼稚園(通常の就園時間の利用)」の割合が減少しています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、0歳で「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」、「事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）」の割合が、1歳、2歳で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が、3歳、4歳で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が、5歳で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常の就園時間の利用）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育（ベビシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答
0歳	37	2.7	—	62.2	13.5	—	—	13.5	—	—	—	10.8	—
1歳	57	3.5	1.8	80.7	8.8	—	1.8	—	—	—	—	3.5	—
2歳	56	19.6	1.8	62.5	8.9	1.8	—	1.8	1.8	—	—	7.1	—
3歳	58	36.2	5.2	51.7	5.2	—	—	3.4	1.7	—	—	5.2	—
4歳	53	43.4	7.5	50.9	—	—	1.9	1.9	—	—	—	1.9	—
5歳	61	50.8	13.1	45.9	1.6	—	—	1.6	1.6	—	—	3.3	—

【利用している教育・保育事業の実施場所別】

利用している教育・保育事業の実施場所別でみると、他に比べ、昭和地区で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が、蔵波地区、中川・富岡地区で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が、長浦地区で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」の割合が、根形地区、平岡地区で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が、他の市区町村で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」、「事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常の就園時間の利用）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答
昭和地区	59	6.8	1.7	64.4	22.0	1.7	—	—	1.7	—	—	3.4	—
蔵波地区	83	34.9	4.8	60.2	—	1.2	—	—	1.2	—	—	3.6	—
長浦地区	47	48.9	17.0	46.8	2.1	—	2.1	6.4	—	—	—	2.1	—
根形地区	37	2.7	—	94.6	—	—	—	—	—	—	—	2.7	—
平岡地区	19	5.3	—	94.7	—	—	—	5.3	—	—	—	—	—
中川・富岡地区	32	40.6	—	59.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
他の市区町村	44	38.6	9.1	15.9	11.4	—	2.3	13.6	2.3	—	—	18.2	—

問 14-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。

※1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを、□内に数字でご記入ください。

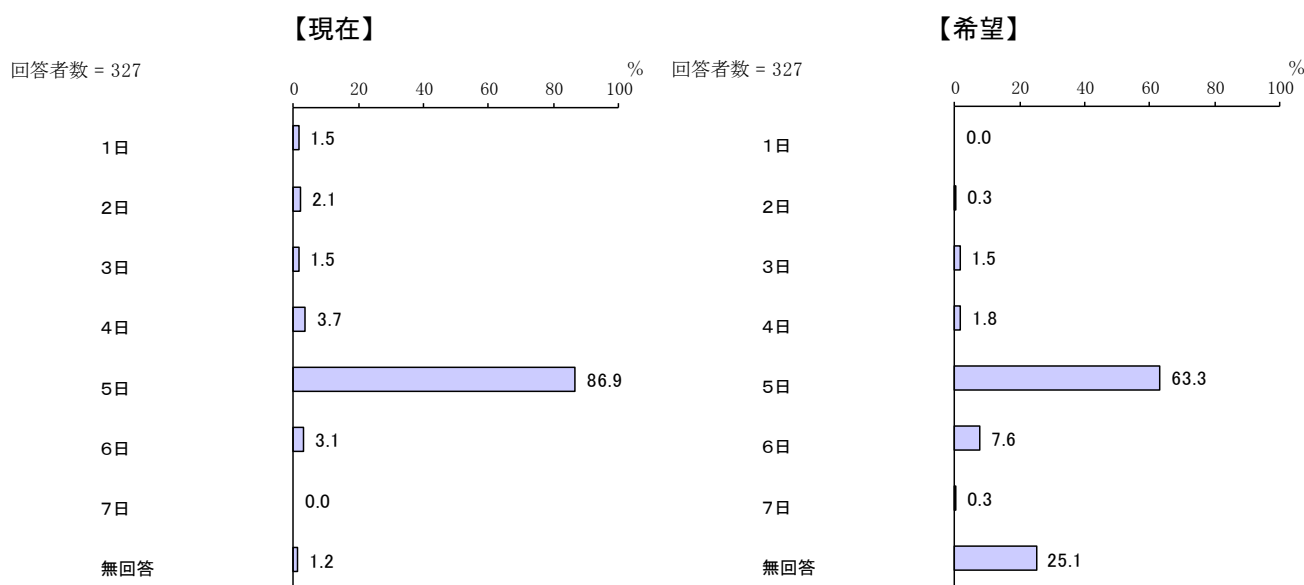
※時間は、必ず（例）08時～18時のように24時間体制でご記入ください。

※2つ以上回答された方は、若い番号の事業についてお答えください。

利用日数

現在では、「5日」の割合が86.9%と最も高く、次いで「4日」の割合が3.7%、「6日」の割合が3.1%となっています。

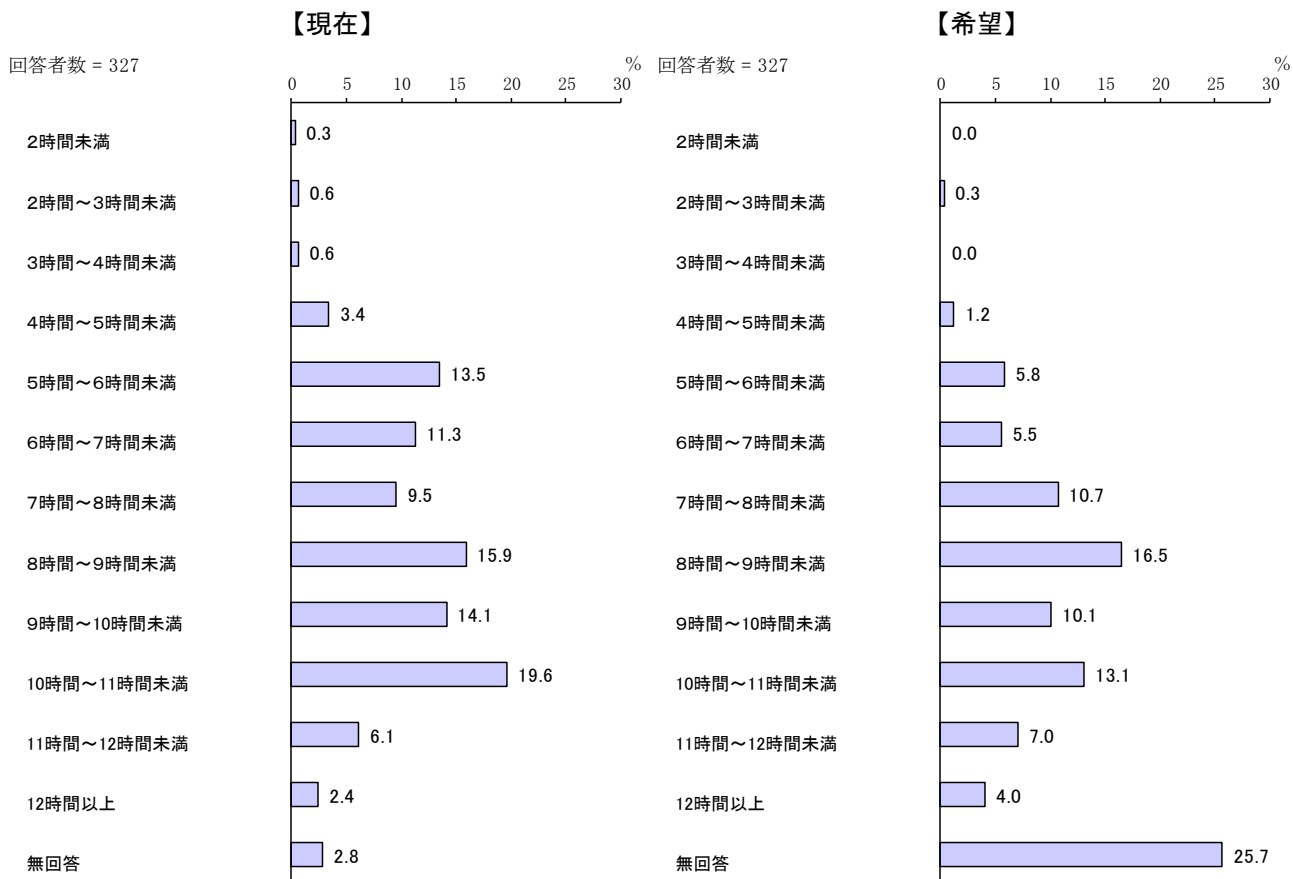
希望では、「5日」の割合が63.3%と最も高く、次いで「6日」の割合が7.6%、「4日」の割合が1.8%となっています。



利用時間

現在では、「10 時間～11 時間未満」の割合が 19.6%と最も高く、次いで「8 時間～9 時間未満」の割合が 15.9%、「9 時間～10 時間未満」の割合が 14.1%となっています。

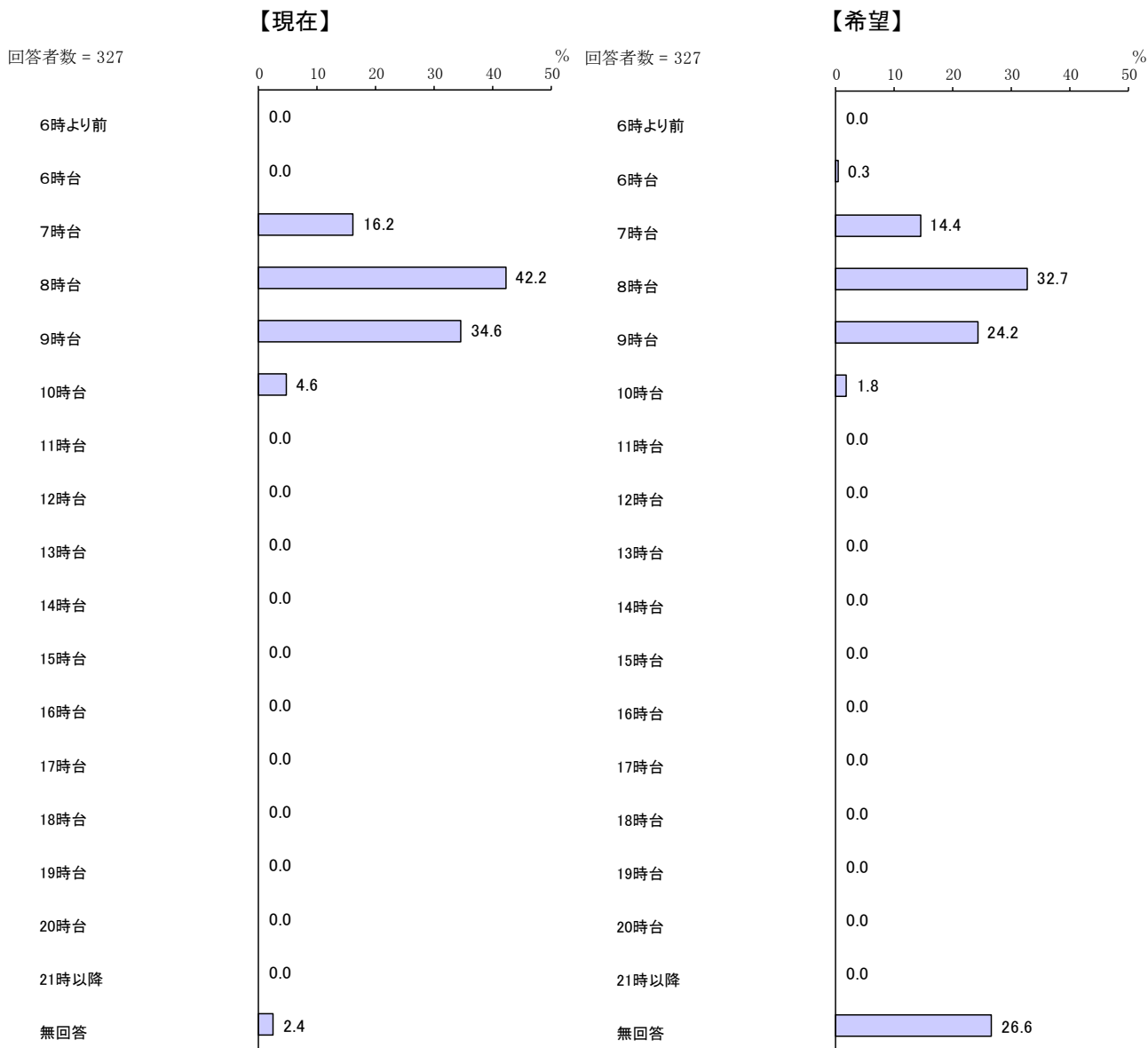
希望では、「8 時間～9 時間未満」の割合が 16.5%と最も高く、次いで「10 時間～11 時間未満」の割合が 13.1%、「7 時間～8 時間未満」の割合が 10.7%となっています。



利用開始時間

現在では、「8時台」の割合が42.2%と最も高く、次いで「9時台」の割合が34.6%、「7時台」の割合が16.2%となっています。

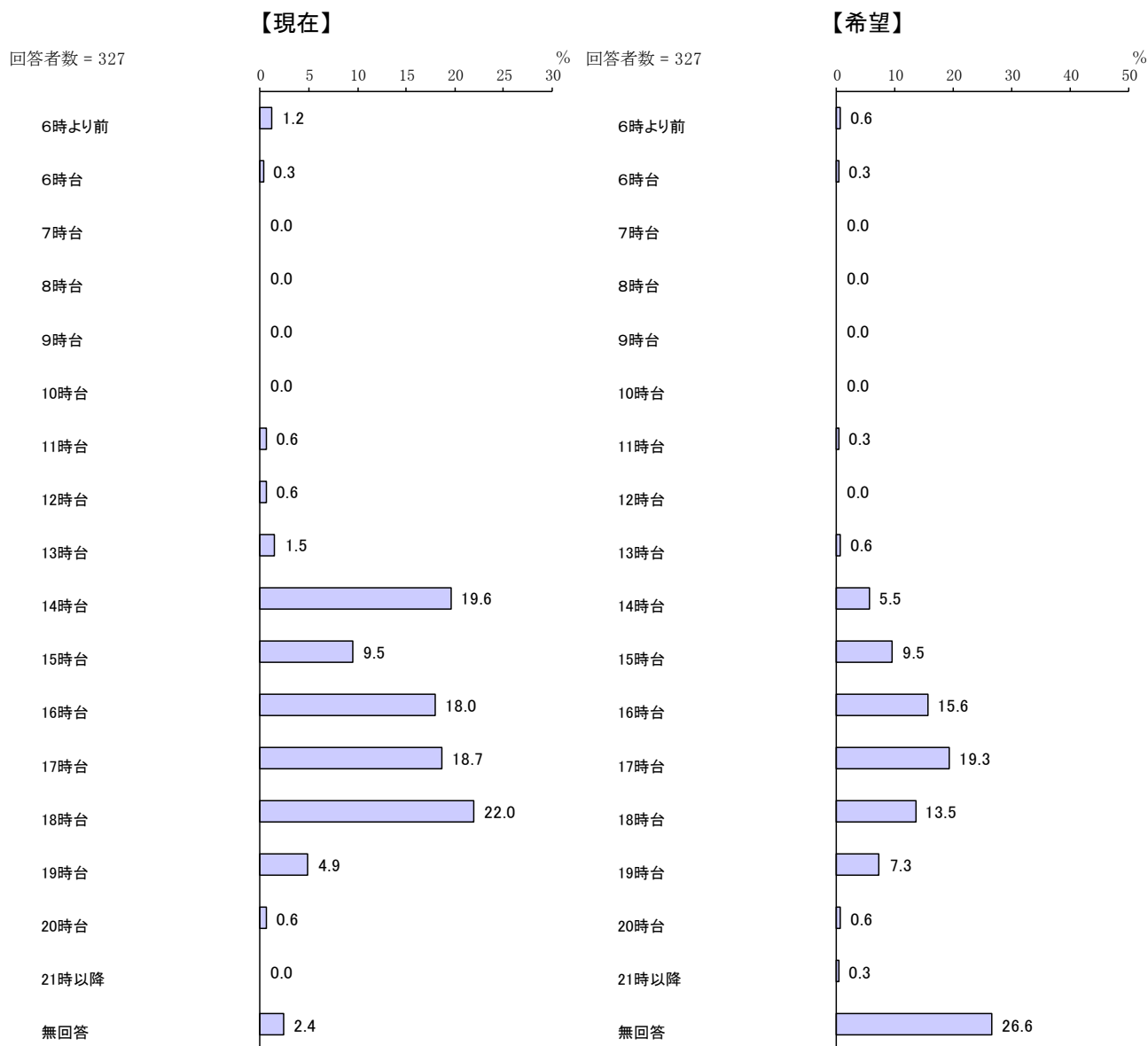
希望では、「8時台」の割合が32.7%と最も高く、次いで「9時台」の割合が24.2%、「7時台」の割合が14.4%となっています。



利用終了時間

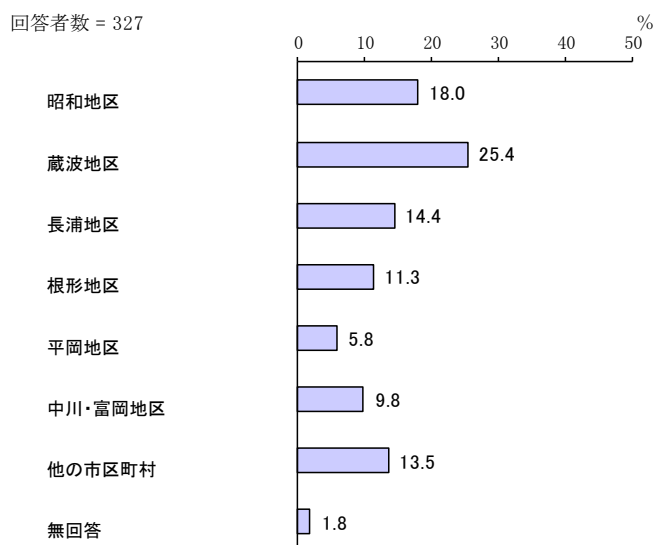
現在では、「18 時台」の割合が 22.0%と最も高く、次いで「14 時台」の割合が 19.6%、「17 時台」の割合が 18.7%となっています。

希望では、「17 時台」の割合が 19.3%と最も高く、次いで「16 時台」の割合が 15.6%、「18 時台」の割合が 13.5%となっています。



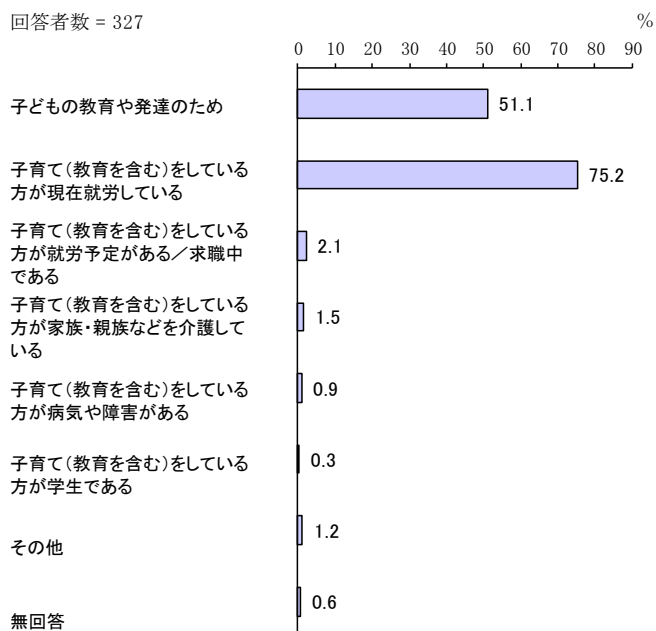
問 14-3 現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。
(あてはまる番号1つに○)

「蔵波地区」の割合が 25.4%と最も高く、次いで「昭和地区」の割合が 18.0%、「長浦地区」の割合が 14.4%となっています。



問 14-4 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由は何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

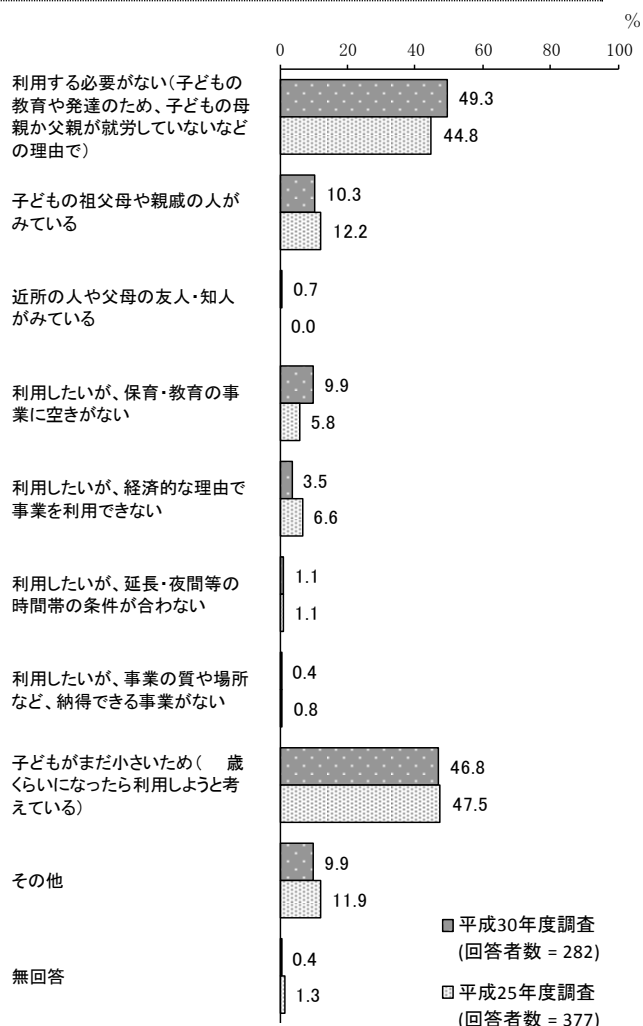
「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労している」の割合が 75.2%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」の割合が 51.1%、「子育て(教育を含む)をしている方が就労予定がある/求職中である」の割合が 2.1%となっています。



問 14-5 問 14 で「2. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

「利用する必要がない(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため()歳くらいになったら利用しようと考えている」の割合が 46.8%、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」の割合が 10.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、0歳で「子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている」の割合が、1歳で「利用する必要がない」の割合が、2歳、3歳で「子どもの祖父母や親戚の人がみている」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で）	子どもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている	その他	無回答
0歳	169	46.7	5.9	0.6	10.1	2.4	0.6	0.6	55.0	8.9	—
1歳	66	57.6	13.6	1.5	12.1	6.1	1.5	—	36.4	6.1	—
2歳	31	45.2	22.6	—	6.5	3.2	—	—	38.7	19.4	—
3歳	12	50.0	16.7	—	8.3	8.3	8.3	—	16.7	8.3	8.3
4歳	2	50.0	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—
5歳	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない』で「子どもの祖父母や親戚の人がみている」、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」、「子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている」の割合が、『以前は就労していたが、現在は就労していない』では「利用する必要がない」の割合が高くなっています。

また、『フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない』では「子どもの祖父母や親戚の人がみている」の割合が高くなっています。

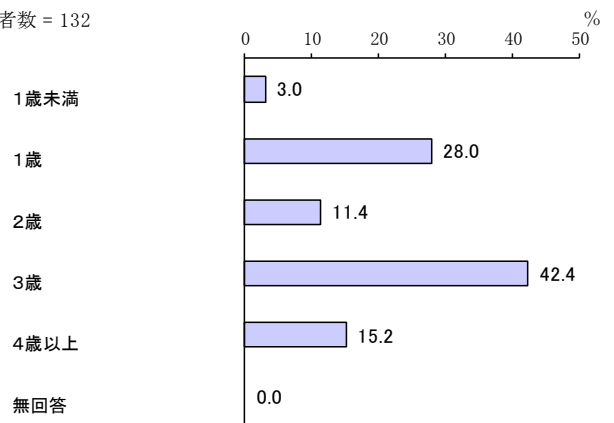
単位：％

区分	有効回答数（件）	利用する必要があるため、子どもを就労させていないなどの理由で	子どもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	子どもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている	その他	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	10	—	50.0	—	20.0	10.0	10.0	—	20.0	20.0	—
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	73	32.9	5.5	—	15.1	1.4	1.4	—	49.3	15.1	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	33	24.2	30.3	3.0	15.2	6.1	—	3.0	63.6	12.1	3.0
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	8	37.5	12.5	—	12.5	—	—	—	62.5	12.5	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	148	64.9	6.1	0.7	6.1	4.1	0.7	—	44.6	6.1	—
これまで就労したことがない	8	75.0	—	—	—	—	—	—	12.5	12.5	—

【利用を希望する子どもの年齢】

「3歳」の割合が42.4%と最も高く、次いで「1歳」の割合が28.0%、「4歳以上」の割合が15.2%となっています。

回答者数 = 132

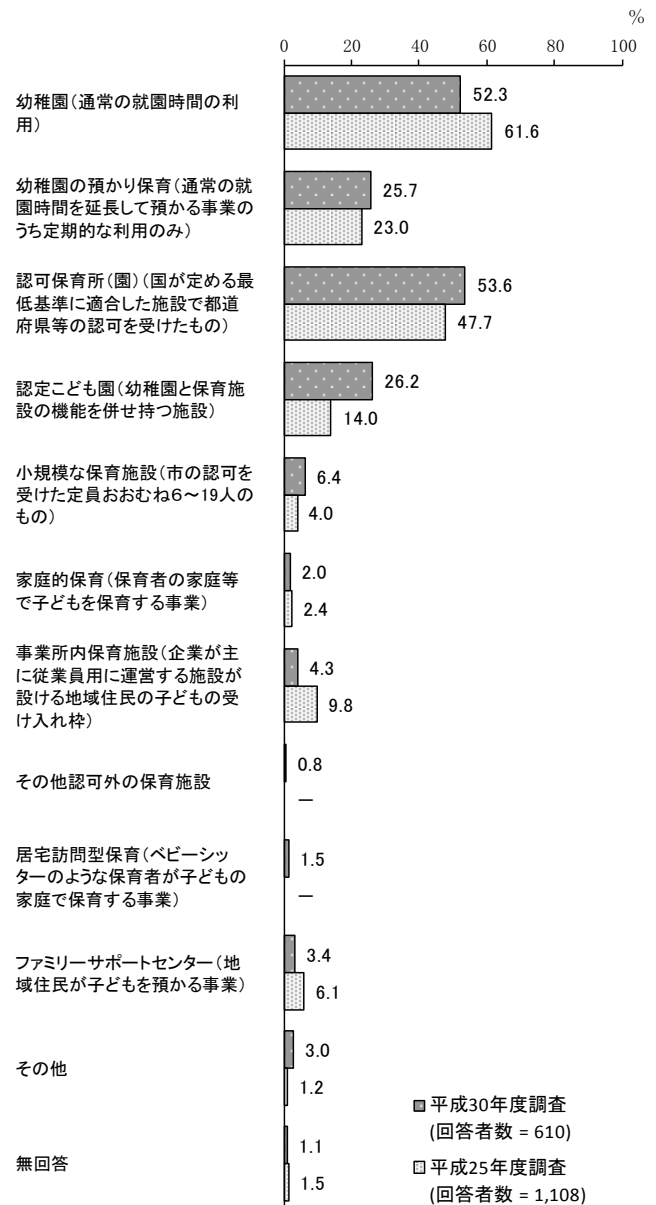


問 15 すべての方にうかがいます。

政府は、来年10月からの消費税率引き上げの時期に合わせて、3歳から5歳までの子どもたちの幼稚園、保育所、認定こども園などの利用料の無償化を目指しています。また、0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子どもについても同様です。現在、利用している、利用していないにかかわらず、今後、宛名のお子さんについて、平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したいと考える事業はどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が53.6%と最も高く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が52.3%、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が26.2%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合が増加しています。一方、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」「事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもを受け入れ枠）」の割合が減少しています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、0歳、1歳、4歳で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が高くなっています。また、0歳では「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」の割合も高くなっています。

また、他に比べ、1歳、2歳では「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常の就園時間の利用）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもを受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	が子どもの家庭で保育する事業（ベビーシッターのような保育者が子どもを預かる事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答
0歳	206	47.1	23.8	61.2	41.7	12.1	2.4	4.9	1.5	1.5	3.4	1.5	1.0
1歳	123	58.5	26.0	56.1	23.6	3.3	0.8	2.4	—	1.6	2.4	0.8	0.8
2歳	87	57.5	33.3	49.4	20.7	3.4	1.1	5.7	—	1.1	2.3	2.3	—
3歳	70	51.4	30.0	48.6	11.4	1.4	—	2.9	1.4	—	2.9	2.9	—
4歳	56	46.4	19.6	57.1	14.3	3.6	5.4	3.6	1.8	3.6	3.6	3.6	1.8
5歳	62	53.2	21.0	37.1	16.1	4.8	3.2	6.5	—	1.6	8.1	12.9	4.8

【子どもをみてもらえる親族・知人の有無別】

子どもをみてもらえる親族・知人の有無別でみると、他に比べ、『緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる』、『いずれもない』で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が高くなっています。

また、『日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる』で「幼稚園（通常の就園時間の利用）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常の就園時間の利用）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもを受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育（ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答	
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	215	60.0	27.9	50.7	26.5	5.1	0.9	4.7	—	0.5	3.3	2.3	0.9
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	360	51.4	25.0	56.1	25.3	8.1	1.9	4.2	0.8	1.4	3.1	3.6	1.1
日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる	22	72.7	13.6	36.4	22.7	9.1	13.6	18.2	—	4.5	4.5	—	—
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	74	64.9	32.4	43.2	20.3	4.1	5.4	5.4	—	1.4	5.4	4.1	1.4
いずれもない	75	46.7	25.3	54.7	30.7	4.0	2.7	4.0	2.7	4.0	4.0	2.7	2.7

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない』、『フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である』で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」の割合が高くなっています。また、『以前は就労していたが、現在は就労していない』、『これまで就労したことがない』で「幼稚園（通常就園時間の利用）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常就園時間の利用）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育（ベビシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	143	16.8	82.5	24.5	3.5	2.1	4.2	—	2.1	3.5	1.4	—
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	76	30.3	81.6	47.4	10.5	2.6	5.3	2.6	1.3	2.6	1.3	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	162	58.0	30.9	46.9	3.1	2.5	4.9	—	2.5	3.7	5.6	1.2
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	14	35.7	57.1	35.7	7.1	—	7.1	—	—	—	—	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	196	81.1	34.7	29.1	23.0	1.0	3.6	1.0	—	4.1	3.1	2.0
これまで就労したことがない	10	70.0	40.0	20.0	30.0	—	—	10.0	10.0	—	—	10.0

【母親の就労希望別】

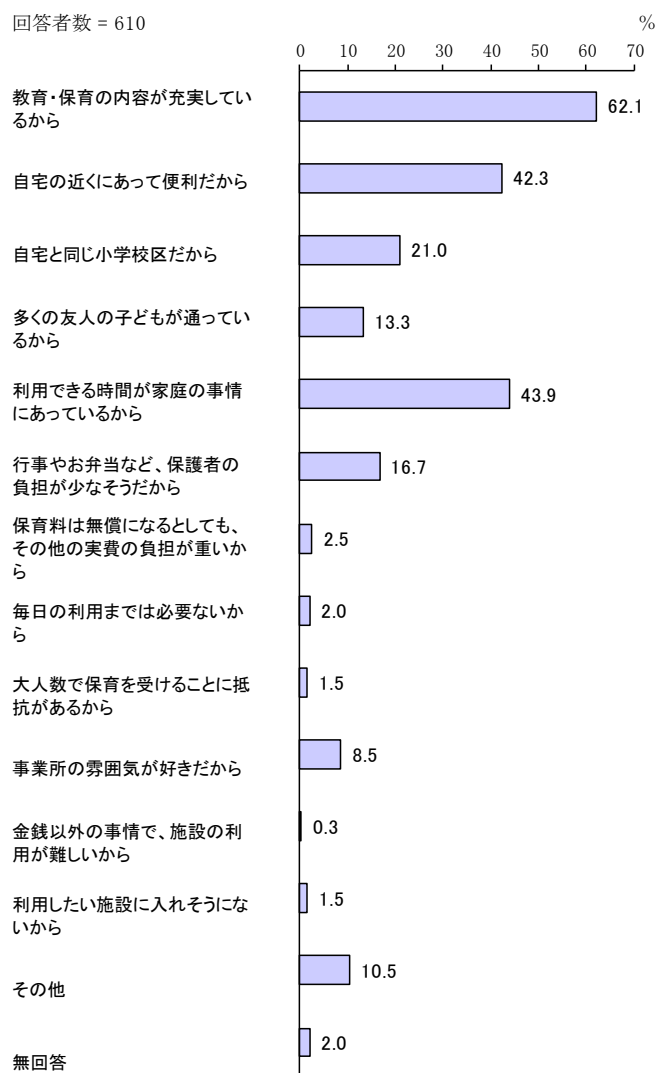
母親の就労希望別でみると、他に比べ、『すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい』で「認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）」、「認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」、「小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常の就園時間の利用）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育（ベビシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答
子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）	42	81.0	31.0	26.2	23.8	2.4	2.4	—	4.8	2.4	4.8	4.8	4.8
1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい	100	85.0	36.0	25.0	18.0	9.0	1.0	5.0	—	—	5.0	4.0	2.0
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	52	67.3	36.5	38.5	34.6	15.4	—	3.8	1.9	—	1.9	—	1.9

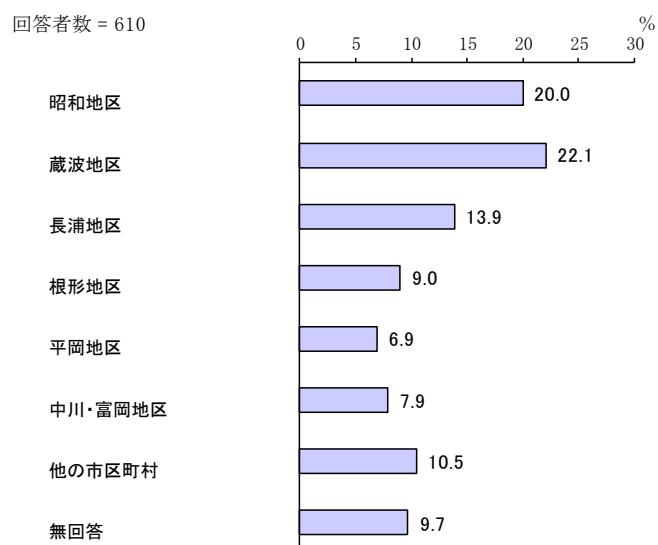
問 15-1 問 15 で回答した事業を選んだ理由をお答えください。
(あてはまる番号すべてに○)

「教育・保育の内容が充実しているから」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「利用できる時間が家庭の事情にあっているから」の割合が 43.9%、「自宅の近くにあって便利だから」の割合が 42.3%となっています。



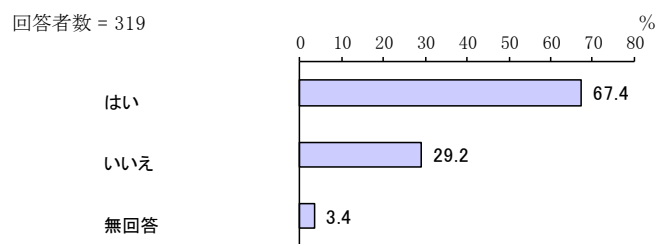
問 15-2 教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。
(あてはまる番号 1 つに○)

「蔵波地区」の割合が 22.1%と最も高く、次いで「昭和地区」の割合が 20.0%、「長浦地区」の割合が 13.9%となっています。



問 15-3 問 15 で「1. 幼稚園」に○をつけた方にうかがいます。
特に幼稚園の利用を強く希望しますか。(あてはまる番号 1 つに○)

「はい」の割合が 67.4%、「いいえ」の割合が 29.2%となっています。



(5) 地域の子育て支援事業の利用状況について

問 16 宛名のお子さんと一緒に、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」等と呼ばれています）を利用していますか。
 （次の中から、利用されているものすべてに○をつけてください。）
 ※おおよその利用回数（頻度）を口内に数字でご記入ください。

「利用していない」の割合が 74.8%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をする場）」の割合が 17.0%、「その他当該自治体で実施している類似の事業」の割合が 3.3%となっています。

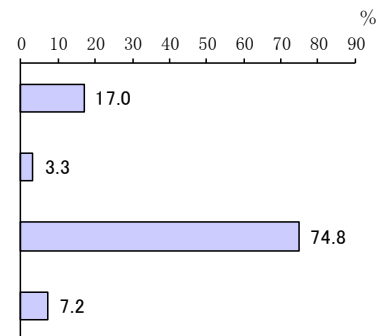
回答者数 = 610

地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をする場)

その他当該自治体で実施している類似の事業

利用していない

無回答



【1. 地域子育て支援拠点事業】

1 週あたり利用回数

「1回」の割合が 8.7%と最も高く、次いで「2回」、「3回」の割合が 6.7%となっています。

回答者数 = 104

1回

2回

3回

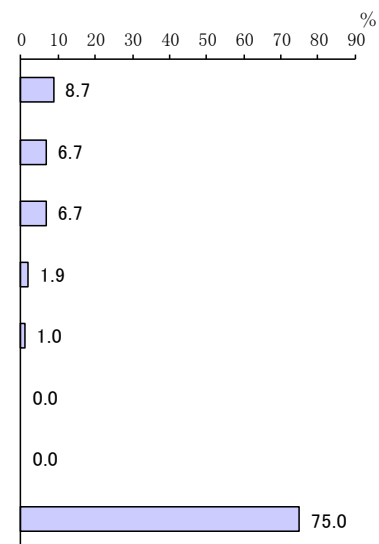
4回

5回

6回

7回

無回答



1 月あたり利用回数

「1回」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「2回」の割合が 16.3%、「3回」の割合が 12.5%となっています。

回答者数 = 104

1回

2回

3回

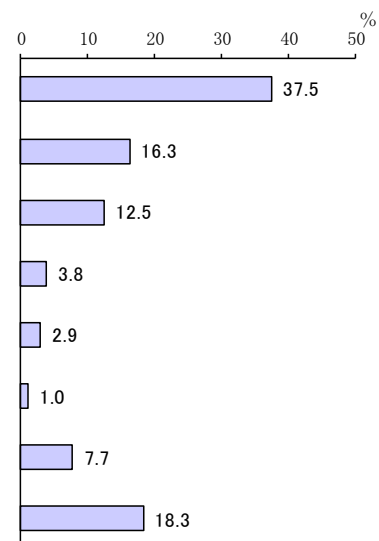
4回

5回

6回

7回以上

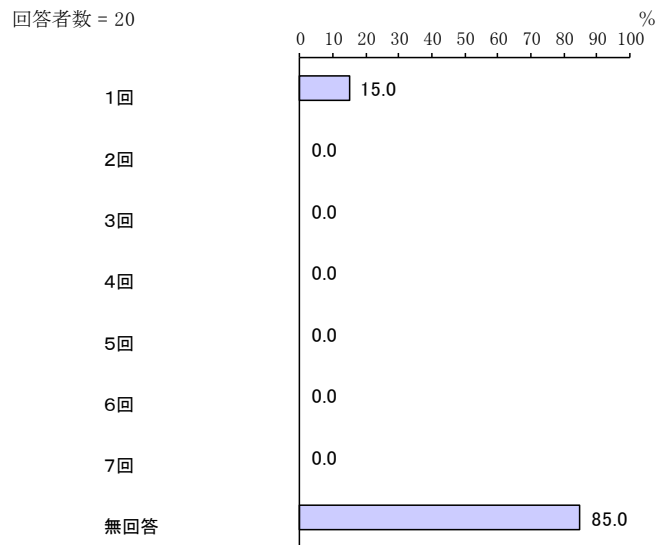
無回答



【2. その他当該自治体で実施している類似の事業】

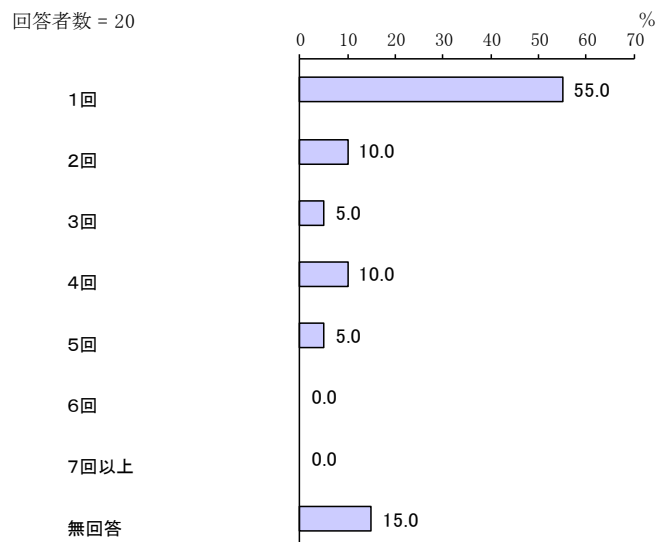
1週あたり利用回数

「1回」の割合が15.0%と最も高く、次いで「2回」、「3回」、「4回」の割合が0.0%となっています。



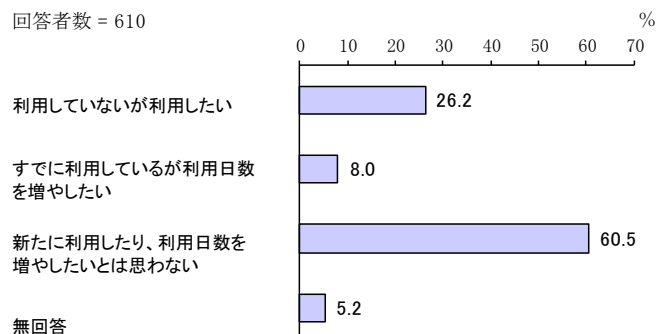
1月あたり利用回数

「1回」の割合が55.0%と最も高く、次いで「2回」、「4回」の割合が10.0%となっています。



問17 問16のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないができれば利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。
(あてはまる番号1つに○)

「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が60.5%と最も高く、次いで「利用していないが利用したい」の割合が26.2%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」の割合が8.0%、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が8.0%となっています。

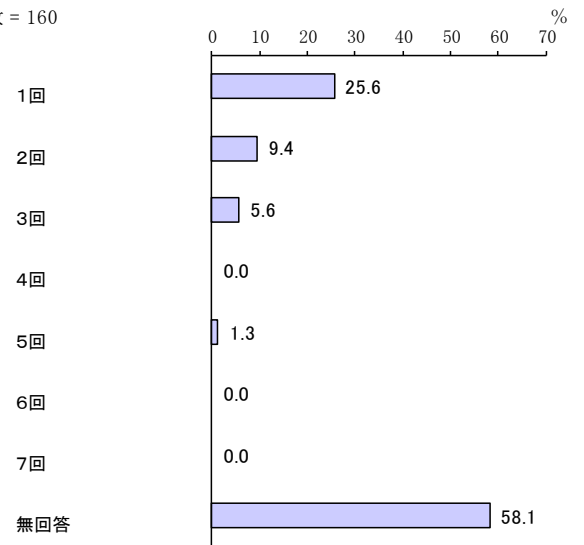


【利用していないが利用したい】

1週あたり希望利用回数

「1回」の割合が25.6%と最も高く、次いで「2回」の割合が9.4%、「3回」の割合が5.6%となっています。

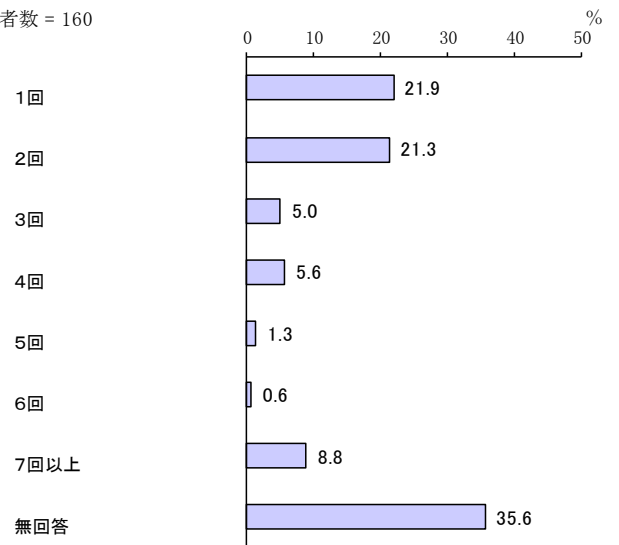
回答者数 = 160



1月あたり増やしたい希望利用回数

「1回」の割合が21.9%と最も高く、次いで「2回」の割合が21.3%、「7回以上」の割合が8.8%となっています。

回答者数 = 160

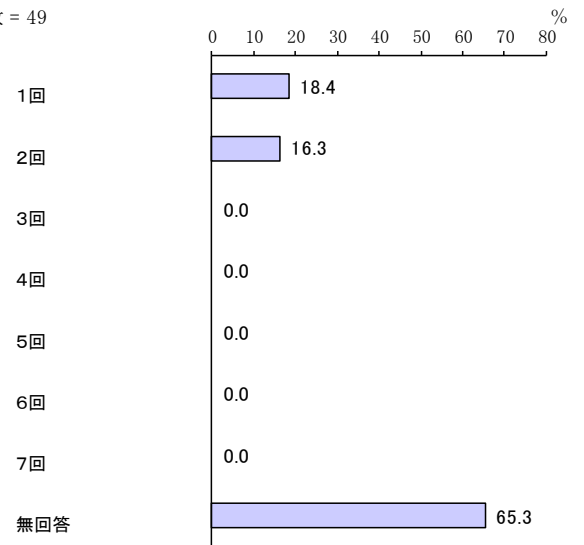


【すでに利用しているが利用日数を増やしたい】

1週あたり希望利用回数

「1回」の割合が18.4%と最も高く、次いで「2回」の割合が16.3%、「3回」、「4回」の割合が0.0%となっています。

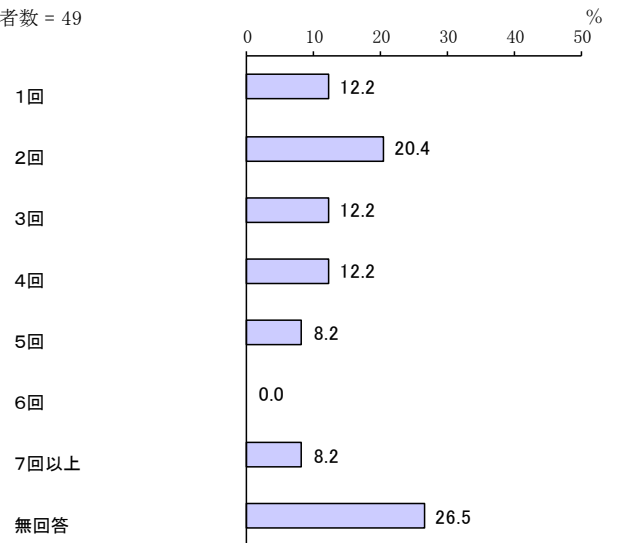
回答者数 = 49



1月あたり増やしたい希望利用回数

「2回」の割合が20.4%と最も高く、次いで「1回」、「3回」、「4回」の割合が12.2%となっています。

回答者数 = 49



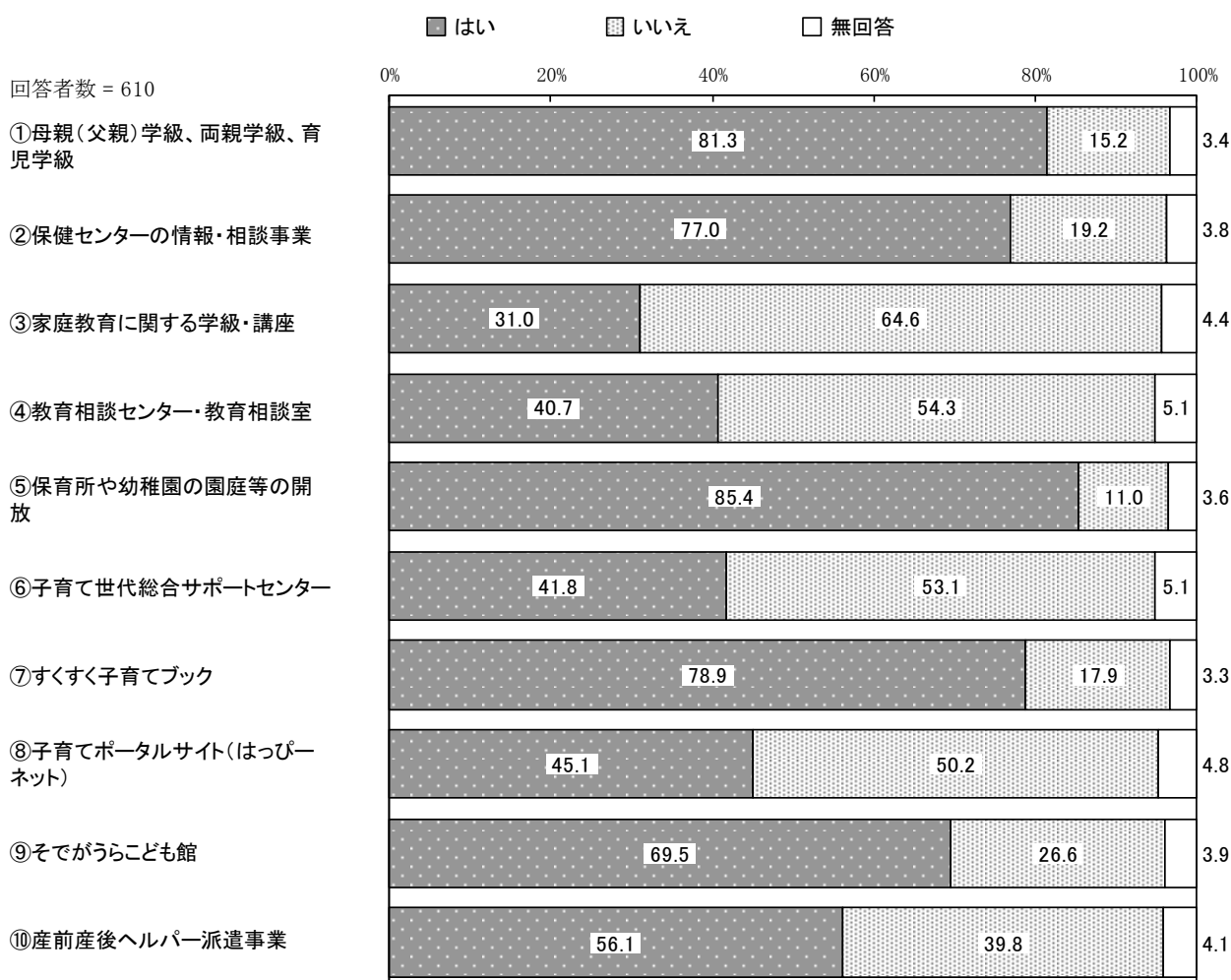
問 18 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

※①～⑩の事業ごと、A～Cのそれぞれに「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。

※なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

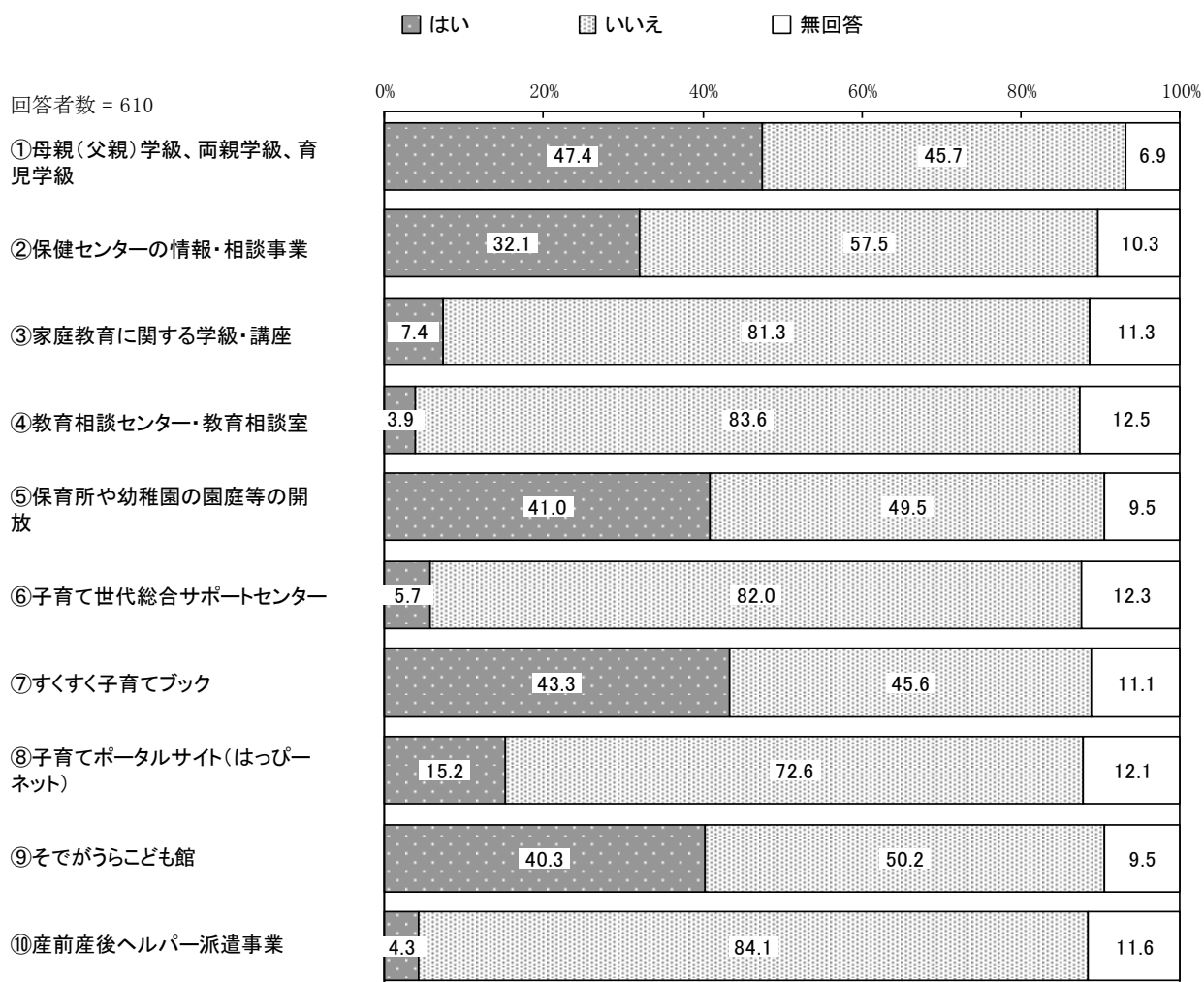
【A 知っている】

『①母親（父親）学級、両親学級、育児学級』、『⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放』で「はい」の割合が高くなっています。一方、『③家庭教育に関する学級・講座』で「いいえ」の割合が高くなっています。



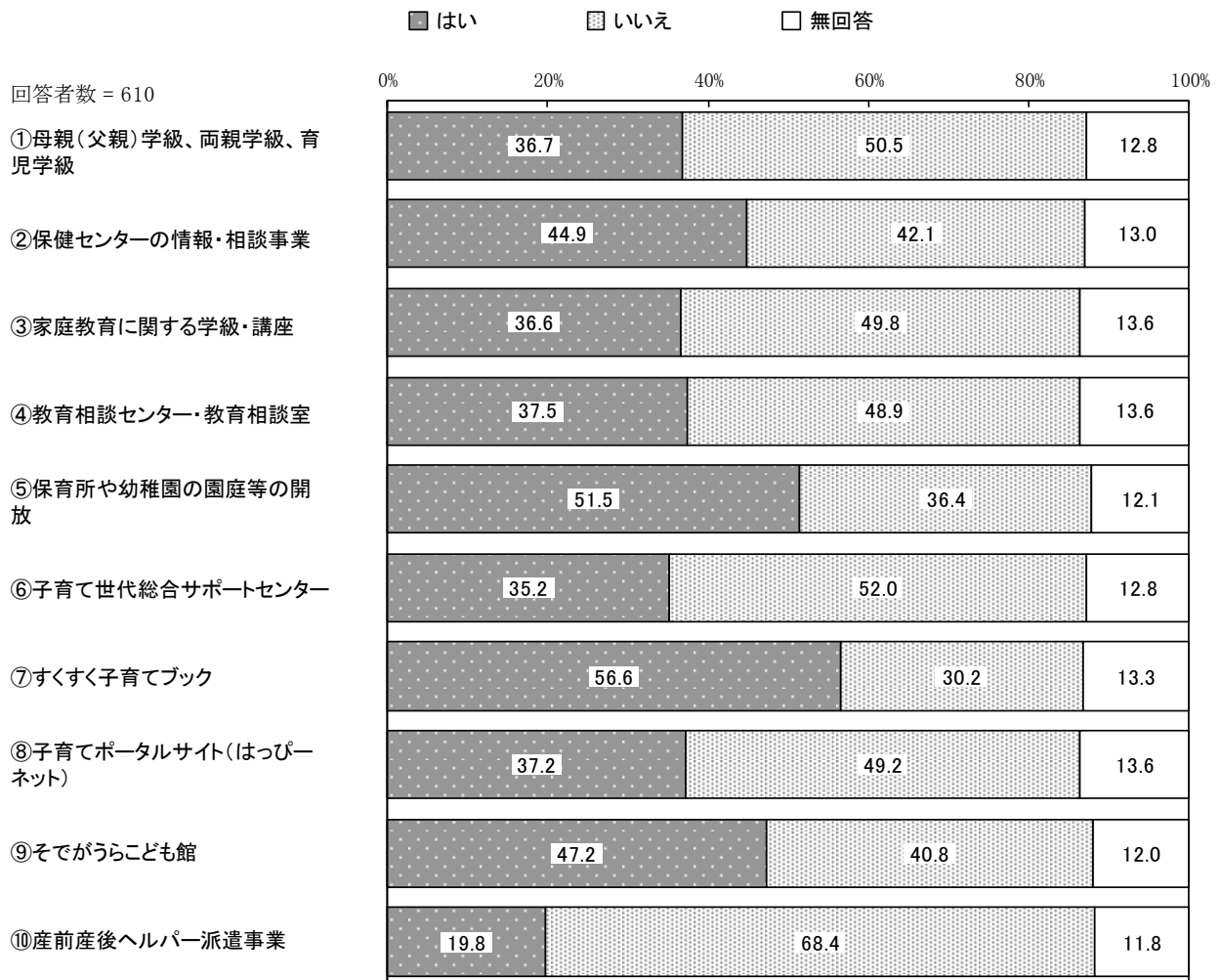
【B これまでに利用したことがある】

『①母親（父親）学級、両親学級、育児学級』、『⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放』、『⑦すくすく子育てブック』、『⑨そでがうらこども館』で「はい」の割合が高くなっています。一方、『③家庭教育に関する学級・講座』、『④教育相談センター・教育相談室』、『⑥子育て世代総合サポートセンター』、『⑩産前産後ヘルパー派遣事業』で「いいえ」の割合が高くなっています。



【C 今後利用したい】

『⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放』、『⑦すくすく子育てブック』で「はい」の割合が高くなっています。一方、『⑩産前産後ヘルパー派遣事業』で「いいえ」の割合が高くなっています。



(6) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望

問 19 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。

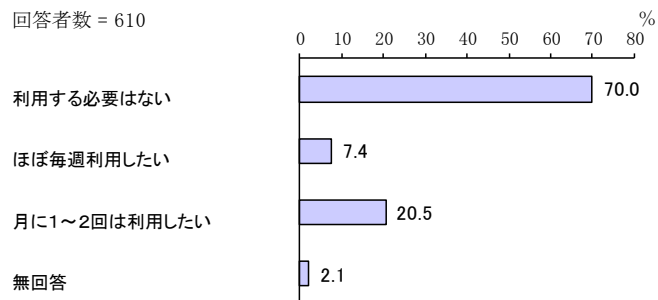
※希望がある場合は、利用したい時間帯を、□内に数字でご記入ください。（例）08時～18時のように24時間制でご記入ください。

※なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

※教育・保育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

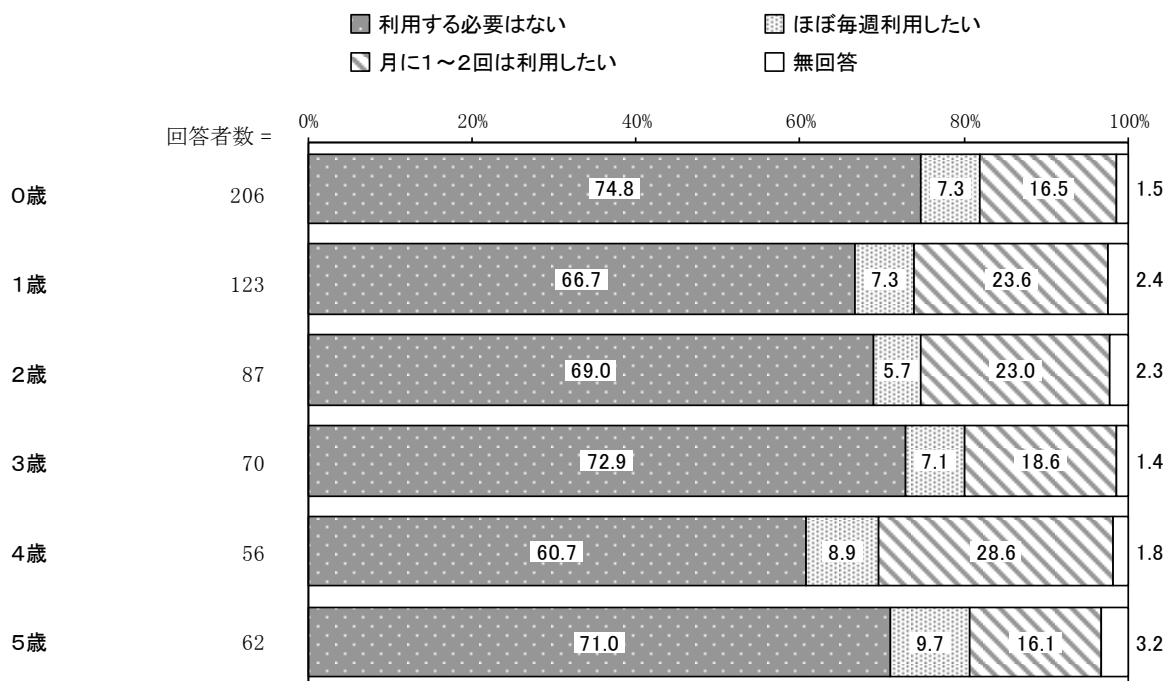
【土曜日】

「利用する必要はない」の割合が70.0%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の割合が20.5%、「ほぼ毎週利用したい」の割合が7.4%となっています。



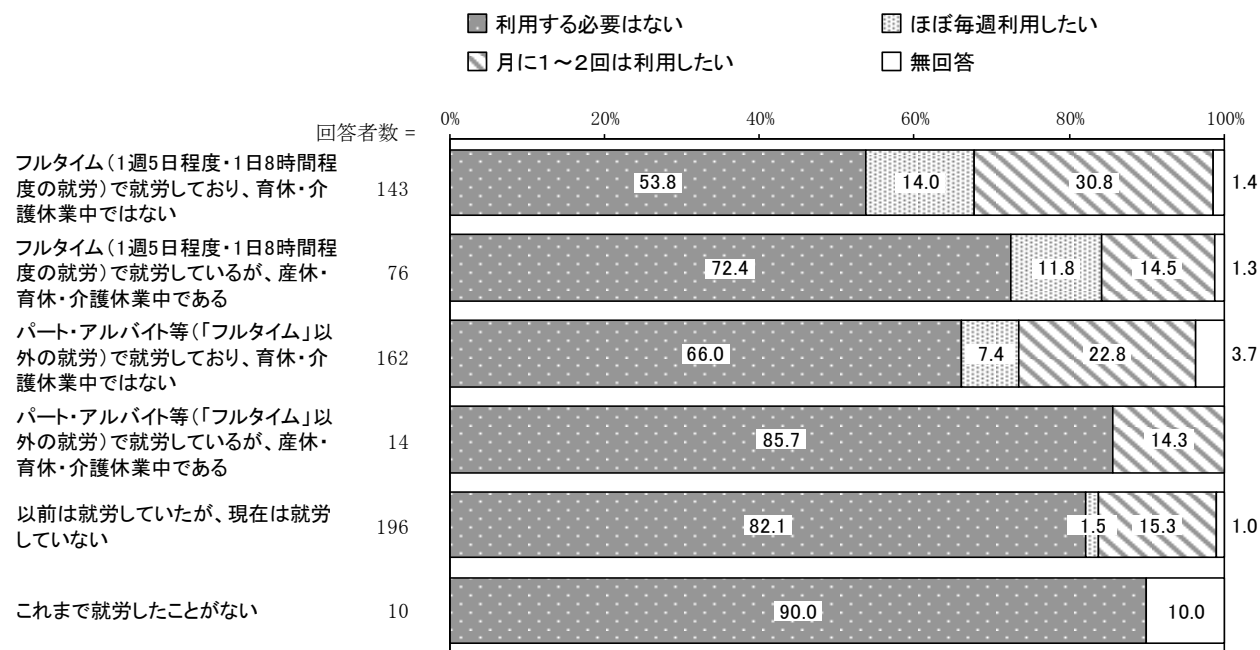
【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、4歳で「月に1～2回は利用したい」の割合が高くなっています。



【母親の就労状況別】

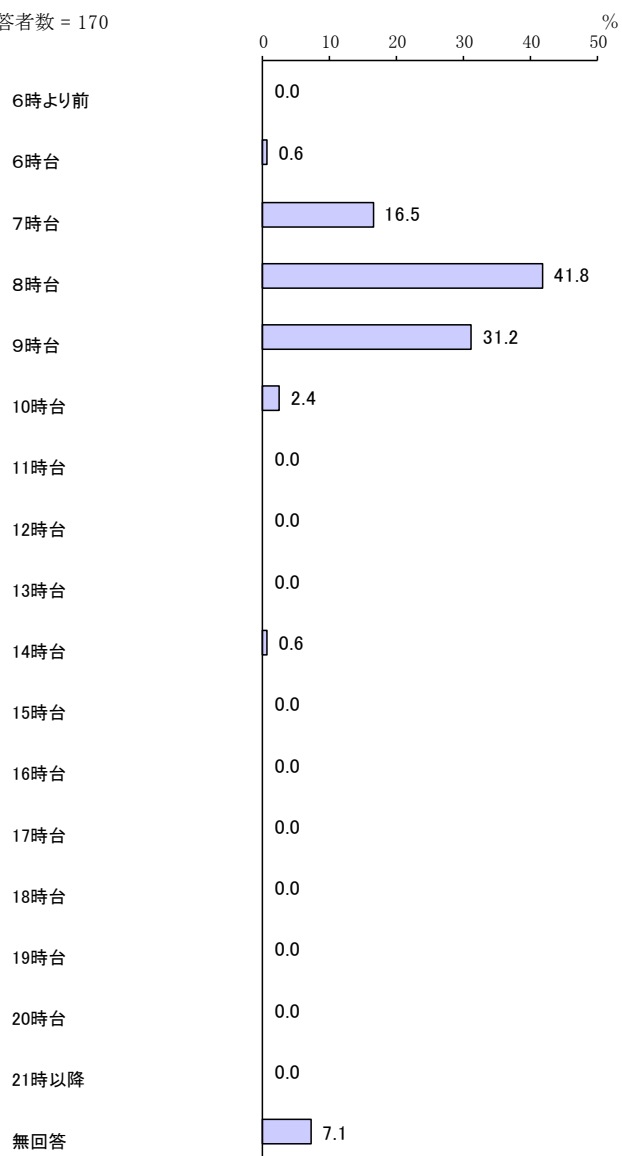
母親の就労状況別でみると、他に比べ、『パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である』、『以前は就労していたが、現在は就労していない』、『これまで就労したことがない』で「利用する必要はない」の割合が高くなっています。また、『フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない』で「ほぼ毎週利用したい」、「月に1～2回は利用したい」の割合が高くなっています。



希望利用開始時間

「8時台」の割合が41.8%と最も高く、次いで「9時台」の割合が31.2%、「7時台」の割合が16.5%となっています。

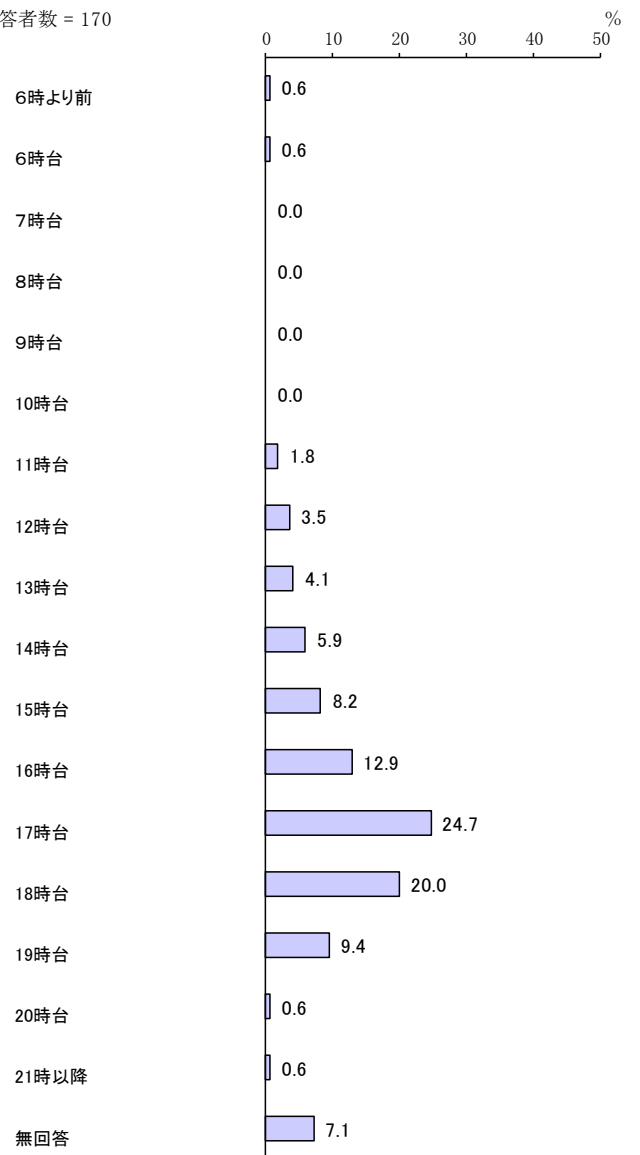
回答者数 = 170



希望利用終了時間

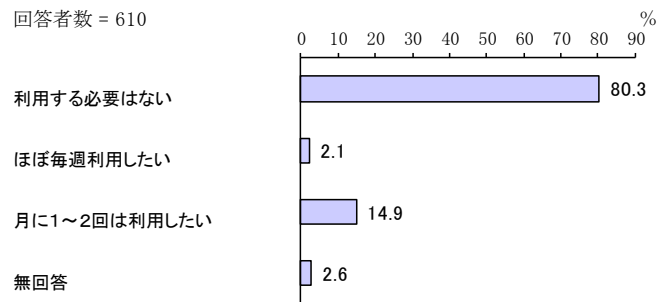
「17 時台」の割合が 24.7%と最も高く、次いで「18 時台」の割合が 20.0%、「16 時台」の割合が 12.9%となっています。

回答者数 = 170



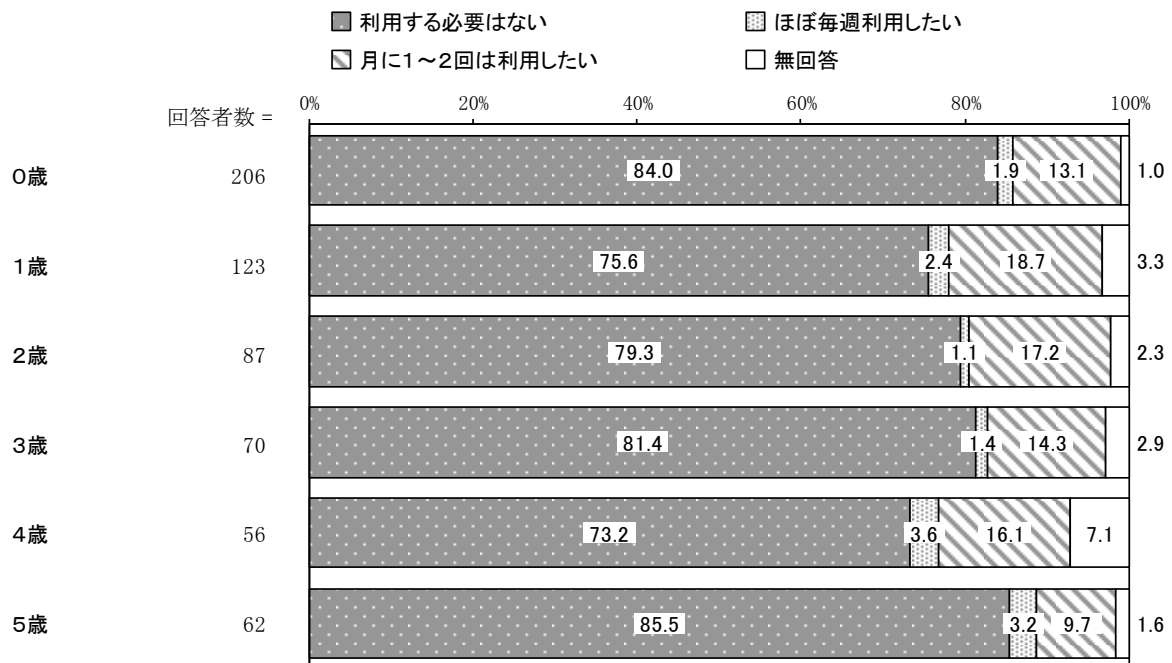
【日曜・祝日】

「利用する必要はない」の割合が80.3%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の割合が14.9%、「ほぼ毎週利用したい」の割合が2.1%となっています。



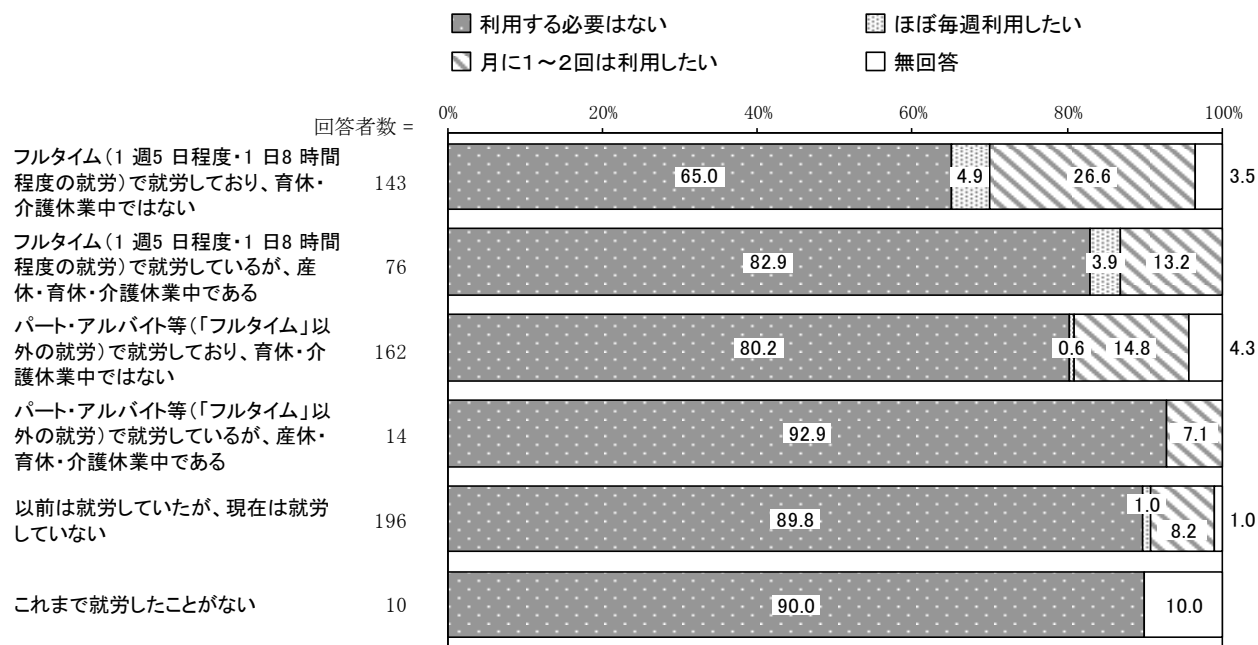
【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、5歳で「利用する必要はない」の割合が高くなっています。



【母親の就労状況別】

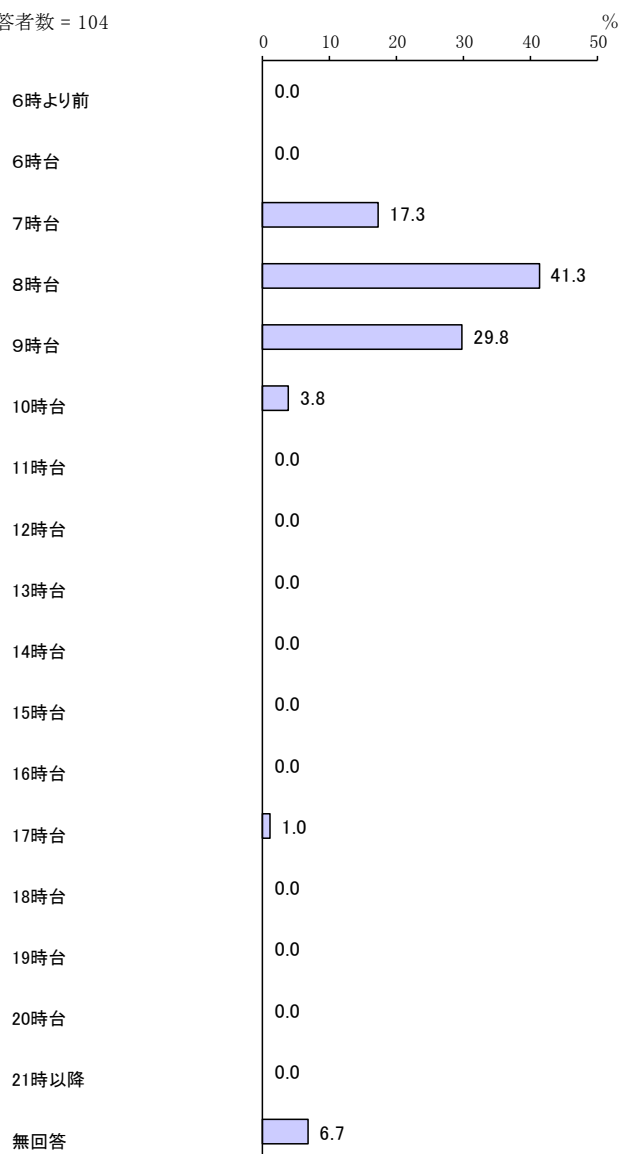
母親の就労状況別でみると、他に比べ、『パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である』、『以前は就労していたが、現在は就労していない』、『これまで就労したことがない』で「利用する必要はない」の割合が高くなっています。また、『フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない』で「月に1～2回は利用したい」の割合が高くなっています。



希望利用開始時間

「8時台」の割合が41.3%と最も高く、次いで「9時台」の割合が29.8%、「7時台」の割合が17.3%となっています。

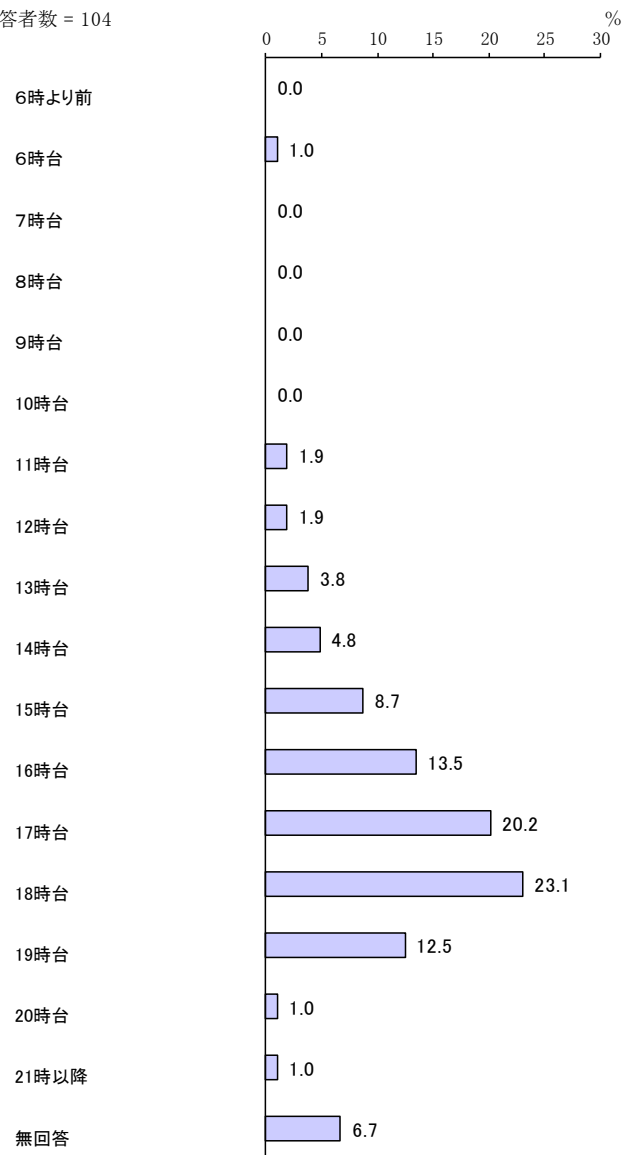
回答者数 = 104



希望利用終了時間

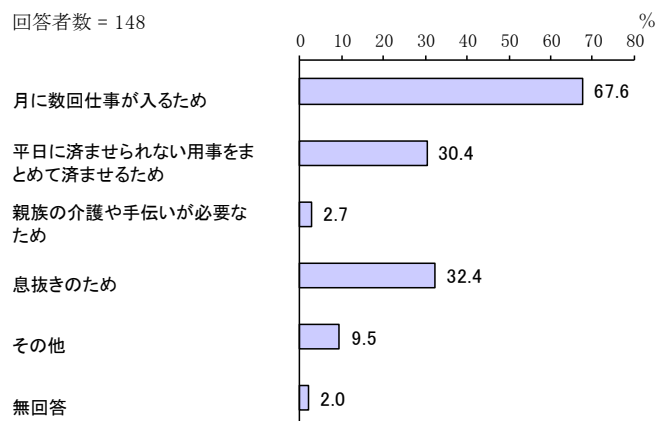
「18 時台」の割合が 23.1%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 20.2%、「16 時台」の割合が 13.5%となっています。

回答者数 = 104



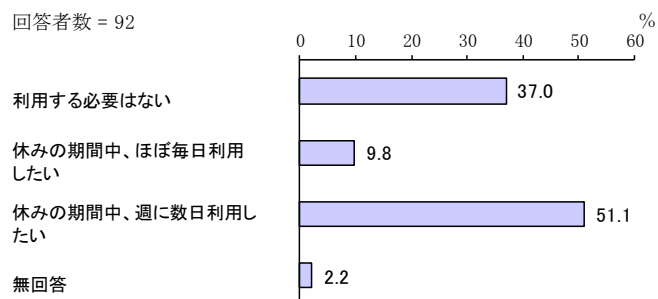
問 19-1 問 19 で、「3. 月に 1～2 回は利用したい」に○をつけた方にうかがいます。
毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

「月に数回仕事が入るため」の割合が 67.6%と最も高く、次いで「息抜きのため」の割合が 32.4%、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」の割合が 30.4%となっています。



問 20 「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育事業の利用を希望しますか。

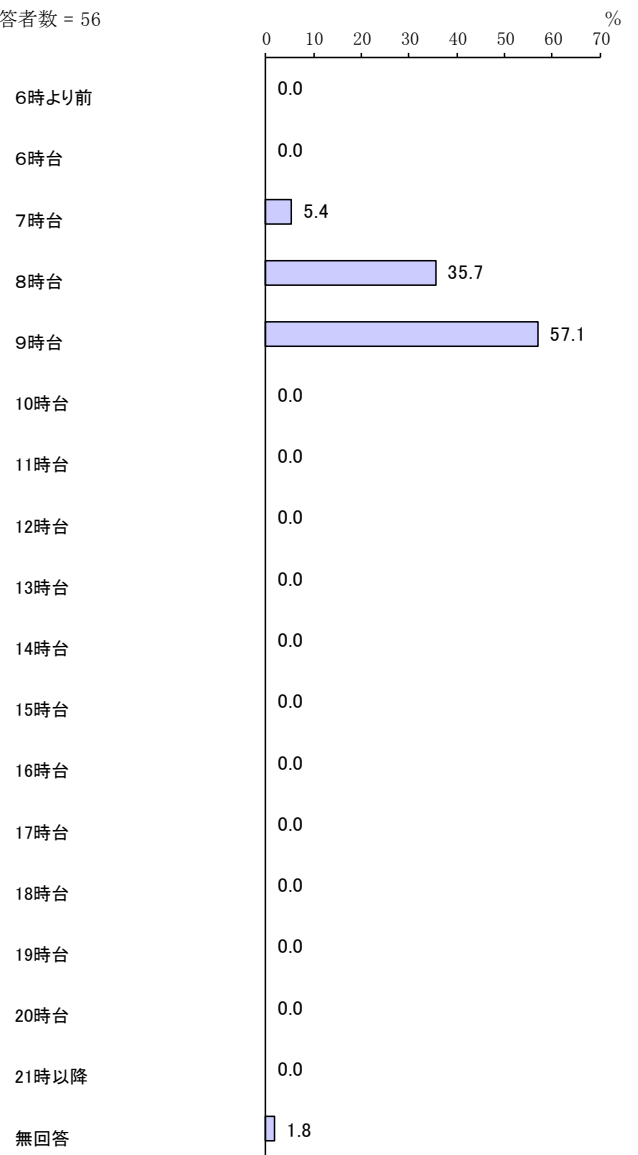
「休みの期間中、週に数日利用したい」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「利用する必要はない」の割合が 37.0%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合が 9.8%となっています。



【希望利用開始時間】

「9時台」の割合が57.1%と最も高く、次いで「8時台」の割合が35.7%、「7時台」の割合が5.4%となっています。

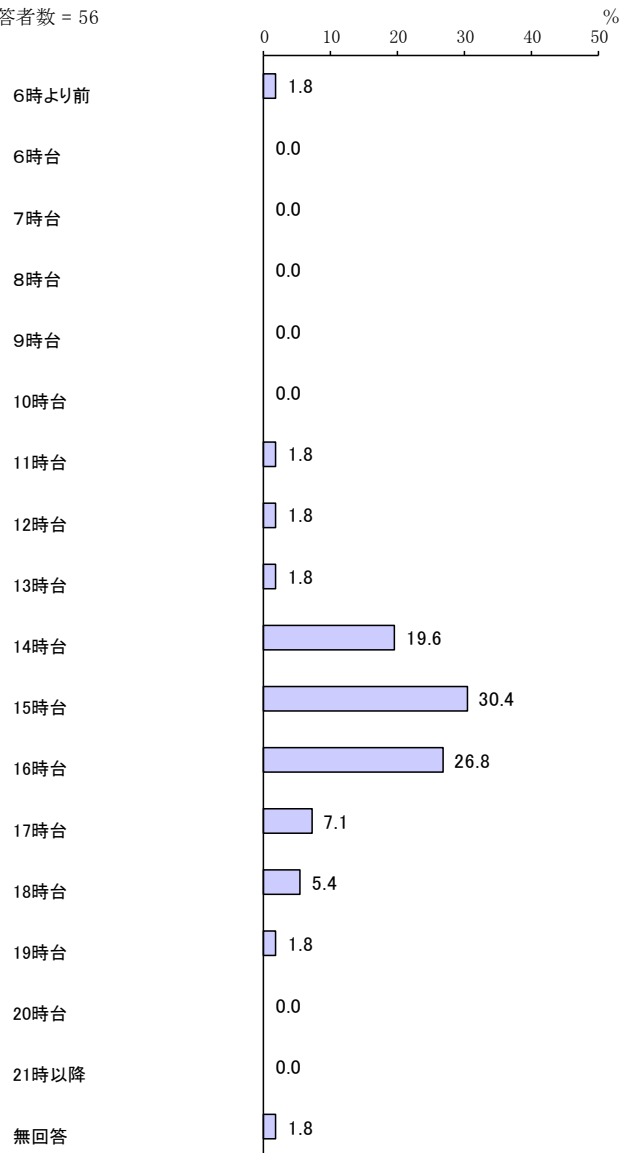
回答者数 = 56



【希望利用終了時間】

「15 時台」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「16 時台」の割合が 26.8%、「14 時台」の割合が 19.6%となっています。

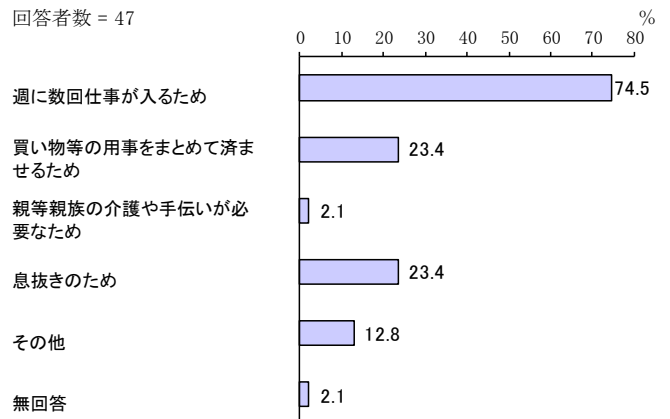
回答者数 = 56



問 20-1 問 20 で「3. 週に数日利用したい」に○をつけた方にうかがいます。毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

「週に数回仕事が入るため」の割合が 74.5%と最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」、「息抜きのため」の割合が 23.4%となっています。

回答者数 = 47

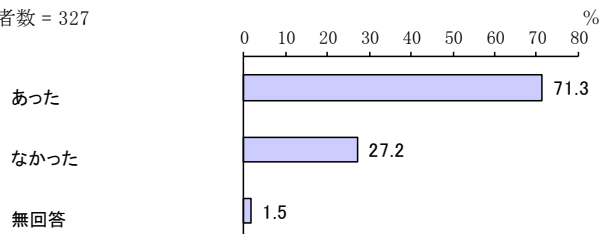


(7) 病気の際の対応について (平日の教育・保育を利用する方のみ)

問 21 平日の定期的な教育・保育事業を利用していると答えた保護者の方 (問 14 で「1. 利用している」に○をつけた方) にうかがいます。
この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

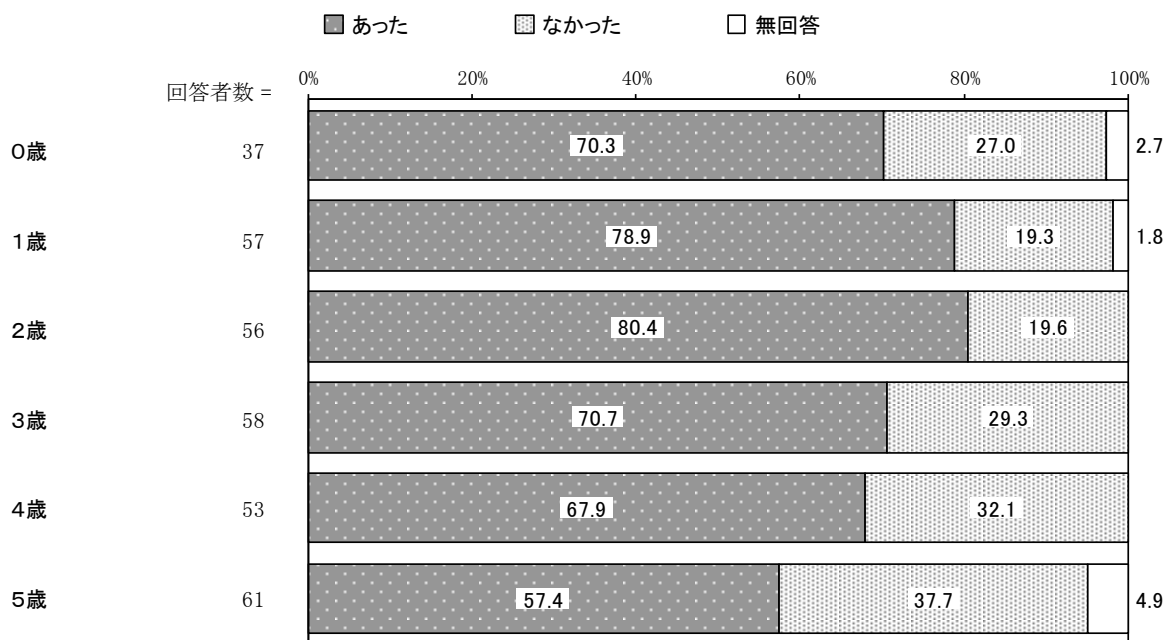
「あった」の割合が71.3%、「なかった」の割合が27.2%となっています。

回答者数 = 327



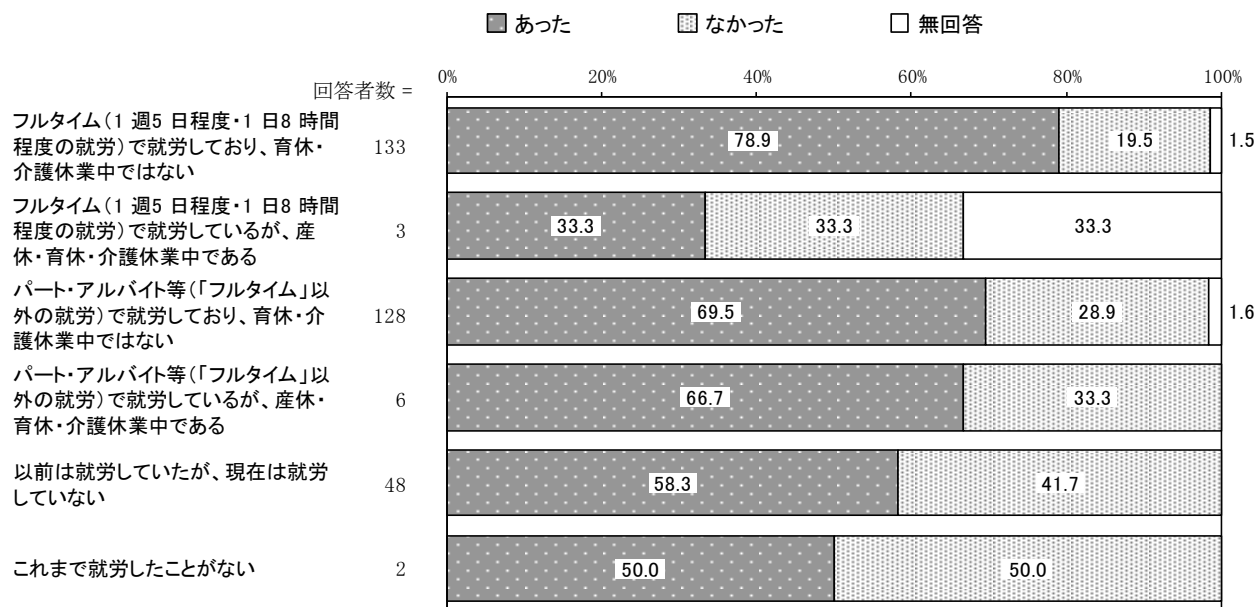
【子どもの年齢別】

子どもの年齢別で見ると、他に比べ、1歳、2歳で「あった」の割合が高くなっています。一方、5歳で「なかった」の割合が高くなっています。



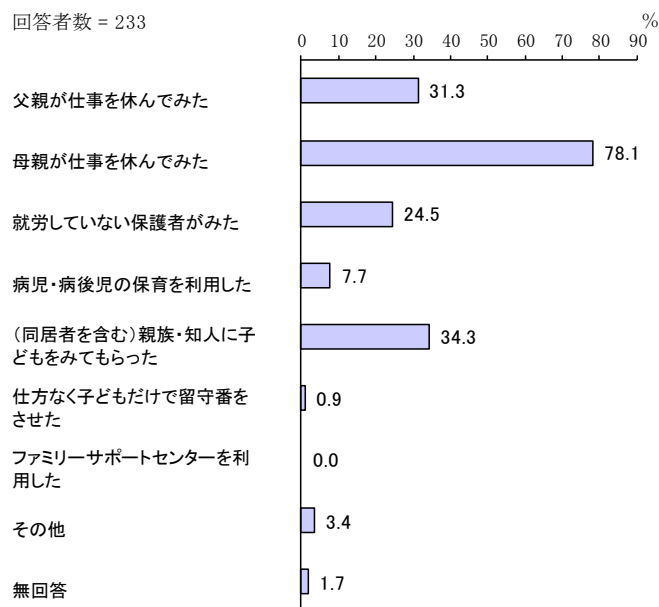
【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない』で「あった」の割合が高くなっています。また、『以前は就労していたが、現在は就労していない』で「なかった」の割合が高くなっています。



問 21-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれになりますか。(あてはまる番号すべてに○) ※それぞれの日数も口内に数字でご記入ください。
(半日程度の場合も1日と数えます)

「母親が仕事を休んでみた」の割合が78.1%と最も高く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が34.3%、「父親が仕事を休んでみた」の割合が31.3%となっています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区で「就労していない保護者がみた」の割合が高くなっています。また、平岡地区で「母親が仕事を休んでみた」の割合が高く、「父親が仕事を休んでみた」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	父親が仕事を休んでみた	母親が仕事を休んでみた	就労していない保護者がみた	病児・病後児の保育を利用した	族・知人に子どもをみてもらった (同居者を含む)親	た けで留守番をさせた	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	ファミリーサポートセンターを利用した	その他	無回答
昭和地区	48	31.3	79.2	22.9	6.3	25.0	—	—	2.1	4.2	
蔵波地区	68	39.7	76.5	27.9	11.8	38.2	—	—	2.9	1.5	
長浦地区	29	41.4	72.4	31.0	10.3	34.5	3.4	—	6.9	—	
根形地区	33	21.2	75.8	15.2	9.1	21.2	—	—	3.0	3.0	
平岡地区	22	13.6	95.5	22.7	—	31.8	4.5	—	4.5	—	
中川・富岡地区	23	21.7	73.9	26.1	4.3	56.5	—	—	4.3	—	
その他	6	50.0	83.3	16.7	—	50.0	—	—	—	—	

【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、0歳、1歳、2歳で「母親が仕事を休んでみた」と「父親が仕事を休んでみた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	父親が仕事を休んでみた	母親が仕事を休んでみた	就労していない保護者がみた	病児・病後児の保育を利用した	族・知人に子どもをみてもらった (同居者を含む)親	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	ファミリーサポートセンターを利用した	その他	無回答
0歳	26	34.6	84.6	15.4	3.8	50.0	—	—	3.8	3.8
1歳	45	37.8	88.9	17.8	11.1	31.1	2.2	—	2.2	—
2歳	45	37.8	77.8	26.7	4.4	44.4	—	—	2.2	2.2
3歳	41	29.3	75.6	24.4	9.8	19.5	2.4	—	4.9	2.4
4歳	36	19.4	66.7	27.8	11.1	44.4	—	—	5.6	2.8
5歳	35	25.7	77.1	31.4	5.7	20.0	—	—	2.9	—

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない』で「父親が仕事を休んでみた」、「母親が仕事を休んでみた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	父親が仕事を休んでみた	母親が仕事を休んでみた	就労していない保護者がみた	病児・病後児の保育を利用した	族・知人に子どもをみてもらった (同居者を含む)親	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	ファミリーサポートセンターを利用した	その他	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	105	46.7	93.3	15.2	12.4	44.8	1.9	—	4.8	1.9
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	1	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	89	23.6	87.6	10.1	4.5	30.3	—	—	2.2	1.1
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	4	50.0	75.0	50.0	—	50.0	—	—	—	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	28	—	3.6	92.9	3.6	10.7	—	—	3.6	—
これまで就労したことがない	1	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—

1年間の対処方法の日数

1年間の対処方法の日数としては、『1. 父親が仕事を休んでみた』で「3日」、「5日」の割合が、『2. 母親が仕事を休んでみた』『3. 就労していない保護者がみた』で「10日」の割合が、『5. (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった』で「5日」の割合が最も高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日 ～ 15日	16日 ～ 20日	21日 以上	無回答
1. 父親が仕事を休んでみた	73	15.1	15.1	20.5	6.8	20.5	-	4.1	-	-	12.3	1.4	-	2.7	1.4
2. 母親が仕事を休んでみた	182	8.8	7.7	8.8	2.7	16.5	2.7	7.7	2.2	-	17.6	8.8	6.6	7.7	2.2
3. 就労していない保護者がみた	57	14.0	12.3	12.3	1.8	19.3	1.8	1.8	-	-	21.1	3.5	5.3	5.3	1.8
4. 病児・病後児の保育を利用した	18	27.8	16.7	-	11.1	22.2	-	-	-	-	16.7	-	5.6	-	-
5. (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった	80	12.5	15.0	16.3	6.3	21.3	2.5	6.3	-	-	8.8	-	5.0	2.5	3.8
6. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
7. ファミリーサポートセンターを利用した	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8. その他	8	-	25.0	12.5	-	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0

問 21-2 問 21-1 で「1. 父親が仕事を休んでみた」「2. 母親が仕事を休んでみた」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。(あてはまる番号1つに○)

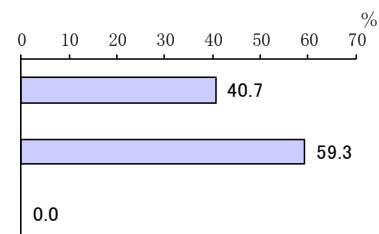
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が40.7%、「利用したいとは思わない」の割合が59.3%となっています。

回答者数 = 182

できれば病児・病後児保育施設等を利用したい

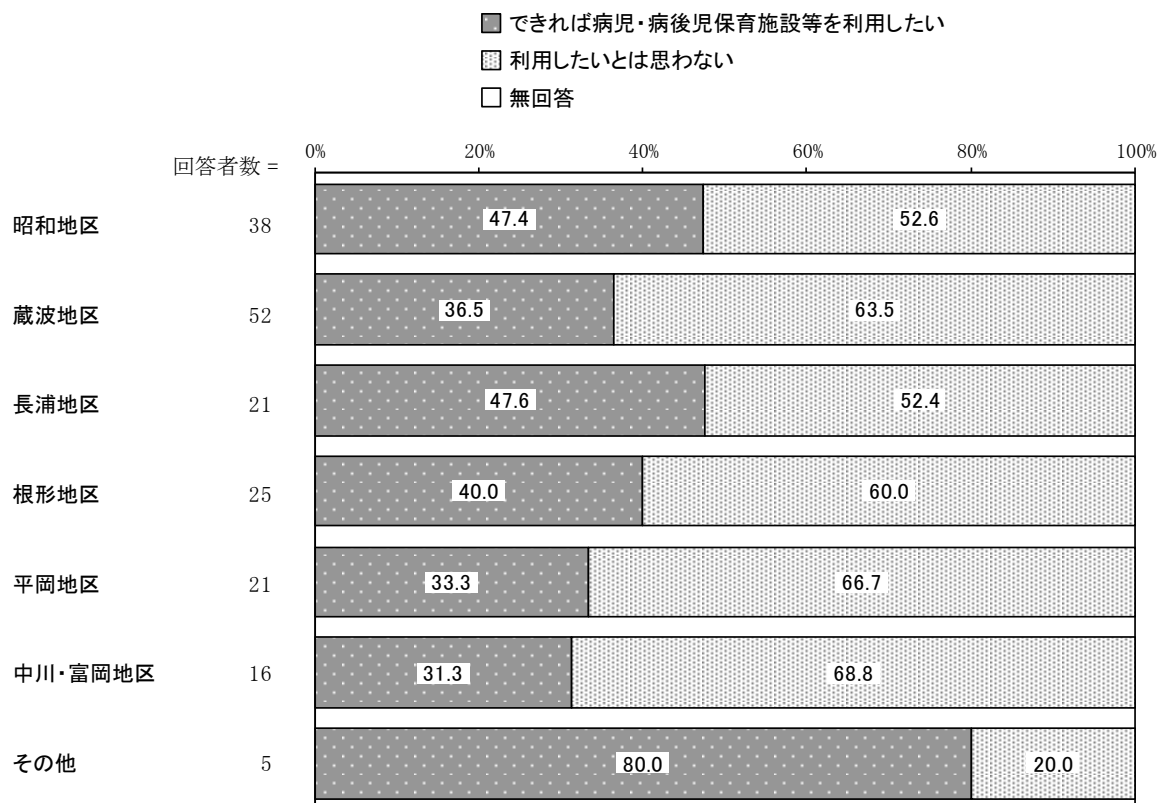
利用したいとは思わない

無回答



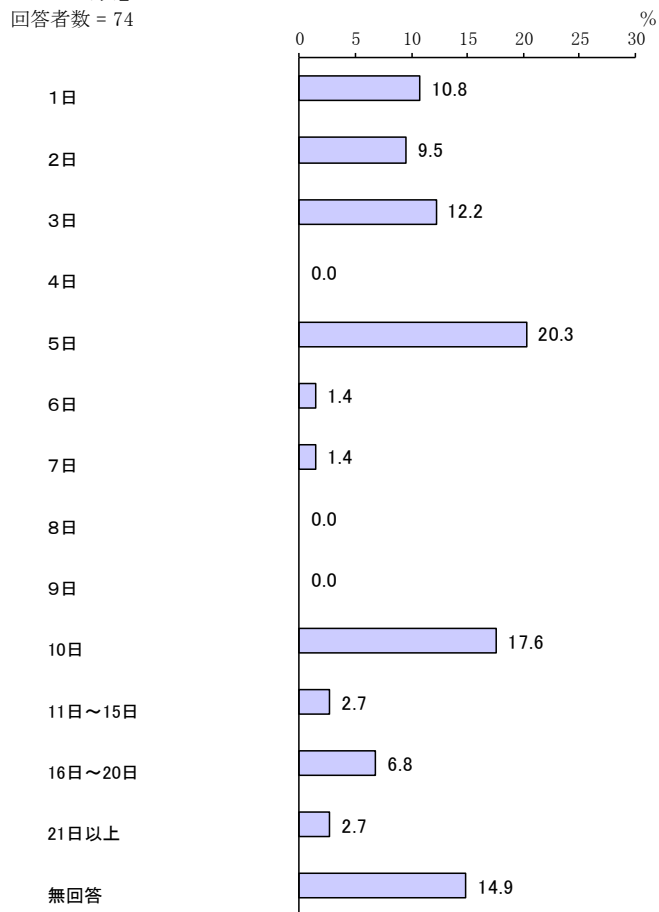
【地区別】

地区別でみると、他に比べ、昭和地区、長浦地区で「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が高くなっています。



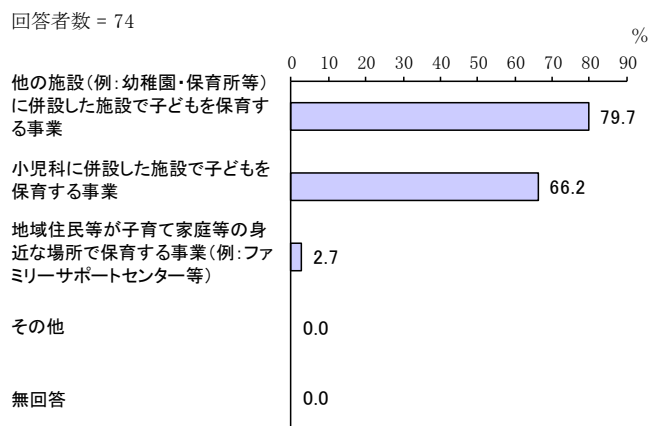
【1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい 日数】

「5日」の割合が20.3%と最も高く、次いで「10日」の割合が17.6%、「3日」の割合が12.2%となっています。



問 21-3 問 21-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方にうかがいます。
 上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われるですか。(あてはまる番号すべてに○)

「他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が79.7%と最も高く、次いで「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が66.2%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリーサポートセンター等）」の割合が2.7%となっています。



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、0歳、3歳で「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が、1歳、2歳、4歳、5歳で「他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業	小児科に併設した施設で子どもを保育する事業	地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリーサポートセンター等）	その他	無回答
0歳	11	63.6	72.7	—	—	—
1歳	16	81.3	68.8	6.3	—	—
2歳	19	84.2	47.4	—	—	—
3歳	11	63.6	81.8	9.1	—	—
4歳	11	90.9	72.7	—	—	—
5歳	5	100.0	66.7	—	—	—

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない』で「他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が高くなっています。

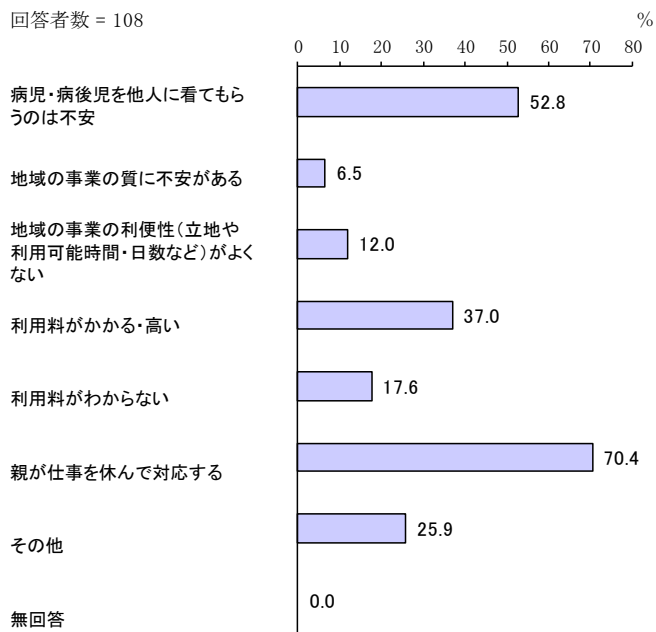
単位：％

区分	有効回答数（件）	他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業	小児科に併設した施設で子どもを保育する事業	地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリーサポートセンター等）	その他	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	46	87.0	65.2	4.3	—	—
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	—	—	—	—	—	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	24	75.0	66.7	—	—	—
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	2	—	100.0	—	—	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	1	100.0	—	—	—	—
これまで就労したことがない	—	—	—	—	—	—

問 21-4 問 21-2 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方にうかがいます。そのと思われる理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

「親が仕事を休んで対応する」の割合が 70.4%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらおうのは不安」の割合が 52.8%、「利用料がかかる・高い」の割合が 37.0%となっています。

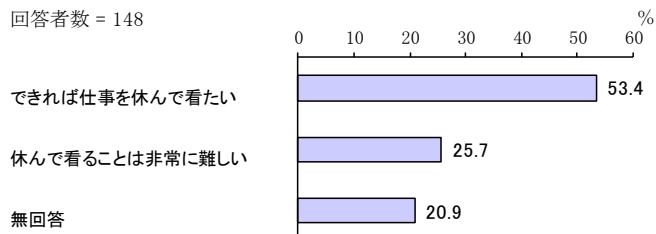
回答者数 = 108



問 21-5 問 21-1 で「3. ~ 8.」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。(あてはまる番号 1 つに○)

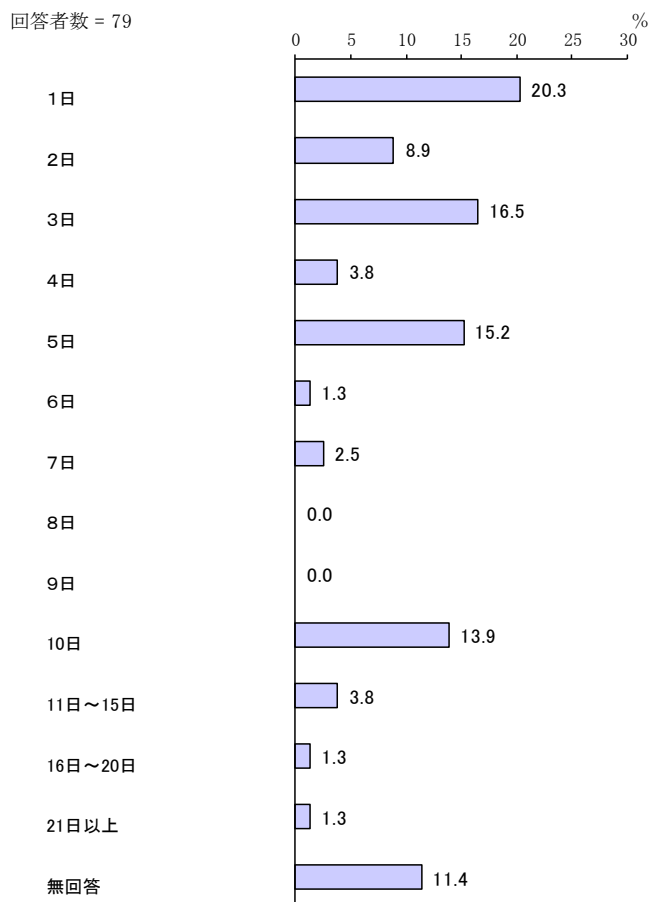
「できれば仕事を休んで看たい」の割合が 53.4%、「休んで看ることは非常に難しい」の割合が 25.7%となっています。

回答者数 = 148



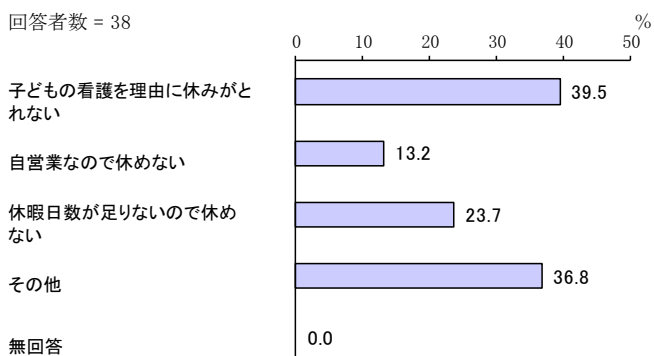
【できれば仕事を休んで看たい 日数】

「1日」の割合が20.3%と最も高く、次いで「3日」の割合が16.5%、「5日」の割合が15.2%となっています。



問 21-6 問 21-5 で「2. 休んで看することは非常に難しい」に○をつけた方にうかがいます。そう思われる理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

「子どもの看護を理由に休みがとれない」の割合が39.5%と最も高く、次いで「休め日数が足りないので休めない」の割合が23.7%、「自営業なので休めない」の割合が13.2%となっています。



(8) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 22 宛名のお子さんについて、平日の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「利用していない」の割合が 86.7%と最も高く、次いで「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）」の割合が 7.7%、「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」の割合が 4.4%となっています。

回答者数 = 610

一時預かり(私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業)

幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ)

ファミリーサポートセンター(地域住民が子どもを預かる事業)

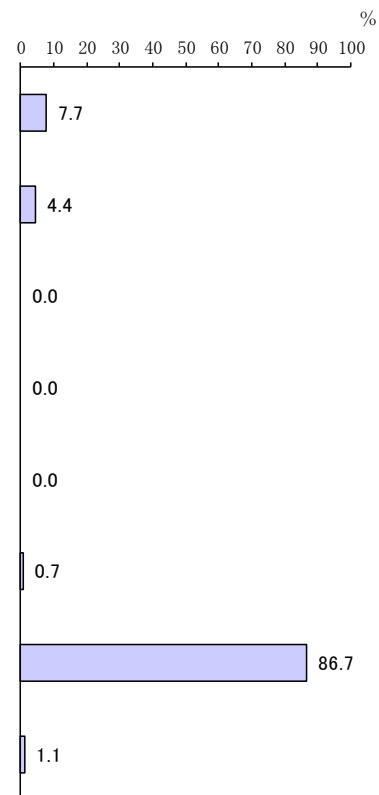
夜間養護等事業:トワイライトステイ(児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業)

ベビーシッター

その他

利用していない

無回答



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、根形地区で「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	夜間養護等事業・トワイライトテイ（児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答
昭和地区	128	7.0	3.9	—	—	—	—	89.1	—
蔵波地区	160	5.0	8.1	—	—	—	1.3	83.8	3.1
長浦地区	91	8.8	5.5	—	—	—	—	84.6	1.1
根形地区	70	14.3	2.9	—	—	—	—	84.3	1.4
平岡地区	62	3.2	—	—	—	—	3.2	93.5	—
中川・富岡地区	52	7.7	1.9	—	—	—	—	90.4	—
その他	41	12.2	—	—	—	—	—	87.8	—

【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、他に比べ、1歳で「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）」の割合が、3歳、5歳で「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	夜間養護等事業・トワイライトステイ（児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答
0歳	206	8.3	—	—	—	—	1.0	90.3	0.5
1歳	123	13.0	—	—	—	—	—	86.2	0.8
2歳	87	8.0	6.9	—	—	—	—	86.2	1.1
3歳	70	—	11.4	—	—	—	1.4	87.1	—
4歳	56	5.4	8.9	—	—	—	—	82.1	3.6
5歳	62	4.8	12.9	—	—	—	1.6	80.6	3.2

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である』で「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	夜間養護等事業・トワイライストステイ（児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答
フルタイムで就労しており、産休・介護休業中ではない	143	4.2	0.7	—	—	—	1.4	91.6	2.1
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	76	14.5	—	—	—	—	—	85.5	—
パート・アルバイト等で就労しており、産休・介護休業中ではない	162	8.6	11.1	—	—	—	1.2	79.6	0.6
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	14	7.1	—	—	—	—	—	92.9	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	196	7.1	3.6	—	—	—	—	89.3	1.0
これまで就労したことがない	10	10.0	—	—	—	—	—	80.0	10.0

利用している事業の日数（年間）

利用している事業の日数（年間）として、『1. 一時預かり』『2. 幼稚園の預かり保育』で「21日以上」の割合が最も高くなっています。

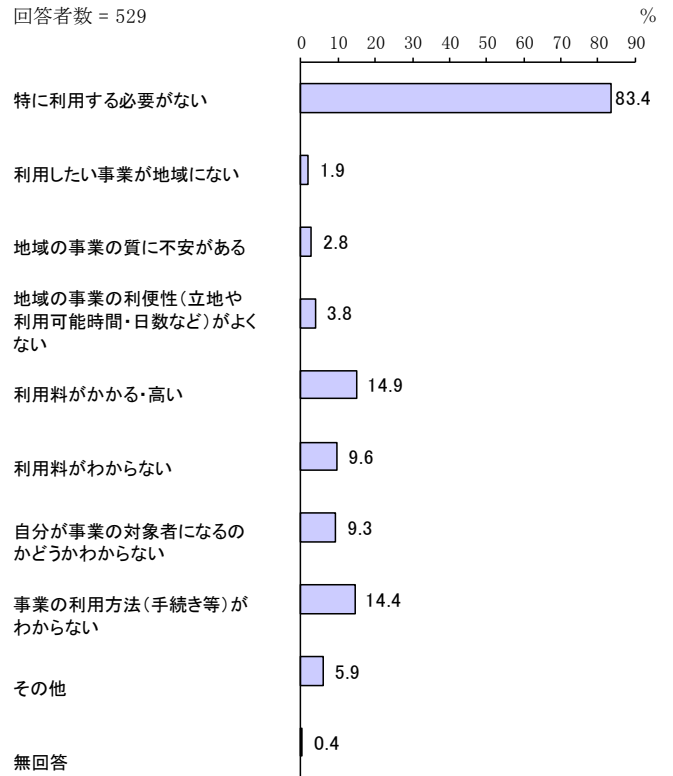
単位：％

区分	回答者数（件）	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日～15日	16日～20日	21日以上	無回答
1. 一時預かり	47	4.3	12.8	4.3	4.3	8.5	—	—	2.1	—	8.5	14.9	4.3	31.9	4.3
2. 幼稚園の預かり保育	27	11.1	7.4	7.4	3.7	14.8	—	3.7	—	—	11.1	3.7	3.7	25.9	7.4
3. ファミリーサポートセンター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4. 夜間養護等事業・トワイライストステイ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5. ベビーシッター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6. その他	4	25.0	—	—	—	25.0	—	—	—	—	25.0	25.0	—	—	—

問 22-1 問 22 で「7. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。現在利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

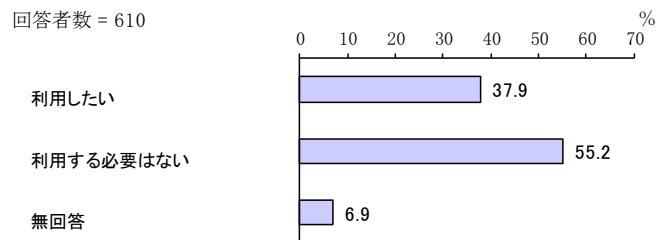
「特に利用する必要がない」の割合が 83.4%と最も高く、次いで「利用料がかかる・高い」の割合が 14.9%、「事業の利用方法（手続き等）がわからない」の割合が 14.4%となっています。

回答者数 = 529



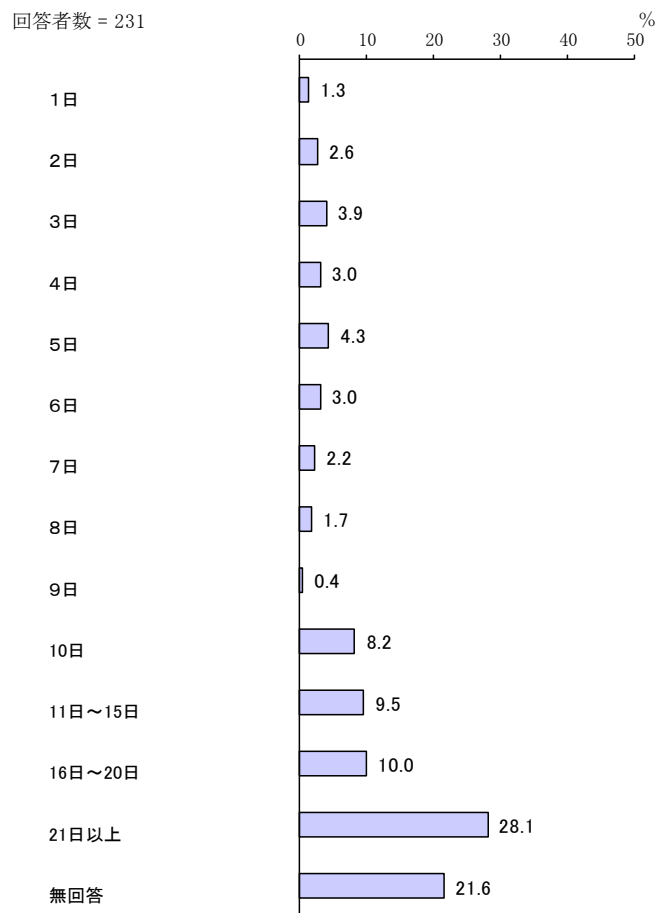
問 23 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無・日数をお答えください。(あてはまる番号・丸数字すべてに○)

「利用したい」の割合が 37.9%、「利用する必要はない」の割合が 55.2%となっています。



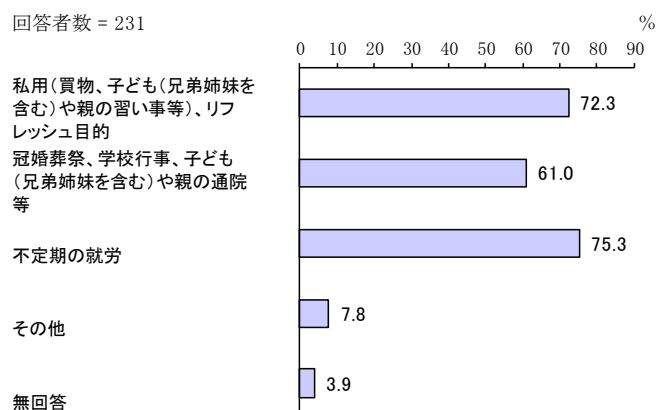
【合計日数】

「21 日以上」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「16 日～20 日」の割合が 10.0%、「11 日～15 日」の割合が 9.5%となっています。



【利用したい】

「不定期の就労」の割合が 75.3%と最も高く、次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」の割合が 72.3%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等」の割合が 61.0%となっています。



利用希望の日数（年間）

利用希望の日数（年間）として、『① 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的』で「11日～15日」の割合が、『② 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等』で「5日」の割合が、『③ 不定期の就労』で「21日以上」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日 ～ 15日	16日 ～ 20日	21日 以上	無回答
① 私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的	167	6.6	8.4	7.2	1.8	12.0	5.4	3.6	0.6	-	13.2	19.2	4.8	17.4	-
② 冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院 等	141	6.4	15.6	9.9	7.1	22.0	2.8	0.7	0.7	-	17.0	11.3	0.7	4.3	1.4
③ 不定期の就労	231	-	1.3	0.9	-	2.2	0.4	-	0.4	-	4.3	2.2	1.7	10.4	76.2
④ その他	18	5.6	-	-	-	16.7	-	5.6	5.6	-	5.6	11.1	16.7	27.8	5.6

問 23-1 問 23 で「1. 利用したい」に○をつけた方にうかがいます。問 23 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。（あてはまる番号すべてに○）

「大規模施設で子どもを預かる事業（例：幼稚園・保育所等）」の割合が 78.8%と最も高く、次いで「小規模施設で子どもを預かる事業（例：地域子育て支援拠点等）」の割合が 40.3%、「地域住民等が子育て家庭等近くの場所で保育する事業（例：ファミリーサポートセンター等）」の割合が 19.5%となっています。

回答者数 = 231

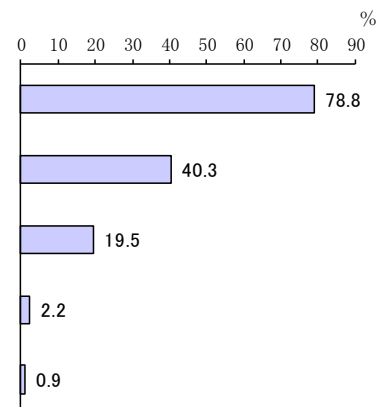
大規模施設で子どもを預かる事業
(例:幼稚園・保育所等)

小規模施設で子どもを預かる事業
(例:地域子育て支援拠点等)

地域住民等が子育て家庭等近くの
場所で保育する事業(例:
ファミリーサポートセンター等)

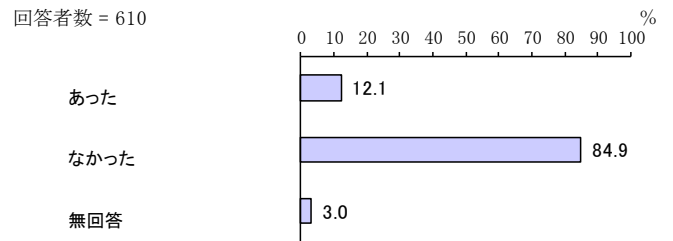
その他

無回答



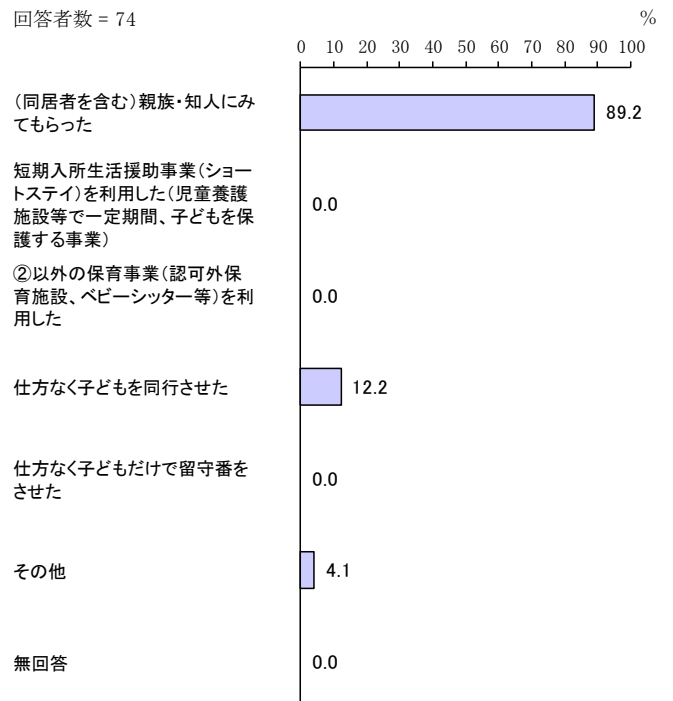
問 24 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。（あてはまる番号・丸数字すべてに○）

「あった」の割合が12.1%、「なかった」の割合が84.9%となっています。



1. あった

「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」の割合が89.2%と最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」の割合が12.2%、「短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した(児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業)」、「②以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッター等)を利用した」の割合が0.0%となっています。



1年間の対処方法の泊数

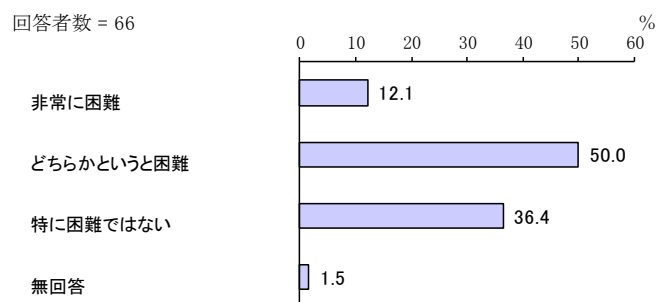
1年間の対処方法の泊数として、『①（同居者を含む）親族・知人にみてもらった』で「1泊」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊	9泊	10泊	11泊 ～ 15泊	16泊 ～ 20泊	21泊 以上	無回答
①（同居者を含む）親族・知人にみてもらった	66	37.9	13.6	13.6	3.0	3.0	4.5	4.5	1.5	-	3.0	-	-	6.1	9.1
② 短期入所生活援助事業（ショートステイ）を利用した（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③ ショートステイ以外の保育事業（認可外保育施設、ベビーシッター等）を利用した	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
④ 仕方なく子どもを同行させた	9	55.6	33.3	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤ 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥ その他	3	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-

問24-1 問24で「1. あった ①（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」と答えた方にうかがいます。その場合の困難度はどの程度でしたか。（あてはまる番号1つに○）

「どちらかという困難」の割合が50.0%と最も高く、次いで「特に困難ではない」の割合が36.4%、「非常に困難」の割合が12.1%となっています。

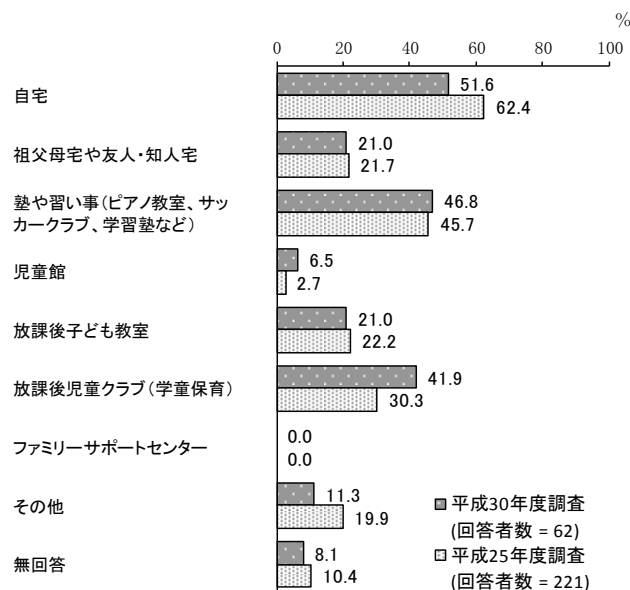


(9) 宛名のお子さんが5歳以上の方に、放課後の過ごし方の希望

問 25 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）
 ※それぞれ該当する週当たり日数を口内に数字でご記入ください。
 ※「放課後児童クラブ（学童保育）」の場合には、利用を希望する時間も口内に数字でご記入ください。
 保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。事業の利用にあたっては、一定の利用料〔利用料：13,000円〕がかかります。

「自宅」の割合が 51.6%と最も高く、次いで「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が 46.8%、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が 41.9%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が増加しています。一方、「自宅」の割合が減少しています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区で「自宅」「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」「放課後子ども教室」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	自宅	祖父母宅や友人・知 人宅	塾や習い事（ピアノ 教室、サッカークラ ブ、学習塾など）	児童館	放課後子ども教室	放課後児童クラブ (学童保育)	ファミリーサポ ーター	その他	無回答
昭和地区	7	28.6	28.6	28.6	—	—	57.1	—	14.3	—
葦波地区	19	52.6	10.5	57.9	5.3	26.3	42.1	—	5.3	5.3
長浦地区	12	66.7	8.3	83.3	25.0	41.7	25.0	—	25.0	8.3
根形地区	13	53.8	23.1	23.1	—	15.4	53.8	—	—	7.7
平岡地区	3	33.3	33.3	33.3	—	—	33.3	—	—	33.3
中川・富岡地区	7	42.9	42.9	28.6	—	14.3	28.6	—	28.6	14.3
その他	1	100.0	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—

平日の利用希望場所の週当たり日数

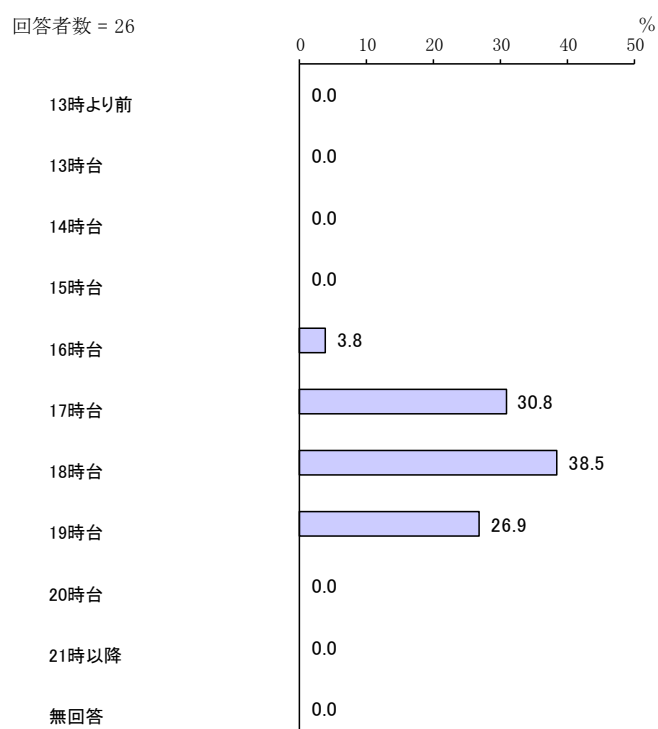
平日の利用希望場所の週当たり日数として、『2. 祖父母宅や友人・知人宅』『4. 児童館』『5. 放課後子ども教室』で「1日」の割合が、『1. 自宅』『3. 塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）』で「2日」の割合が、『6. 放課後児童クラブ（学童保育）』で「5日」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	無回答
1. 自宅	32	9.4	40.6	12.5	12.5	25.1	-
2. 祖父母宅や友人・知人宅	13	46.2	7.7	23.1	-	23.1	-
3. 塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	29	27.6	65.5	-	6.9	-	-
4. 児童館	4	75.0	-	-	-	25.0	-
5. 放課後子ども教室	13	69.2	15.4	-	-	15.4	-
6. 放課後児童クラブ(学童保育)	26	-	7.7	23.1	11.5	57.7	-
7. ファミリーサポートセンター	-	-	-	-	-	-	-
8. その他	7	28.6	42.9	14.3	-	14.3	-

放課後児童クラブ（学童保育）の下校時からの希望時刻

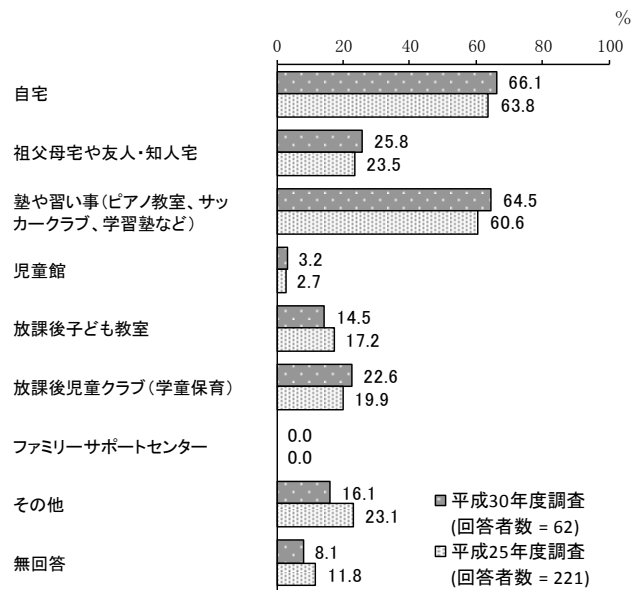
「18 時台」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 30.8%、「19 時台」の割合が 26.9%となっています。



問 26 宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

「自宅」の割合が 66.1%と最も高く、次いで「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が 64.5%、「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が 25.8%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区で「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」「放課後子ども教室」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	児童館	放課後子ども教室	放課後児童クラブ(学童保育)	ファミリーサポートセンター	その他	無回答
昭和地区	7	57.1	28.6	57.1	—	—	28.6	—	14.3	—
蔵波地区	19	63.2	15.8	73.7	5.3	15.8	26.3	—	15.8	5.3
長浦地区	12	75.0	16.7	91.7	8.3	25.0	16.7	—	25.0	8.3
根形地区	13	61.5	30.8	38.5	—	7.7	23.1	—	15.4	7.7
平岡地区	3	66.7	33.3	66.7	—	—	—	—	—	33.3
中川・富岡地区	7	71.4	42.9	42.9	—	28.6	28.6	—	14.3	14.3
その他	1	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—

平日の利用希望場所の週当たり日数

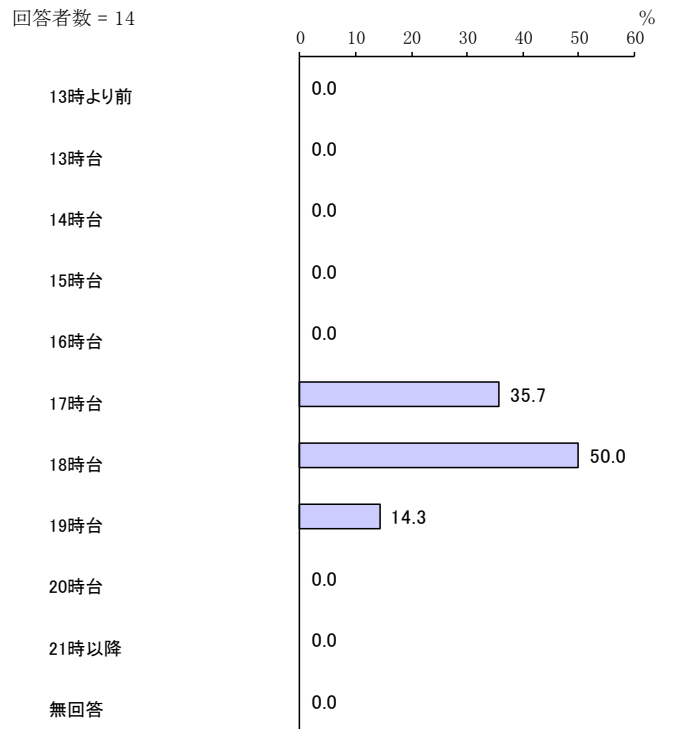
平日の利用希望場所の週当たり日数として、『2. 祖父母宅や友人・知人宅』『5. 放課後子ども教室』で「1日」の割合が、『3. 塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）』で「2日」の割合が、『1. 自宅』で「3日」の割合が、『6. 放課後児童クラブ（学童保育）』で「5日」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	無回答
1. 自宅	41	2.4	26.8	41.5	4.9	21.9	2.4
2. 祖父母宅や友人・知人宅	16	43.8	25.0	18.8	6.3	6.3	-
3. 塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	40	27.5	57.5	10.0	5.0	-	-
4. 児童館	2	50.0	-	-	-	50.0	-
5. 放課後子ども教室	9	88.9	-	-	-	11.1	-
6. 放課後児童クラブ(学童保育)	14	-	28.6	21.4	7.1	35.7	7.1
7. ファミリーサポートセンター	-	-	-	-	-	-	-
8. その他	10	10.0	40.0	20.0	20.0	-	10.0

放課後児童クラブ（学童保育）の下校時からの希望時刻

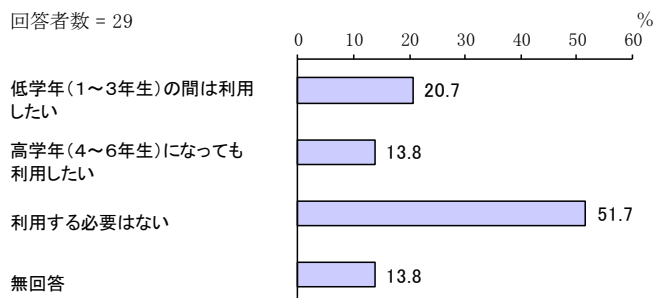
「18 時台」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 35.7%、「19 時台」の割合が 14.3%となっています。



問 27 問 25 または問 26 で「6. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方にうかがいます。宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望はありますか。（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

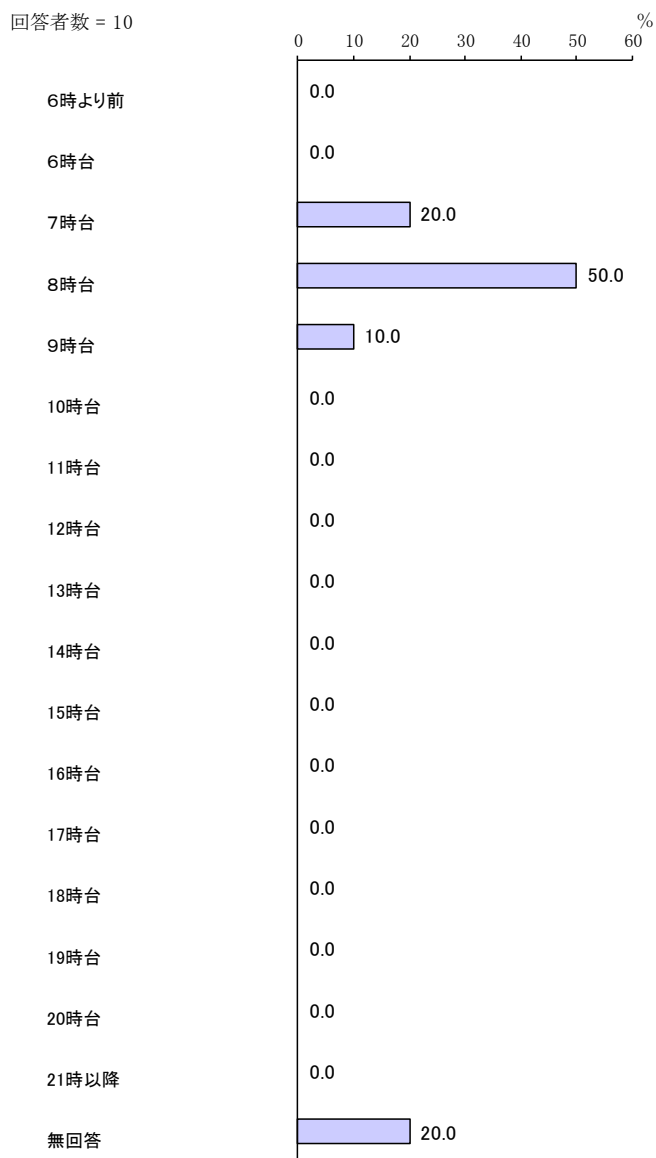
土曜日

「利用する必要はない」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が 20.7%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が 13.8%となっています。



希望利用開始時間

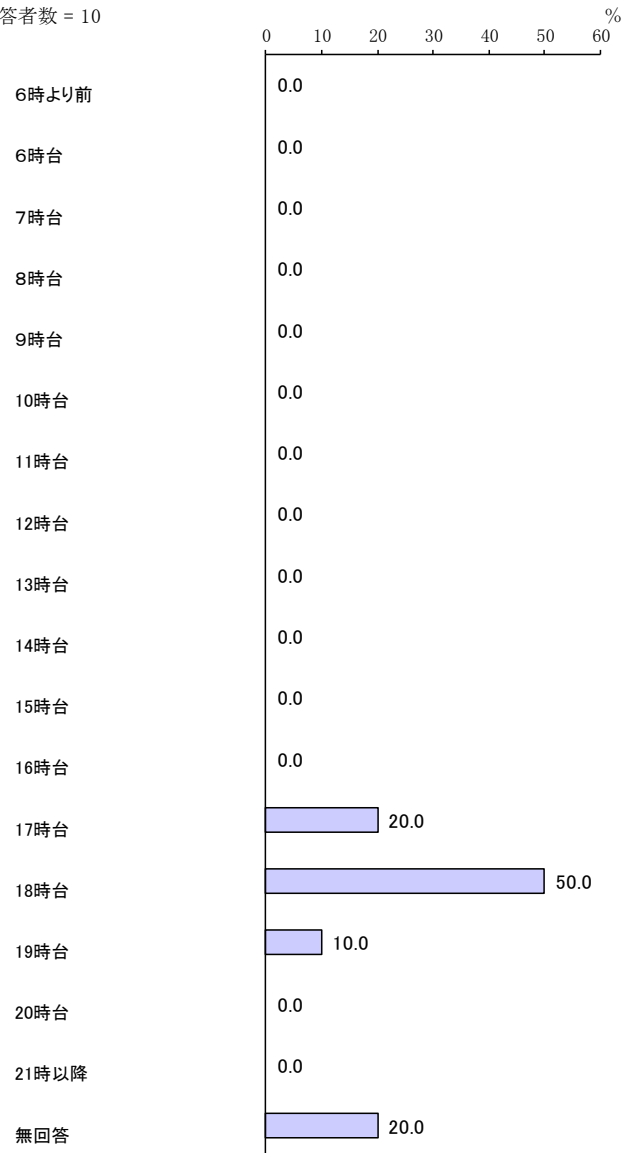
「8時台」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「7時台」の割合が 20.0%、「9時台」の割合が 10.0%となっています。



希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 20.0%、「19 時台」の割合が 10.0%となっています。

回答者数 = 10



日曜・祝日

「利用する必要はない」の割合が75.9%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が10.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が6.9%となっています。

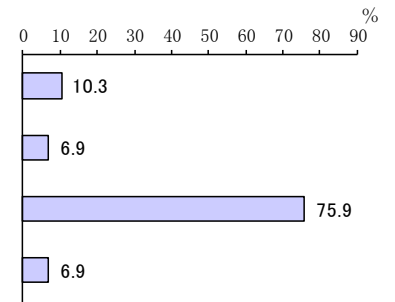
回答者数 = 29

低学年(1～3年生)の間は利用したい

高学年(4～6年生)になっても利用したい

利用する必要はない

無回答



希望利用開始時間

「8時台」が3件となっています。

回答者数 = 5

6時より前

6時台

7時台

8時台

9時台

10時台

11時台

12時台

13時台

14時台

15時台

16時台

17時台

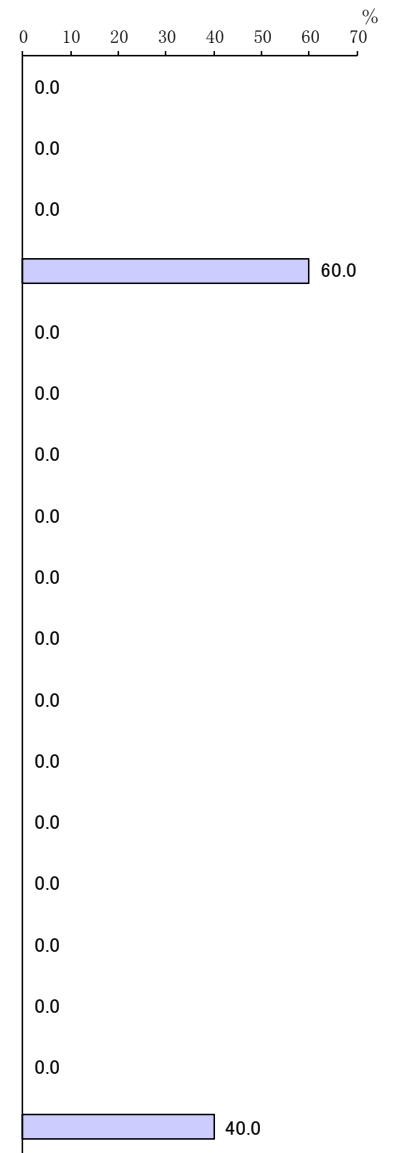
18時台

19時台

20時台

21時以降

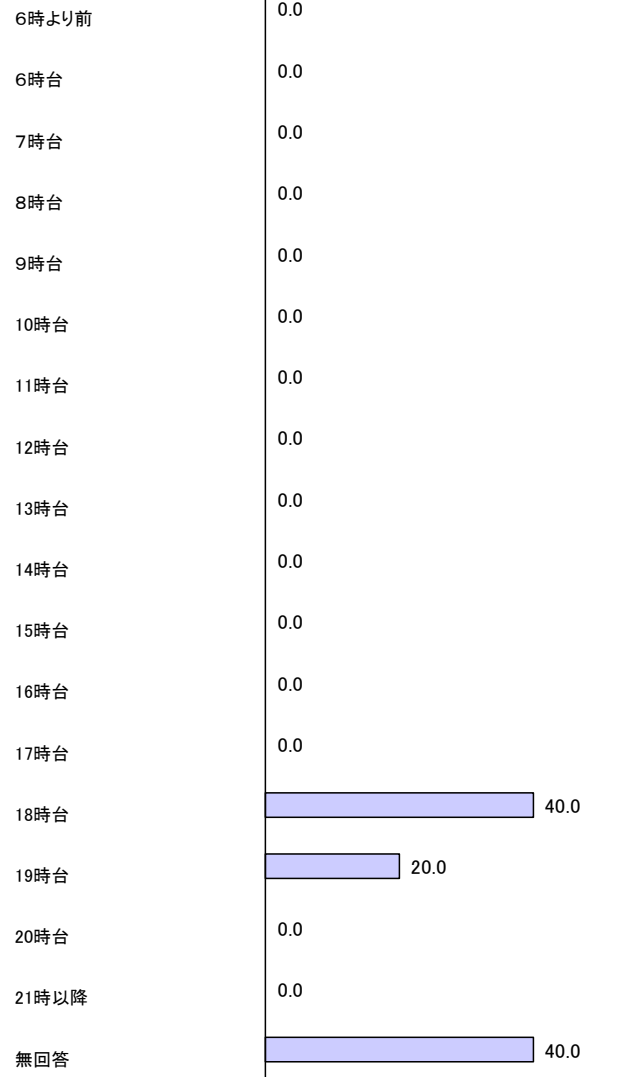
無回答



希望利用終了時間

「18 時台」が 2 件、「19 時台」が 1 件となっています。

回答者数 = 5

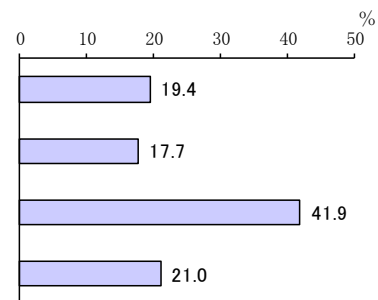


問 28 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）

「利用する必要はない」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が 19.4%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が 17.7%となっています。

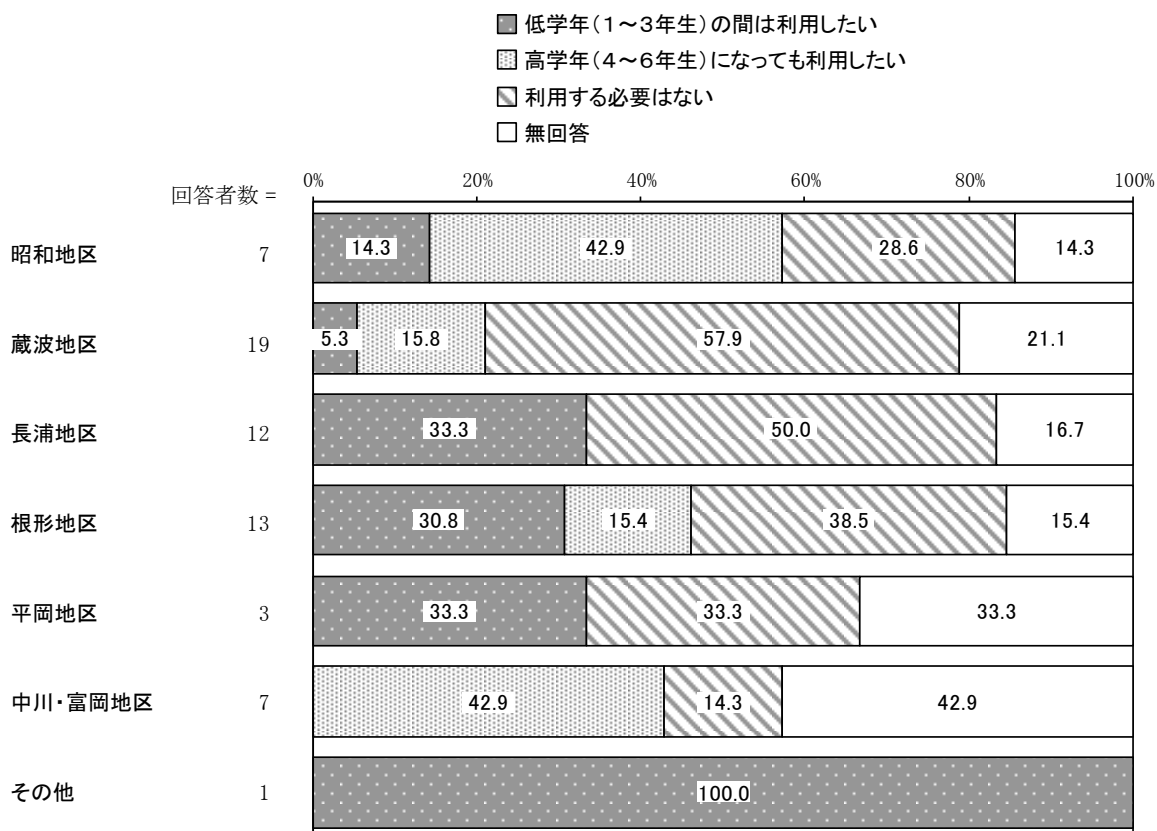
回答者数 = 62

低学年(1～3年生)の間は利用したい
 高学年(4～6年生)になっても利用したい
 利用する必要はない
 無回答



【地区別】

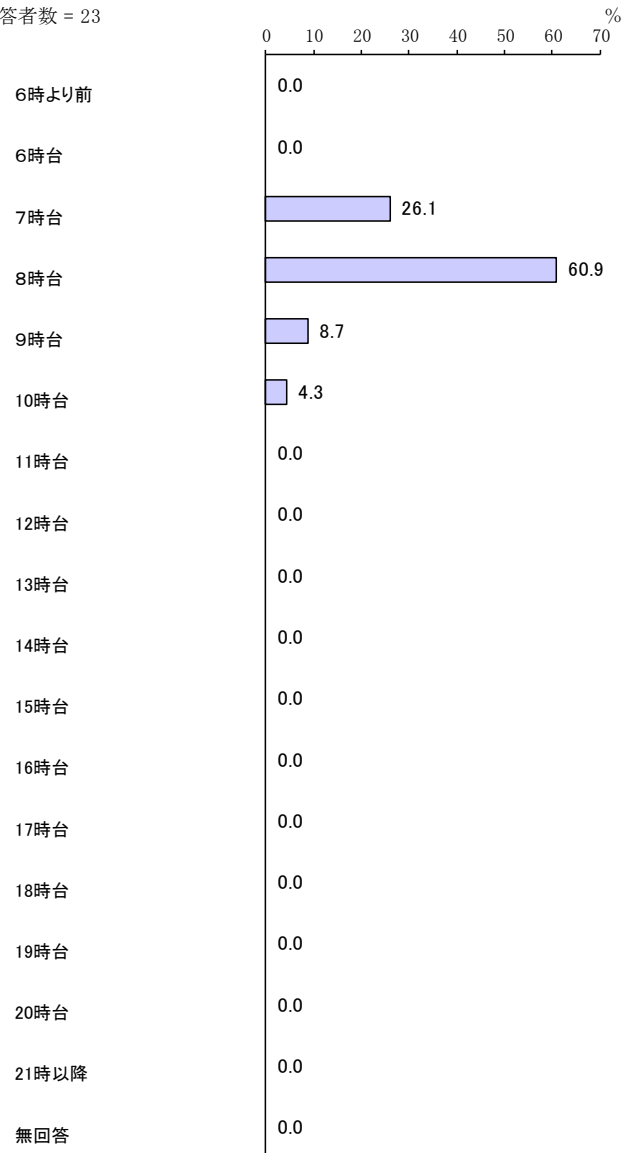
地区別でみると、他に比べ、蔵波地区で「利用する必要はない」の割合が高くなっています。



希望利用開始時間

「8時台」の割合が60.9%と最も高く、次いで「7時台」の割合が26.1%、「9時台」の割合が8.7%となっています。

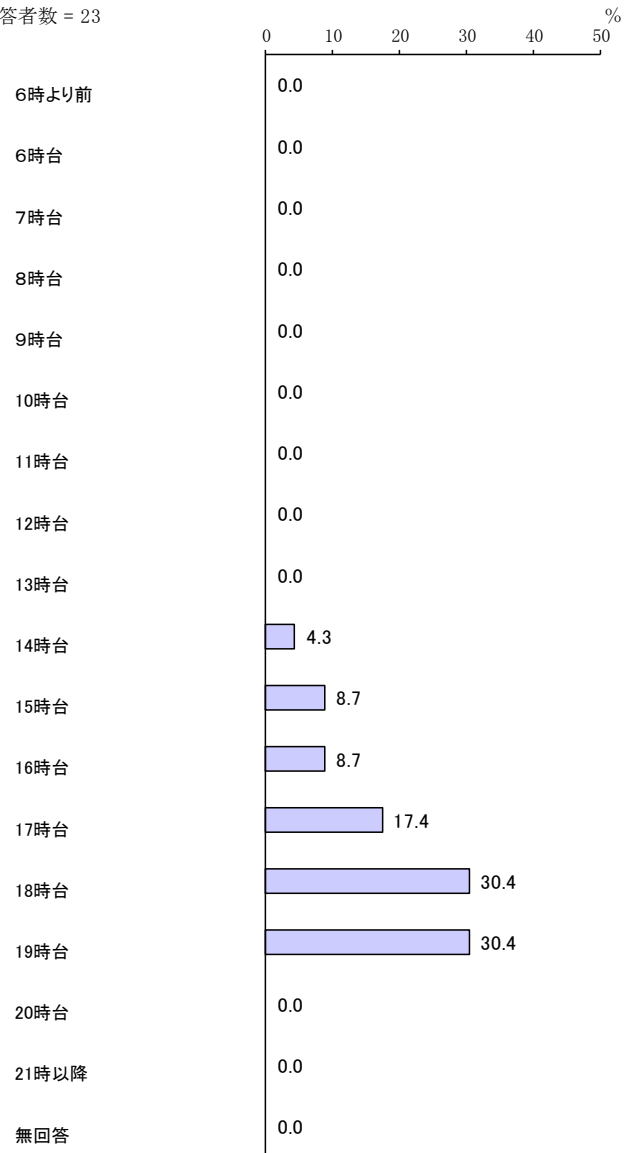
回答者数 = 23



希望利用終了時間

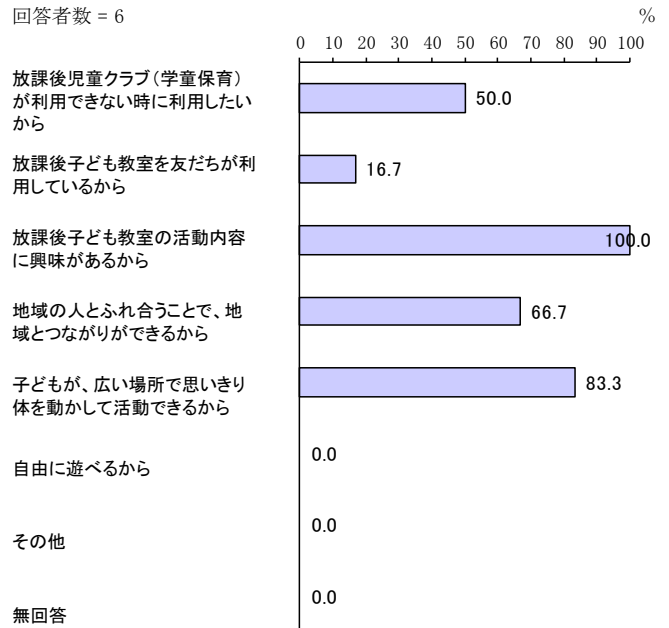
「18 時台」、「19 時台」の割合が 30.4%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 17.4%となっています。

回答者数 = 23



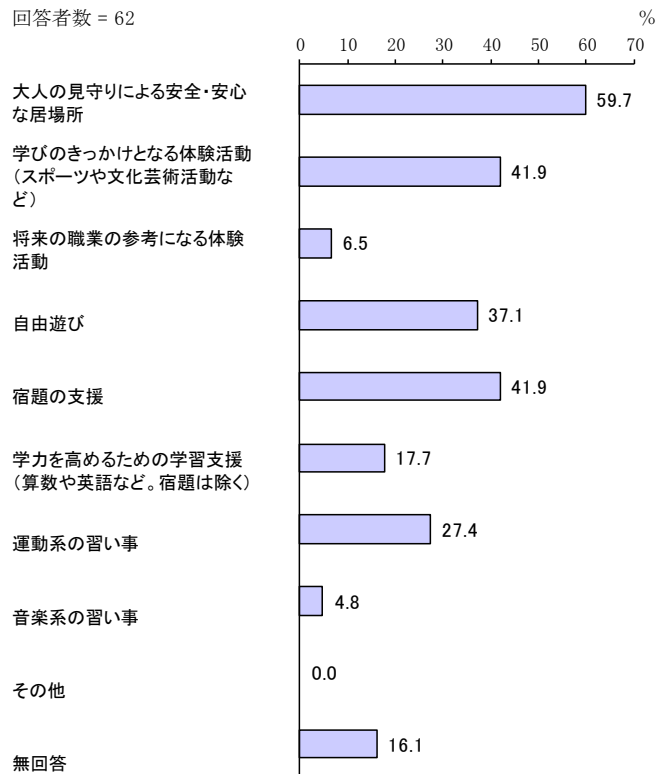
問 29 問 25 または問 26 で「5. 放課後子ども教室」と「6. 放課後児童クラブ（学童保育）」の両方に○をつけた方にうかがいます。放課後児童クラブ（学童保育）を希望しながら、放課後子ども教室の利用を希望する理由は次のうちどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

「放課後子ども教室の活動内容に興味があるから」が 6 件、「子どもが、広い場所で思いきり体を動かして活動できるから」が 5 件、「地域の人とふれ合うことで、地域とつながりができるから」が 4 件となっています。



問 30 宛名のお子さんの放課後に必要と思うものは次のうちどれですか（あてはまる番号3つまでに○）

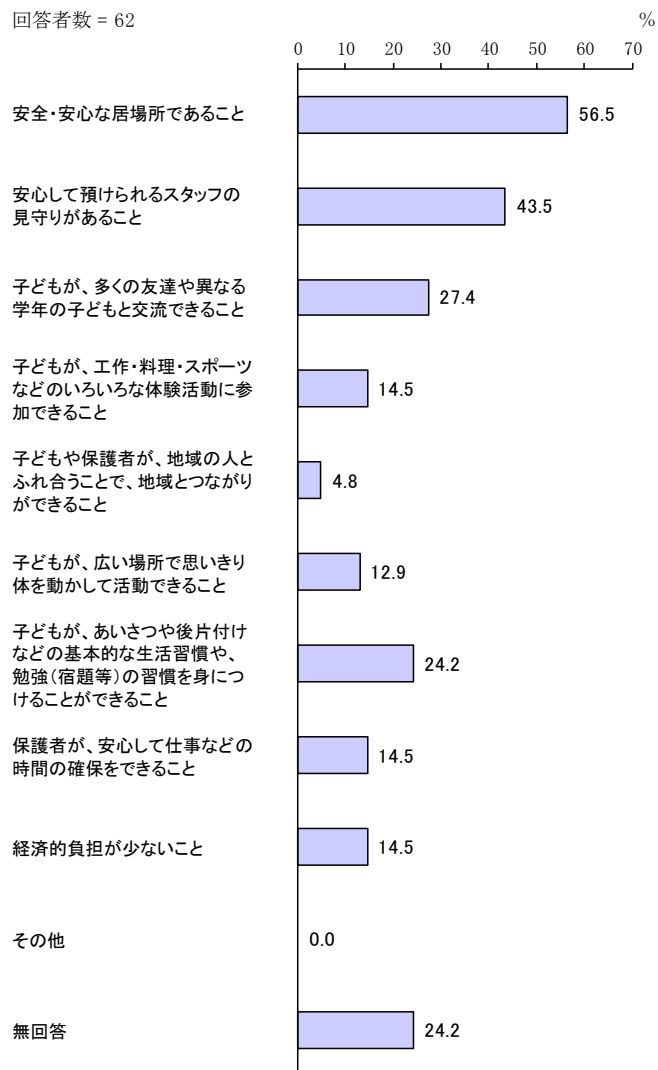
「大人の見守りによる安全・安心な居場所」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「学びのきっかけとなる体験活動（スポーツや文化芸術活動など）」、「宿題の支援」の割合が 41.9%となっています。



問 31 放課後子ども教室や放課後児童クラブ(学童保育)に期待することは何ですか。(あてはまる番号3つまでに○)

「安全・安心な居場所であること」の割合が56.5%と最も高く、次いで「安心して預けられるスタッフの見守りがあること」の割合が43.5%、「子どもが、多くの友達や異なる学年の子どもと交流できること」の割合が27.4%となっています。

回答者数 = 62



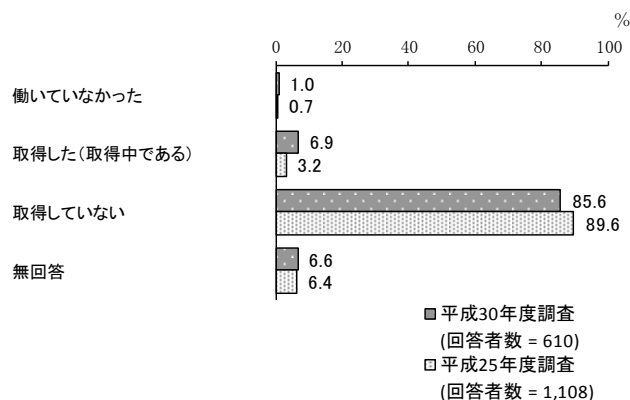
(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問 32 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。(母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○)
 ※取得していない方はその理由をご記入ください。

父親

「取得していない」の割合が 85.6%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」の割合が 6.9%、「働いていなかった」の割合が 1.0%となっています。

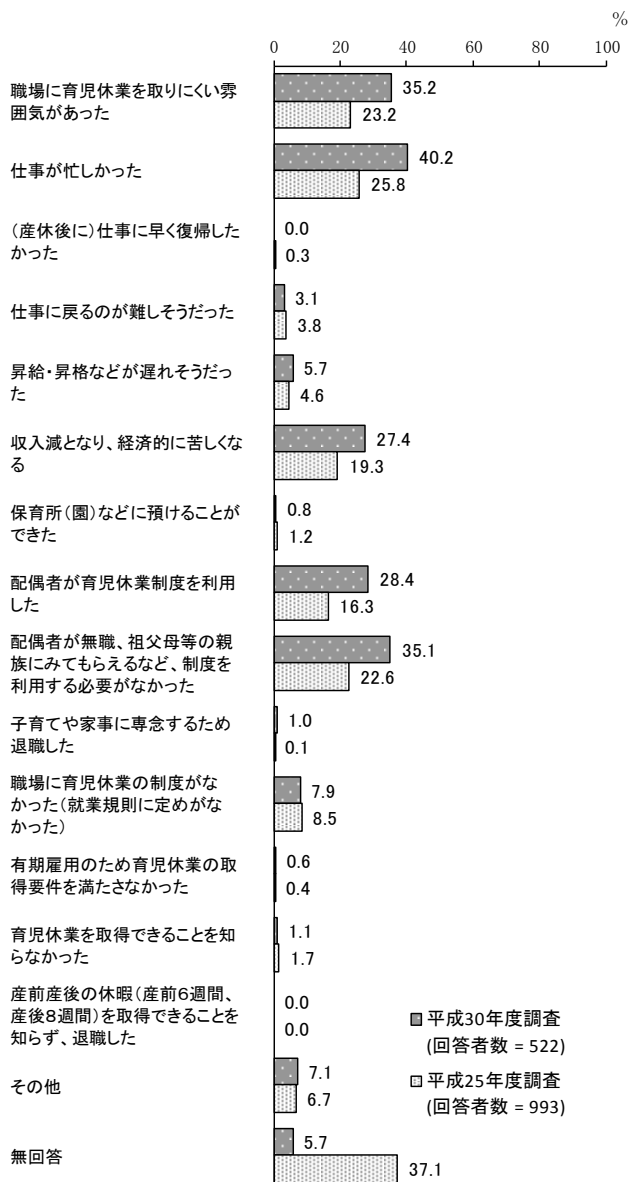
平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



取得していない理由

「仕事が忙しかった」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の割合が 35.2%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が 35.1%となっています。

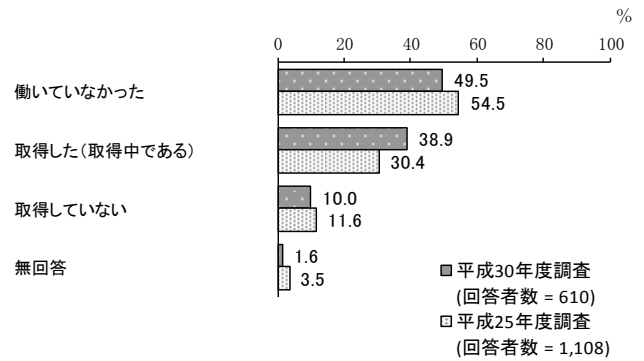
平成 25 年度調査と比較すると、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」「配偶者が育児休業制度を利用した」「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が増加しています。



母親

「働いていなかった」の割合が49.5%と最も高く、次いで「取得した（取得中である）」の割合が38.9%、「取得していない」の割合が10.0%となっています。

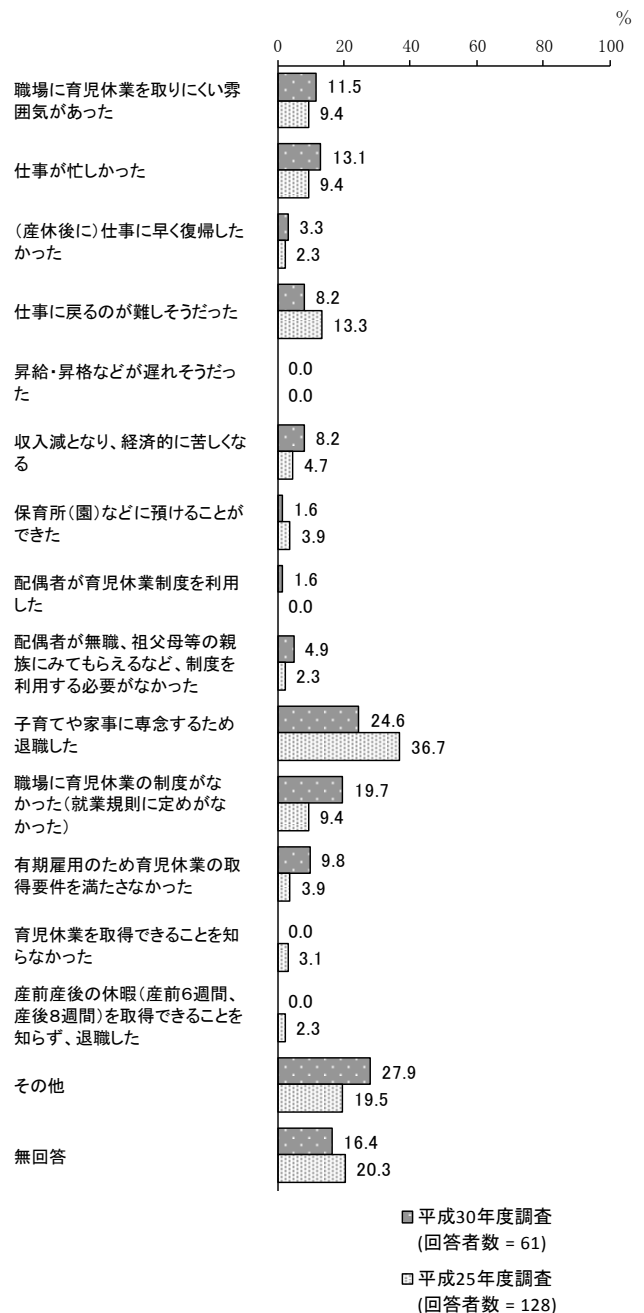
平成25年度調査と比較すると、「取得した（取得中である）」の割合が増加しています。一方、「働いていなかった」の割合が減少しています。



取得していない理由

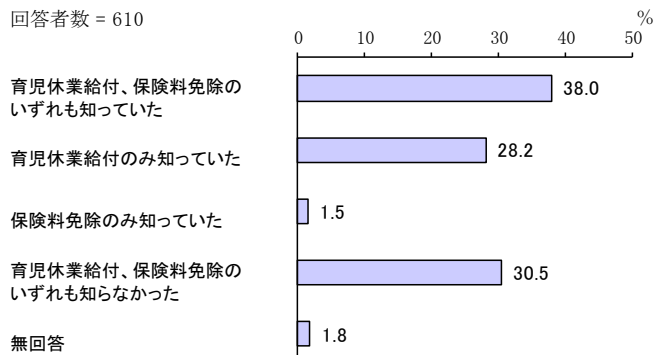
「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が24.6%と最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」の割合が19.7%、「仕事が忙しかった」の割合が13.1%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」の割合が増加しています。一方、「仕事に戻るのが難しそうだった」「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が減少しています。



問 32-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6ヶ月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。（あてはまる番号1つに○）

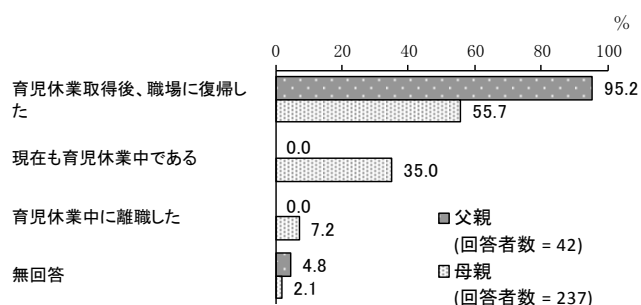
「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」の割合が38.0%と最も高く、次いで「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」の割合が30.5%、「育児休業給付のみ知っていた」の割合が28.2%、「保険料免除のみ知っていた」の割合が1.5%、「無回答」の割合が1.8%となっています。



問 32-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（あてはまる番号1つに○）

父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が95.2%となっています。

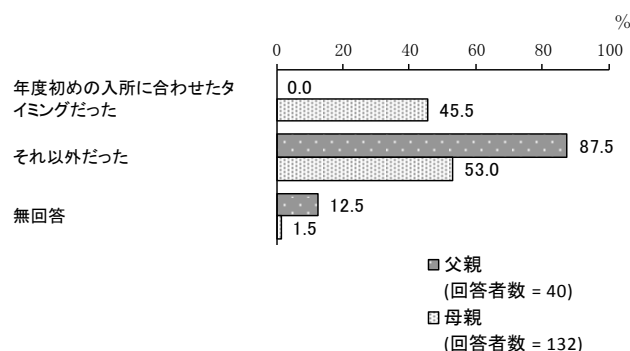
母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が55.7%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」の割合が35.0%、「育児休業中に離職した」の割合が7.2%となっています。



問 32-3 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。(どちらか1つに○)

父親では、「それ以外だった」の割合が 87.5% となっています

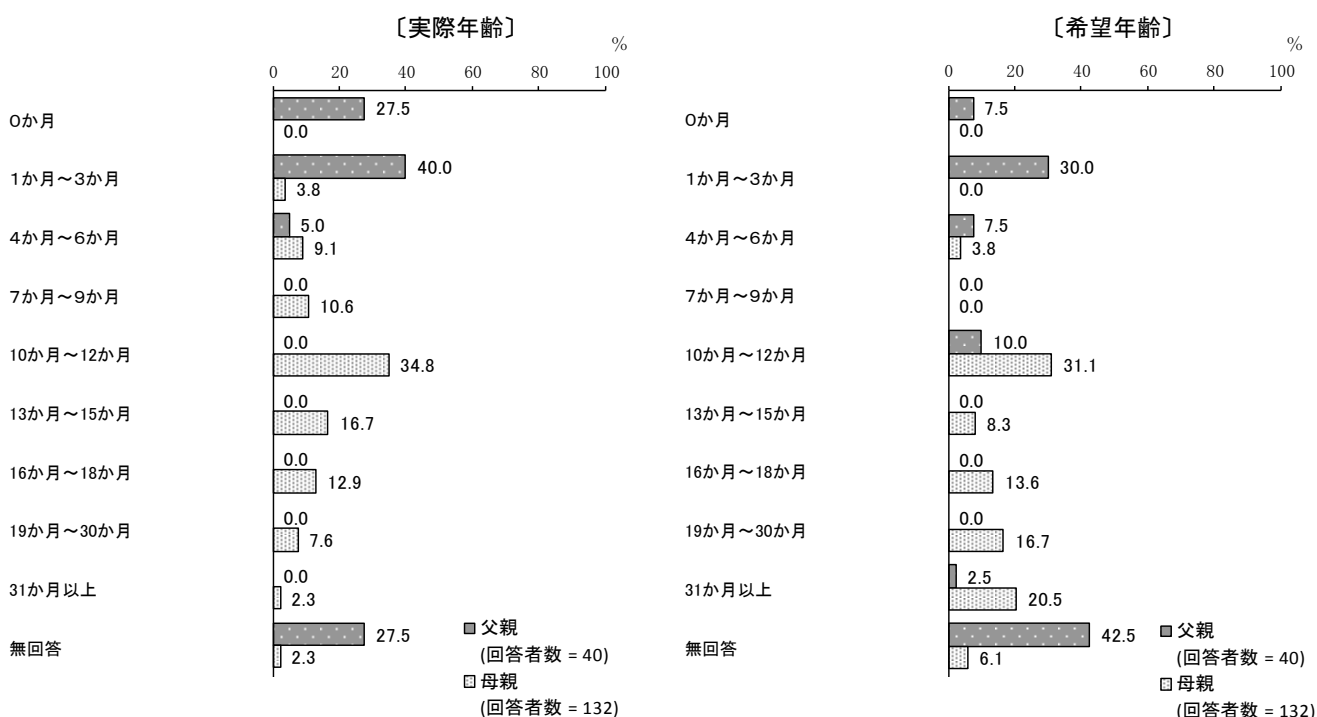
母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」の割合が 45.5%、「それ以外だった」の割合が 53.0% となっています。



問 32-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

育児休業から復帰したときの子どもの実際年齢について、父親では、「1 か月～3 か月」の割合が 40.0% と最も高く、次いで「0 か月」の割合が 27.5%、「4 か月～6 か月」の割合が 5.0% となっています。母親では、「10 か月～12 か月」が 34.8% と最も高く、次いで「13 か月～15 か月」の割合が 16.7%、「16 か月～18 か月」が 12.9% となっています。

育児休業から復帰したときの子どもの希望年齢について、父親では、「1 か月～3 か月」が 30.0% と最も高く、次いで「10 か月～12 か月」の割合が 10.0%、「0 か月」、「4 か月～6 か月」が 7.5% となっています。母親では、「10 か月～12 か月」の割合が 31.1% と最も高く、次いで「31 か月以上」の割合が 20.5%、「19 か月～30 か月」の割合が 16.7% となっています。

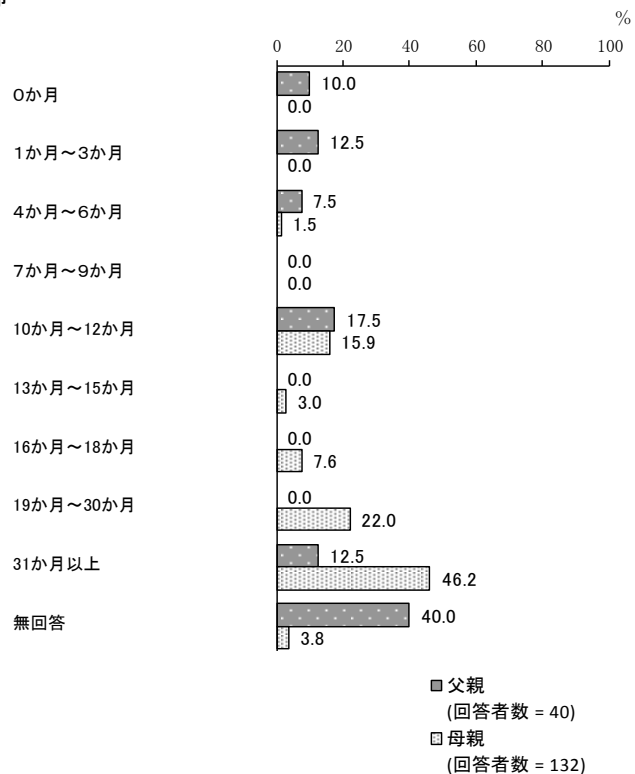


問 32-5 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

3歳までの育児休業が合った場合の子どもの希望月齢

父親では、「10 か月～12 か月」の割合が 17.5%と最も高く、次いで「1 か月～3 か月」、「31 か月以上」の割合が 12.5%となっています。

母親では、「31 か月以上」の割合が 46.2%と最も高く、次いで「19 か月～30 か月」の割合が 22.0%、「10 か月～12 か月」の割合が 15.9%となっています。



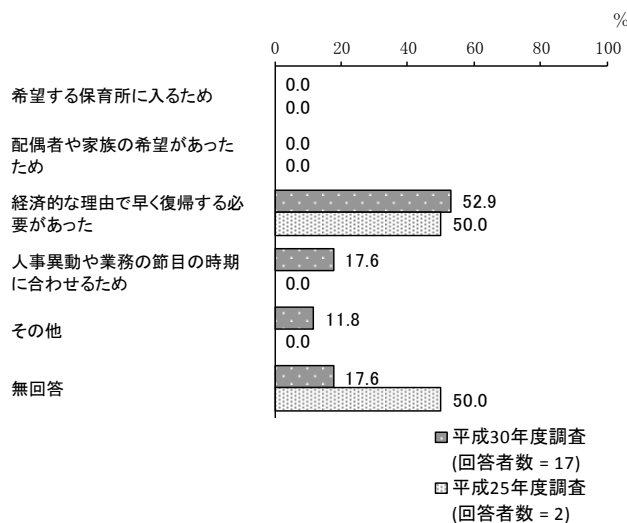
問 32-6 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(1) 「希望」より早く復帰した方（あてはまる番号すべてに○）

父親

「経済的な理由で早く復帰する必要があった」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が 17.6%、「希望する保育所に入るため」、「配偶者や家族の希望があったため」の割合が 0.0%となっています。

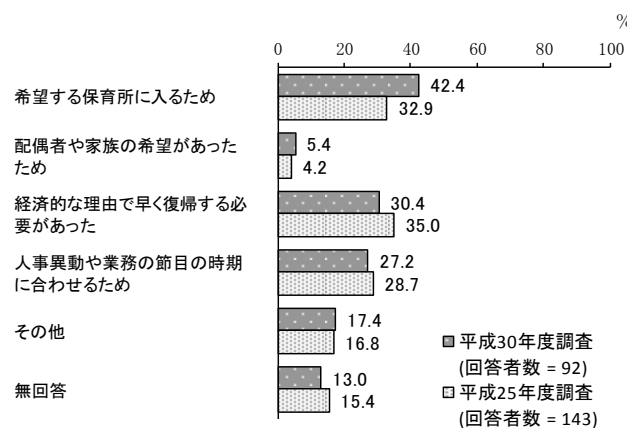
平成 25 年度調査と比較すると、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が増加しています。



母親

「希望する保育所に入るため」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があった」の割合が 30.4%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が 27.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「希望する保育所に入るため」の割合が増加しています。



(2)「希望」より遅く復帰した方（あてはまる番号すべてに○）

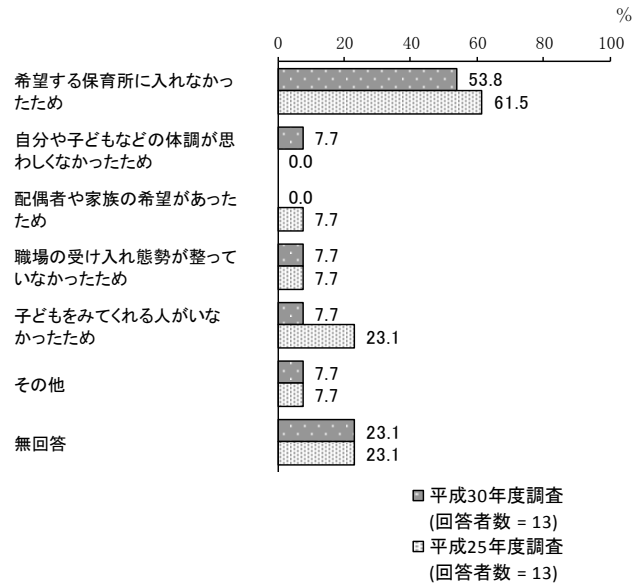
父親

有効回答がありませんでした。

母親

「希望する保育所に入れなかったため」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」、「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」、「子どもをみてくれる人がいなかったため」の割合が 7.7%となっています。

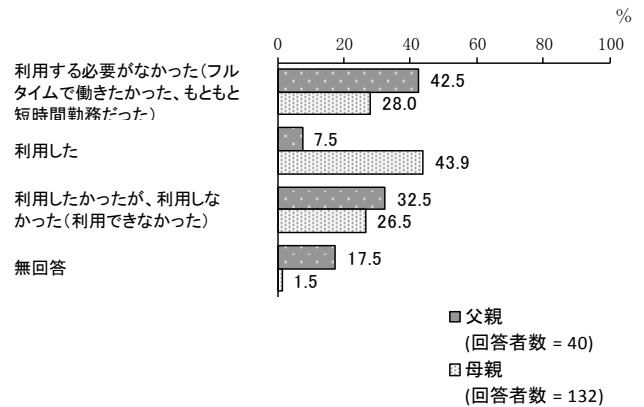
平成 25 年度調査と比較すると、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」の割合が増加しています。一方、「希望する保育所に入れなかったため」「配偶者や家族の希望があったため」「子どもをみてくれる人がいなかったため」の割合が減少しています。



問 32-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。(あてはまる番号1つに○)

父親では、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」の割合が 32.5%、「利用した」の割合が 7.5%となっています。

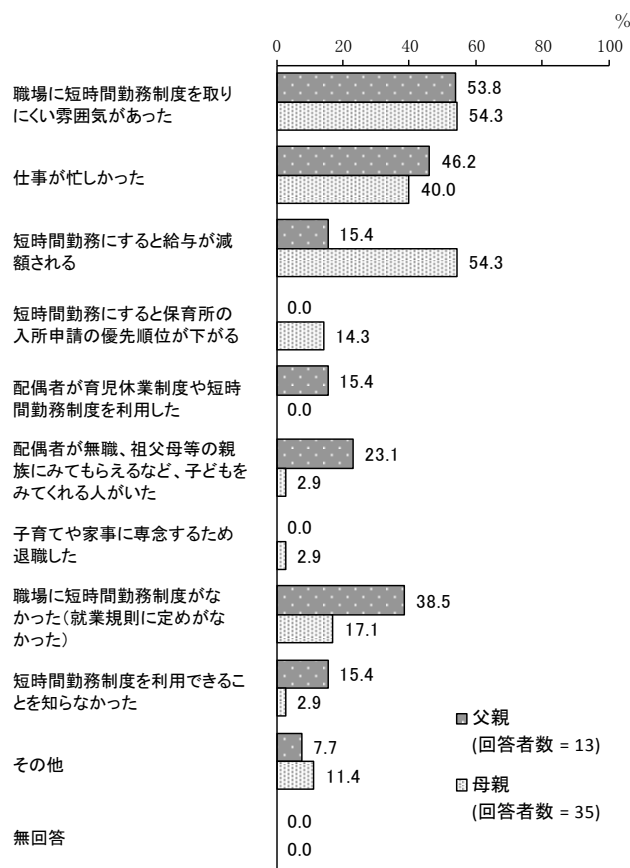
母親では、「利用した」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」の割合が 28.0%、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」の割合が 26.5%となっています。



問 32-8 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

父親では、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」の割合が 46.2%、「職場に短時間勤務制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」の割合が 38.5%となっています。

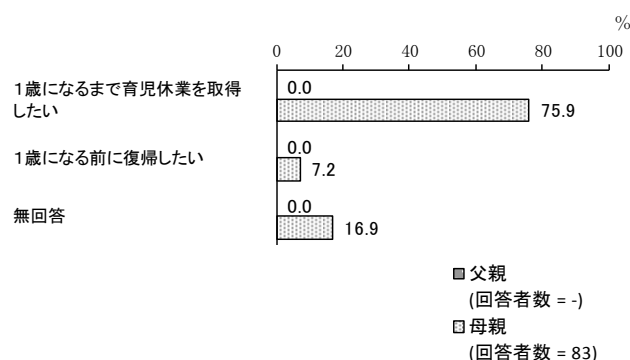
母親では、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」、「短時間勤務にすると給与が減額される」の割合が 54.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」の割合が 40.0%となっています。



問 32-9 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。（あてはまる番号1つに○）

父親では、有効回答がありませんでした。

母親では、「1歳になるまで育児休業を取得したい」の割合が 75.9%、「1歳になる前に復帰したい」の割合が 7.2%となっています。

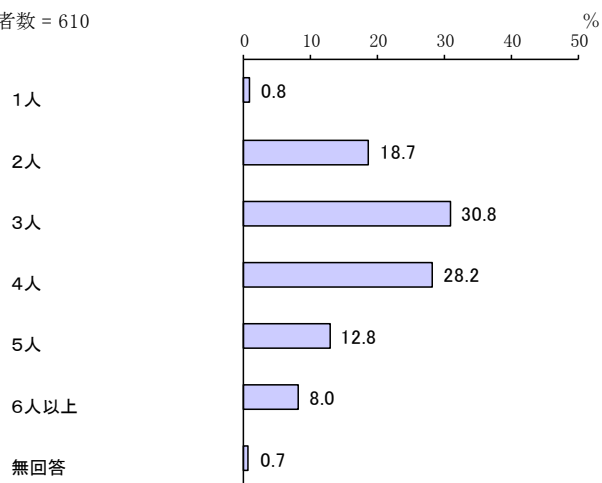


(11) 子育て家庭の暮らし向きについて

問 33 宛名のお子さんと同居している方の人数をご記入ください。単身赴任をしている家族も含めてください。

「3人」の割合が30.8%と最も高く、次いで「4人」の割合が28.2%、「2人」の割合が18.7%となっています。

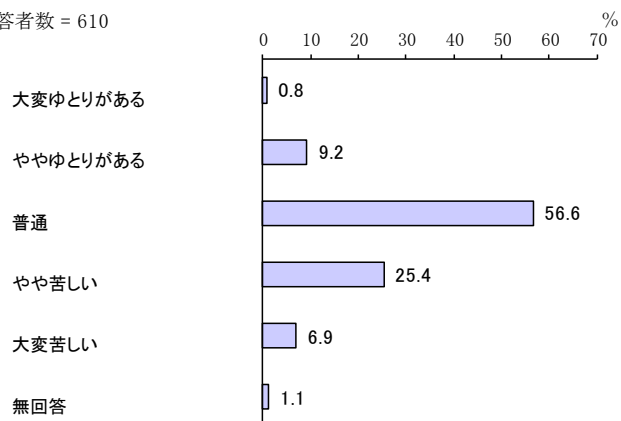
回答者数 = 610



問 34 あなたのご家庭の現在の暮らしの状況についてうかがいます。
(あてはまる番号1つに○)

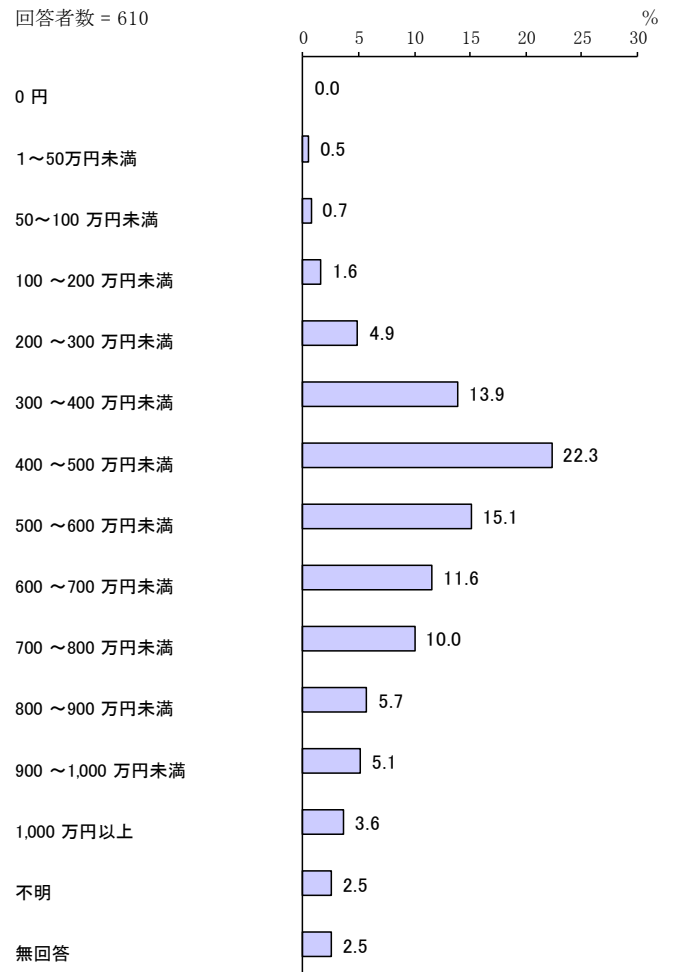
「普通」の割合が56.6%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が25.4%、「ややゆとりがある」の割合が9.2%となっています。

回答者数 = 610



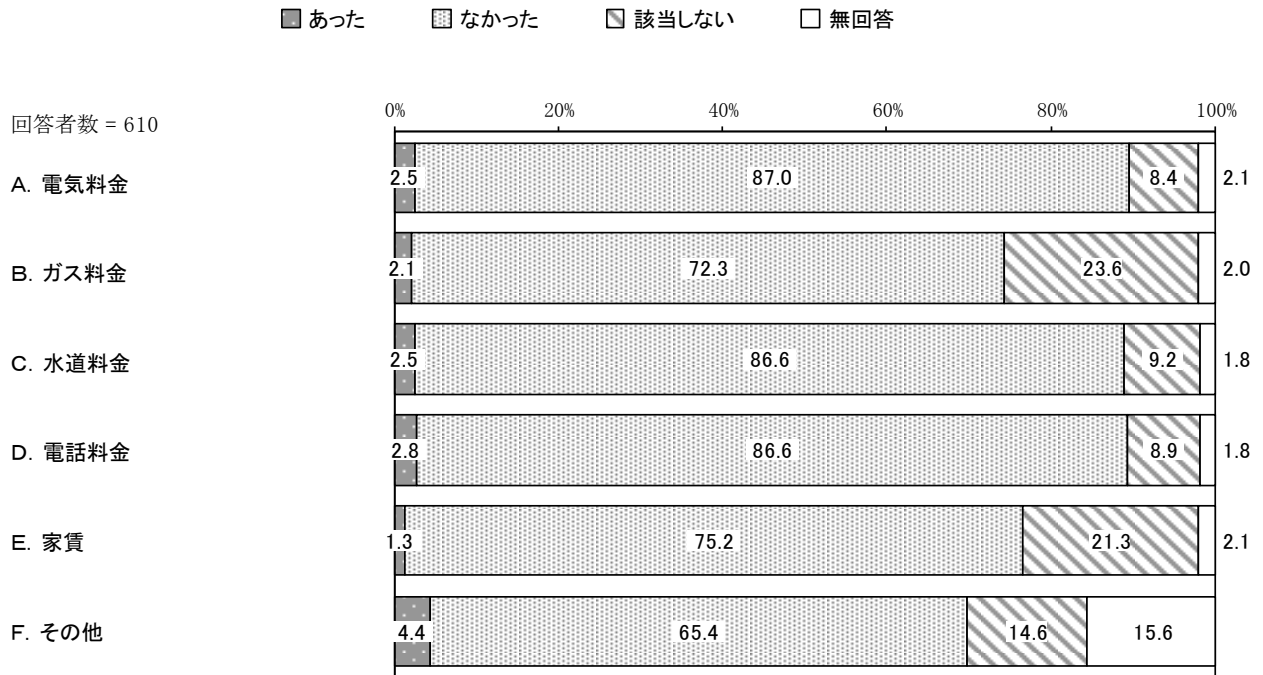
問 35 お子さんと生計を共にしている方全員の収入を合わせた「世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）」を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

「400～500 万円未満」の割合が 22.3%と最も高く、次いで「500～600 万円未満」の割合が 15.1%、「300～400 万円未満」の割合が 13.9%となっています。



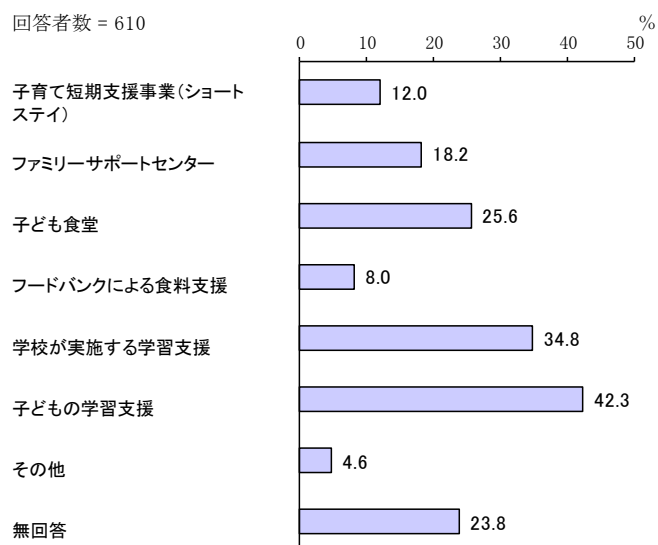
問 36 あなたの世帯では、過去1年間の間に、経済的な理由での月々の料金の支払い、家賃、その他の債務の返済ができなかったことがありますか。(あてはまる番号それぞれ1つに○)

『A. 電気料金』、『C. 水道料金』、『D. 電話料金』で「なかった」の割合が高くなっています。一方、『B. ガス料金』、『E. 家賃』で「該当しない」の割合が高くなっています。



問 37 あなたの世帯では現在、どのような支援制度等を利用することに興味がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

「子どもの学習支援」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「学校が実施する学習支援」の割合が 34.8%、「子ども食堂」の割合が 25.6%となっています。



【貧困想定世帯別】

貧困想定世帯別でみると、貧困想定世帯で、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「子どもの学習支援」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子育て短期支援事業(ショートステイ)	ファミリーサポートセンター	子ども食堂	フードバンクによる食料支援	学校が実施する学習支援	子どもの学習支援	その他	無回答
貧困想定世帯※	41	14.6	19.5	41.5	34.1	39.0	53.7	2.4	12.2
その他世帯	547	12.1	17.9	24.3	6.0	34.9	41.5	4.4	24.9

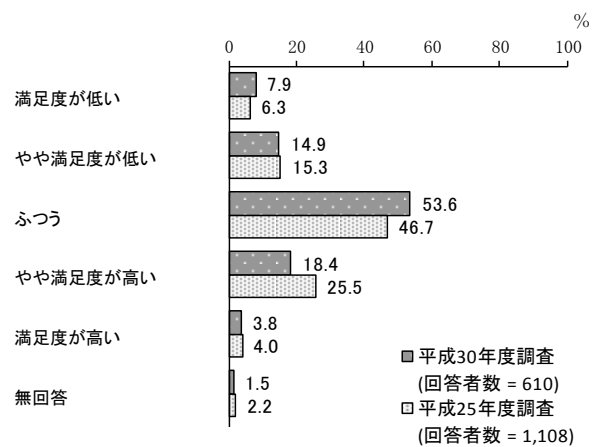
※貧困想定世帯：世帯の人数と世帯の収入から算定される等価可処分所得が 122 万円未満に該当すると想定される世帯

(12) 市の子育て施策について

問 38 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください。
(あてはまる番号1つに○)

「ふつう」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「やや満足度が高い」の割合が 18.4%、「やや満足度が低い」の割合が 14.9%となっています。

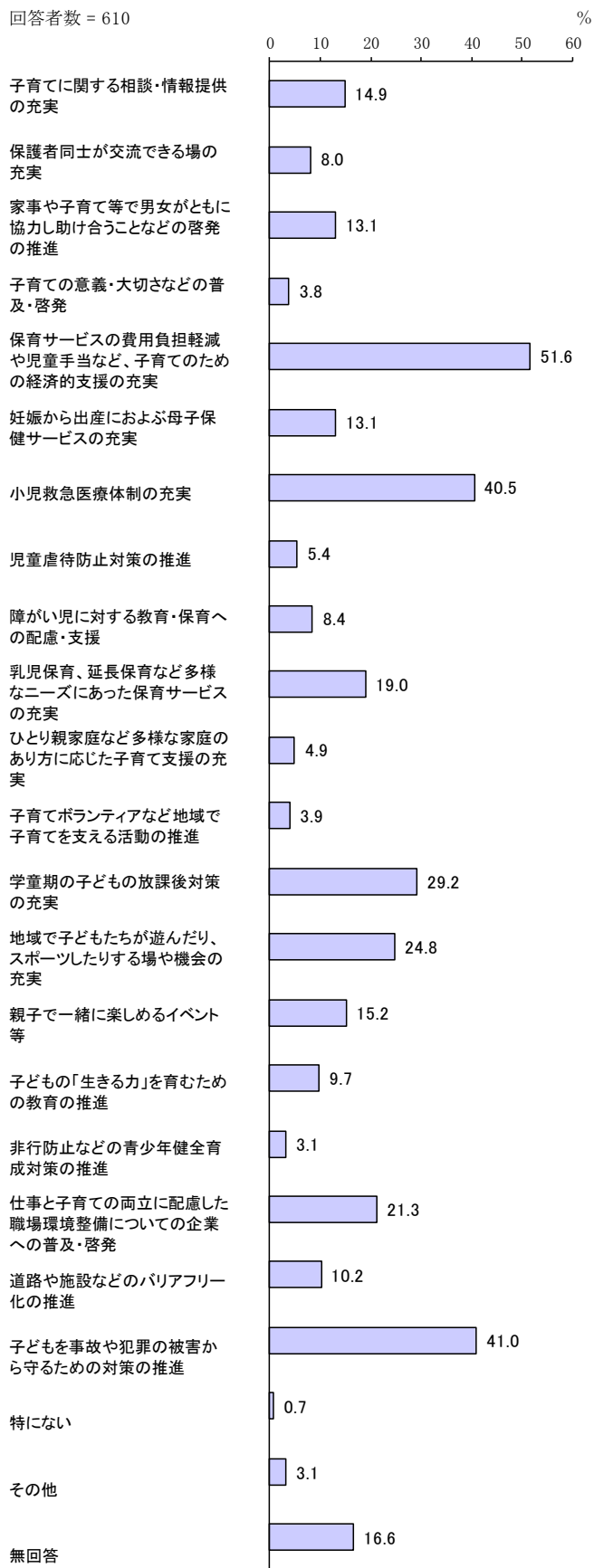
平成 25 年度調査と比較すると、「ふつう」の割合が増加しています。一方、「やや満足度が高い」の割合が減少しています。



問 39 子どもを健やかに生み育てるために、市にどのようなことを特に期待しますか。(あてはまる番号5つまでに○)

「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援の充実」の割合が51.6%と最も高く、次いで「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」の割合が41.0%、「小児救急医療体制の充実」の割合が40.5%となっています。

回答者数 = 610



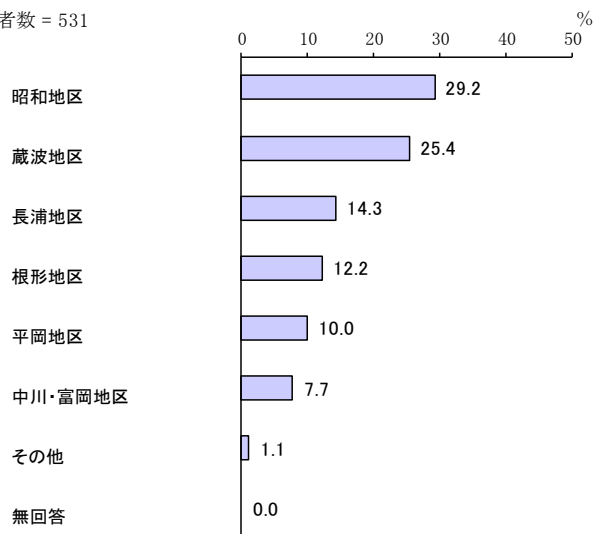
2 小学生保護者

(1) お子さんご家族の状況について

問1 お住まいの地区はどれになりますか。(あてはまる番号1つに○)

「昭和地区」の割合が29.2%と最も高く、次いで「蔵波地区」の割合が25.4%、「長浦地区」の割合が14.3%となっています。

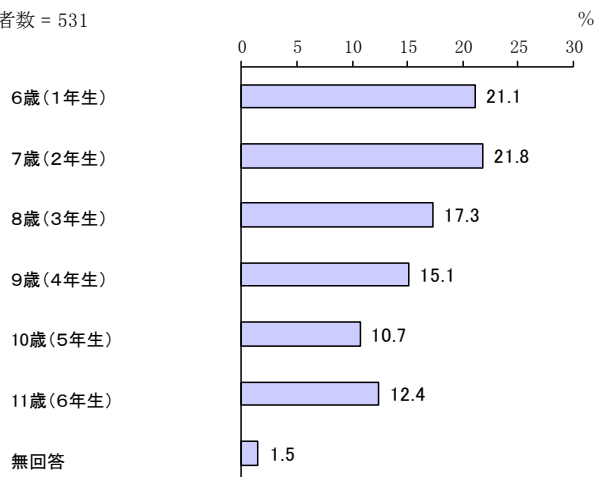
回答者数 = 531



問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。 ※ (口内に数字でご記入ください)

「7歳(2年生)」の割合が21.8%と最も高く、次いで「6歳(1年生)」の割合が21.1%、「8歳(3年生)」の割合が17.3%となっています。

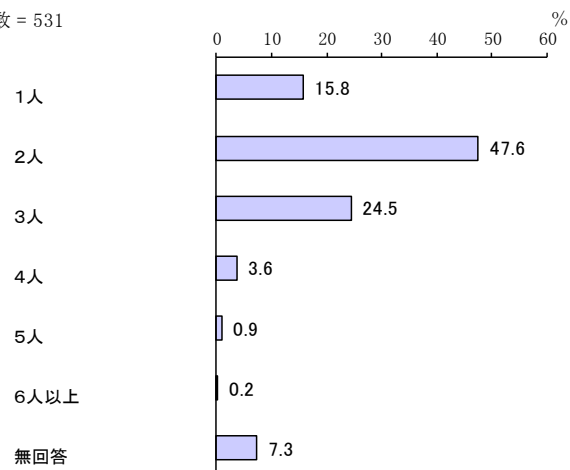
回答者数 = 531



問3 きょうだい数

「2人」の割合が47.6%と最も高く、次いで「3人」の割合が24.5%、「1人」の割合が15.8%となっています。

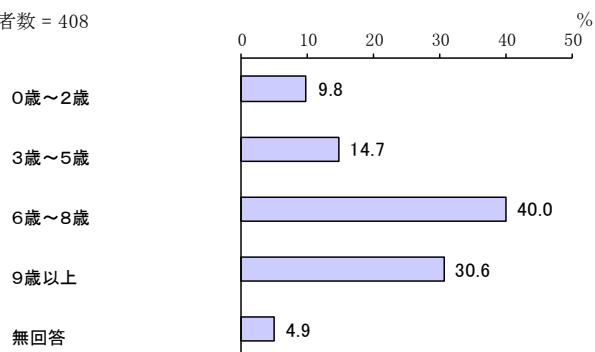
回答者数 = 531



問3 末子の年齢

「6歳～8歳」の割合が40.0%と最も高く、次いで「9歳以上」の割合が30.6%、「3歳～5歳」の割合が14.7%となっています。

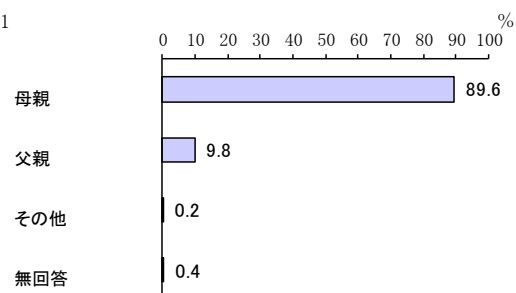
回答者数 = 408



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

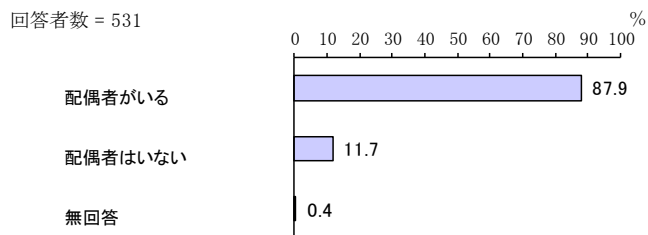
「母親」の割合が89.6%、「父親」の割合が9.8%となっています。

回答者数 = 531



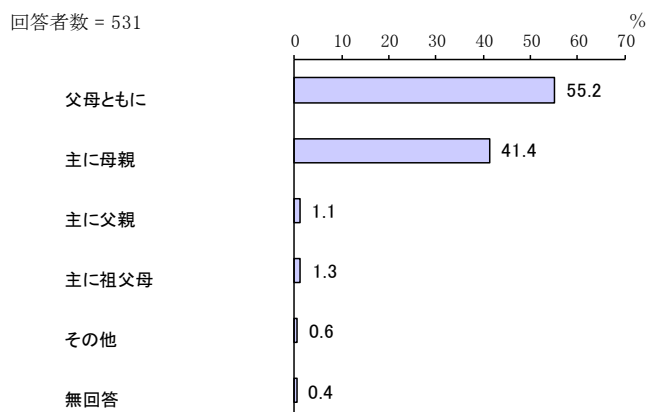
問5 この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。（あてはまる番号1つに○）

「配偶者がいる」の割合が87.9%、「配偶者がいない」の割合が11.7%となっています。



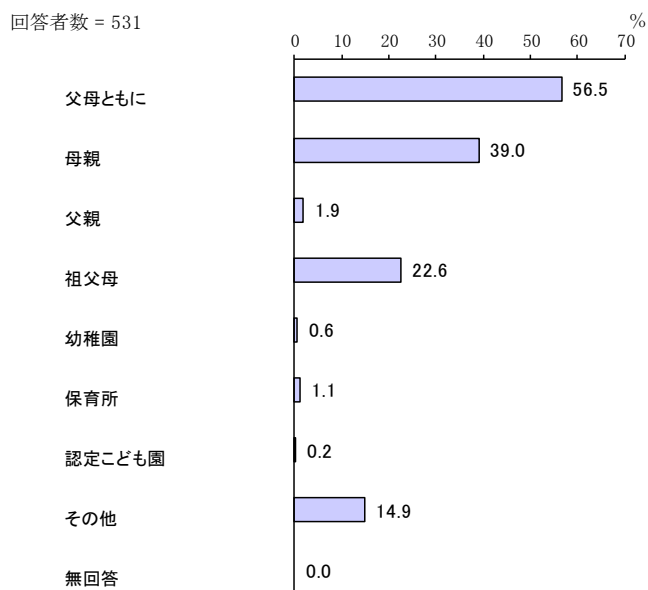
問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。

「父母ともに」の割合が55.2%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が41.4%、「主に祖父祖母」の割合が1.3%となっています。



問7 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。

「父母ともに」の割合が56.5%と最も高く、次いで「母親」の割合が39.0%、「祖父母」の割合が22.6%となっています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、中川・富岡地区で「母親」の割合が高くなっています。

単位：％

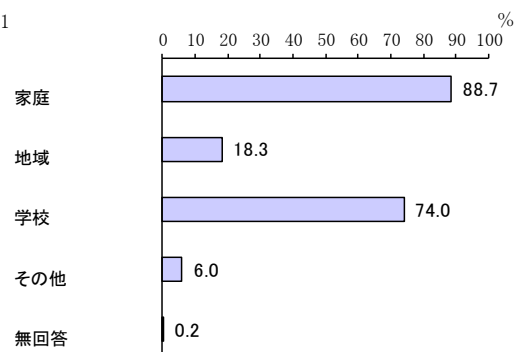
区分	有効回答数 (件)	父母ともに	母親	父親	祖父母	幼稚園	保育所	認定こども園	その他	無回答
昭和地区	155	54.8	41.9	0.6	23.2	—	2.6	—	16.8	—
葦波地区	135	54.8	44.4	—	18.5	1.5	—	0.7	16.3	—
長浦地区	76	63.2	27.6	5.3	21.1	—	—	—	10.5	—
根形地区	65	67.7	24.6	1.5	26.2	—	1.5	—	12.3	—
平岡地区	53	52.8	39.6	3.8	30.2	1.9	1.9	—	15.1	—
中川・富岡地区	41	41.5	53.7	4.9	24.4	—	—	—	17.1	—
その他	6	66.7	33.3	—	—	—	—	—	—	—

(2) お子さんの育ちをめぐる環境について

問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）にもっとも影響を与えると思う環境は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「家庭」の割合が 88.7%と最も高く、次いで「学校」の割合が 74.0%、「地域」の割合が 18.3%となっています。

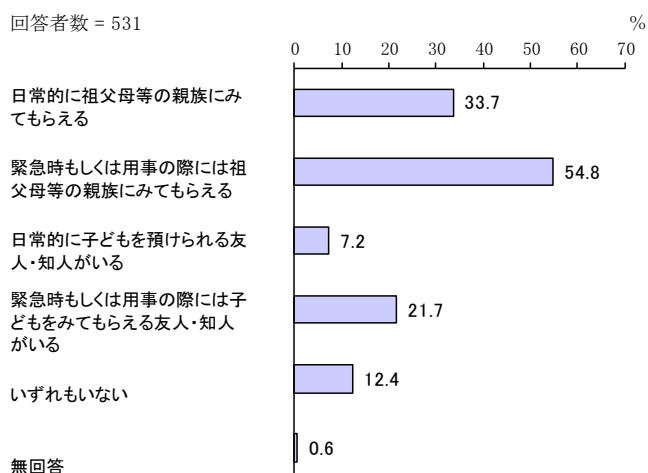
回答者数 = 531



問9 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（あてはまる番号すべてに○）

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 54.8%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が 33.7%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」の割合が 21.7%となっています。

回答者数 = 531



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、根形地区で「いずれもない」の割合が、平岡地区で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
昭和地区	155	32.3	60.0	5.8	18.7	11.6	0.6
葦波地区	135	28.1	60.7	5.9	25.9	13.3	—
長浦地区	76	36.8	36.8	7.9	22.4	13.2	2.6
根形地区	65	29.2	47.7	10.8	26.2	20.0	—
平岡地区	53	47.2	50.9	13.2	20.8	9.4	—
中川・富岡地区	41	41.5	61.0	2.4	9.8	4.9	—
その他	6	33.3	83.3	—	33.3	—	—

問10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（あてはまる番号1つに○）

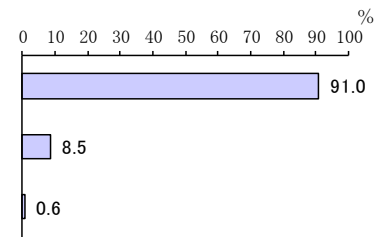
「いる／ある」の割合が91.0%、「いない／ない」の割合が8.5%となっています。

回答者数 = 531

いる／ある

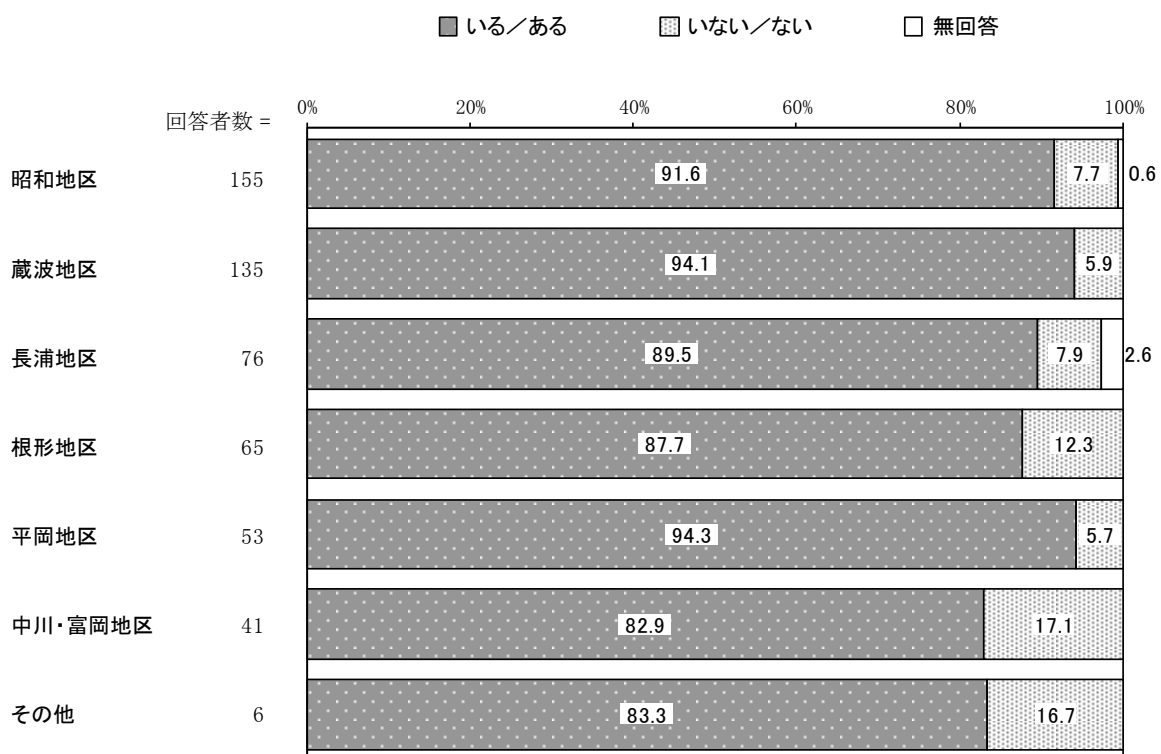
いない／ない

無回答



【地区別】

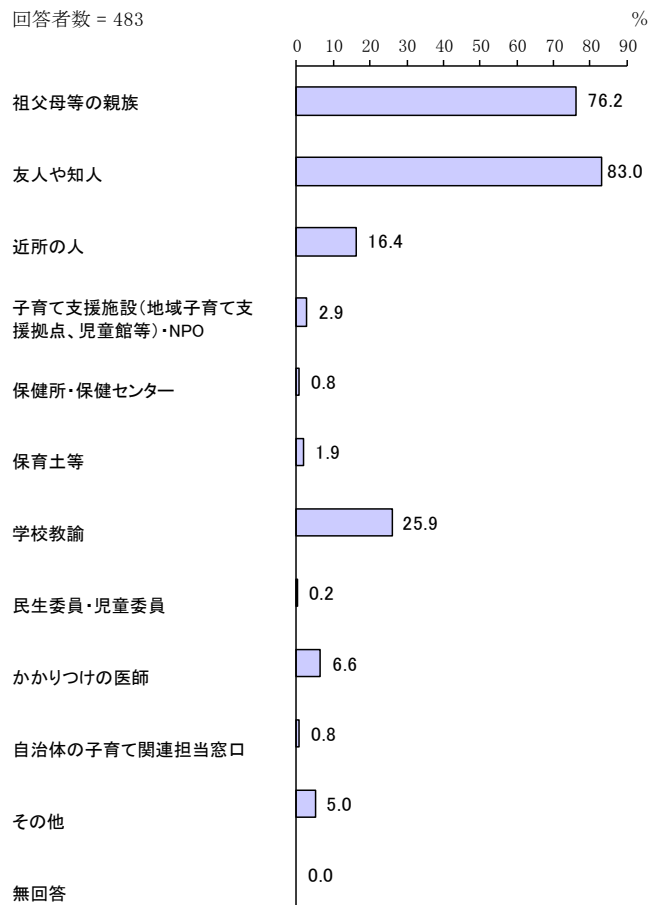
地区別でみると、他に比べ、中川・富岡地区で「いない／ない」の割合が高くなっています。



問 10-1 問 10 で「1. いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「友人や知人」の割合が 83.0%と最も高く、次いで「祖父母等の親族」の割合が 76.2%、「学校教諭」の割合が 25.9%となっています。

回答者数 = 483

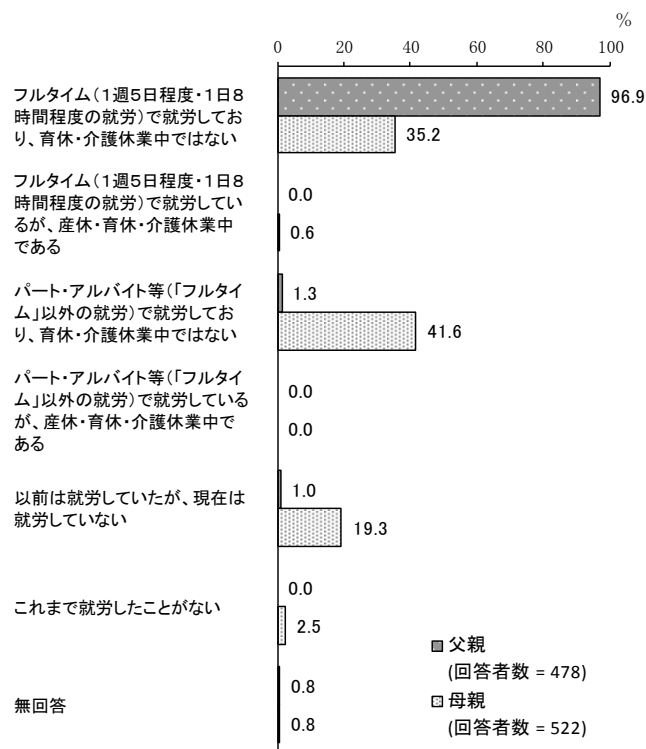


(3) お子さんの保護者の就労状況について

問11 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

父親では、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が96.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が41.6%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が19.3%となっています。

母親では、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が41.6%と最も高く、次いで「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」の割合が35.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が19.3%となっています。

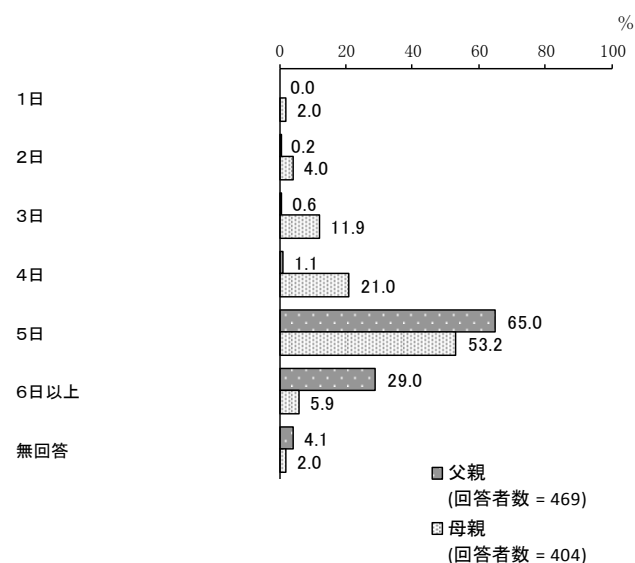


問11-1 問11で「1.～4.」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」を、□内に数字でご記入ください。

1週当たりの「就労日数」

父親では、「5日」の割合が65.0%と最も高く、次いで「6日以上」の割合が29.0%、「4日」の割合が11.9%となっています。

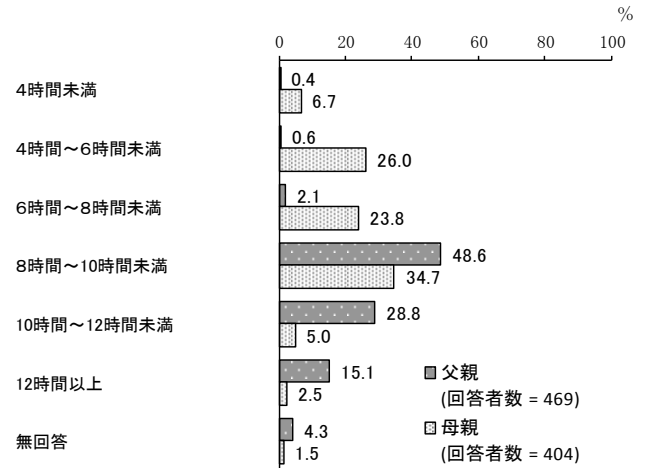
母親では、「5日」の割合が53.2%と最も高く、次いで「4日」の割合が21.0%、「3日」の割合が11.9%となっています。



1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」

父親では、「8時間～10時間未満」の割合が48.6%と最も高く、次いで「10時間～12時間未満」の割合が28.8%、「12時間以上」の割合が15.1%となっています。

母親では、「8時間～10時間未満」の割合が34.7%と最も高く、次いで「4時間～6時間未満」の割合が26.0%、「6時間～8時間未満」の割合が23.8%となっています。

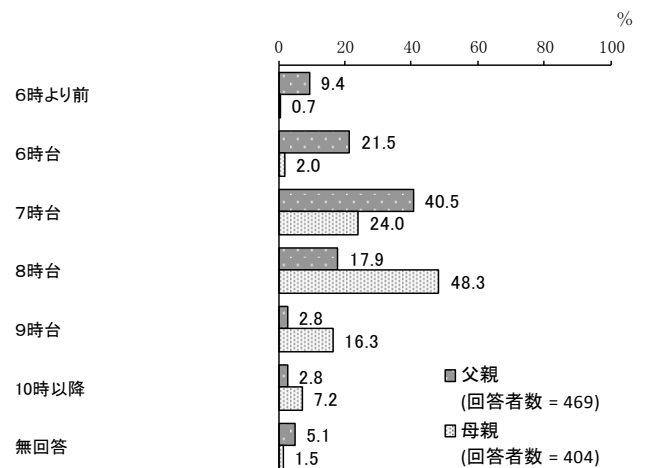


問11-2 問11で「1.～4.」（就労している）に○をつけた方にうかがいます。家を出る時刻と帰宅時刻を、□内に数字でご記入ください。

家を出る時刻

父親では、「7時台」の割合が40.5%と最も高く、次いで「6時台」の割合が21.5%、「8時台」の割合が17.9%となっています。

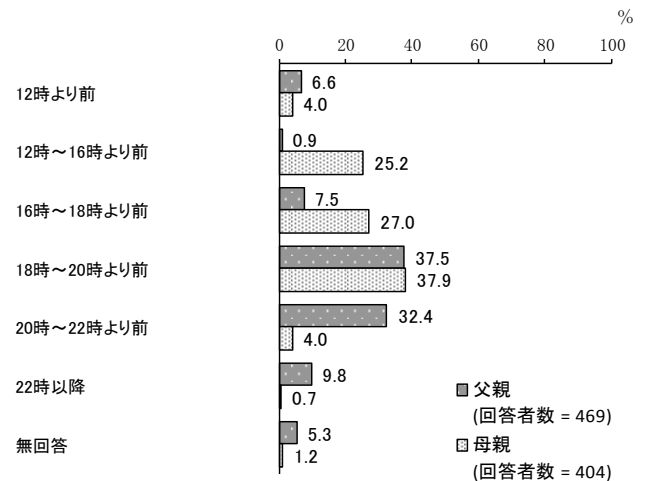
母親では、「8時台」の割合が48.3%と最も高く、次いで「7時台」の割合が24.0%、「9時台」の割合が16.3%となっています。



帰宅する時刻

父親では、「18時～20時より前」の割合が37.5%と最も高く、次いで「20時～22時より前」の割合が32.4%、「22時以降」の割合が9.8%となっています。

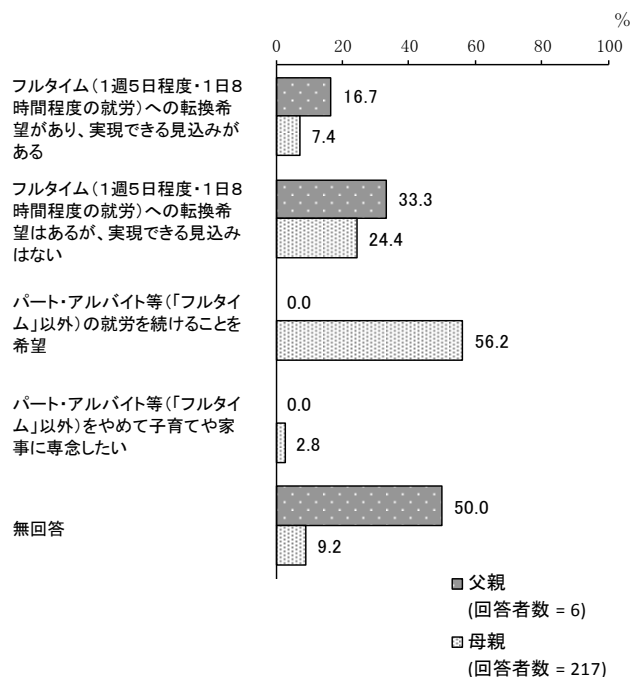
母親では、「18時～20時より前」の割合が37.9%と最も高く、次いで「16時～18時より前」の割合が27.0%、「12時～16時より前」の割合が25.2%となっています。



問12 問11で「3. 4.」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方にうかがいます。

父親では、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が2件、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある」が1件となっています。

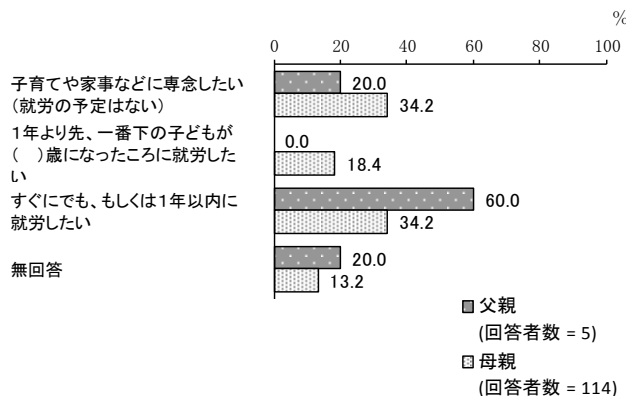
母親では、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」の割合が56.2%と最も高く、次いで「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が24.4%、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある」の割合が7.4%となっています。



問13 問11で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。

父親では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3件、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が1件となっています。

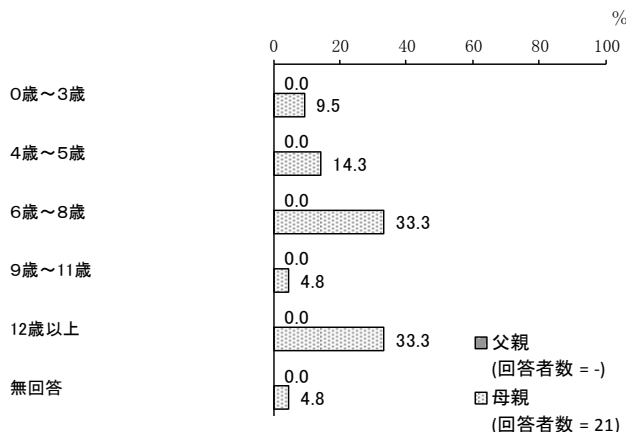
母親では、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が34.2%と最も高く、次いで「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」の割合が18.4%となっています。



就労希望時の末子の年齢

父親では、有効回答がありませんでした。

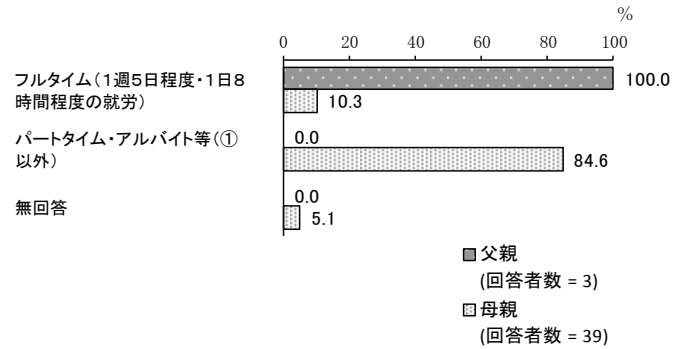
母親では、「6歳～8歳」、「12歳以上」の割合が33.3%と最も高く、次いで「4歳～5歳」の割合が14.3%となっています。



希望する就労形態

父親では、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が3件となっています。

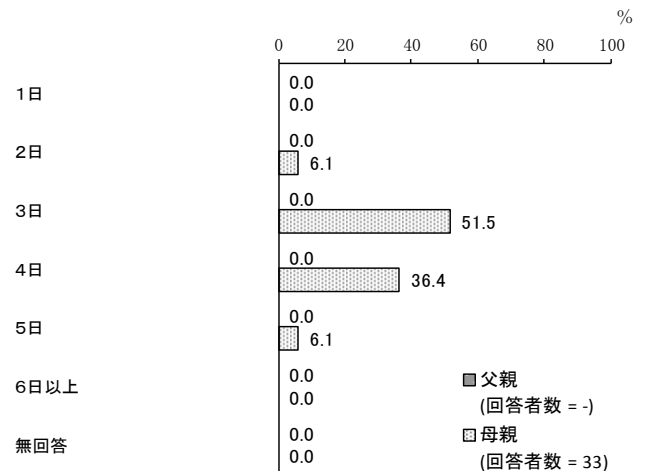
母親では、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」の割合が10.3%、「パートタイム・アルバイト等（①以外）」の割合が84.6%となっています。



希望就労日数（1週あたり）

父親では、有効回答がありませんでした。

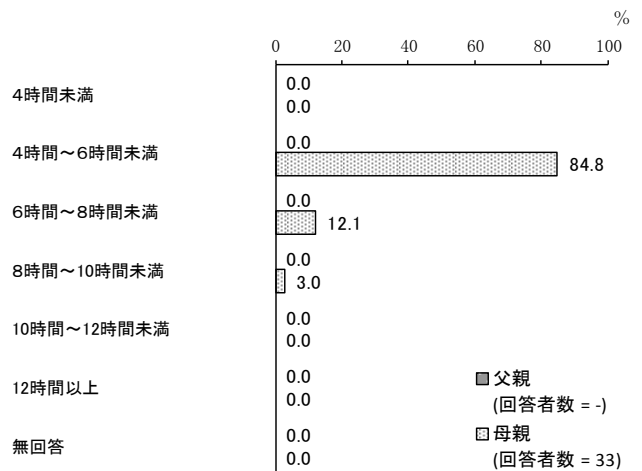
母親では、「3日」の割合が51.5%と最も高く、次いで「4日」の割合が36.4%、「2日」、「5日」の割合が6.1%となっています。



希望就労時間（1日あたり）

父親では、有効回答がありませんでした。

母親では、「4時間～6時間未満」の割合が84.8%と最も高く、次いで「6時間～8時間未満」の割合が12.1%、「8時間～10時間未満」の割合が3.0%となっています。

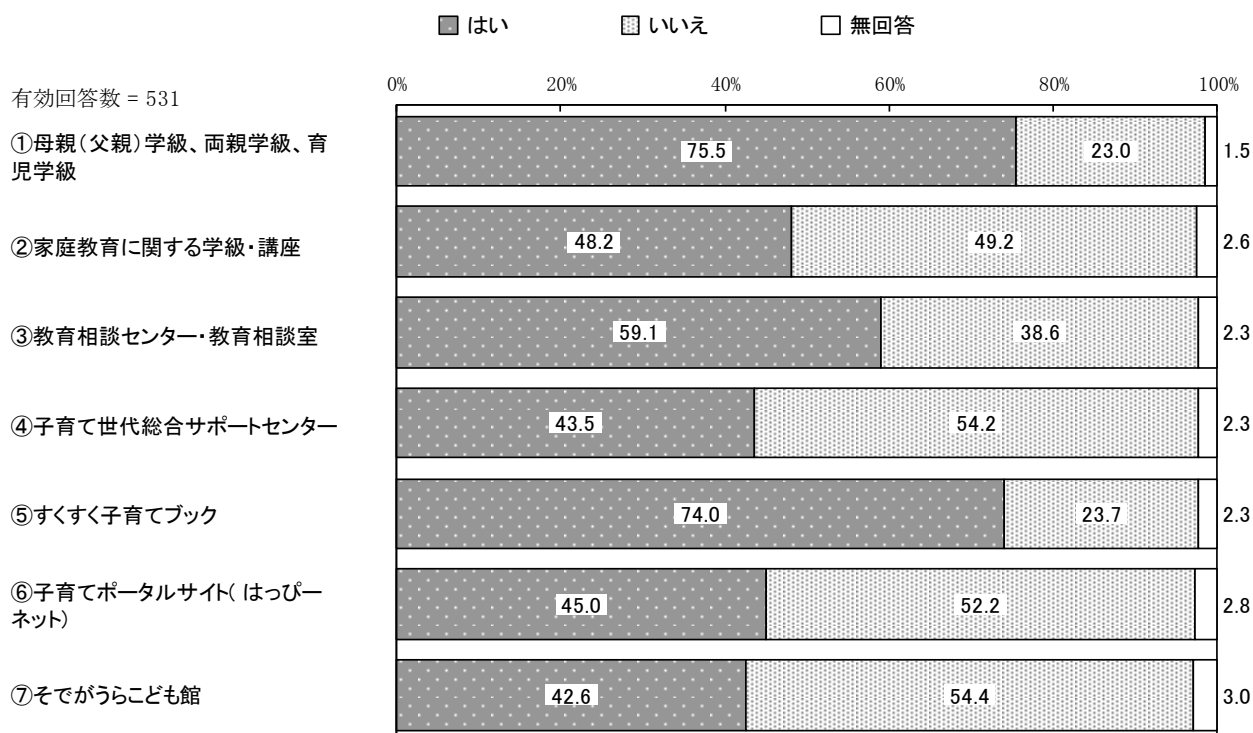


(4) お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について

問 14 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

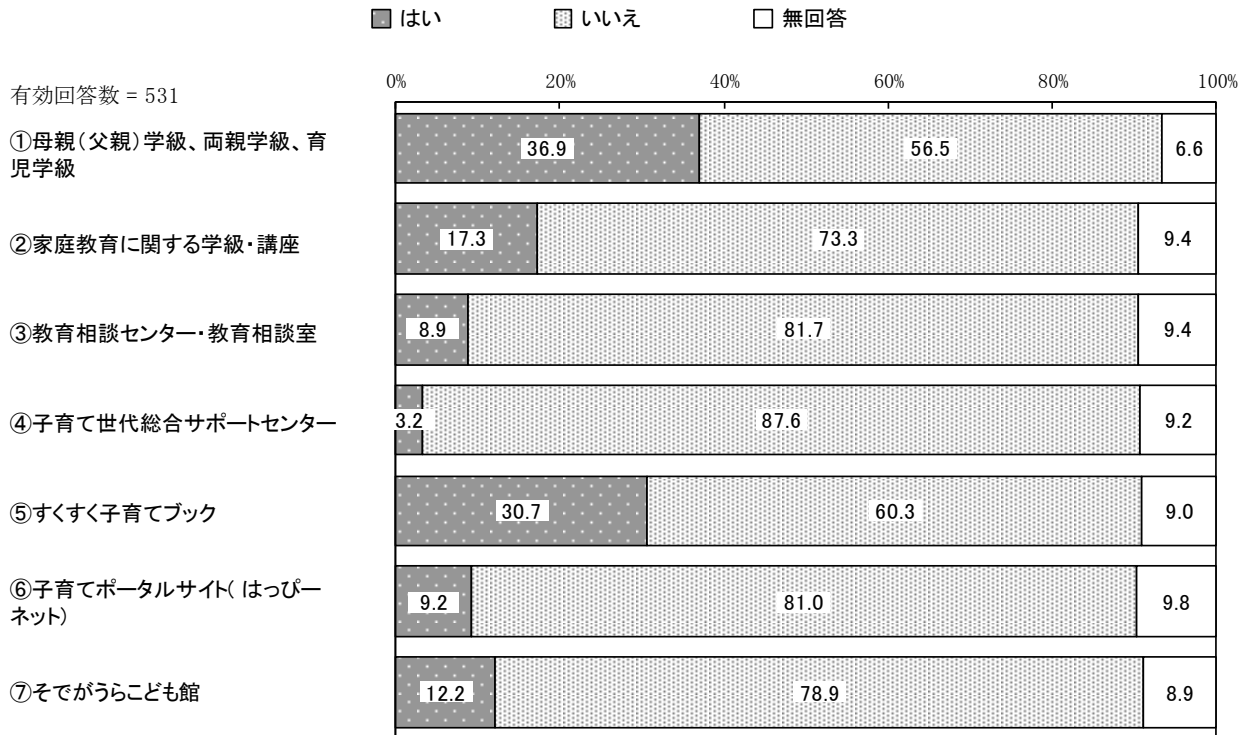
A 知っている

『①母親(父親)学級、両親学級、育児学級』、『⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放』で「はい」の割合が高くなっています。一方、『④子育て世代総合サポートセンター』、『⑥子育てポータルサイト(はっぴーネット)』、『⑦そでがうらこども館』で「いいえ」の割合が高くなっています。



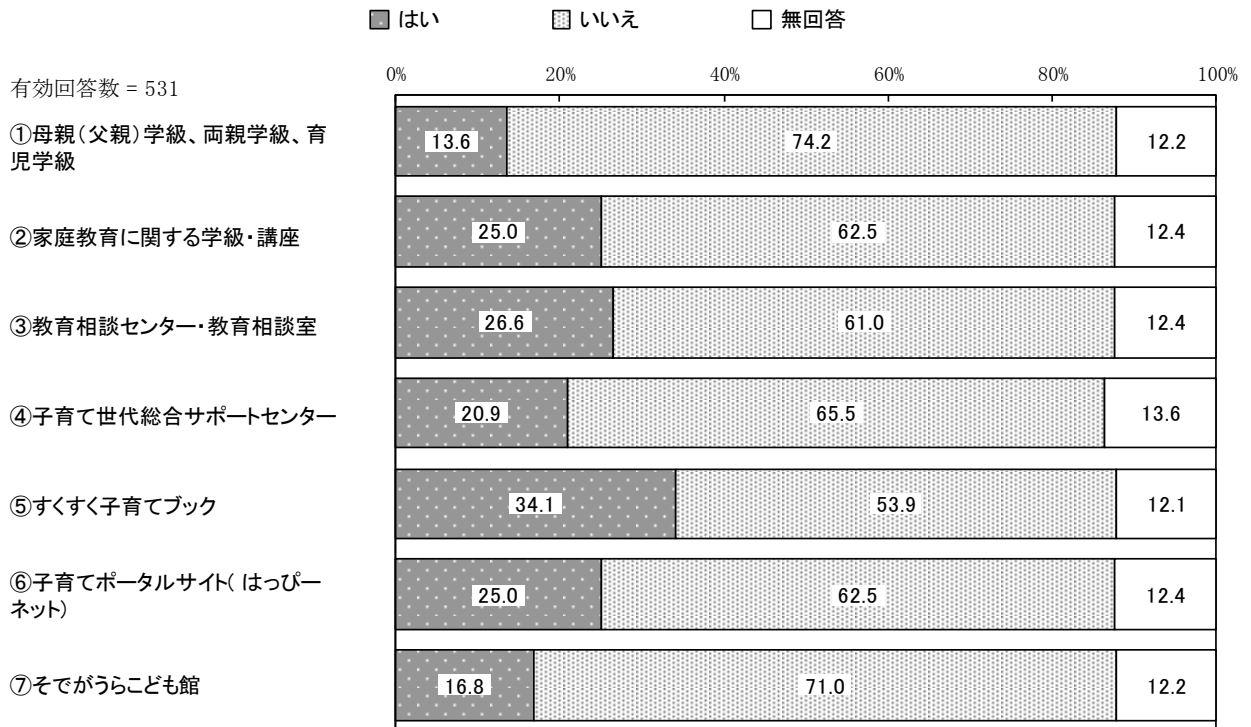
B これまでに利用したことがある

『①母親（父親）学級、両親学級、育児学級』、『⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放』で「はい」の割合が高くなっています。一方、『③教育相談センター・教育相談室』、『④子育て世代総合サポートセンター』、『⑥子育てポータルサイト（はっぴーネット）』で「いいえ」の割合が高くなっています。



C 今後利用したい

『⑤すくすく子育てブック』で「はい」の割合が高くなっています。一方、『①母親（父親）学級、両親学級、育児学級』、『⑦そでがうらこども館』で「いいえ」の割合が高くなっています。

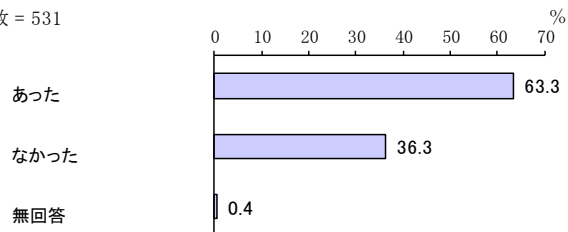


(5) お子さんの病気の際の対応について

問 15 この1年間に、お子さんが病気やケガで学校を休んだことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

「あった」の割合が63.3%、「なかった」の割合が36.3%となっています。

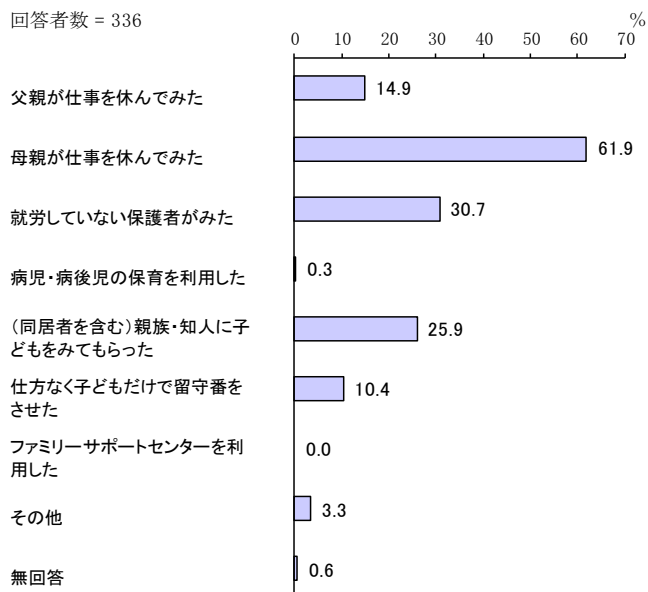
回答者数 = 531



問 15-1 宛名のお子さんが病気やけがで学校を休んだ場合に、この1年間に行った対処方法はどれになりますか。(あてはまる番号すべてに○)

「母親が仕事を休んでみた」の割合が61.9%と最も高く、次いで「就労していない保護者がみえた」の割合が30.7%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が25.9%となっています。

回答者数 = 336



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区で「父親が仕事を休んでみた」の割合が、平岡地区で「母親が仕事を休んでみた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	父親が仕事を休んでみた	母親が仕事を休んでみた	就労していない保護者がみた	病児・病後児の保育を利用した	（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった	仕方なく子どもだけ留守番をさせた	ファミリーサポートセンターを利用した	その他	無回答
昭和地区	102	13.7	62.7	32.4	1.0	29.4	8.8	—	3.9	—
葦波地区	88	15.9	56.8	36.4	—	27.3	9.1	—	2.3	2.3
長浦地区	50	22.0	66.0	18.0	—	20.0	10.0	—	2.0	—
根形地区	37	8.1	51.4	32.4	—	29.7	10.8	—	5.4	—
平岡地区	32	12.5	75.0	34.4	—	18.8	15.6	—	—	—
中川・富岡地区	24	16.7	66.7	20.8	—	20.8	16.7	—	8.3	—
その他	3	—	66.7	33.3	—	33.3	—	—	—	—

1年間の対処方法の日数

1年間の対処方法の日数としては、ほとんどすべての項目で「1日」の割合が最も高くなっています。

単位：%

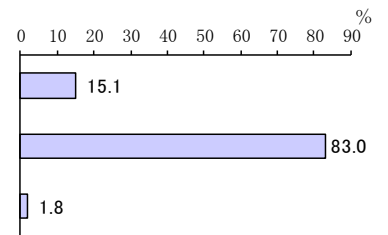
区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日 ～ 15日	16日 ～ 20日	21日 以上	無回答
1. 父親が仕事を休んでみた	50	50.0	30.0	10.0	2.0	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0
2. 母親が仕事を休んでみた	208	34.6	21.6	16.3	5.3	10.1	1.0	2.4	1.0	-	3.4	-	1.0	1.0	2.4
3. 就労していない保護者がみた	103	26.2	9.7	16.5	5.8	13.6	1.0	5.8	-	-	8.7	2.9	1.9	1.9	5.8
4. 病児・病後児の保育を利用した	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5. (同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった	87	33.3	20.7	23.0	3.4	11.5	1.1	-	-	-	2.3	-	1.1	1.1	2.3
6. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	35	51.4	8.6	14.3	11.4	5.7	-	2.9	-	-	2.9	2.9	-	-	-
7. ファミリーサポートセンターを利用した	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8. その他	11	54.5	-	27.3	-	9.1	-	-	-	-	-	-	9.1	-	-

問 15-2 問 15-1 で「1.」「2.」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。（あてはまる番号1つに○）

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が15.1%、「利用したいとは思わない」の割合が83.0%となっています。

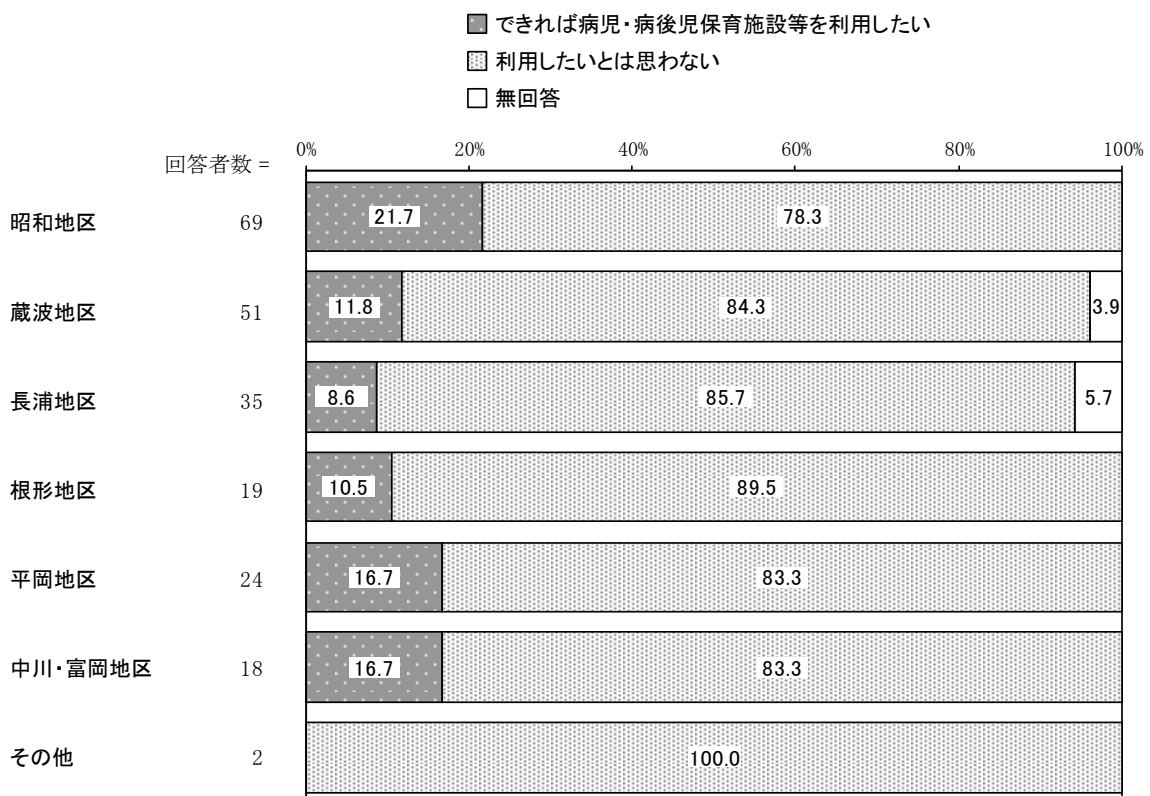
回答者数 = 218

できれば病児・病後児保育施設等を利用したい
 利用したいとは思わない
 無回答



【地区別】

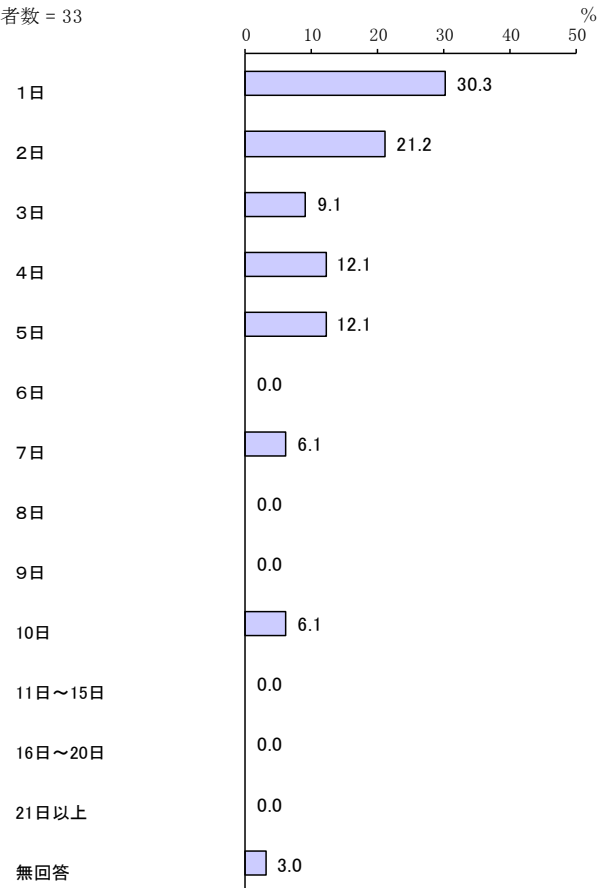
地区別でみると、他に比べ、昭和地区で「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が高くなっています。



子どもを預ける場合の望ましい希望日数

「1日」の割合が30.3%と最も高く、次いで「2日」の割合が21.2%、「4日」、「5日」の割合が12.1%となっています。

回答者数 = 33

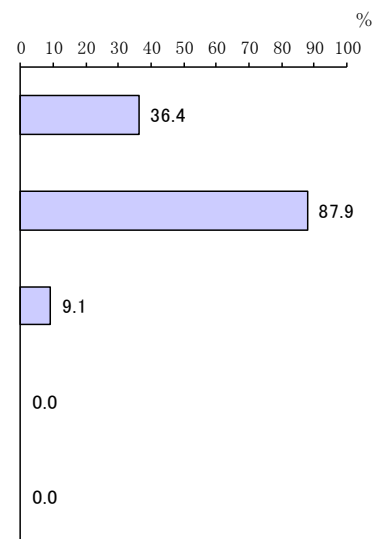


問 15-3 問 15-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方にうかがいます。上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。(あてはまる番号すべてに○)

「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が 87.9%と最も高く、次いで「他の施設(例:幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業」の割合が 36.4%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業(例:ファミリーサポートセンター等)」の割合が 9.1%となっています。

回答者数 = 33

- 他の施設(例:幼稚園・保育所等)に併設した施設で子どもを保育する事業
- 小児科に併設した施設で子どもを保育する事業
- 地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業(例:ファミリーサポートセンター等)
- その他
- 無回答

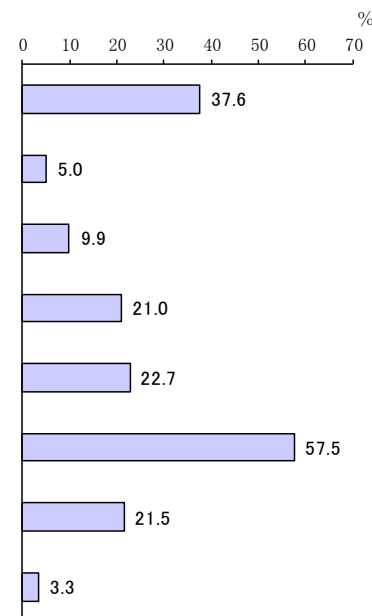


問 15-4 問 15-2 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方にうかがいます。そう思われる理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

「親が仕事を休んで対応する」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看ってもらうのは不安」の割合が 37.6%、「利用料がわからない」の割合が 22.7%となっています。

回答者数 = 181

- 病児・病後児を他人に看ってもらうのは不安
- 地域の事業の質に不安がある
- 地域の事業の利便性(立地や利用可能時間・日数など)がよい
- 利用料がかかる・高い
- 利用料がわからない
- 親が仕事を休んで対応する
- その他
- 無回答

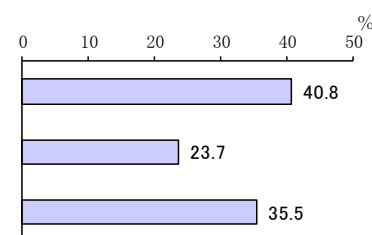


問 15-5 問 15-1 で「3. ~ 8.」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。(あてはまる番号1つに○)

「できれば仕事を休んで看たい」の割合が 40.8%、「休んで看ることは非常に難しい」の割合が 23.7%となっています。

回答者数 = 211

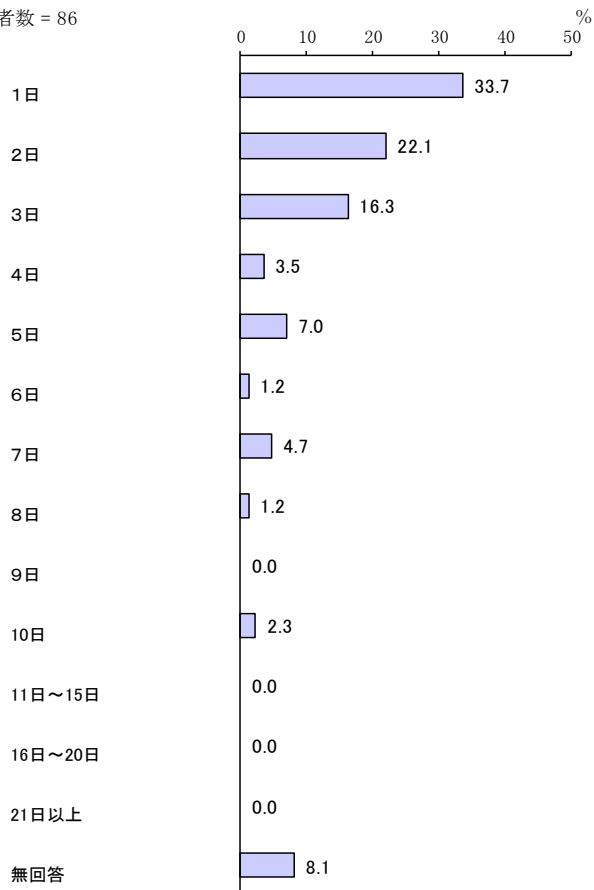
- できれば仕事を休んで看たい
- 休んで看ることは非常に難しい
- 無回答



仕事を休んで看たい日数

「1日」の割合が33.7%と最も高く、次いで「2日」の割合が22.1%、「3日」の割合が16.3%となっています。

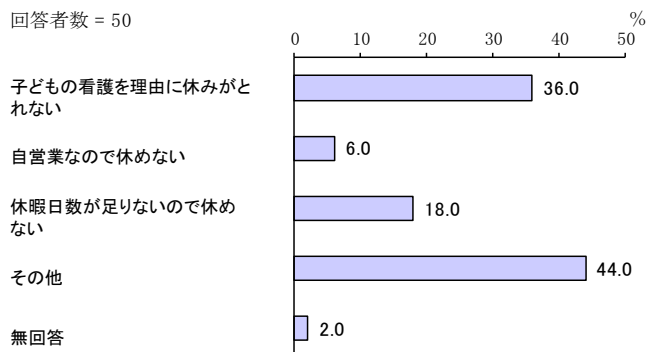
回答者数 = 86



問 15-6 問 15-5 で「2. 休んで看することは非常に難しい」に○をつけた方にうかがいます。そう思われる理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

「子どもの看護を理由に休みがとれない」の割合が36.0%と最も高く、次いで「休暇日数が足りないので休めない」の割合が18.0%、「自営業なので休めない」の割合が6.0%となっています。

回答者数 = 50

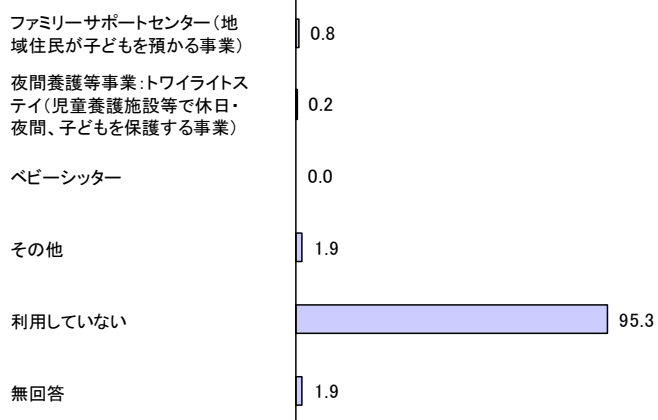


(6) お子さんの不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 16 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

回答者数 = 531

「利用していない」の割合が 95.3%と最も高く、次いで「ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）」の割合が 0.8%、「夜間養護等事業：トワイライトステイ（児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）」の割合が 0.2%となっています。



【地区別】

地区別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	ファミリーサポートセンター(地域住民が子どもを預かる事業)	夜間養護等事業・トワイライトステイ(児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業)	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答
昭和地区	155	1.9	—	—	1.3	96.1	0.6
葦波地区	135	0.7	0.7	—	1.5	94.1	3.0
長浦地区	76	—	—	—	—	98.7	1.3
根形地区	65	—	—	—	3.1	93.8	3.1
平岡地区	53	—	—	—	3.8	92.5	3.8
中川・富岡地区	41	—	—	—	4.9	95.1	—
その他	6	—	—	—	—	100.0	—

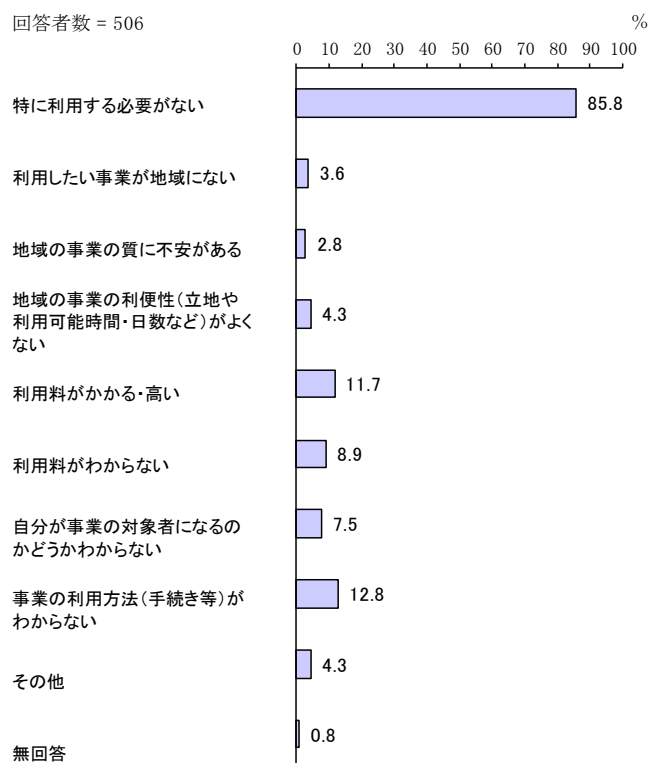
利用している事業の日数（年間）

単位：％

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日 ～ 15日	16日 ～ 20日	21日 以上	無回答
1. ファミリーサポートセンター	4	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	25.0
2. 夜間養護等事業：トワイライトステイ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
3. ベビーシッター	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. その他	10	-	-	10.0	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	60.0	20.0

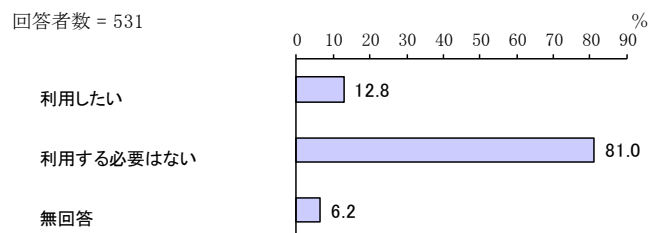
問 16-1 問 16 で「5. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。現在利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

「特に利用する必要がない」の割合が 85.8% と最も高く、次いで「事業の利用方法(手続き等)がわからない」の割合が 12.8%、「利用料がかかる・高い」の割合が 11.7%となっています。



問 17 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無・日数をお答えください。(あてはまる番号・丸数字すべてに○)

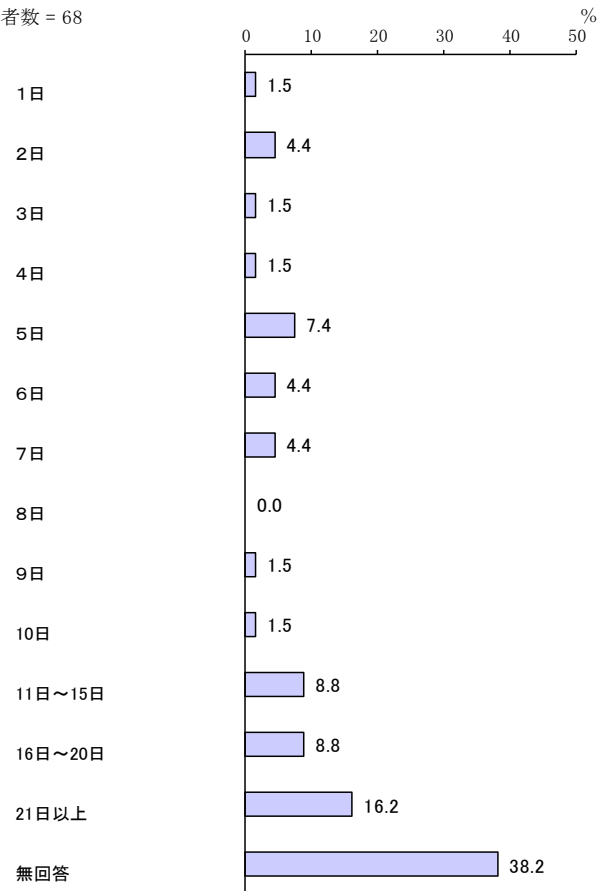
「利用したい」の割合が 12.8%、「利用する必要はない」の割合が 81.0%となっています。



利用希望年間合計日数

「21日以上」の割合が16.2%と最も高く、次いで「11日～15日」、「16日～20日」の割合が8.8%となっています。

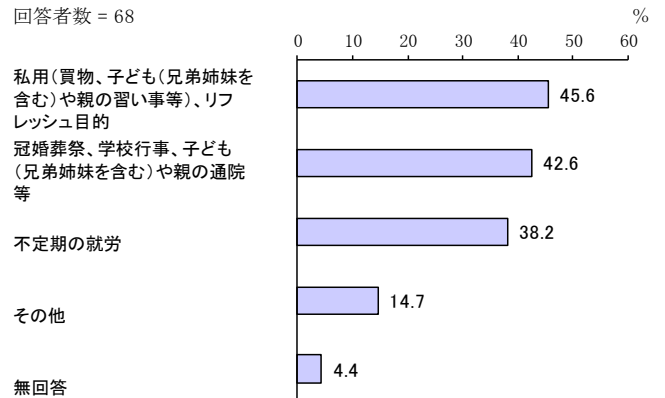
回答者数 = 68



1. 利用したい

「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」の割合が45.6%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等」の割合が42.6%、「不特定の就労」の割合が38.2%となっています。

回答者数 = 68



利用したい理由の日数（年間）

単位：％

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日 ～ 15日	16日 ～ 20日	21日 以上	無回答
①私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的	31	16.1	3.2	12.9	3.2	9.7	3.2	3.2	-	-	9.7	16.1	6.5	16.1	-
②冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等	29	17.2	13.8	13.8	-	24.1	-	17.2	-	-	3.4	3.4	3.4	3.4	-
③不定期の就労	26	11.5	11.5	7.7	7.7	3.8	3.8	-	-	-	15.4	7.7	19.2	11.5	-
④その他	10	10.0	10.0	10.0	-	10.0	-	-	-	-	20.0	10.0	10.0	20.0	-

問 17 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。(あてはまる番号すべてに○)

「小規模施設で子どもを預かる事業(例：地域子育て支援拠点等)」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「地域住民等が子育て家庭等近くの場所で保育する事業(例：ファミリーサポートセンター等)」の割合が 38.2%、「大規模施設で子どもを預かる事業(例：幼稚園・保育所等)」の割合が 27.9%となっています。

回答者数 = 68

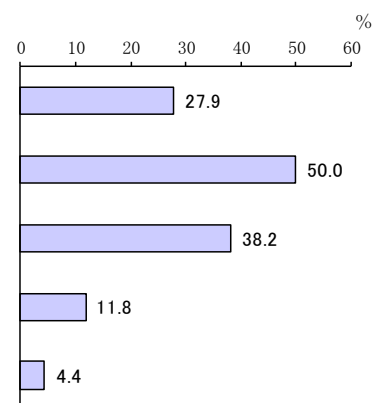
大規模施設で子どもを預かる事業(例：幼稚園・保育所等)

小規模施設で子どもを預かる事業(例：地域子育て支援拠点等)

地域住民等が子育て家庭等近くの場所で保育する事業(例：ファミリーサポートセンター等)

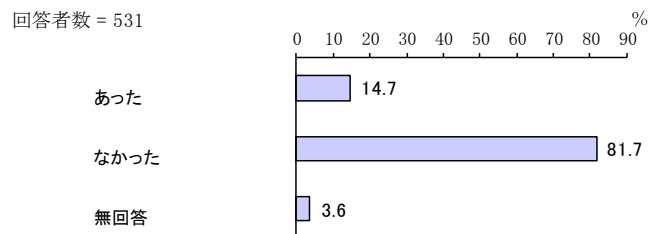
その他

無回答



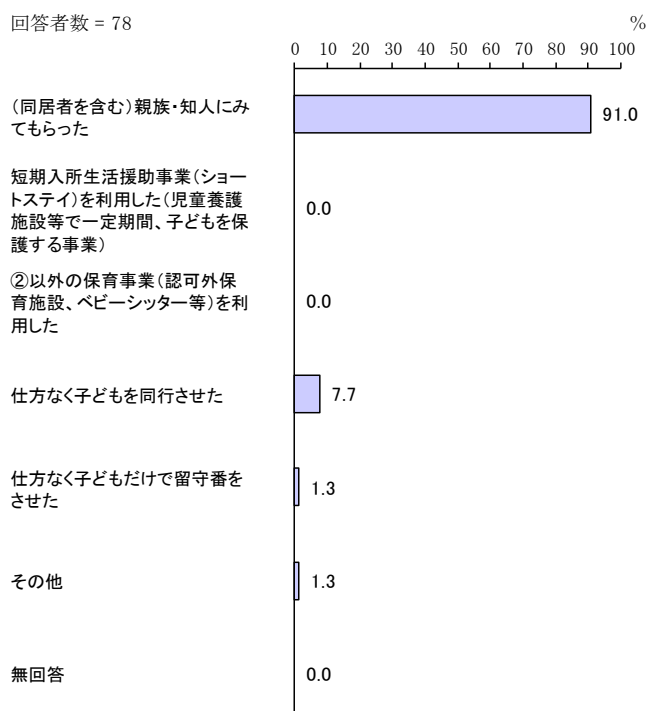
問 18 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。（あてはまる番号・丸数字すべてに○）

「あった」の割合が14.7%、「なかった」の割合が81.7%となっています。



1. あった

「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」の割合が91.0%と最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」の割合が7.7%、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」の割合が1.3%となっています。



対処方法の日数（年間）

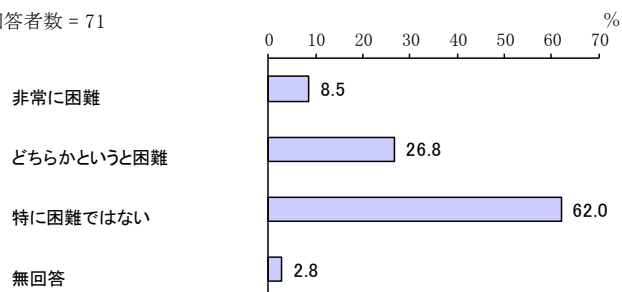
単位：％

区分	回答者数 (件)	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊	8泊	9泊	10泊	11泊 ～ 15泊	16泊 ～ 20泊	21泊 以上	無回答
①(同居者を含む)親族・知人にみてもらった	71	32.4	28.2	11.3	4.2	5.6	-	1.4	-	1.4	2.8	1.4	4.2	2.8	4.2
②短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した(児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③ショートステイ以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッター等)を利用した	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
④仕方なく子どもを同行させた	6	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7	-	-
⑤仕方なく子どもだけで留守番をさせた	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑥その他	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-

問 18-1 その場合の困難度はどの程度でしたか。(あてはまる番号1つに○)

「特に困難ではない」の割合が 62.0%と最も高く、次いで「どちらかという困難」の割合が 26.8%、「非常に困難」の割合が 8.5%となっています。

回答者数 = 71

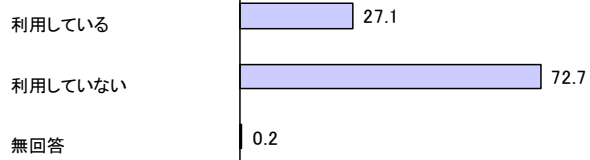


(7) お子さんの放課後の過ごし方の希望について

問 19 宛名のお子さんは放課後児童クラブ（学童保育）を利用していますか。（あてはまる番号 1 つに○）

「利用している」の割合が 27.1%、「利用していない」の割合が 72.7%となっています。

回答者数 = 531



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、年齢が低くなるにつれて「利用している」の割合が高くなる傾向にあります。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	利用している	利用していない	無回答
6歳(1年生)	112	34.8	65.2	—
7歳(2年生)	116	37.1	62.9	—
8歳(3年生)	92	29.3	70.7	—
9歳(4年生)	80	23.8	76.3	—
10歳(5年生)	57	15.8	84.2	—
11歳(6年生)	66	6.1	92.4	1.5

【母親の就労状況別】

母親の就労状況別でみると、他に比べ、『フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない』で「利用している」の割合が、『パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない』、『以前は就労していたが、現在は就労していない』、『これまで就労したことがない』で「利用していない」の割合が高くなっています。

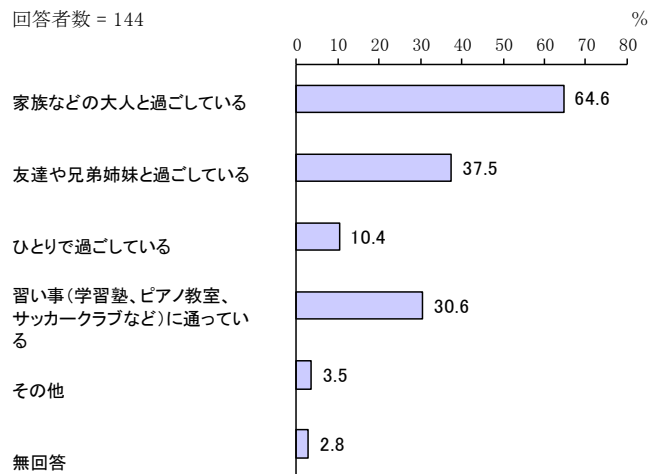
単位：%

区分	有効回答数 (件)	利用している	利用していない	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	184	51.6	48.4	—
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	3	100.0	—	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	217	19.8	79.7	0.5
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	—	—	—	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	101	1.0	99.0	—
これまで就労したことがない	13	7.7	92.3	—

問 19-1 問 19 で「1. 利用している」と回答した方に質問します。放課後児童クラブ（学童保育）を利用しない日はどのように過ごしていますか。主な過ごし方を2つまで記入してください。

「家族などの大人と過ごしている」の割合が64.6%と最も高く、次いで「友達や兄弟姉妹と過ごしている」の割合が37.5%、「習い事（学習塾、ピアノ教室、サッカークラブなど）に通っている」の割合が30.6%となっています。

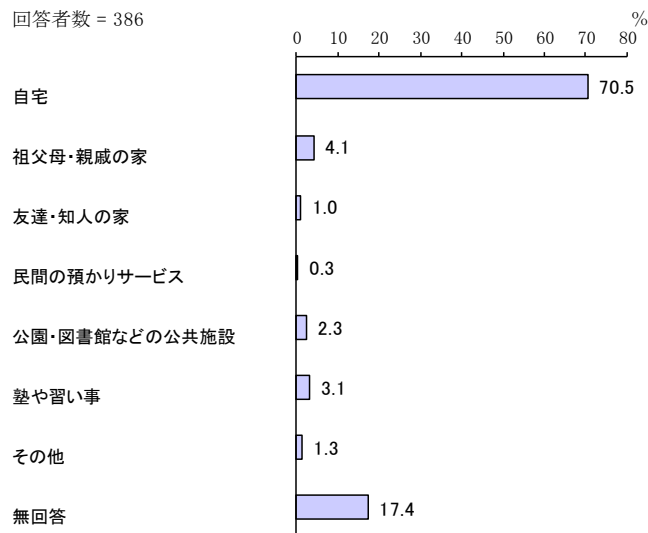
回答者数 = 144



問 19-2 問 19 で「2. 利用していない」と回答した方に質問します。お子さんは、放課後は主にどこで過ごしていますか。（あてはまる番号1つに○）

「自宅」の割合が70.5%と最も高く、次いで「祖父母・親戚の家」の割合が4.1%、「塾や習い事」の割合が3.1%となっています。

回答者数 = 386



問 20 お子さんは放課後子ども教室に登録していますか。(あてはまる番号1つに○)

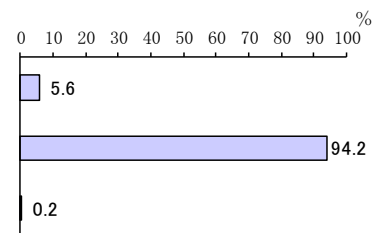
「登録している」の割合が 5.6%、「登録していない」の割合が 94.2%となっています。

回答者数 = 531

登録している

登録していない

無回答



【子どもの年齢別】

子どもの年齢別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	登録している	登録していない	無回答
6歳(1年生)	112	8.9	91.1	—
7歳(2年生)	116	8.6	91.4	—
8歳(3年生)	92	7.6	92.4	—
9歳(4年生)	80	1.3	98.8	—
10歳(5年生)	57	3.5	96.5	—
11歳(6年生)	66	—	98.5	1.5

【母親の就労状況別】

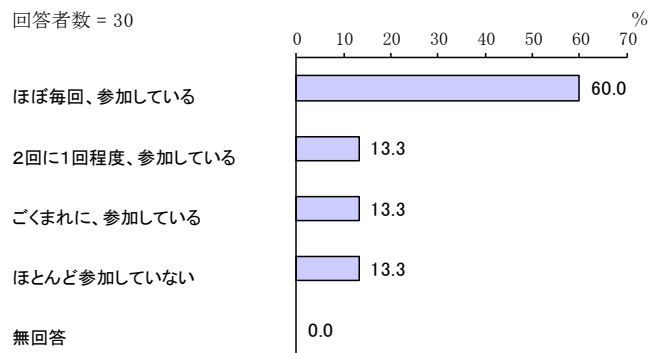
母親の就労状況別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	登録している	登録していない	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	184	6.0	94.0	—
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	3	33.3	66.7	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	217	5.5	94.0	0.5
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	—	—	—	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	101	5.0	95.0	—
これまで就労したことがない	13	—	100.0	—

問 20-1 問 20 で「1. 登録している」と回答した方に質問します。お子さんは放課後子ども教室にどのくらい参加していますか。(あてはまる番号 1 つに○)

「ほぼ毎回、参加している」の割合が 60.0% と最も高く、次いで「2回に1回程度、参加している」、「ごくまれに、参加している」、「ほとんど参加していない」の割合が 13.3% となっています。



【子どもの年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	ほぼ毎回、参加している	2回に1回程度、参加している	ごくまれに、参加している	ほとんど参加していない	無回答
6歳(1年生)	10	80.0	10.0	—	10.0	—
7歳(2年生)	10	70.0	20.0	—	10.0	—
8歳(3年生)	7	28.6	14.3	42.9	14.3	—
9歳(4年生)	1	100.0	—	—	—	—
10歳(5年生)	2	—	—	50.0	50.0	—
11歳(6年生)	—	—	—	—	—	—

【母親の就労状況別】

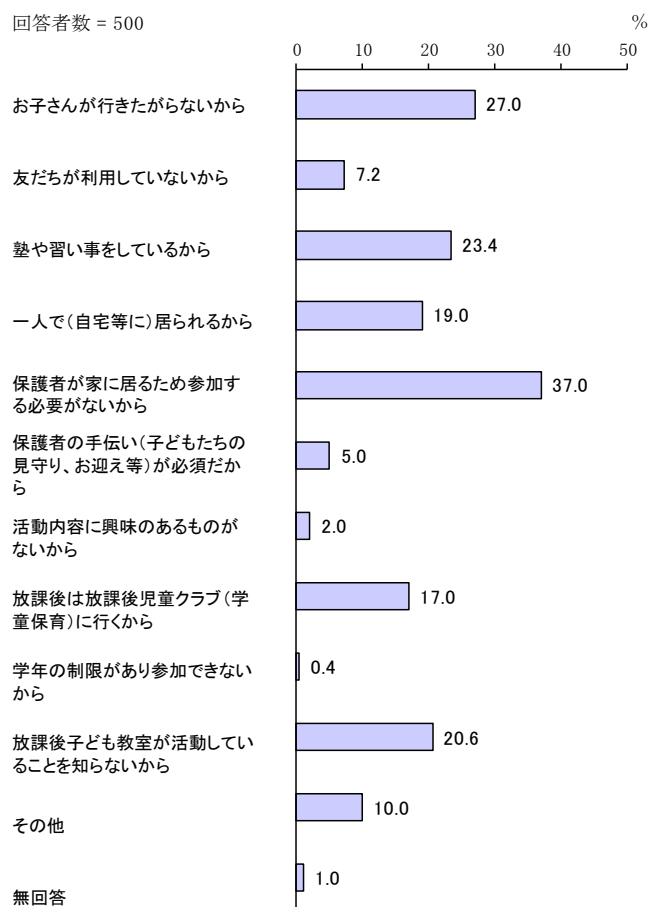
単位：%

区分	有効回答数 (件)	ほぼ毎回、参加している	2回に1回程度、参加している	ごくまれに、参加している	ほとんど参加していない	無回答
フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	11	27.3	27.3	27.3	18.2	—
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	1	—	100.0	—	—	—
パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	12	83.3	—	8.3	8.3	—
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	—	—	—	—	—	—
以前は就労していたが、現在は就労していない	5	80.0	—	—	20.0	—
これまで就労したことがない	—	—	—	—	—	—

問 20-2 問 20 で「2. 登録していない」と回答した方に質問します。登録しない理由は次のうちどれですか。(あてはまる番号3つまでに○)

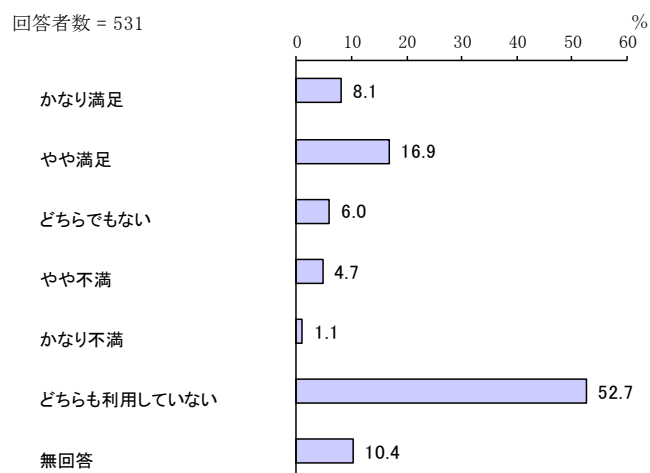
「保護者が家に居るため参加する必要がないから」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「お子さんが行きたがらないから」の割合が 27.0%、「塾や習い事をしているから」の割合が 23.4%となっています。

回答者数 = 500



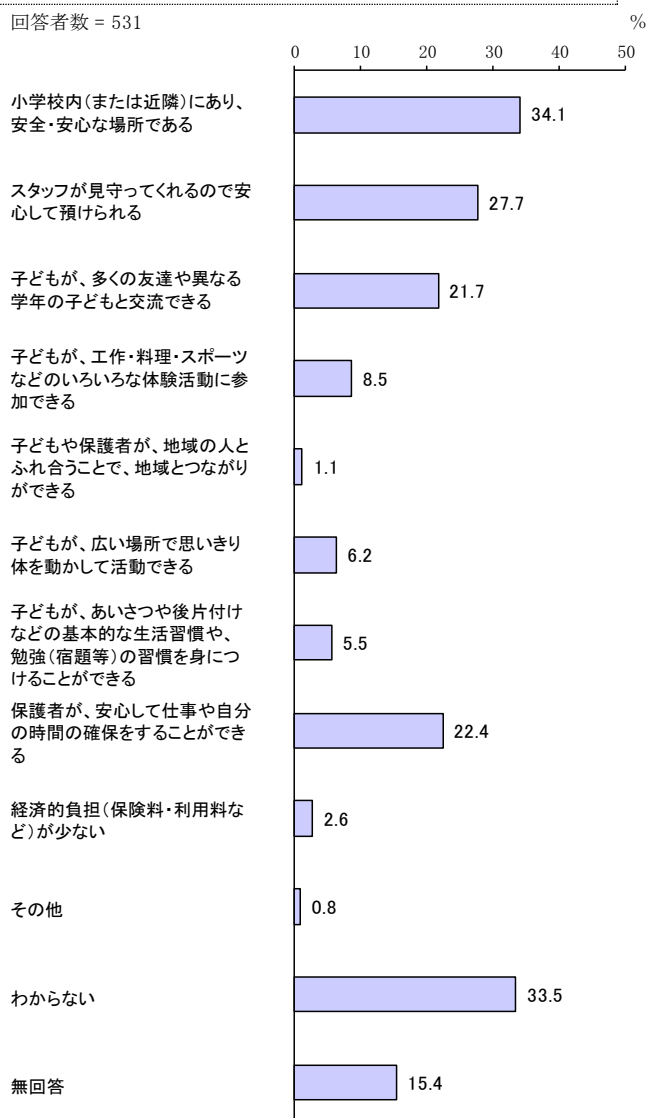
問 21 放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童保育）の満足度はどのくらいですか。（あてはまる番号 1 つに○）

「どちらも利用していない」の割合が 52.7%と最も高く、次いで「やや満足」の割合が 16.9%、「かなり満足」の割合が 8.1%となっています。



問 22 放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童保育）のよいところは何ですか。（あてはまる番号 3 つまでに○）

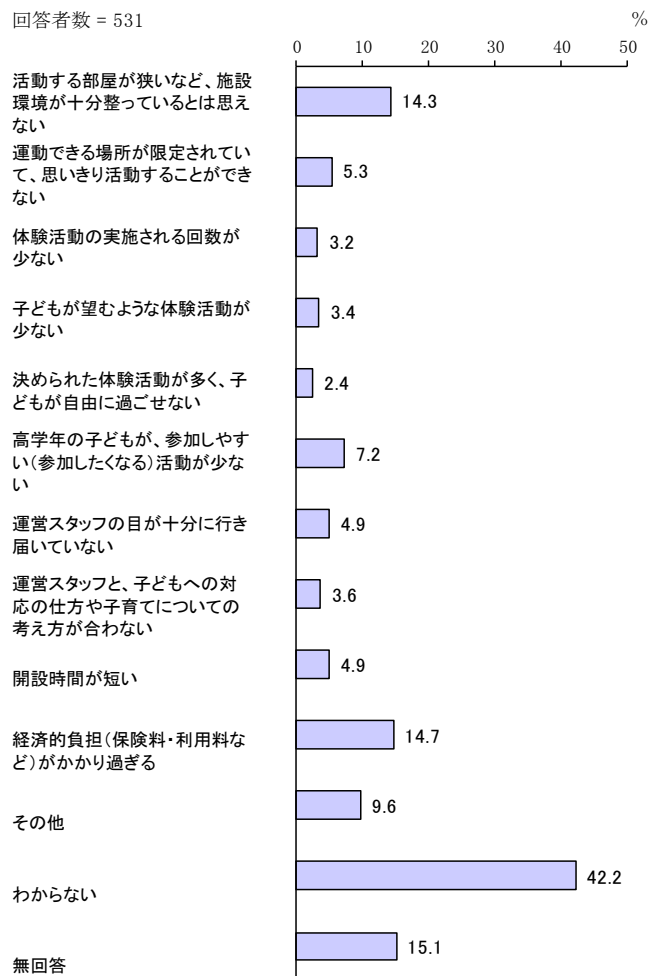
「小学校内（または近隣）にあり、安全・安心な場所である」の割合が 34.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 33.5%、「スタッフが見守ってくれるので安心して預けられる」の割合が 27.7%となっています。



問 23 放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童保育）の問題点は何ですか。（あてはまる番号3つまでに○）

「わからない」の割合が42.2%と最も高く、次いで「経済的負担（保険料・利用料など）がかかり過ぎる」の割合が14.7%、「活動する部屋が狭いなど、施設環境が十分整っているとは思えない」の割合が14.3%となっています。

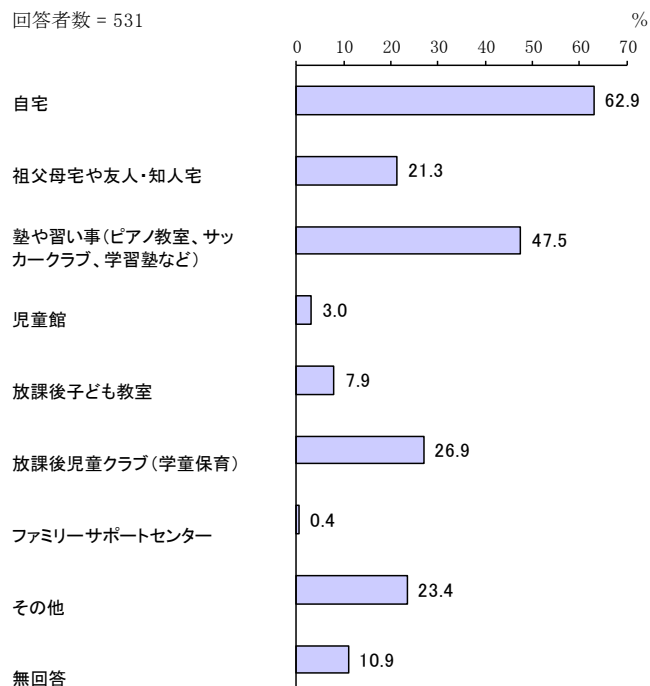
回答者数 = 531



問 24 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうち、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

「自宅」の割合が62.9%と最も高く、次いで「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が47.5%、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が26.9%となっています。

回答者数 = 531



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区で「児童館」の割合が、平岡地区で「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が高くなっています。また、中川・富岡地区で「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	児童館	放課後子ども教室	放課後児童クラブ（学童保育）	ファミリーサポートセンター	その他	無回答
昭和地区	155	58.7	20.0	49.0	2.6	10.3	31.6	0.6	27.7	7.1
葦波地区	135	62.2	21.5	51.9	1.5	8.9	25.9	—	27.4	12.6
長浦地区	76	69.7	19.7	55.3	10.5	7.9	25.0	—	28.9	9.2
根形地区	65	69.2	23.1	47.7	—	9.2	24.6	1.5	13.8	10.8
平岡地区	53	56.6	28.3	30.2	1.9	—	32.1	—	11.3	15.1
中川・富岡地区	41	61.0	19.5	39.0	2.4	2.4	17.1	—	14.6	19.5
その他	6	100.0	—	16.7	—	16.7	—	—	16.7	—

平日の放課後の利用希望場所の週当たり日数

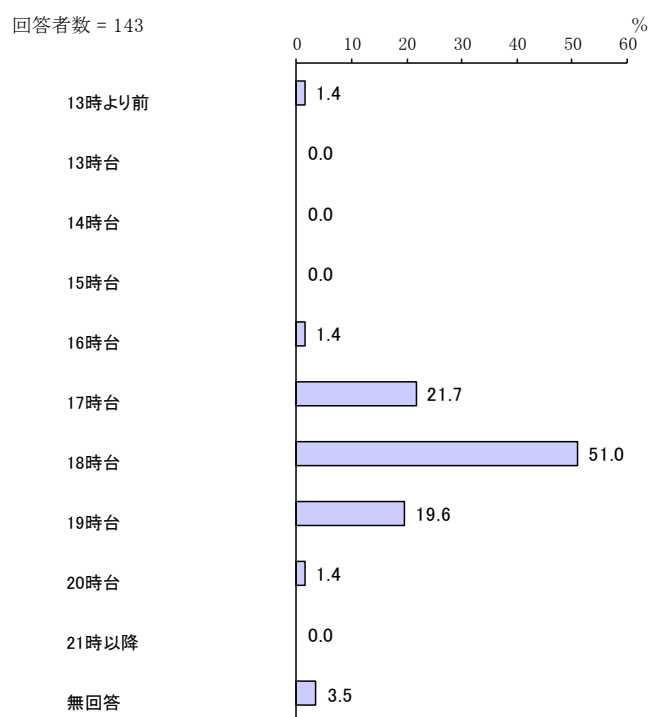
平日の利用希望場所の週当たり日数として、『2. 祖父母宅や友人・知人宅』『4. 児童館』『5. 放課後子ども教室』で「1日」の割合が、『1. 自宅』で「3日」の割合が、『6. 放課後児童クラブ（学童保育）』で「5日」の割合が最も高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	無回答
1. 自宅	334	10.5	21.6	26.3	11.4	27.9	2.4
2. 祖父母宅や友人・知人宅	113	50.4	30.1	9.7	-	5.3	4.4
3. 塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	252	42.1	39.7	11.5	3.6	1.6	1.6
4. 児童館	16	68.8	12.5	18.8	-	-	-
5. 放課後子ども教室	42	66.7	19.0	11.9	-	2.4	-
6. 放課後児童クラブ(学童保育)	143	7.7	9.1	18.9	16.1	47.6	0.7
7. ファミリーサポートセンター	2	-	-	100.0	-	-	-
8. その他	124	29.8	35.5	22.6	2.4	7.3	2.4

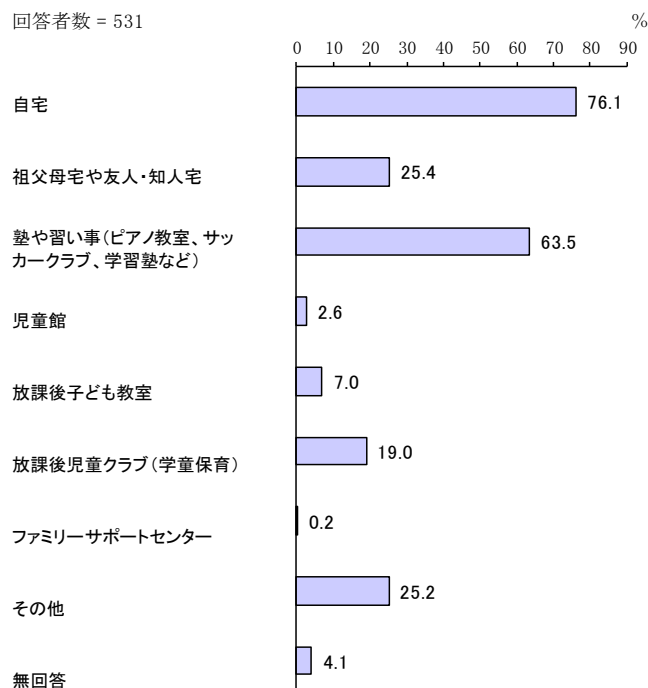
放課後児童クラブ（学童保育）の下校時からの希望時刻

「18 時台」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 21.7%、「19 時台」の割合が 19.6%となっています。



問 25 宛名のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

「自宅」の割合が 76.1%と最も高く、次いで「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が 63.5%、「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が 25.4%となっています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、長浦地区で「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」「児童館」の割合が、根形地区で「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が、平岡地区で「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	児童館	放課後子ども教室	放課後児童クラブ(学童保育)	ファミリーサポートセンター	その他	無回答
昭和地区	155	71.0	21.9	65.2	2.6	6.5	23.2	0.6	29.0	4.5
蔵波地区	135	77.0	27.4	66.7	1.5	10.4	14.1	—	32.6	6.7
長浦地区	76	78.9	19.7	73.7	9.2	5.3	18.4	—	25.0	5.3
根形地区	65	84.6	36.9	56.9	1.5	9.2	16.9	—	20.0	—
平岡地区	53	69.8	26.4	50.9	—	1.9	28.3	—	9.4	1.9
中川・富岡地区	41	78.0	26.8	61.0	—	4.9	14.6	—	14.6	2.4
その他	6	100.0	—	16.7	—	—	—	—	33.3	—

平日の放課後の利用希望場所の週当たり日数

平日の利用希望場所の週当たり日数として、『4. 児童館』『5. 放課後子ども教室』で「1日」の割合が、『1. 自宅』『2. 祖父母宅や友人・知人宅』『3. 塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）』で「2日」の割合が、『6. 放課後児童クラブ（学童保育）』で「3日」の割合が最も高くなっています。

単位：％

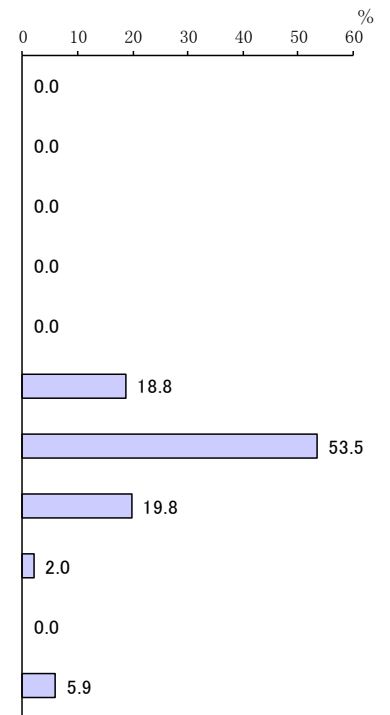
区分	回答者数 (件)	1日	2日	3日	4日	5日	無回答
1. 自宅	404	13.4	24.5	23.8	10.9	23.8	3.7
2. 祖父母宅や友人・知人宅	135	41.5	43.0	6.7	1.5	3.7	3.7
3. 塾や習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	337	27.9	46.9	16.6	4.5	2.4	1.8
4. 児童館	14	57.1	14.3	28.6	-	-	-
5. 放課後子ども教室	37	70.3	8.1	13.5	2.7	5.4	-
6. 放課後児童クラブ(学童保育)	101	11.9	20.8	36.6	9.9	18.8	2.0
7. ファミリーサポートセンター	1	-	-	100.0	-	-	-
8. その他	134	29.1	38.1	18.7	4.5	6.7	3.0

放課後児童クラブ（学童保育）の下校時からの希望時刻

「18 時台」の割合が 53.5%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 19.8%、「17 時台」の割合が 18.8%となっています。

回答者数 = 101

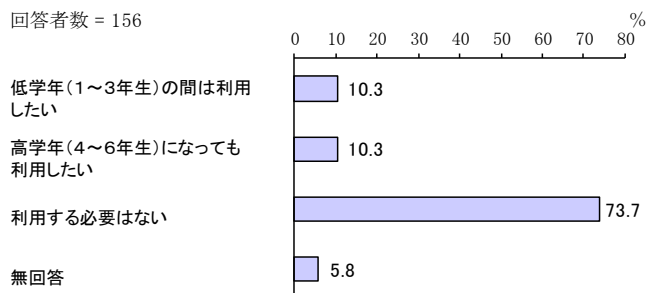
13時より前
13時台
14時台
15時台
16時台
17時台
18時台
19時台
20時台
21時以降
無回答



問 26 問 24 または問 25 で「6. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方にうかがいます。宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望はありますか。（それぞれについて、あてはまる番号 1 つに○）

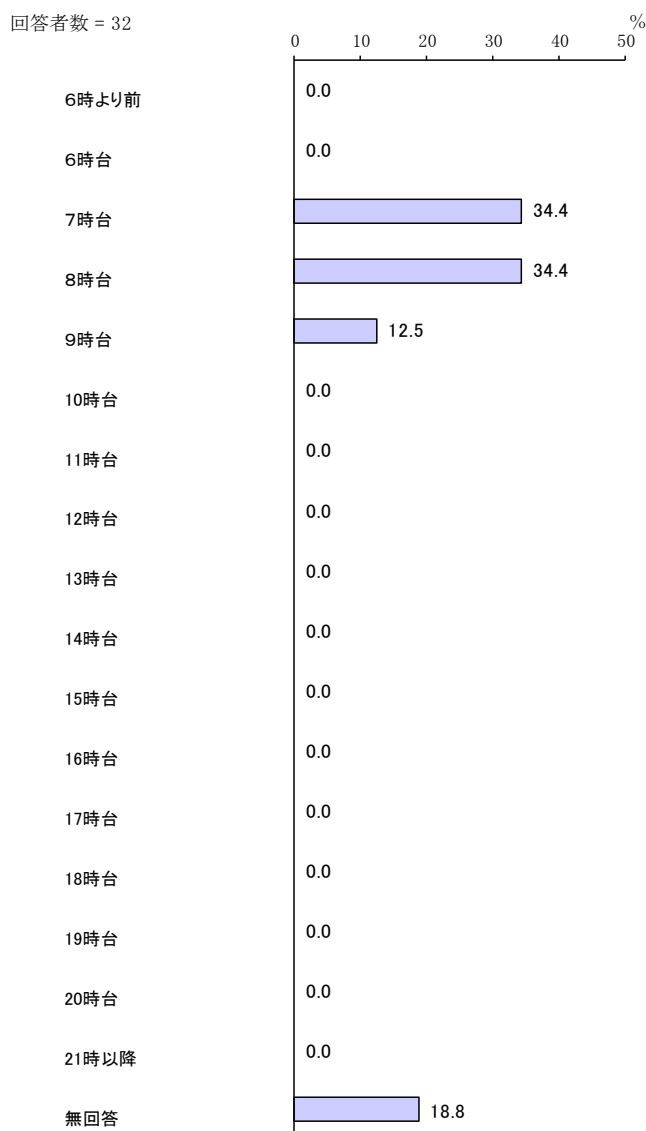
土曜日

「利用する必要はない」の割合が 73.7%と最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が 10.3%となっています。



土曜日の希望利用開始時間

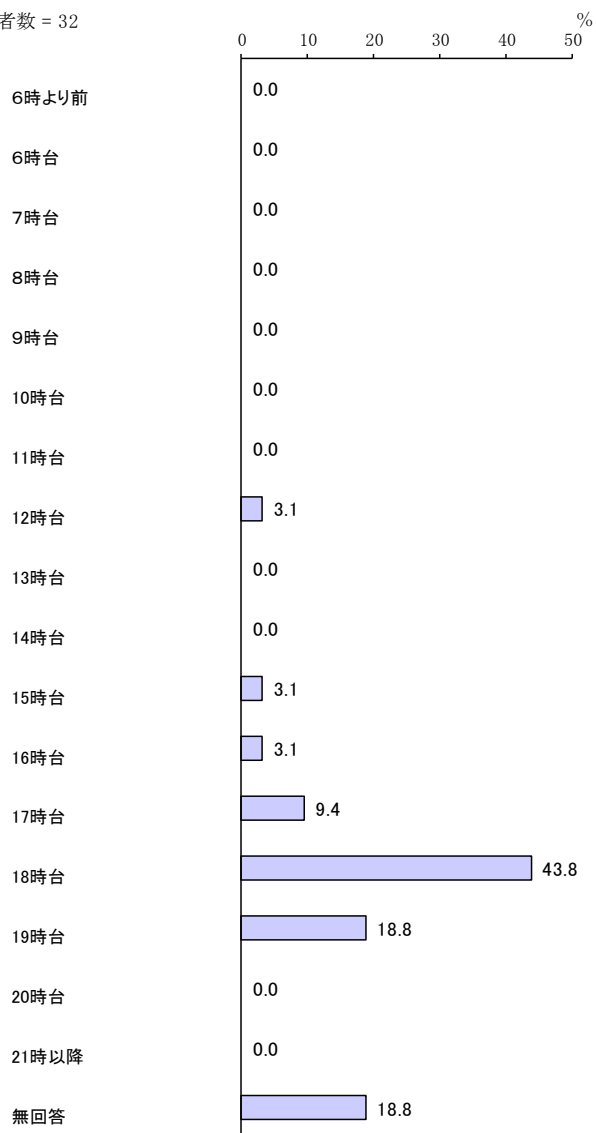
「7時台」、「8時台」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「9時台」の割合が 12.5%となっています。



土曜日の希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 43.8%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 18.8%、「17 時台」の割合が 9.4%となっています。

回答者数 = 32



日曜・祝日

「利用する必要はない」の割合が 80.8%と最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が 9.0%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が 3.2%となっています。

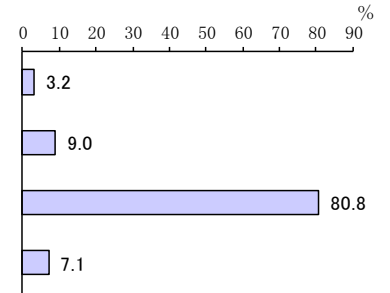
回答者数 = 156

低学年(1～3年生)の間は利用したい

高学年(4～6年生)になっても利用したい

利用する必要はない

無回答



日曜・祝日の希望利用開始時間

「7時台」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「8時台」の割合が 31.6%、「9時台」の割合が 15.8%となっています。

回答者数 = 19

6時より前

6時台

7時台

8時台

9時台

10時台

11時台

12時台

13時台

14時台

15時台

16時台

17時台

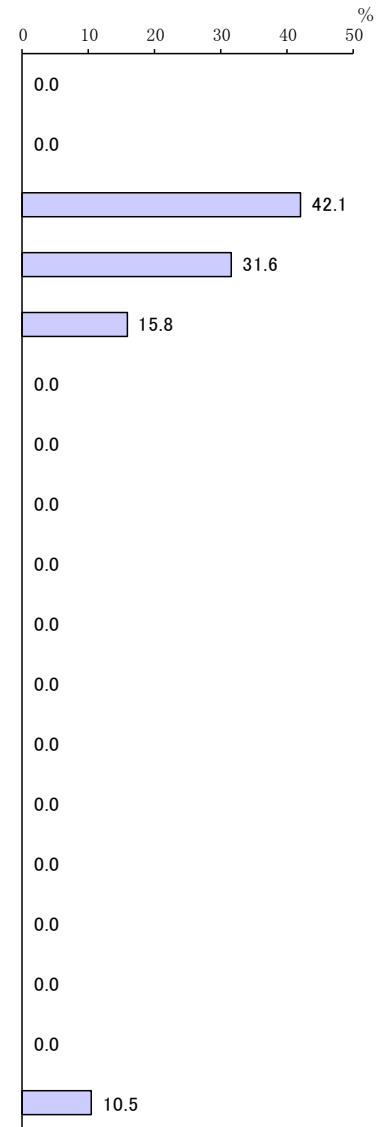
18時台

19時台

20時台

21時以降

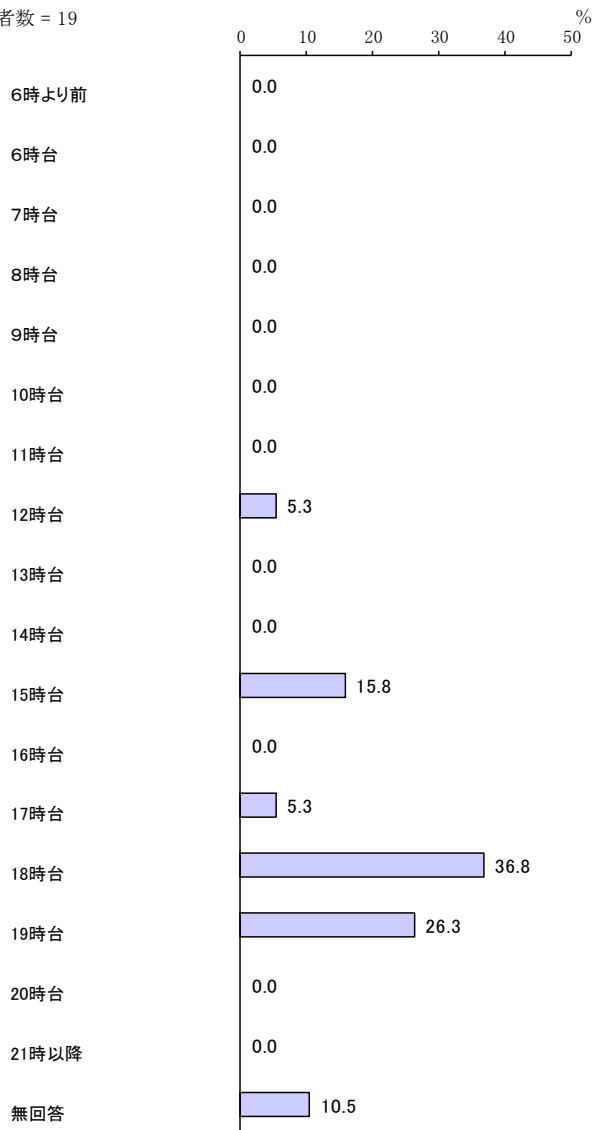
無回答



日曜・祝日の希望利用終了時間

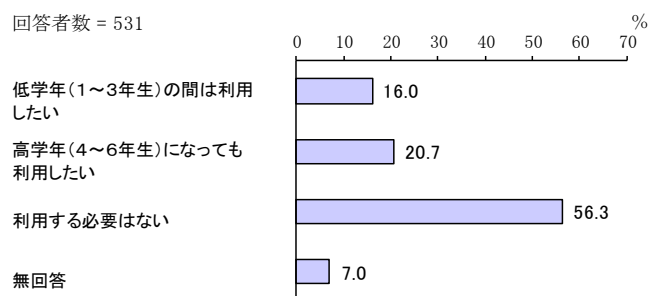
「18 時台」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「19 時台」の割合が 26.3%、「15 時台」の割合が 15.8%となっています。

回答者数 = 19



問 27 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）

「利用する必要はない」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が 20.7%、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」の割合が 16.0%となっています。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、平岡地区で「高学年（4～6年生）になっても利用したい」の割合が高くなっています。

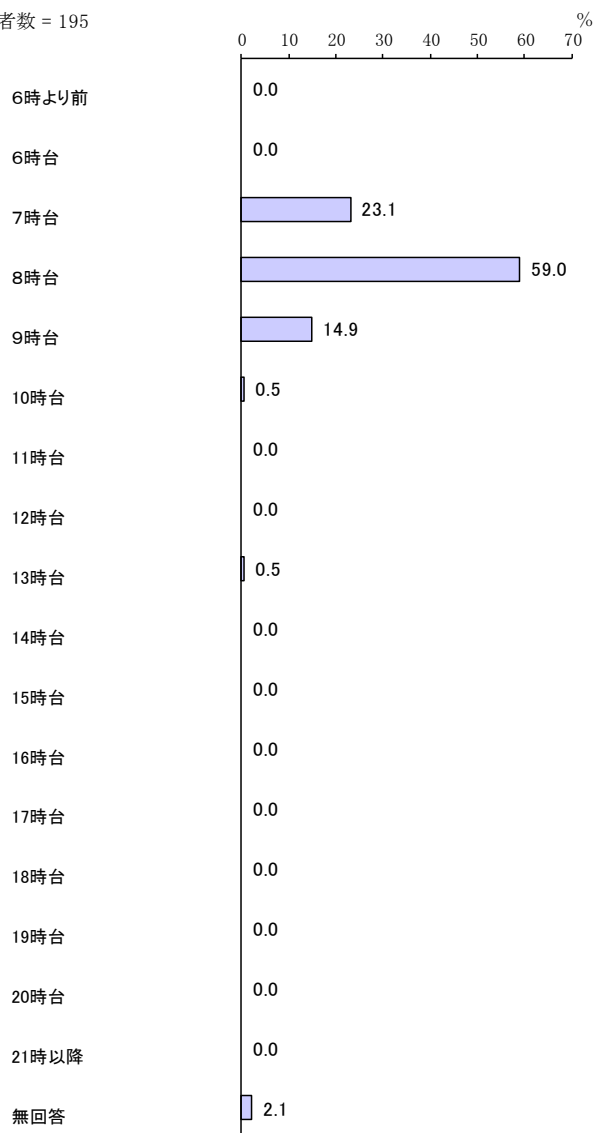
単位：%

区分	有効回答数(件)	低学年(1～3年生)の間は利用したい	高学年(4～6年生)になっても利用したい	利用する必要はない	無回答
昭和地区	155	18.1	25.2	49.7	7.1
蔵波地区	135	21.5	14.1	56.3	8.1
長浦地区	76	13.2	19.7	61.8	5.3
根形地区	65	7.7	18.5	64.6	9.2
平岡地区	53	13.2	30.2	50.9	5.7
中川・富岡地区	41	14.6	22.0	58.5	4.9
その他	6	—	—	100.0	—

長期休暇中の希望利用開始時間

「8時台」の割合が59.0%と最も高く、次いで「7時台」の割合が23.1%、「9時台」の割合が14.9%となっています。

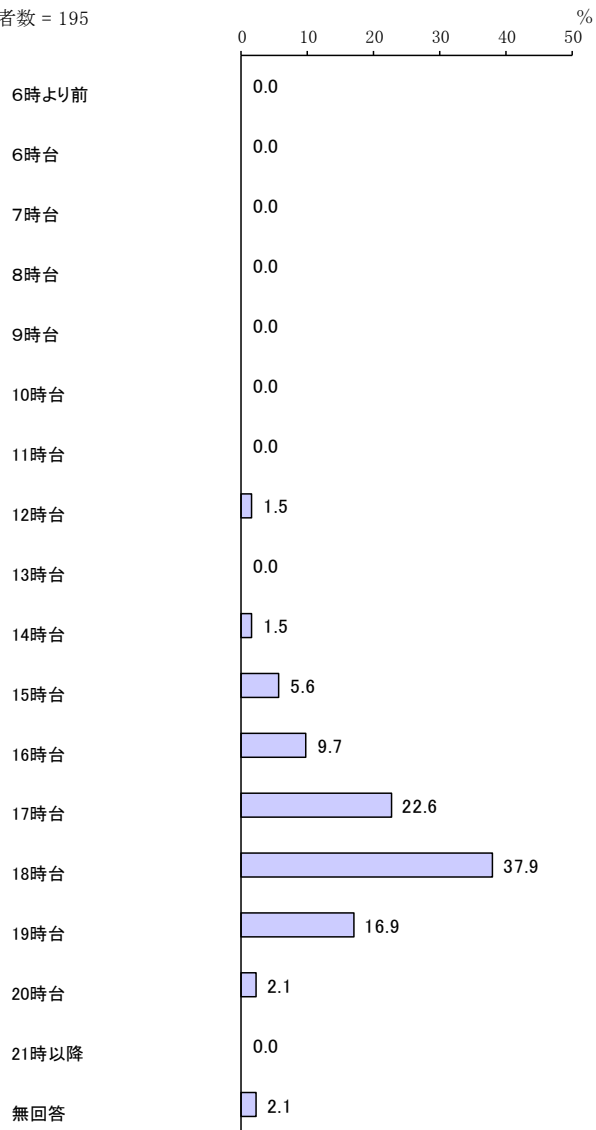
回答者数 = 195



長期休暇中の希望利用終了時間

「18 時台」の割合が 37.9%と最も高く、次いで「17 時台」の割合が 22.6%、「19 時台」の割合が 16.9%となっています。

回答者数 = 195

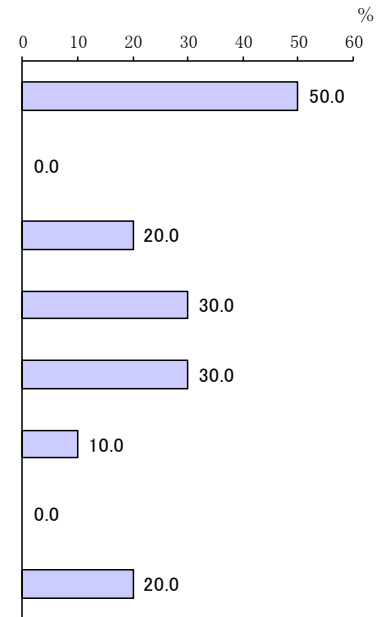


問28 問24または問25で「5. 放課後子ども教室」と「6. 放課後児童クラブ（学童保育）」の両方に○をつけた方にうかがいます。放課後児童クラブ（学童保育）を希望しながら、放課後子ども教室の利用を希望する理由は次のうちどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

「放課後児童クラブ（学童保育）が利用できない時に利用したいから」の割合が50.0%と最も高く、次いで「地域の人とふれ合うことで、地域とつながりができるから」、「子どもが、広い場所で思いきり体を動かして活動できるから」の割合が30.0%となっています。

回答者数 = 10

- 放課後児童クラブ（学童保育）が利用できない時に利用したいから
- 放課後子ども教室を友だちが利用しているから
- 放課後子ども教室の活動内容に興味があるから
- 地域の人とふれ合うことで、地域とつながりができるから
- 子どもが、広い場所で思いきり体を動かして活動できるから
- 自由に遊べるから
- その他
- 無回答

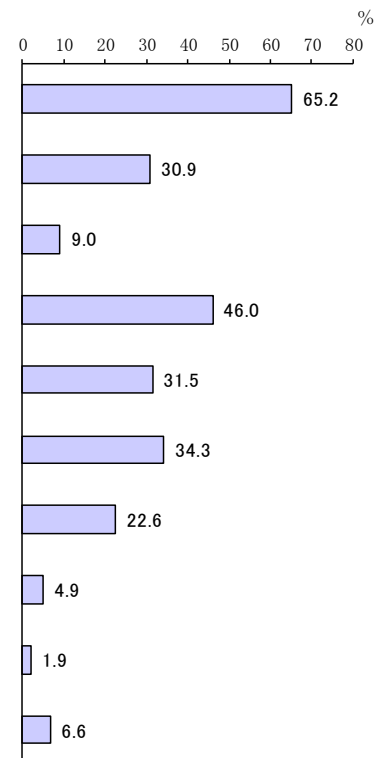


問29 お子さんの放課後に必要と思うものは次のうちどれですか（あてはまる番号3つまでに○）

「大人の見守りによる安全・安心な居場所」の割合が65.2%と最も高く、次いで「自由遊び」の割合が46.0%、「学力を高めるための学習支援（算数や英語など。宿題は除く）」の割合が34.3%となっています。

回答者数 = 531

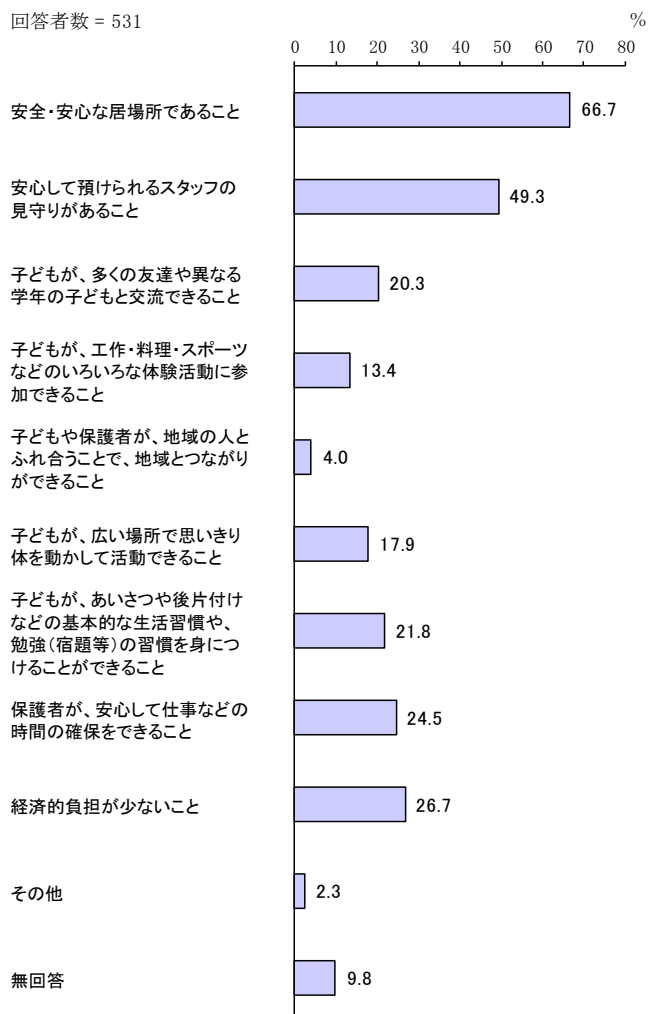
- 大人の見守りによる安全・安心な居場所
- 学びのきっかけとなる体験活動（スポーツや文化芸術活動など）
- 将来の職業の参考になる体験活動
- 自由遊び
- 宿題の支援
- 学力を高めるための学習支援（算数や英語など。宿題は除く）
- 運動系の習い事
- 音楽系の習い事
- その他
- 無回答



問 30 放課後子ども教室や放課後児童クラブ(学童保育)に期待することは何ですか。(あてはまる番号3つまでに○)

「安全・安心な居場所であること」の割合が66.7%と最も高く、次いで「安心して預けられるスタッフの見守りがあること」の割合が49.3%、「経済的負担が少ないこと」の割合が26.7%となっています。

回答者数 = 531

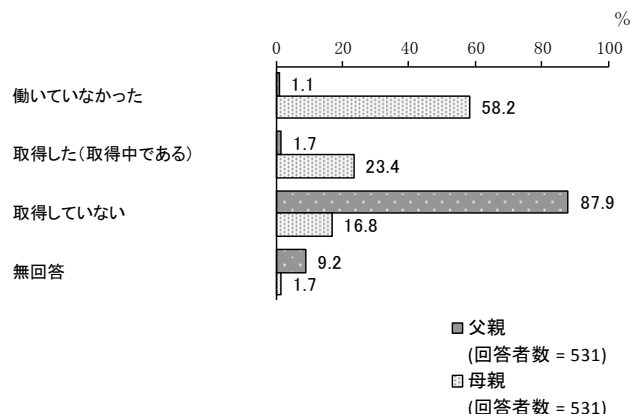


(8) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問31 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。(母親、父親それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

父親では、「取得していない」の割合が87.9%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」の割合が1.7%、「働いていなかった」の割合が1.1%となっています。

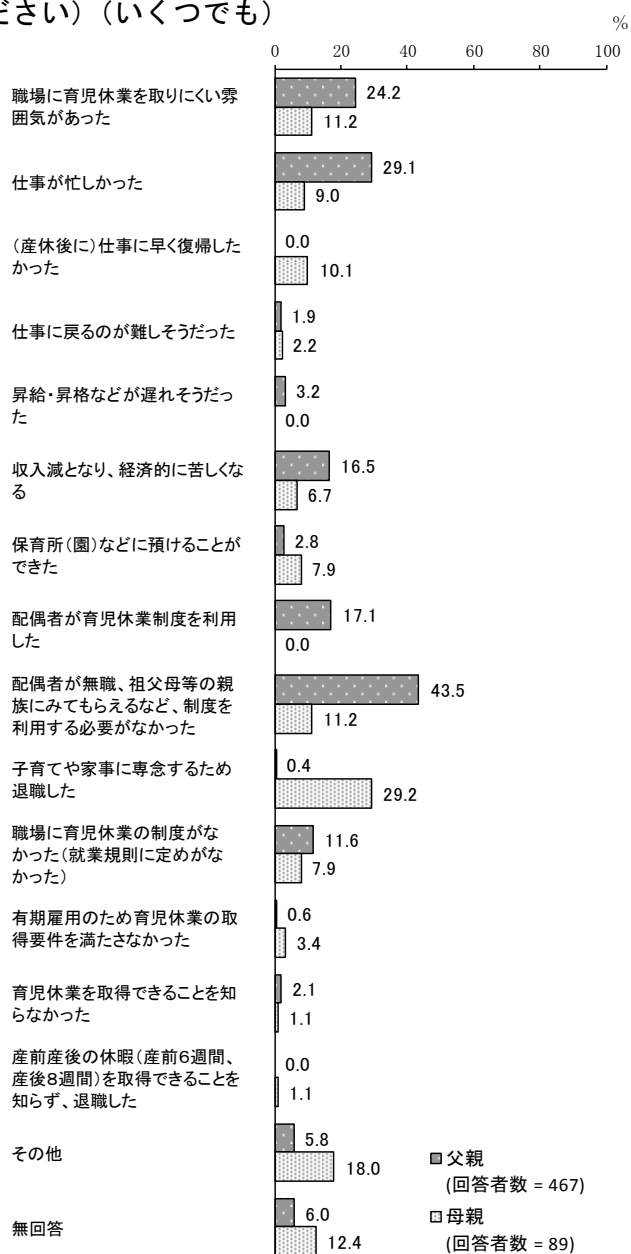
母親では、「働いていなかった」の割合が58.2%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」の割合が23.4%、「取得していない」の割合が16.8%となっています。



取得していない理由(下から番号を選んでご記入ください)(いくつでも)

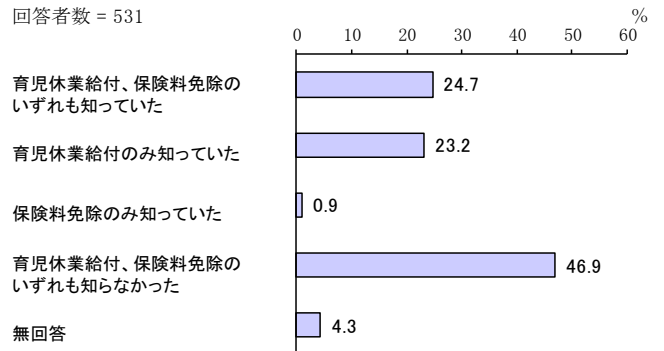
父親では、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が43.5%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」の割合が29.1%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の割合が24.2%となっています。

母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が29.2%と最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」の割合が11.2%となっています。



問 31-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は1歳6ヶ月）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。（あてはまる番号1つに○）

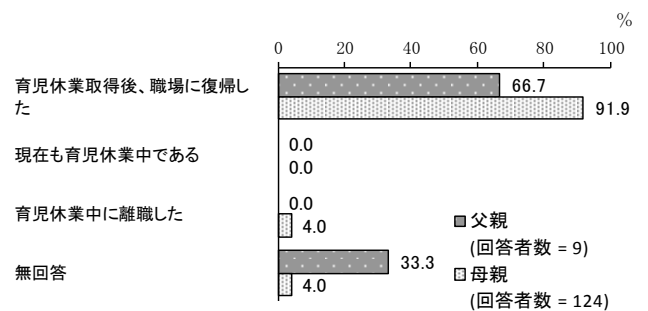
「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」の割合が46.9%と最も高く、次いで「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」の割合が24.7%、「育児休業給付のみ知っていた」の割合が23.2%、「育児休業給付のみ知っていた」の割合が23.2%となっています。



問 31-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（あてはまる番号1つに○）

父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が6件となっています。

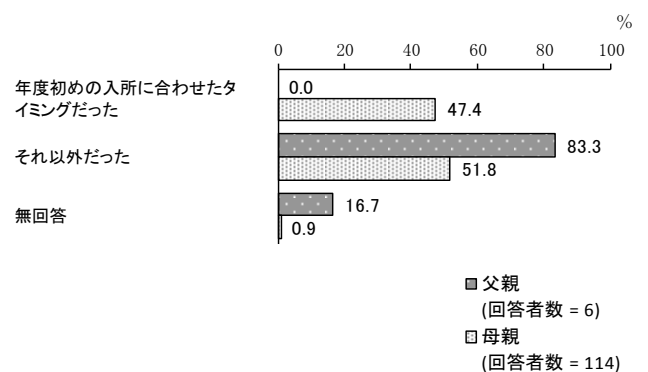
母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」の割合が91.9%と最も高く、次いで「育児休業中に離職した」の割合が4.0%となっています。



問 31-3 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（どちらか1つに○）

父親では、「それ以外だった」の割合が5件となっています。

母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」の割合が47.4%、「それ以外だった」の割合が51.8%となっています。

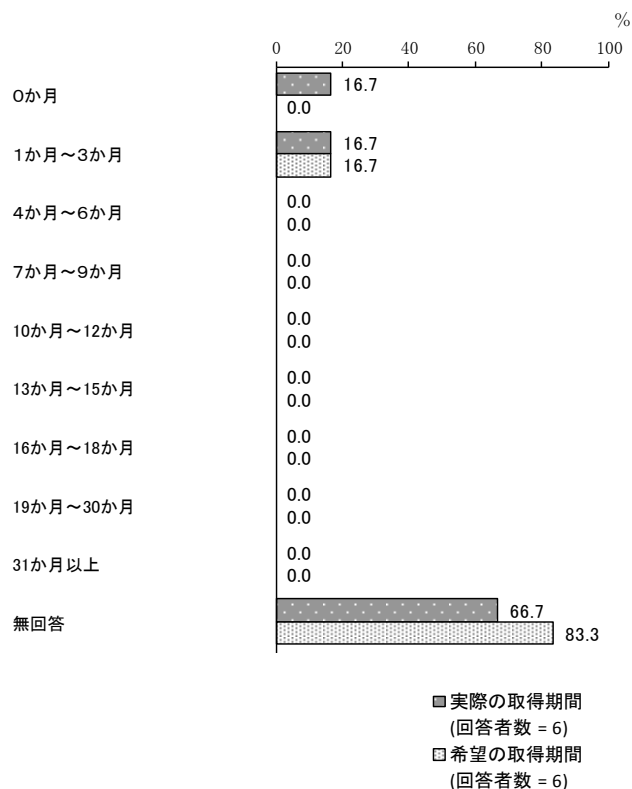


問 31-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。※口内に数字でご記入ください。

父親

実際の取得期間では、「0か月」、「1か月～3か月」が1件となっています。

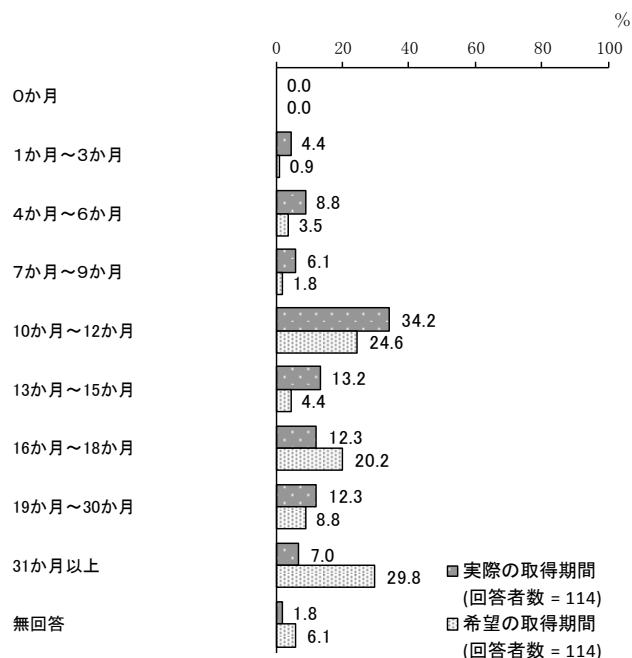
希望の取得期間では、「1か月～3か月」が1件となっています。



母親

実際の取得期間では、「10か月～12か月」の割合が34.2%と最も高く、次いで「13か月～15か月」の割合が13.2%、「16か月～18か月」、「19か月～30か月」の割合が12.3%となっています。

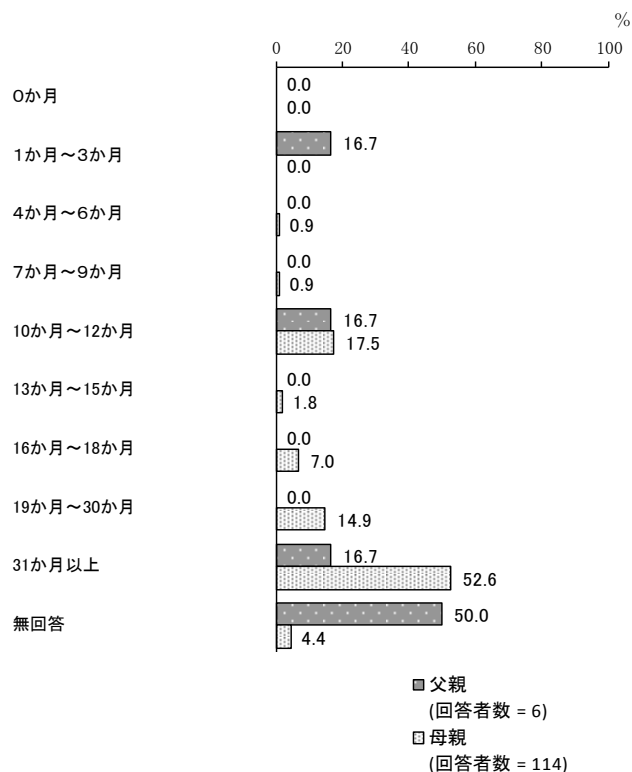
希望の取得期間では、「31か月以上」の割合が29.8%と最も高く、次いで「10か月～12か月」の割合が24.6%、「16か月～18か月」の割合が20.2%となっています。



問 31-5 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。※口内に数字でご記入ください。

父親では、「1 か月～3 か月」、「10 か月～12 か月」、「31 か月以上」が1件となっています。

母親では、「31 か月以上」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「10 か月～12 か月」の割合が 17.5%、「19 か月～30 か月」の割合が 14.9%となっています。

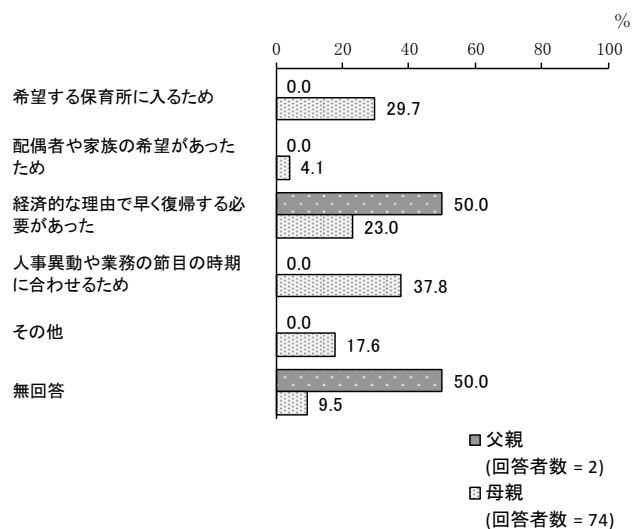


問 31-6 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(1) 「希望」より早く復帰した方 (あてはまる番号すべてに○)

父親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が1件となっています。

母親では、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「希望する保育所に入るため」の割合が 29.7%、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」の割合が 23.0%となっています。

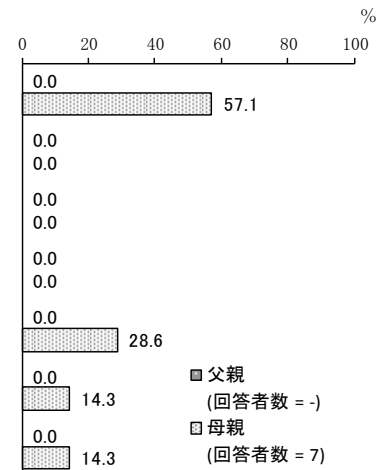


(2) 「希望」より遅く復帰した方（あてはまる番号すべてに○）

父親では、有効回答がありませんでした。

母親では、「希望する保育所に入れなかったため」が4件、「子どもをみてくれる人がいなかったため」が2件となっています。

希望する保育所に入れなかったため
 自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため
 配偶者や家族の希望があったため
 職場の受け入れ態勢が整ってなかったため
 子どもをみてくれる人がいなかったため
 その他
 無回答

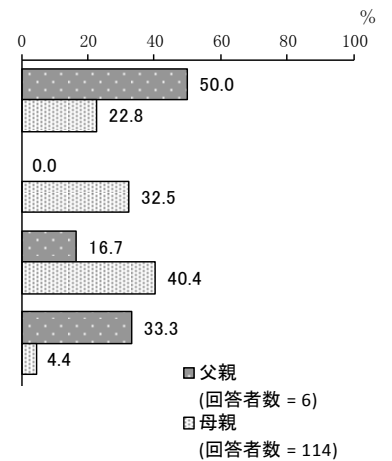


問 31-7 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。(あてはまる番号1つに○)

父親では、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」が3件、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」が1件となっています。

母親では、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」の割合が40.4%と最も高く、次いで「利用した」の割合が32.5%、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」の割合が22.8%となっています。

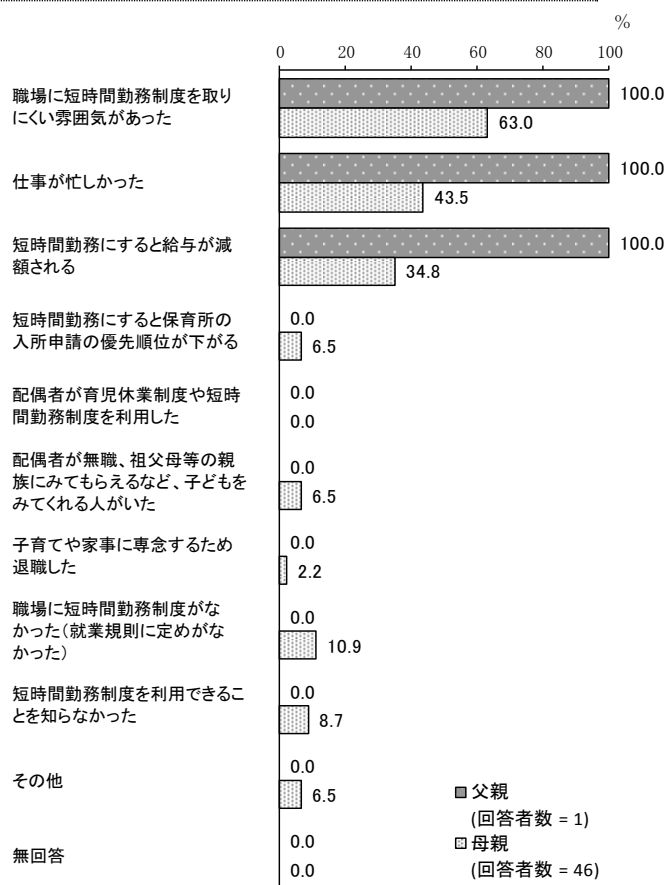
利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)
 利用した
 利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)
 無回答



問 31-8 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

父親では、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」、「仕事が忙しかった」、「短時間勤務にすると給与が減額される」が1件となっています。

母親では、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」の割合が63.0%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」の割合が43.5%、「短時間勤務にすると給与が減額される」の割合が34.8%となっています。



問 31-9 宛名のお子さんが1歳になったときに必ず預けられる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。（あてはまる番号1つに○）

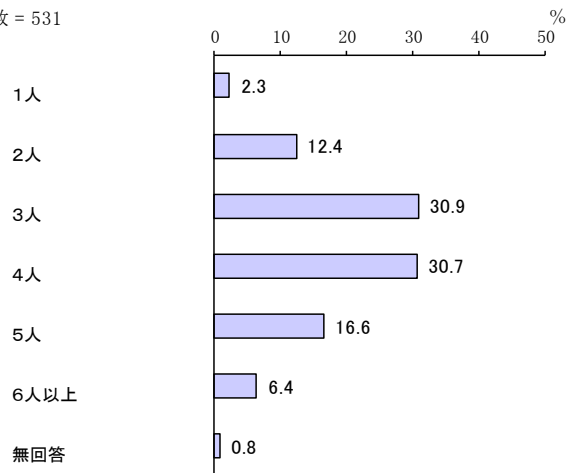
父親、母親ともに、有効回答がありませんでした。

(9) 子育て家庭の暮らし向きについて

問 32 宛名のお子さんと同居している方の人数をご記入ください。単身赴任をしている家族も含めてください。

「3人」の割合が30.9%と最も高く、次いで「4人」の割合が30.7%、「5人」の割合が16.6%となっています。

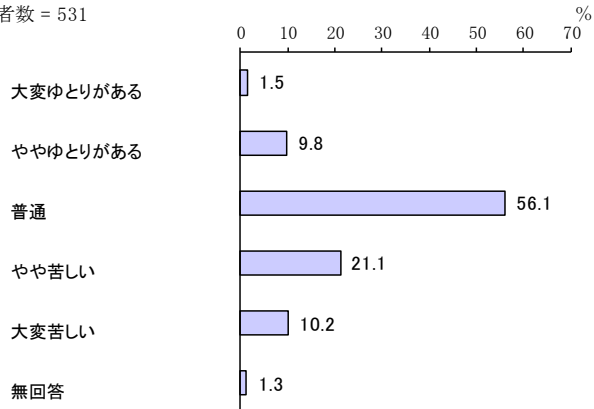
回答者数 = 531



問 33 あなたのご家庭の現在の暮らしの状況についてうかがいます。(あてはまる番号1つに○)

「普通」の割合が56.1%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が21.1%、「大変苦しい」の割合が10.2%となっています。

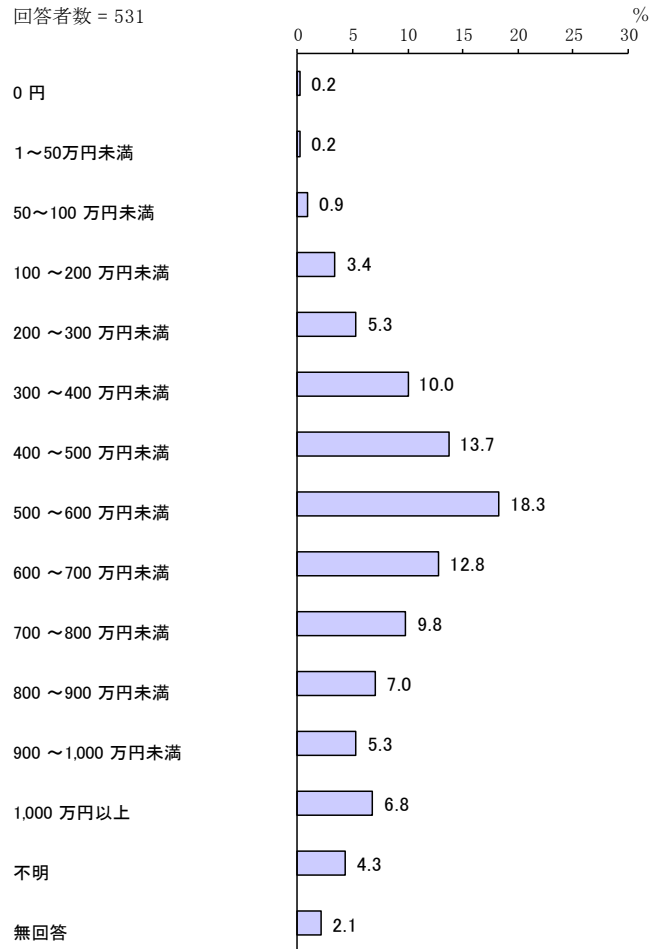
回答者数 = 531



問 34 お子さんと生計を共にしている方全員の収入を合わせた「世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）」を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

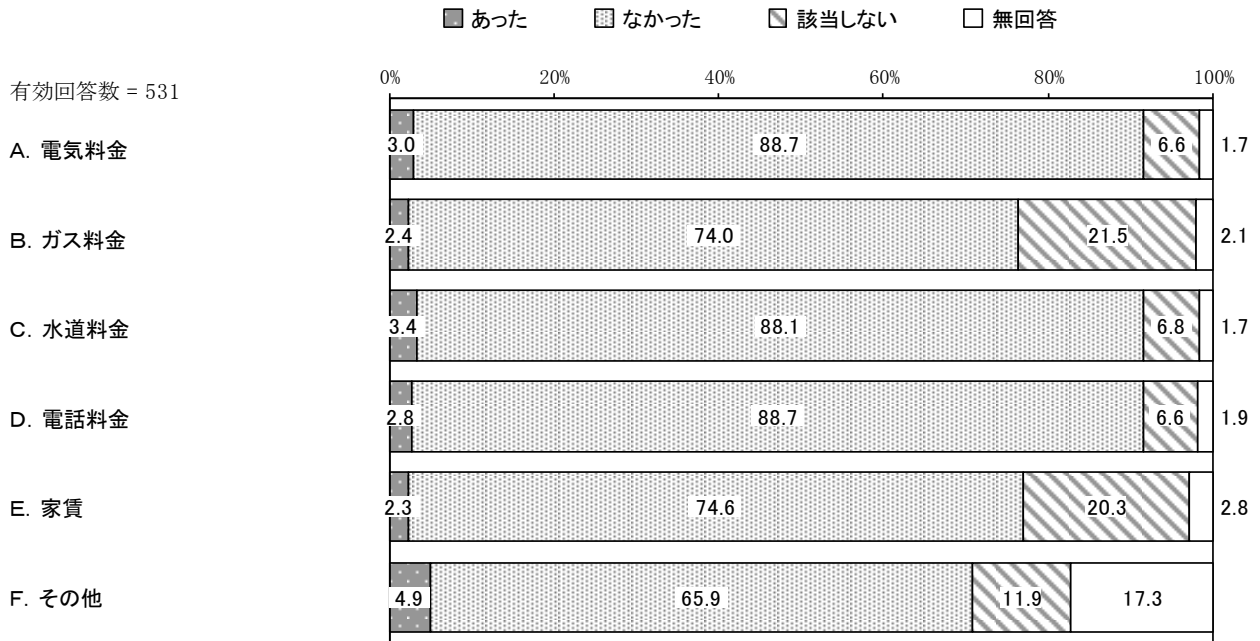
「500 ～600 万円未満」の割合が 18.3%と最も高く、次いで「400 ～500 万円未満」の割合が 13.7%、「600 ～700 万円未満」の割合が 12.8%となっています。

回答者数 = 531



問 35 あなたの世帯では、過去1年間の間に、経済的な理由での月々の料金の支払い、家賃、その他の債務の返済ができなかったことがありましたか。(あてはまる番号それぞれ1つに○)

『B. ガス料金』『E. 家賃』で「なかった」の割合が低くなっています。



問 36 あなたの世帯では現在、どのような支援制度等を利用することに興味がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

「学校が実施する学習支援」の割合が 46.3% と最も高く、次いで「子どもの学習支援」の割合が 42.2%、「子ども食堂」の割合が 17.3% となっています。

回答者数 = 531

子育て短期支援事業(ショートステイ)

ファミリーサポートセンター

子ども食堂

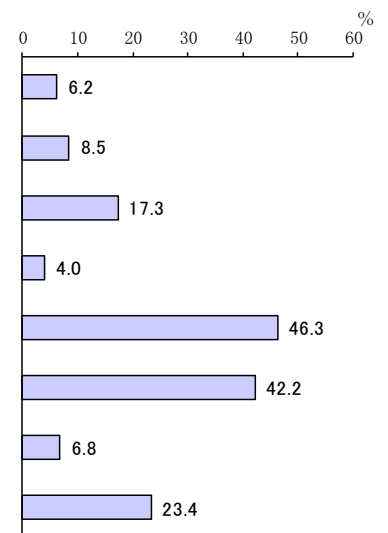
フードバンクによる食料支援

学校が実施する学習支援

子どもの学習支援

その他

無回答



【貧困想定世帯別】

貧困想定世帯別で見ると、貧困想定世帯で、「子育て短期支援事業（ショートステイ）」、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「子どもの学習支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子育て短期支援事業（ショートステイ）	ファミリーサポートセンター	子ども食堂	フードバンクによる食料支援	学校が実施する学習支援	子どもの学習支援	その他	無回答
貧困想定世帯※	37	10.8	8.1	37.8	13.5	37.8	43.2	5.4	27.0
その他世帯	480	5.6	8.5	16.0	3.3	47.7	42.5	7.1	22.5

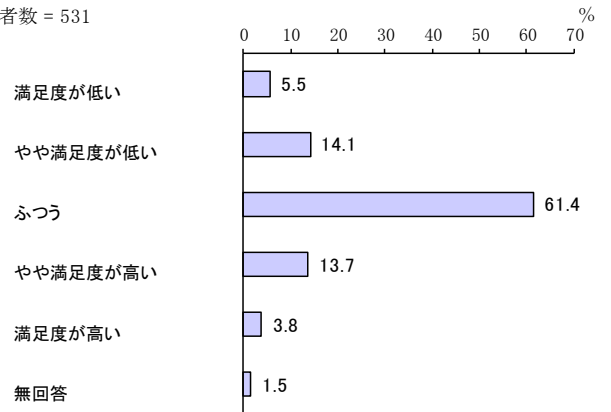
※貧困想定世帯：世帯の人数と世帯の収入から算定される等価可処分所得が 122 万円未満に該当すると想定される世帯

(10) 市の子育て施策について

問 37 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

「ふつう」の割合が 61.4%と最も高く、次いで「やや満足度が低い」の割合が 14.1%、「やや満足度が高い」の割合が 13.7%となっています。

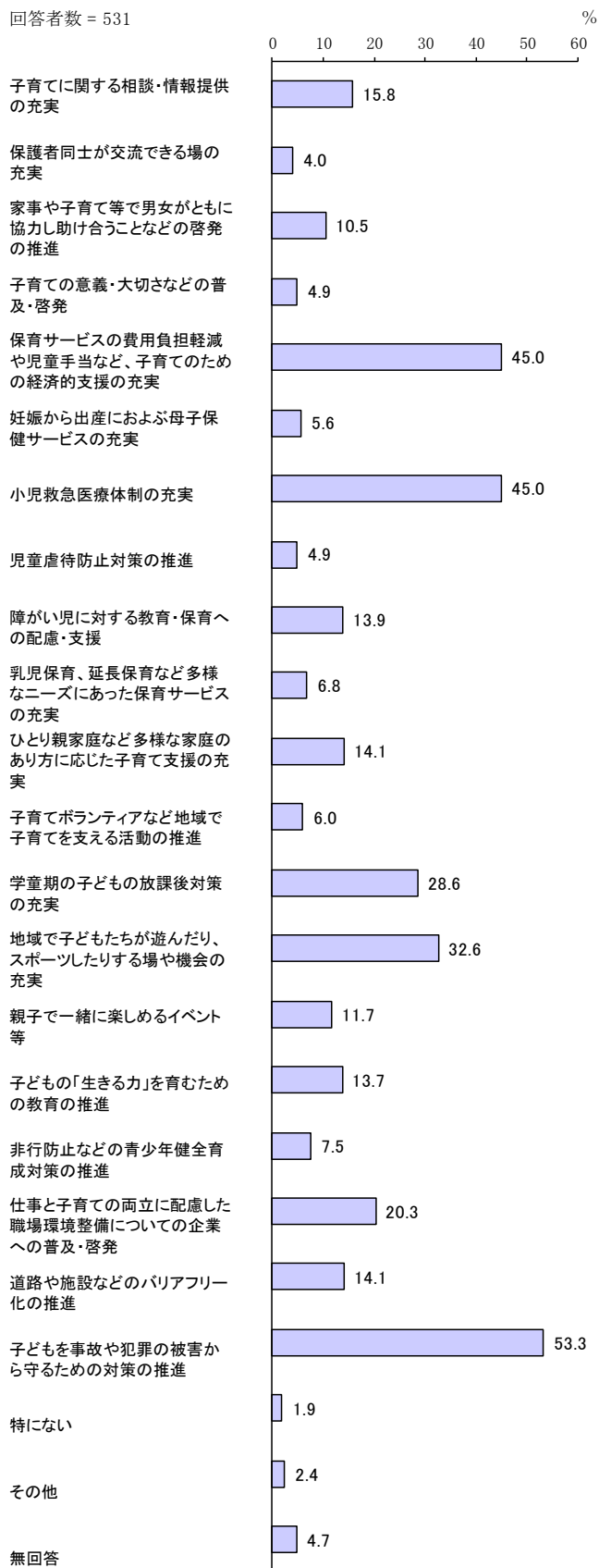
回答者数 = 531



問 38 子どもを健やかに生み育てるために、市にどのようなことを特に期待しますか。(あてはまる番号5つまでに○)

「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援の充実」、「小児救急医療体制の充実」の割合が 45.0%となっています。

回答者数 = 531



IV 自由意見

この自由意見報告書では、アンケート調査の自由意見欄にお寄せいただいた皆様方からのご意見をカテゴリーごとに分類し、その中から主だったものを抜粋して掲載しています。

1 就学前児童保護者

分類回答	件数
幼稚園について	10
保育園について	47
認定こども園について	3
小学校について	11
児童館・学童クラブについて	8
地域子育てセンター、広場について	17
その他の子育て支援サービスについて	27
子育てに関する情報について	17
子どもの遊び場、まちづくり、公共施設等について	42
母子の保健について	22
地域のつながり、協力等について	5
子育て環境について	4
子育てと仕事の両立について	4
保護者のリフレッシュ、子育て不安等について	3
子育て中の保護者の状況について	2
市政について	11
アンケートについて	2
その他	5
回答者数	240

2 小学生保護者

分類回答	件数
幼稚園について	1
保育園について	4
小学校について	28
児童館・学童クラブについて	19
地域子育てセンター、広場について	6
その他の子育て支援サービスについて	31
子育てに関する情報について	10
子どもの遊び場、まちづくり、公共施設等について	22
母子の保健について	8
地域のつながり、協力等について	5
子育て環境について	4
子育てと仕事の両立について	2
保護者のリフレッシュ、子育て不安等について	1
子育て中の保護者の状況について	1
市政について	12
アンケートについて	2
その他	2
回答者数	158

袖ヶ浦市

子ども・子育て支援に関するアンケート調査 調査結果＜抜粋＞

I 調査の概要

○調査対象

袖ヶ浦市在住の就学前児童・小学生の保護者を対象として2,000件を無作為抽出

○調査期間

平成30年10月31日から平成30年11月20日

○調査方法

郵送による配布・回収

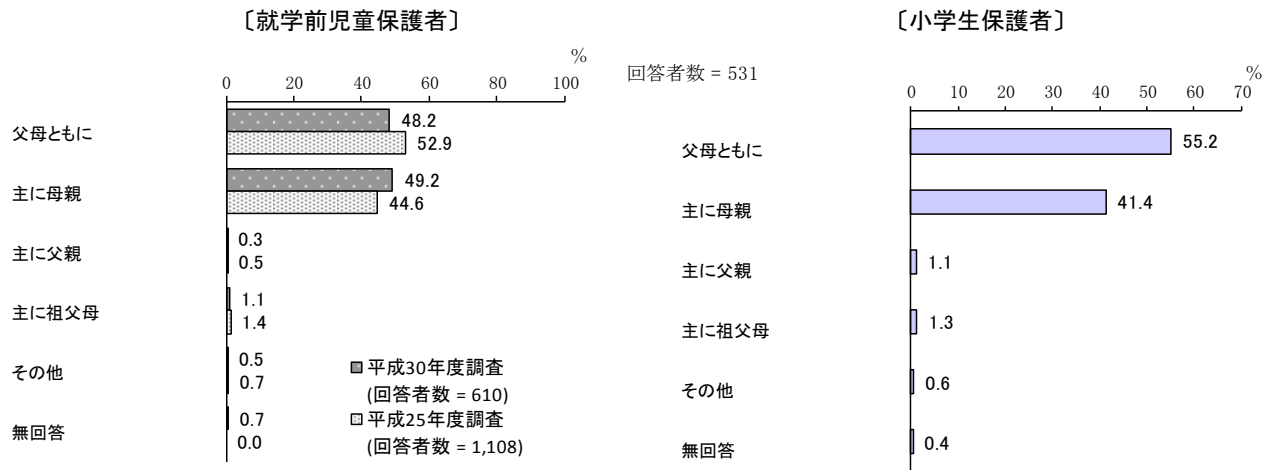
○回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
就学前児童保護者	1,000通	610通	61.0%
小学生保護者	1,000通	531通	53.1%

Ⅱ 調査結果のポイント

(1) 子どもと家族の状況

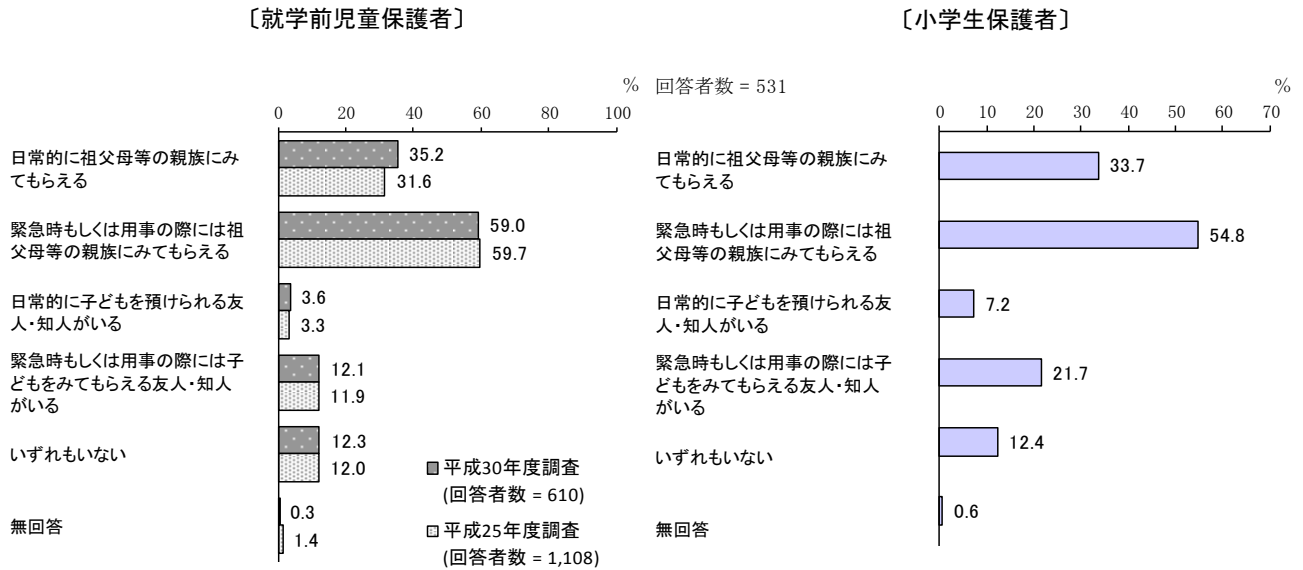
○子育てを主に行っているものについて、就学前児童保護者では「主に母親」「父母ともに」が共に約5割とほぼ同数となっていますが、小学生保護者では「父母ともに」が55%と「主に母親」を上回っています。



(2) 子どもの育ちをめぐる環境

○子どもをみてもらえる親族・知人の有無について、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が3割強、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が5～6割となっています。その一方で、「いずれもない」保護者が1割ほど見られます。

○中川・富岡地区では「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が他の地区に比べ高くなっています。



【地区別】 <就学前児童保護者>

単位：%

区分	有効回答数(件)	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等にみてもらえる	日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
昭和地区	128	33.6	50.0	0.8	14.8	17.2	0.8
蔵波地区	160	31.3	68.1	3.8	12.5	12.5	—
長浦地区	91	31.9	59.3	3.3	13.2	14.3	—
根形地区	70	37.1	54.3	7.1	20.0	7.1	—
平岡地区	62	43.5	61.3	3.2	3.2	3.2	—
中川・富岡地区	52	53.8	57.7	1.9	9.6	3.8	—
その他	41	26.8	61.0	9.8	4.9	22.0	—

(3) 保護者の就労状況

○就学前児童保護者では、就労している母親の割合が65%となっており、平成25年度調査と比較して「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が減少し、就労している母親が増加しています。

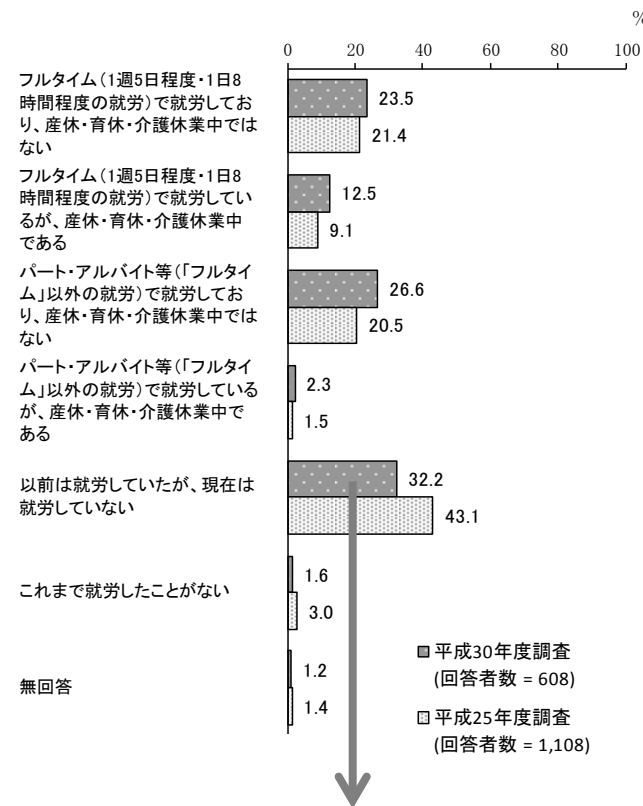
○また、就労していない母親も7割が今後の就労を希望しており、平成25年度調査と比較すると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が増加しています。

○小学生保護者では、就労している母親の割合が8割と就学前児童より高くなっており、子どもの進学に伴い就労する母親が増加することがうかがえます。

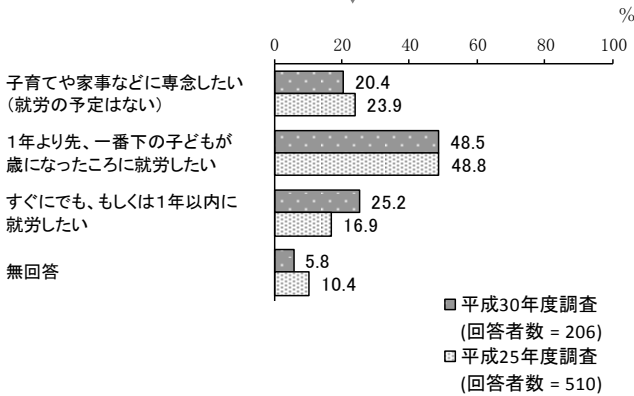
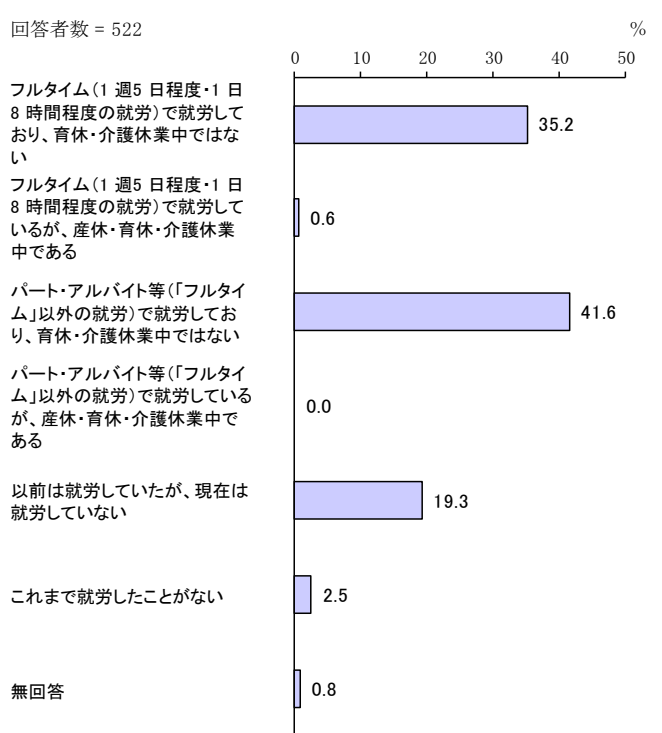
〔就学前児童保護者〕

〔小学生保護者〕

【母親】



【母親】



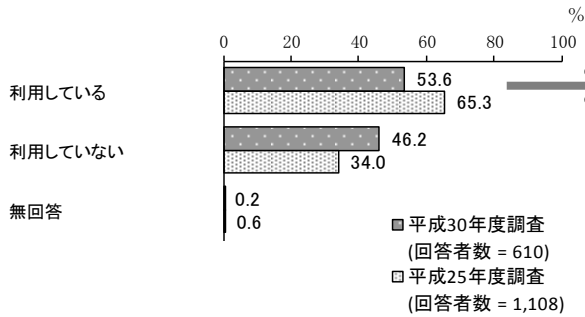
(4) 平日の定期的な教育・保育事業の利用

○「定期的な教育・保育事業」を利用している割合が5割となっています。

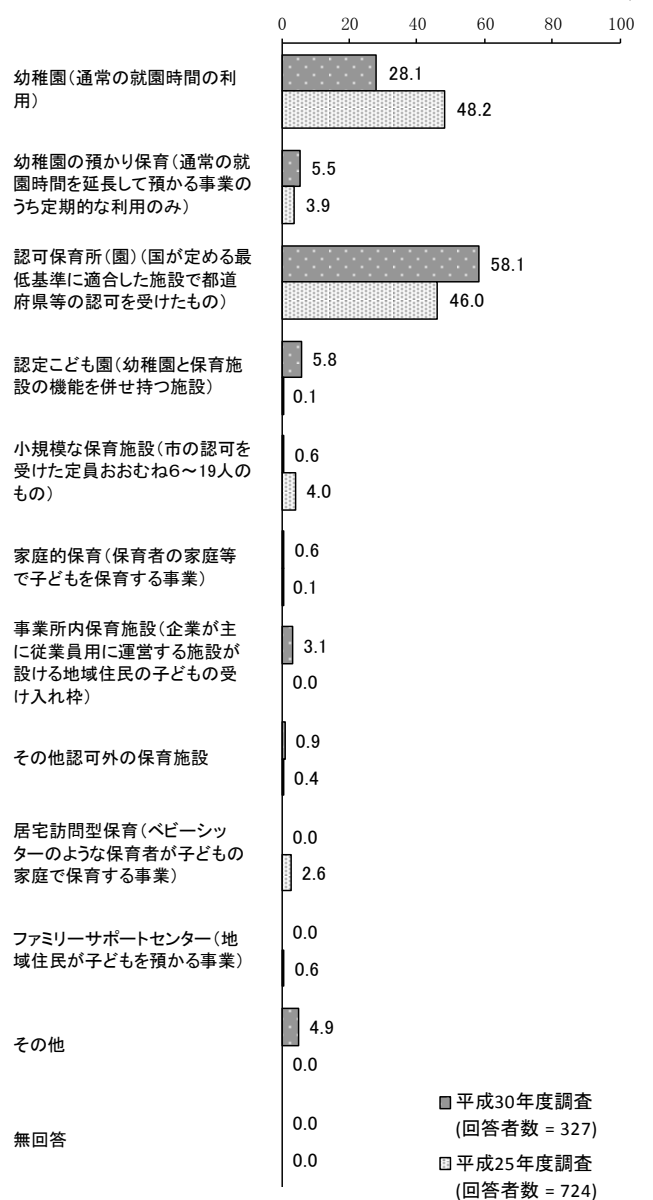
○利用している事業は、「認可保育所（園）」の割合が6割、次いで「幼稚園」の割合が3割と、平成25年度調査と比較すると、「認可保育所（園）」「認定こども園」の割合が増加し、一方で「幼稚園」の割合が減少しています。

〔就学前児童保護者〕

【定期的な教育・保育事業の利用】

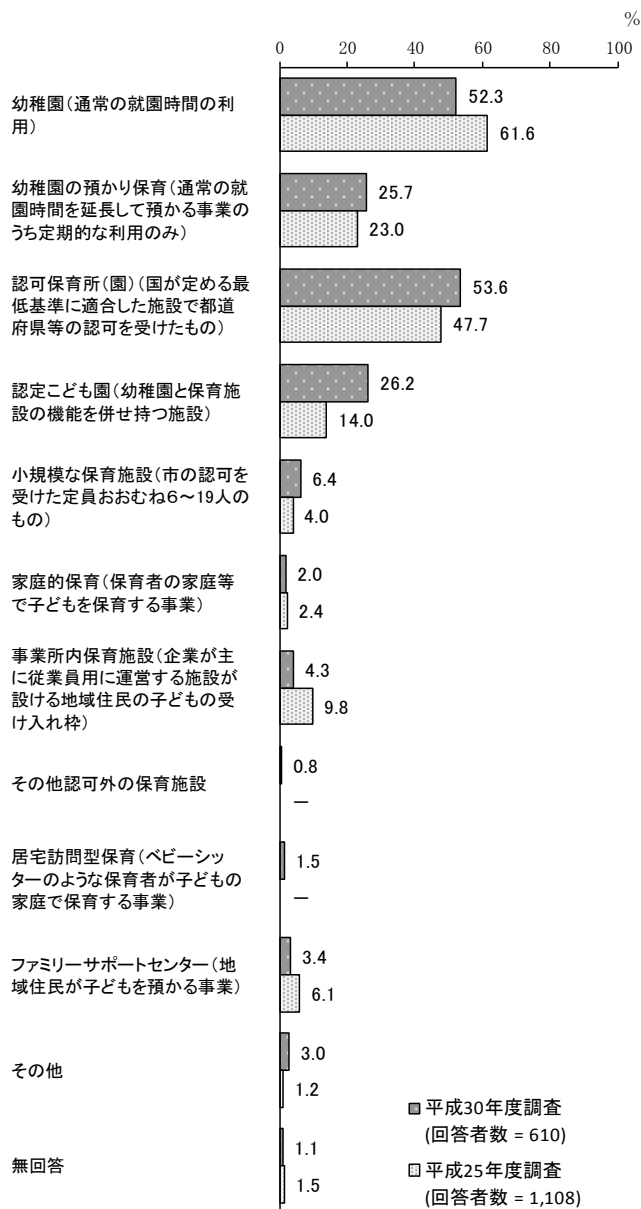


【利用している事業】



○今後利用したい事業は、「認可保育所（園）」「幼稚園」の割合がともに5割となつていますが、平成25年度調査と比較すると、「認可保育所（園）」の割合が増加している一方、「幼稚園」の割合が減少しています。

〔就学前児童保護者〕



○特に、0歳児の保護者で「認可保育所（園）」の利用希望が高くなっています。

【年齢別の今後利用したい事業】＜就学前児童保護者＞

単位：％

区分	有効回答数（件）	幼稚園（通常の就園時間の利用）	幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	認可保育所（園）（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの）	認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）	小規模な保育施設（市の認可を受けた定員おおむね6～19人のもの）	家庭的保育（保育者の家庭等で子どもを保育する事業）	事業所内保育施設（企業が主に従業員用に運営する施設が設ける地域住民の子どもの受け入れ枠）	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育（ベビシッターのような保育者が子どもを家庭で保育する事業）	ファミリーサポートセンター（地域住民が子どもを預かる事業）	その他	無回答
0歳	206	47.1	23.8	61.2	41.7	12.1	2.4	4.9	1.5	1.5	3.4	1.5	1.0
1歳	123	58.5	26.0	56.1	23.6	3.3	0.8	2.4	—	1.6	2.4	0.8	0.8
2歳	87	57.5	33.3	49.4	20.7	3.4	1.1	5.7	—	1.1	2.3	2.3	—
3歳	70	51.4	30.0	48.6	11.4	1.4	—	2.9	1.4	—	2.9	2.9	—
4歳	56	46.4	19.6	57.1	14.3	3.6	5.4	3.6	1.8	3.6	3.6	3.6	1.8
5歳	62	53.2	21.0	37.1	16.1	4.8	3.2	6.5	—	1.6	8.1	12.9	4.8

(5) 地域子ども・子育て支援事業の利用

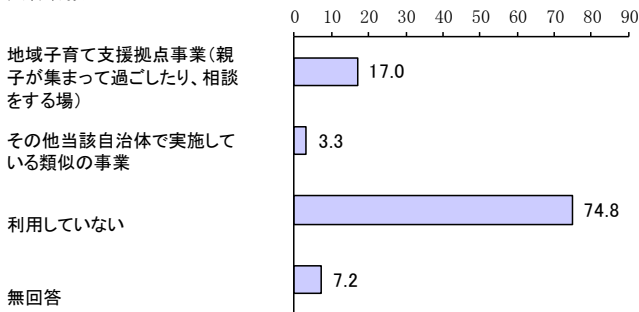
○地域子育て支援拠点事業を利用している割合は 17.0%となっています。また、「利用していないが利用したい」割合は 26.2%となっています。

〔就学前児童保護者〕

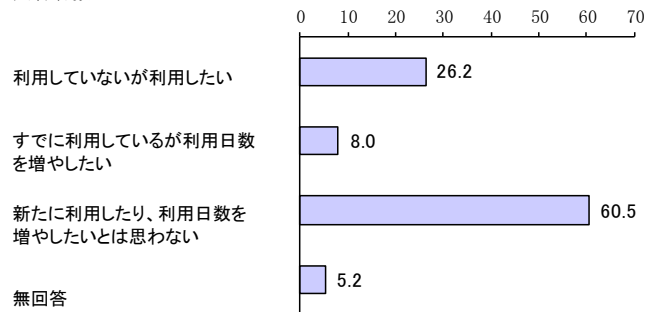
【地域子育て支援拠点事業の利用】

【地域子育て支援拠点事業の利用希望】

回答者数 = 610



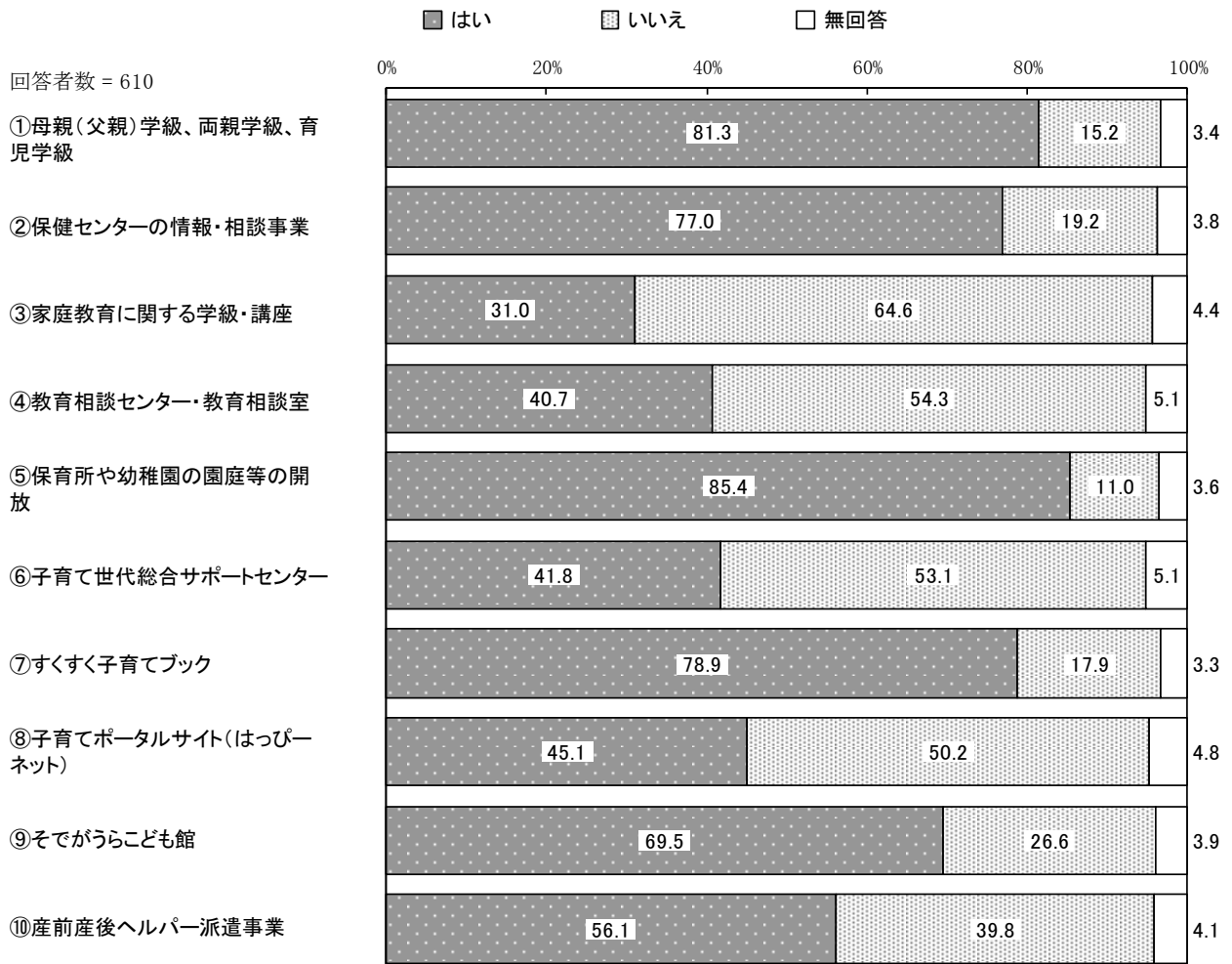
回答者数 = 610



○市が行っている各種子育て支援事業の認知度は、『母親(父親)学級、両親学級、育児学級』、『保育所や幼稚園の園庭等の開放』で知っている割合が高くなっています。一方、『家庭教育に関する学級・講座』で知らない割合が高くなっています。

〔就学前児童保護者〕

回答者数 = 610



(6) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望

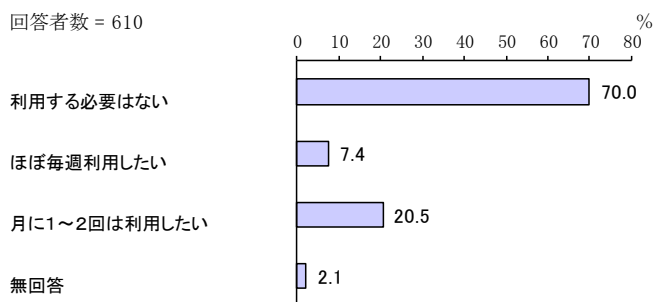
○土曜日の教育・保育事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」の割合が 7.4%、「月に1～2回は利用したい」の割合が 20.5%となっています。

○日曜・祝日の教育・保育事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」の割合が 2.1%、「月に1～2回は利用したい」の割合が 14.9%となっています。

〔就学前児童保護者〕

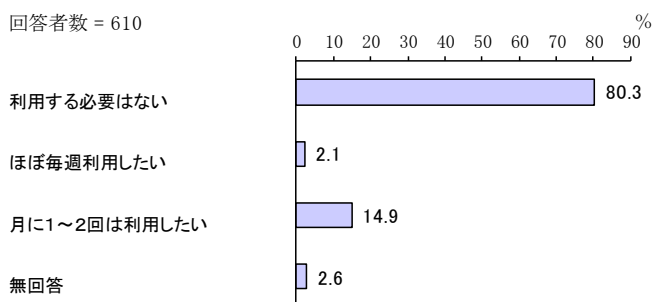
【土曜日】

回答者数 = 610



【日曜・祝日】

回答者数 = 610



(7) 病気の際の対応

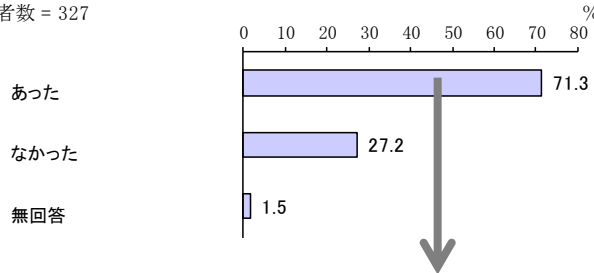
○子どもが、病気やケガで教育・保育事業が利用できなかった就学前児童保護者が約7割、学校を休んだことがある小学生保護者が6割となっています。

○その際に、病児・病後児の保育を利用した人が就学前児童保護者で7.7%となっています。

○平岡地区で「母親が仕事を休んでみた」の割合が高くなっています。

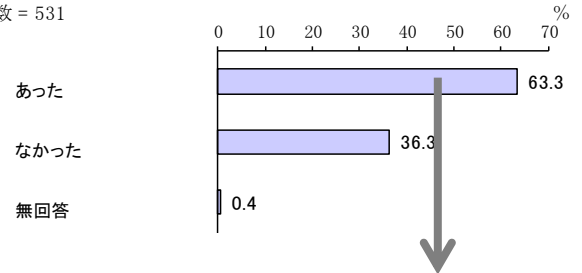
〔就学前児童保護者〕

回答者数 = 327

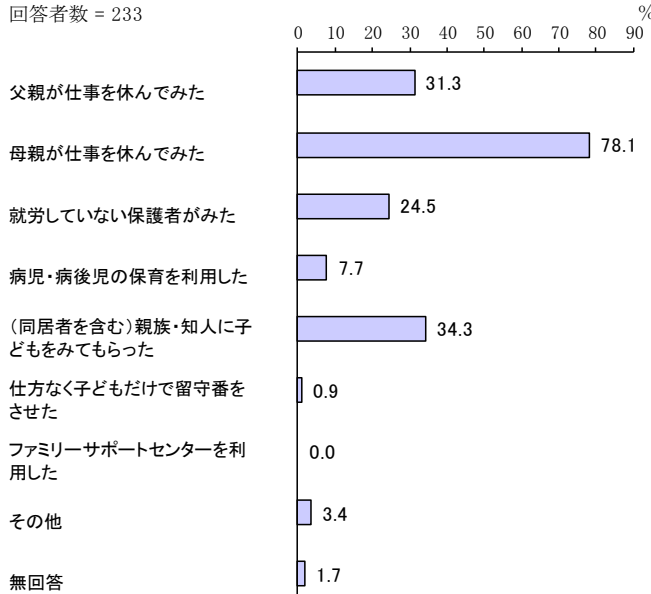


〔小学生保護者〕

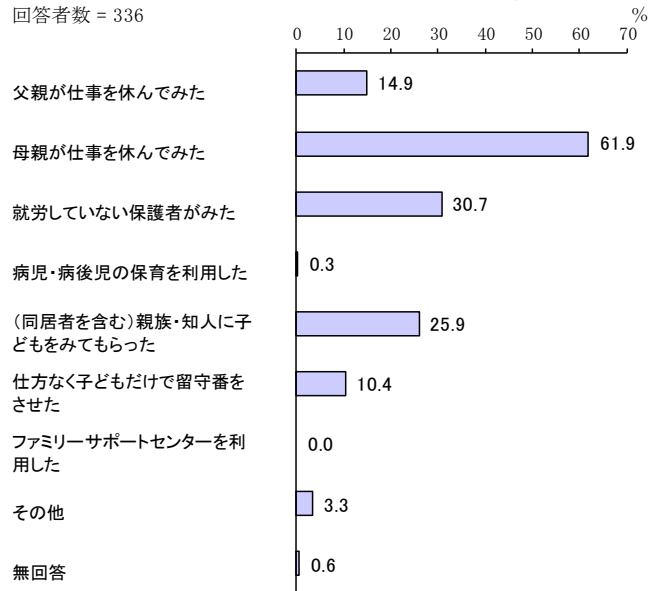
回答者数 = 531



回答者数 = 233



回答者数 = 336



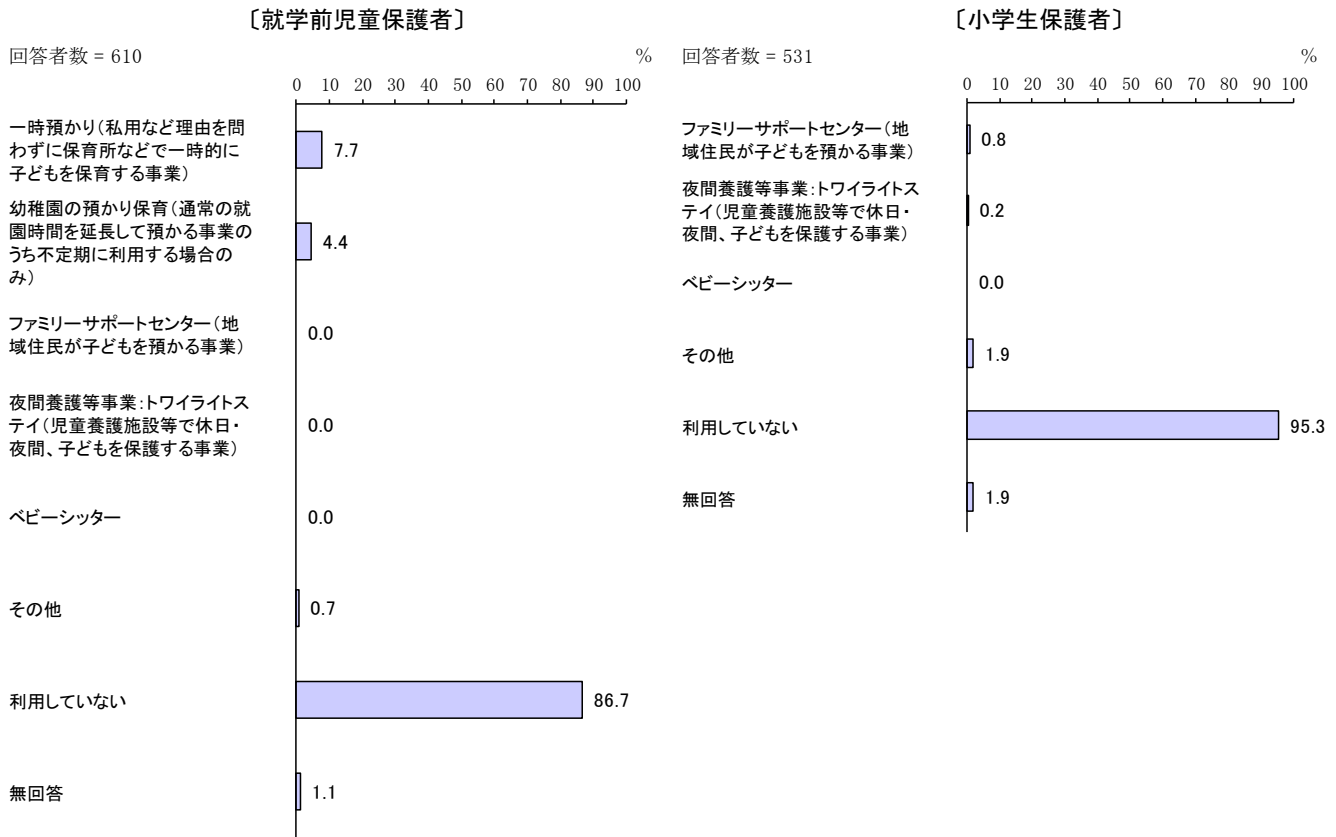
【地区別の対応】 <就学前児童保護者>

単位：%

区分	有効回答数(件)	父親が仕事を休んでみた	母親が仕事を休んでみた	就労していない保護者がみた	病児・病後児の保育を利用した	族・知人に子どもをみてもらった(同居者を含む)親	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	ファミリーサポートセンターを利用した	その他	無回答
昭和地区	48	31.3	79.2	22.9	6.3	25.0	—	—	2.1	4.2
蔵波地区	68	39.7	76.5	27.9	11.8	38.2	—	—	2.9	1.5
長浦地区	29	41.4	72.4	31.0	10.3	34.5	3.4	—	6.9	—
根形地区	33	21.2	75.8	15.2	9.1	21.2	—	—	3.0	3.0
平岡地区	22	13.6	95.5	22.7	—	31.8	4.5	—	4.5	—
中川・富岡地区	23	21.7	73.9	26.1	4.3	56.5	—	—	4.3	—
その他	6	50.0	83.3	16.7	—	50.0	—	—	—	—

(8) 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

○不特定の教育・保育事業を利用している人は、就学前児童保護者では約1割、小学生保護者では1割未満となっています。他の地区に比べ、根形地区では就学前児童保護者の一時預かりの利用がやや高くなっています。



【地区別の不特定の教育・保育事業の利用】<就学前児童保護者>

単位：%

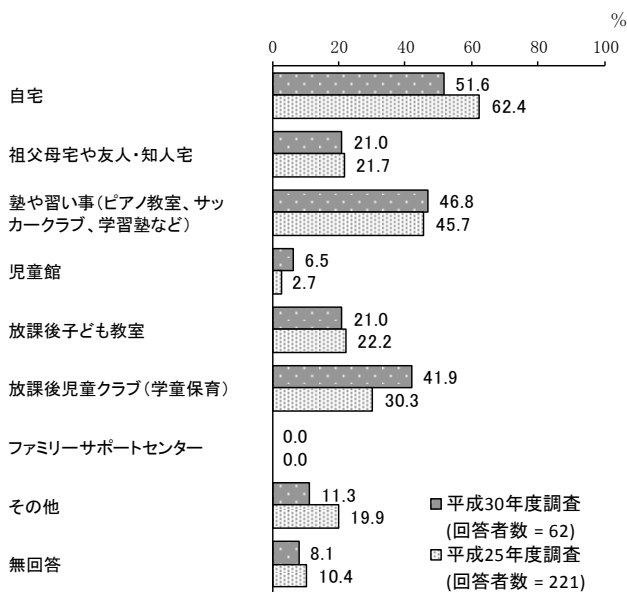
区分	有効回答数(件)	一時預かり(私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業)	幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ)	ファミリーサポートセンター(地域住民が子どもを預かる事業)	夜間養護等事業:トワイライトステイ(児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業)	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答
昭和地区	128	7.0	3.9	—	—	—	—	89.1	—
葦波地区	160	5.0	8.1	—	—	—	1.3	83.8	3.1
長浦地区	91	8.8	5.5	—	—	—	—	84.6	1.1
根形地区	70	14.3	2.9	—	—	—	—	84.3	1.4
平岡地区	62	3.2	—	—	—	—	3.2	93.5	—
中川・富岡地区	52	7.7	1.9	—	—	—	—	90.4	—
その他	41	12.2	—	—	—	—	—	87.8	—

(9) 子どもの放課後の過ごし方の希望

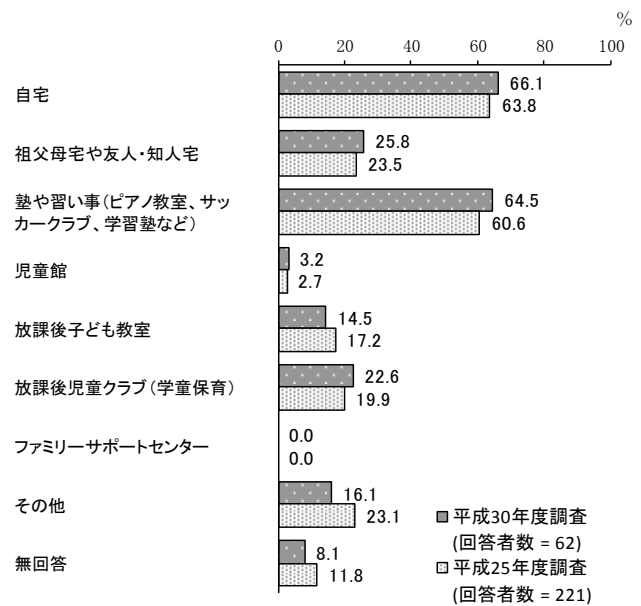
○就学前児童保護者の子どもの放課後の過ごし方の希望について、低学年のうちの「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は4割。高学年の「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用希望は2割ほどとなっています。平成25年度調査と比較すると、低学年のうちの「放課後児童クラブ（学童保育）」を希望する割合が増加しています。

〔就学前児童保護者〕

【低学年】



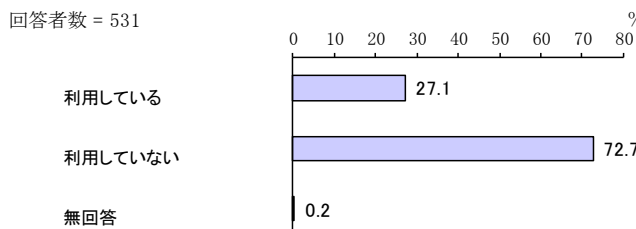
【高学年】



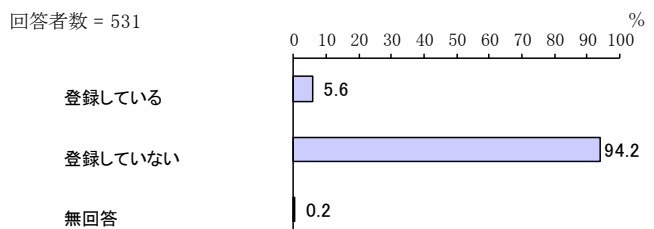
○小学生保護者における「放課後児童クラブ（学童保育）」を利用している割合は3割、「放課後子ども教室」に登録している割合は6%となっています。

〔小学生保護者〕

【放課後児童クラブ（学童保育）】

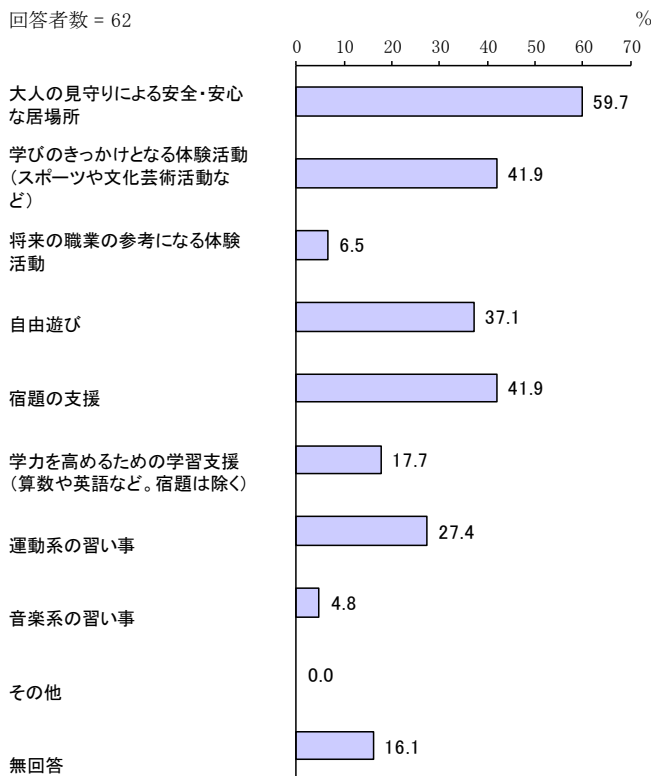


【放課後子ども教室】

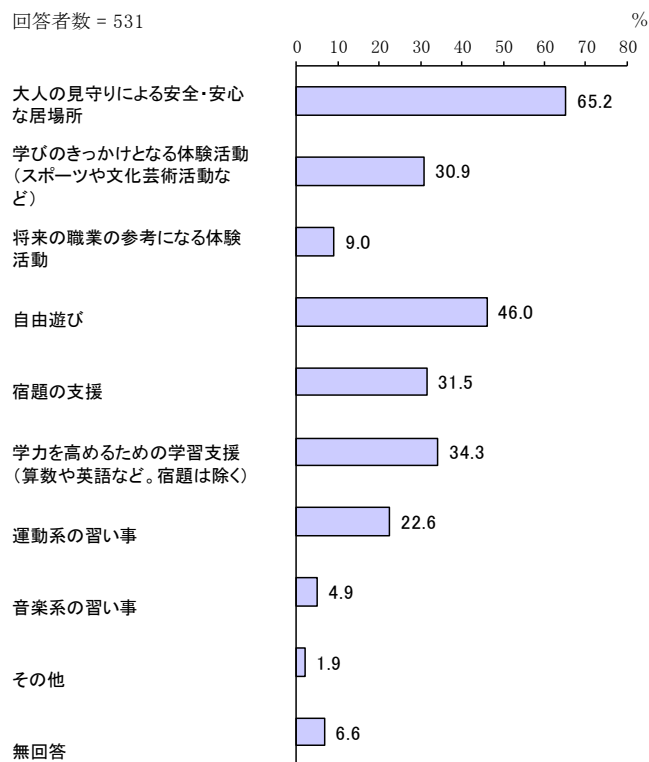


○放課後に必要と思うものは、「大人の見守りによる安全・安心な居場所」の割合が最も高く、就学前児童保護者は59.7%、小学生保護者は65.2%となっています。

〔就学前児童保護者〕



〔小学生保護者〕

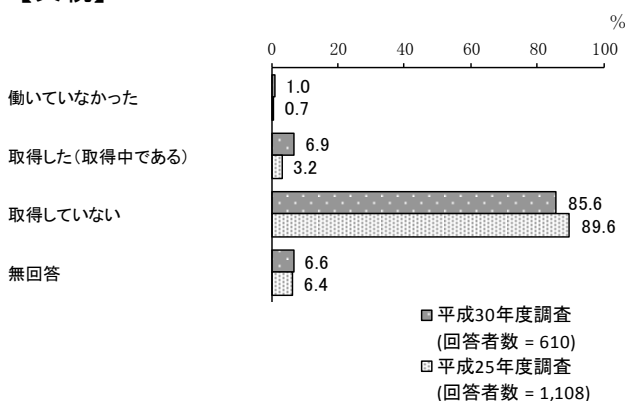


(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

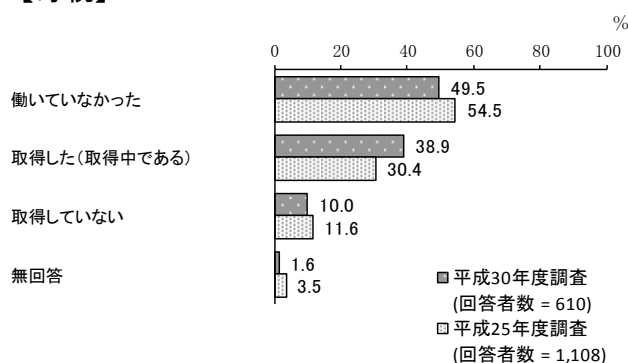
○育児休業を取得していない割合は父親が86%、母親が10%となっています。平成25年度調査と比較すると、母親の育児休業の取得状況は、就労している母親の増加に伴い「取得した (取得中である)」の割合が増加し、「働いていなかった」の割合が減少しています。

〔就学前児童保護者〕

【父親】



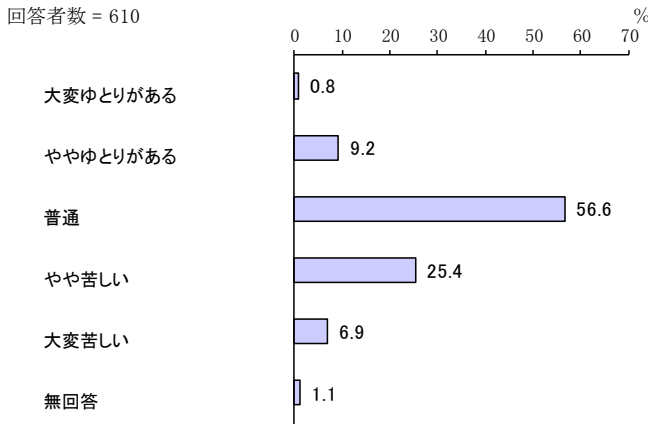
【母親】



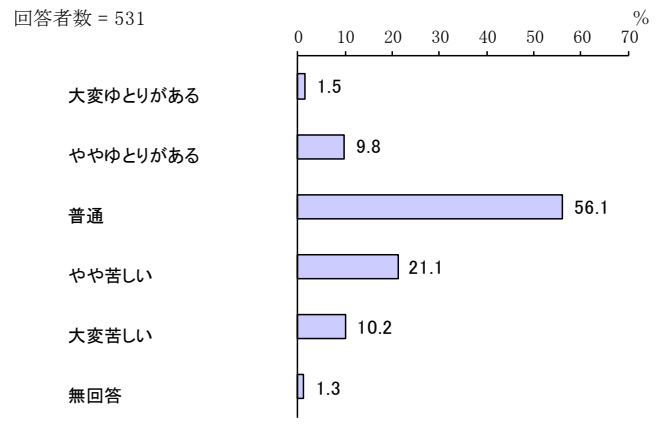
(11) 子育て家庭の暮らし向き

○暮らしの状況を苦しいと感じている保護者は、就学前児童保護者、小学生保護者ともに約3割となっています。

〔就学前児童保護者〕

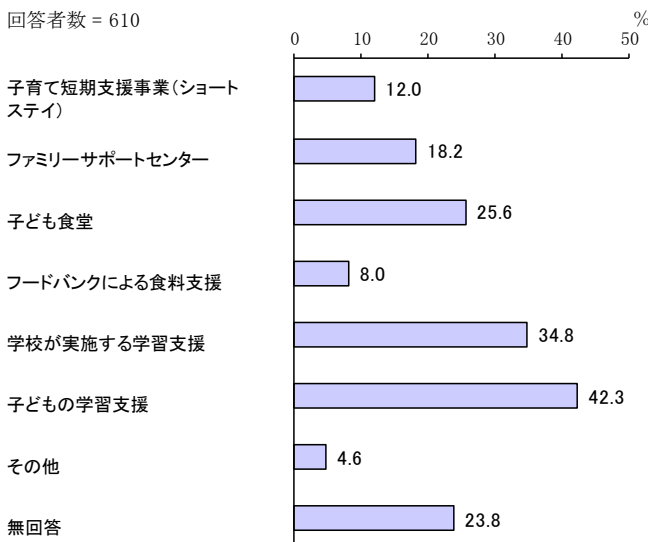


〔小学生保護者〕

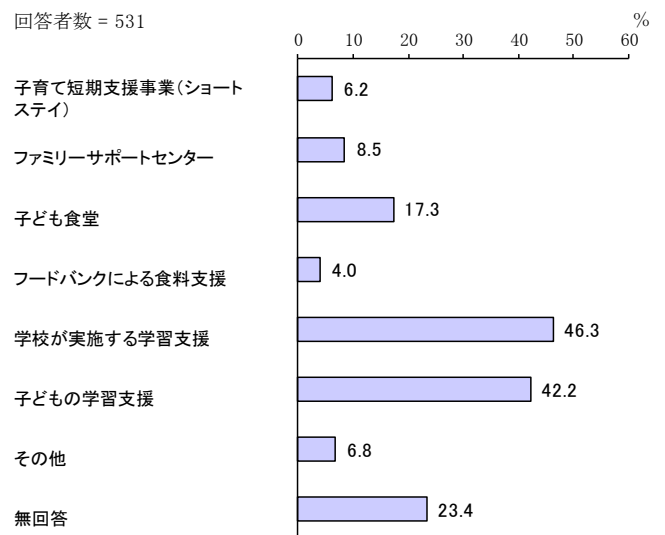


○興味がある支援制度については、就学前児童保護者では「子どもの学習支援」の割合が約4割、小学生保護者では「学校が実施する学習支援」の割合が約45%と最も高くなっています。世帯の収入からみる貧困想定世帯においては、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「子どもの学習支援」の割合が高くなっています。

〔就学前児童保護者〕



〔小学生保護者〕



【貧困想定世帯別】

〔就学前児童保護者〕

単位：％

区分	有効回答数 (件)	子育て短期支援事業 (シヨートステイ)	ファミリーサポートセンター	子ども食堂	フードバンクによる食料支援	学校が実施する学習支援	子どもの学習支援	その他	無回答
貧困想定世帯※	41	14.6	19.5	41.5	34.1	39.0	53.7	2.4	12.2
その他世帯	547	12.1	17.9	24.3	6.0	34.9	41.5	4.4	24.9

〔小学生保護者〕

単位：％

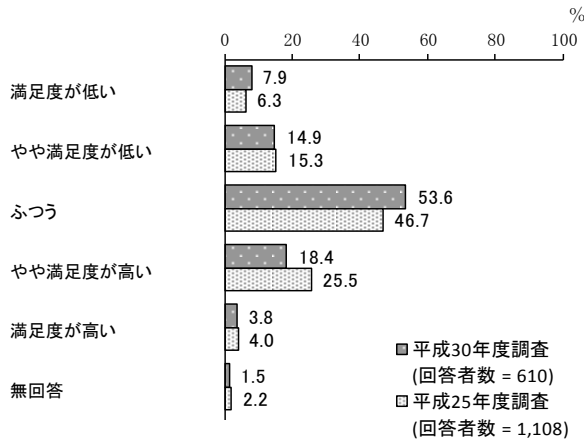
区分	有効回答数 (件)	子育て短期支援事業 (シヨートステイ)	ファミリーサポートセンター	子ども食堂	フードバンクによる食料支援	学校が実施する学習支援	子どもの学習支援	その他	無回答
貧困想定世帯※	37	10.8	8.1	37.8	13.5	37.8	43.2	5.4	27.0
その他世帯	480	5.6	8.5	16.0	3.3	47.7	42.5	7.1	22.5

※貧困想定世帯：世帯の人数と世帯の収入から算定される等価可処分所得が 122 万円未満に該当すると想定される世帯

(12) 市の子育て施策について

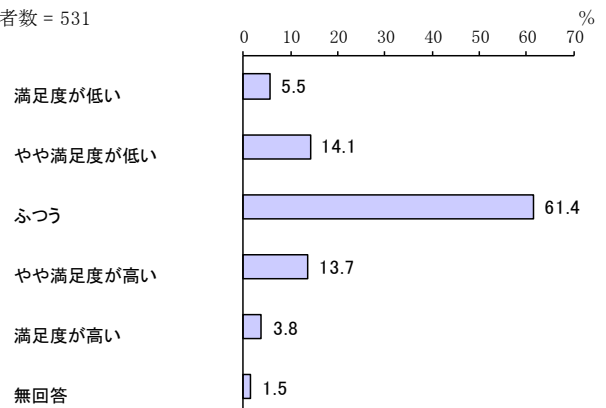
○子育ての環境や支援について、就学前児童保護者、小学生保護者ともに普通が最も多く、満足している人が約 2 割、満足していない人が約 2 割となっています。

〔就学前児童保護者〕

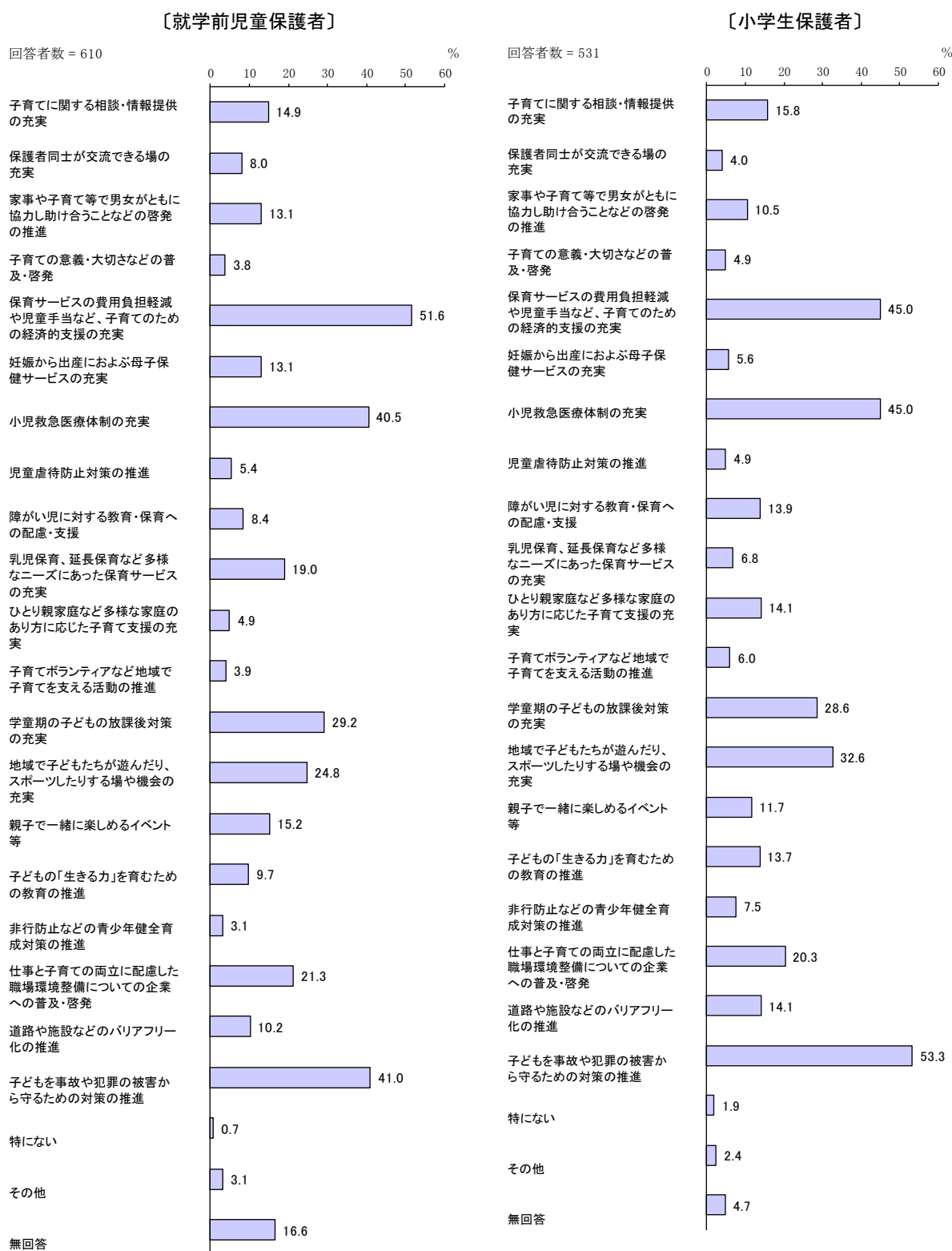


〔小学生保護者〕

回答者数 = 531



○市に期待することとしては、就学前児童保護者では「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援の充実」「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」「小児救急医療体制の充実」の割合が高くなっています。小学生保護者では「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進」が最も高くなっています。また、この項目は、就学前児童に比べても高くなっています。



Ⅲ 調査結果からみた課題

(1) 子育ての孤立感や負担感解消のための支援体制の充実

子どもをみてもらえる親族・知人について、多くの保護者は、日常的に、あるいは緊急時・用事の際に親族にみてもらえる状況にありますが、子どもをみてもらえる親族・知人がいない保護者も1割ほど見られます。こうした家庭が、子育てに対して孤立感や負担感が深まらないよう、相談体制や一時的な預かりなどの支援体制を整備していくことが求められます。また、転入者に向けた相談窓口の周知方法を検討するなど、相談窓口を知ってもらうような取組みも必要です。

(2) 母親の就労状況の変化をとらえた保育・教育ニーズへの対応

就労している母親が増加しており、また、就労していない母親においても今後の就労を希望する人が多くなっているなど、母親の就労意向は高まっています。それに伴い、保育ニーズが高まっており、特に低年齢児における保育で顕著に表れています。

待機児童を解消する取り組みを継続するとともに、地域ごとの子どもの数の動向も見据えて、保育・教育ニーズの変化に対応していくことが必要です。

また、放課後児童クラブの利用を希望する割合も増加しており、子どもの放課後等の居場所において、放課後児童クラブや放課後子ども教室などの運営の在り方の検討も含め、子どもの安全かつ安心な居場所を確保していくことが必要です。

(3) 様々な子育て支援策の充実

市に期待する取り組みとしては、子育てのための経済的支援の充実や小児救急医療体制の充実の他、子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策の推進も高くなっており、小学生保護者ではより顕著になっています。経済的負担軽減のための取り組みを引き続き進めるとともに、子どもにとって安心・安全なまちづくりを進めていくことが求められます。

また、子どもの貧困が今日的な課題となるなか、世帯の収入からみる貧困想定世帯においては、「子ども食堂」、「フードバンクによる食料支援」、「子どもの学習支援」などに対するニーズが高く、子どもの成長を支えるために様々な支援策を検討していくことが求められます。こうした、多様化・複雑化する子育て・子育てを取り巻く問題に対して、妊娠期から子育て期間まで切れ目のない支援を行い、各地域においてきめ細かい対応ができるよう、体制の充実を図っていくことが必要です。